

高機能マルチファイルスクリーンエディタ

MIFES®

for *Windows*  
*Ver. 7.0*

ユーザーズマニュアル

MEGASOFT®

## おことわり

- 本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、固く禁じられています。
- 本書の内容は、本製品の改良のため、将来予告なく変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して制作しておりますが、万一わかりにくい点や記載漏れなどお気付きの点がございましたら、メガソフト株式会社サポートセンターまでご連絡ください（本書の内容と現実が異なるときは、現実が本書に優先します）。
- 本製品を使用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品をご使用になるには、別掲の「ソフトウェア使用許諾条項」にご同意いただく必要があります。パッケージを開封された際に、同条項へのご同意があったものとさせていただきますので、ご了承ください。

## 商標について

- MIFES はメガソフト株式会社の登録商標です。
- その他、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

# はじめに

---

このたびは、高機能マルチスクリーンエディタ『MIFES for Windows Ver.7.0』をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、MIFES for Windows Ver.7.0の操作方法を記述したユーザーズマニュアルです。

MIFES をはじめてご使用になる方は、ぜひご一読ください。

また、ご使用中に操作や設定などわからないことが生じたときなどにも、お役立てください。

本書の構成は次のとおりです。

## 第1章 機能紹介

MIFES for Windows Ver.7.0のメニューや、画面各部の説明、特長などを説明しています。

この章から目的の機能の説明ページなどがわかるようになっています。

## 第2章 インストール

MIFES のインストールの方法と、バージョンアップのときなどに行うアンインストールの操作を説明しています。

## 第3章 基本的な使い方

ファイル関連の機能や、文字の編集機能、印刷など基本的な機能の操作方法を説明しています。

## 第4章 便利な使い方

MIFES のカスタマイズ機能を中心に説明しています。

## 第5章 さまざまな使い方

基本の操作をより効率よく行っていただくための便利な機能と、環境設定について説明しています。

## 第6章 付録

MIFES で使用する各ファイルの説明と、ライセンスキー、ユーザーサポートなどについて説明しています。

なお、MIFES のマクロ言語 MIL/W とマクロコマンド作成・実行に関する機能については、別冊の「マクロマニュアル」をご参照ください。

MIL/W 言語のプログラミングのチュートリアルも5つ用意し、具体的な作成方法も説明しております。

MIFES がみなさまの業務のお役に立てれば幸いです。

# マニュアルでの表記

## メニュー・コマンド・設定項目などの表記

表記の例	説明
【ファイル(F)] メニュー 【開く(O)] コマンド	メニュー名やコマンド名は【】で囲んであります。
「文字列の検索」ダイアログボックス	ダイアログボックス名は「」で囲んであります。
[ファイル名(N)] テキストボックス [ディレクトリ(D)] リストボックス	ダイアログボックスの構成要素（コントロール）は【】で囲んであります。直後のコントロール名を省略している場合もあります。
[OK] ボタン	ボタン名は【】で囲んであります。
① ② ③ ……	「操作手順」の順番を表します。

## キー操作の表記

表記の例	説明
[SHIFT] [A]	キーは【】で囲んであります。
[CTRL] + [Y]	2つのキーが「+」で結ばれているときは、最初のキーを押しながら次のキーを押します。
カーソル移動キー	[↑][↓][←][→]の2つ以上をまとめて説明するときは「カーソル移動キー」と記述しています。

## マウス操作の表記

本書でマウスの左ボタンでの操作を記述するときは、「クリック」「ダブルクリック」など、ボタン名を省略してあります。

マウスの右ボタンでの操作は、「右クリック」「右ボタンでドラッグ」など、ボタン名を明記してあります。

## キーの表記

本書では、キーボードの機種に依存しない一般的なキー表記をしています。したがって、お使いのキーボードの表記と本書のキー表記とが異なる場合もあります。本書をお読みになるときは、次の表を参照してキーを読み替えてください。

本書の表記	109/106日本語	NEC PC9800 シリーズ	本書の表記	109/106日本語	NEC PC9800 シリーズ
[ ESC ]		ESC	[ Page Down ]		ROLL UP
[ TAB ]		TAB	[ Page Up ]		ROLL DOWN
[ CTRL ]		CTRL	[ ]		
[ SHIFT ]		SHIFT	[ ]		
[ ALT ]		GRPH	[ ]		
[ SPACE ]			[ ]		
[ Enter ]			[ F1 ]-[ F12 ]		
[ BS ]		BS	[ Pause ]	Pause	STOP
[ INS ]		INS	[ Print Screen ]	Print Screen	COPY
[ DEL ]		DEL	[ Menu ]	下記参照	
[ HOME ]		HOME CLR			
[ END ]		HELP			

[ Menu ]キーは、キーボード右下の[ CTRL ]キーとWindowsキーの間にある、操作メニューと矢印(マウスカーソル)が描かれたボタンのことをさします。アプリケーションキーと呼ばれることもあります。

## 本書で使用するアイコン

アイコン	意味	説明
	メモ	使用上の補足事項を説明しています。
	用語	用語や機能の意味を説明しています。
	参照	関連情報が掲載されている場所を示しています。
	注意	使用にあたっての注意点を記載しています。
	ワンポイント アドバイス	使用にあたってのワンポイントアドバイスを記載しています。

# も く じ

	● はじめに	iii
	● マニュアルでの表記	iv
	● キーの表記方法	v
	● 本書で使用するアイコン	v
	● 目次	vi
<hr/>		
<b>第1章</b> <b>機能紹介</b>	● メニューの一覧	2
	● 画面各部の名称	7
	● MIFES for Windows Ver.7.0 の特長	11
	● MIFES での作業の流れ	18
<hr/>		
<b>第2章</b> <b>インストール</b>	● インストール	22
	インストールに必要な環境	22
	インストールする	22
	設定ウィザード	26
	● アンインストール	31
● これまでの設定やマクロなどを引き継ぐ（保存／移行する）	32	
● オンラインアップデート	33	
<hr/>		
<b>第3章</b> <b>基本的な使い方</b>	● 起動と終了	36
	MIFES を起動する	36
	MIFES for Windows を終了する	37
	● ファイルを開く	39
	開く機能	39
	ファイルを開くダイアログボックス	39
	● リストウィンドウの操作	46
	リストウィンドウについて	46
	リストウィンドウの設定を変更する	46
	リストの操作	47
	● ファイラ	49
	● ファイルを保存する	55
	ファイルに名前を付ける	55
	別のコード、形式に変換して保存する	56
	ファイルを保存せずに閉じる	57
	● 文字列を編集する	58
コピー、カット&ペーストの概要	58	
カット&ペーストのしかた	59	
その他の編集機能	64	
元に戻す（UNDO）とREDO	65	
よく入力する文字列を登録して呼び出す（登録文字列の挿入）	66	
● バイナリファイルを編集する	67	
バイナリ表示に切り替える	67	
表示画面について	67	
操作について	69	
カレント演算の設定／実行	70	
バイトオーダーの表示と切り替え	71	
バイナリカットバッファからの貼り付けのしかた（数字に変換して貼り付け）	72	

● 文字列を検索する	75
検索の種類・方法	75
カレントウィンドウ内で検索する	80
複数のファイルから検索する	81
● 文字列を置き換える／変換する	84
置換の種類と方法	84
置換時の文字列（新文字列）を指定する	85
1つの文字列を置き換える	88
複数のファイルで置換を行う（グローバル置換）	90
複数の置換を一度に行う（複数置換）	91
グローバル複数置換	93
便利な編集ツール（文書整形）	94
● 印刷する	99
カレントウィンドウの内容を印刷する	99
複数の印刷設定を使い分ける	104
● ヘルプファイルを使う	106

## 第4章

### 便利な使い方

● MIFES をより使いやすくする	110
● カスタマイズファイルによる設定の切り替え	112
カスタマイズファイルについて	112
カスタマイズファイルの読み書き	113
● 履歴情報の削除	114
● 画面の表示を変更する	115
ツールバーを変更する	115
1行の文字数を変更する	118
タブの設定	119
画面の色を変更する	121
その他の変更	123
● キーの割り当てを変更する	125
● メニューを変更する	129
メニューバーをカスタマイズする	129
ポップアップメニューを変更する	132
● ユーザー定義バーを設定する	135
● キーボードマクロを使う	137
キーボードマクロを定義する	139
ライブラリに登録する	140
ライブラリからキーボードマクロを実行する	142
● 形式の違うファイルを開く／保存する	144
プリ／ポストプロセッサとは	144
プリ／ポストプロセッサの設定	147
● ファイルを比較する	152
カーソル位置から比較し、異なる位置にジャンプする	152
スクロールしながら行単位で比較する	153
ファイル内容をまとめて比較し、結果を出力する（一括比較）	154
● イージーヘルプを使う	157
イージーヘルプ辞書について	158
イージーヘルプ辞書を作成する	158
イージーヘルプ辞書を使う	159

---

## 第5章

### さまざまな使い方

● キーワードの追加・変更（文字列の色分け表示）	162
キーワード定義の適用方法	162
キーワードの色について	164
定義を追加、変更する	164
定義内容について	166
<hr/>	
● C 言語関数定義位置の検索	169
<hr/>	
● 見出し行の検索	171
<hr/>	
● MIFES から他のプログラムを実行する	173
子プロセスを登録する	173
子プロセスを実行する	176
<hr/>	
● DOS のコマンドを使う	177
「DOS シェルエスケープ」ウィンドウを開く	177
<hr/>	
● 環境設定	180
表示タブ	180
動作タブ	185
フォントタブ	192
ツールバータブ	194
カラータブ	198
その他タブ	200
拡張子タブ	208
起動タブ	212
<hr/>	
● コマンドラインからの起動	217
<hr/>	
● 常駐設定	219
MIFES を常駐させる	219
タスクトレイからの起動方法	221
常駐を解除する	221

---

## 第6章

### 付 録

● 使用するファイルについて	224
<hr/>	
● ライセンスキーについて	228
ライセンスキーについて	228
追加ライセンスのライセンスキーについて	228
<hr/>	
● ユーザーサポートについて	231
<hr/>	
● 索引	234



## 第1章 機能紹介

この章では、MIFESの特長的な機能、Ver.7.0で追加・拡張された機能を中心に、MIFES for Windows Ver.7.0の機能を紹介しています。

また、画面各部の名称・機能とメニュー項目の一覧も記載しています。

MIFESの概略を説明していますので、はじめてMIFESをお使いになる方は、ご一読ください。

### 目次

メニューの一覧.....	2
画面各部の名称.....	7
MIFES for Windows Ver.7.0の特長...	11
MIFESでの作業の流れ .....	18

# メニューの一覧

以下のメニューは、インストール直後の初期状態のメニュー構造です。なお、メニューやキー設定をカスタマイズした場合などはこのとおりではありません。

ページ番号のある機能については該当するページをご参照ください。  
なお、すべての機能の操作方法は、ヘルプでご参照いただけます。



メニュー項目の前にあるアイコンは、ツールバーのアイコンと同じです。

メニュー内のアイコンは表示 / 非表示を設定できます。(【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ツールバー]タブの「メニューにも表示」)

## 【ファイル(F)】メニュー

	ファイル(F)		
	新規作成(N)	Ctrl+N	
UP	開く(O)...	Ctrl+O	P.39
	閉じる(Q)		P.57
UP	ファイル(L)		P.49
	上書き保存(S)	Ctrl+S	
UP	名前を付けて保存(A)...		P.55
	上書き保存し閉じる(E)		
NEW	上書き保存しアプリへ送る(W)		
UP	メーラーへ送る(D)...		
UP	ファイルを開き直す(G)...		
	ファイル名変更(R)...		
	ファイルの挿入(I)...		
UP	ポストプロセッサ設定(T)...		
UP	印刷プレビュー(V)...		P.101
UP	印刷(P)...	Ctrl+P	P.99
	すべて上書き保存(Q)		
	すべて上書き保存し終了(B)		
	終了(X)		P.37

## 【編集(E)]メニュー

編集(E)			
UP	元に戻す: UNDO(U) Alt+Bs	P.65	行選択の開始/中止(L) F6 P.60 行貼り付け(E) F9 P.61
	REDO: UNDOのUNDO(R) Ctrl+Y	P.65	
	文字編集の繰り返し(T) F12		
	切り取り(X) Ctrl+X		
	コピー(C) Ctrl+C		
	貼り付け(E) Ctrl+V	P.60	
UP	数字に変換して貼り付け(Z)...	P.72	
	文字列選択の開始/中止(S) Shift+F6	P.59	UP 箱型選択の開始/中止(B) Alt+ドラッグ P.61 UP 罫線内を箱型選択(K) P.61 NEW 箱型編集モードに入る(E) P.61
UP	箱型(Q)		
	すべて選択し最後へ(A) Ctrl+A		箱型に挿入(I) Alt+F9 P.62 箱型に上書き(O) Ctrl+F9 P.62 文字列状挿入(S) Ctrl+Shift+F9 P.62
UP	文字列の登録/挿入(E)...	P.66	
	改ページコード(C)の挿入(I) Ctrl+I		
	制御コードの挿入(H)...		
	カーソル付近の語の一覧(W)...		
	各種の挿入・削除操作(N)		
			1行削除(L) Ctrl+K 行末まで削除(E) Ctrl+K 行頭から削除(S) Ctrl+K 削除文字列挿入(D) Ctrl+L 削除行を逆順に挿入(E) Ctrl+D
			バックスペース(B) Bs バックタブ(T) Bs 1語削除(W) Ctrl+T 削除文字挿入(J) Ctrl+B
			大文字・小文字変換(E) Ctrl+U 上に1行挿入(L) Ctrl+E 行の2重化(Z) Shift+F10
			P.64

## 【検索・置換・ジャンプ(S)]メニュー

検索・置換・ジャンプ(S)			
UP	検索(E)...	Ctrl+F	P.80
	↓方向検索(D)...	Ctrl+^	
	↑方向検索(U)...	Ctrl+^	
UP	グローバル検索(A)...		P.81
	再検索(Q)		
	変更行を↓方向に検索(H)		
UP	括弧の検索(K)	Ctrl+[	
UP	置換(R)...	Ctrl+R	P.88
UP	複数置換(L)...		P.91
UP	グローバル置換(W)...		P.90
UP	グローバル複数置換(W)...		P.93
	再置換(E)		
NEW	ブックマーク(Q)		
	先頭へジャンプ(T) Ctrl+Home		
	指定位置へジャンプ(G)...	Ctrl+G	
	元の位置へジャンプ(E)		
UP	行マーク設定/ジャンプ(L)...	Ctrl+J	
	タグジャンプ/バックタグジャンプ(M) F11		
	最後へジャンプ(B) Ctrl+End		
			↓方向再検索(D) F3 ↑方向再検索(U) Shift+F3 先頭から↓方向再検索(T)
			置換の再実行(R) 複数置換の再実行(L)
			ブックマークの設定/解除(B) ブックマークを↓方向へ検索(D) ブックマークを↑方向へ検索(U) ブックマークをすべて解除(K)

## 【ツール(T)】メニュー

	ツール(T)	
UP	文書整形(E)	P. 94
	ファイル比較(P)	
UP	ファイル名の検索(E)...	
UP	C関数定義の検索(C)...	P. 169
UP	見出し行の検索(M)...	P. 171
	罫線操作(B)	
	等差数数列(N)	
	メモマーク(W)	
	指定子プロセス実行(O)...	P. 176
	子プロセスの一覧(L)...	P. 173
	DOSシェルエスケープ(S)	P. 177
UP	文書カウント(B)...	
NEW	日付の挿入(Q)...	
	HTML編集(H)	
	CSVファイル変換(V)	
	固定長レコード整形(K)	

	半角文字→全角文字(L)
	全角文字→半角文字(M)
NEW	半角カタカナ→全角カタカナ(J)
NEW	全角カタカナ→半角カタカナ(K)
	全角カタカナ→ひらがな(L)
	全角ひらがな→全角カタカナ(V)
	半角 a~z → A~Z(A)
	半角 A~Z → a~z(B)
	タブ→半角スペース(C)
	半角スペース→タブ(D)
	折り返し直前に改行挿入(E)
	改行文字を削除(F)
	行頭に行番号を挿入(N)
	行頭に文字列を挿入(O)...
	行頭スペース削除(Q)
	行末スペース削除(H)
	行頭と行末スペース削除(O)
	行の左寄せ(P)
	行のセンタリング(Q)
	行の右寄せ(R)
UP	文書整形ダイアログ(O)...

UP	一括ファイル比較(B)...	P. 154
	現在位置から比較(C)	P. 152
	次の文字から比較(N)	P. 153
	次の行頭から比較(L)	P. 153
	↓スクロールと比較(D) Ctrl+Shift+ ↓	P. 153
	↑スクロールと比較(U) Ctrl+Shift+ ↑	P. 153

	罫線コード変換(NEC→JIS)(J)	
	罫線コード変換(JIS→NEC)(N)	
	罫線の最適化(O)	Alt+End
	罫線種の切り替え(I)	Alt+Home
	トレースと←移動	Alt+←
	トレースと→移動	Alt+→
	トレースと↑移動	Alt+↑
	トレースと↓移動	Alt+↓

	初期化(O)...
	1回出力(L) Alt+F10
	指定回数挿入(N)...

	メモ開始マークの挿入(S)
	メモ終了マークの挿入(E)
	メモ開始マーク↓検索(D)
	メモ開始マーク↑検索(U)
	タグ行内容をメモで埋め込む(I)

## 【マクロ(M)】メニュー

マクロ(M)			
▶▶ 1コマンド分のコンパイル(C)	Ctrl+Shift+C	マクロマニュアル	
▶▶ ファイル全体のコンパイル(E)	Ctrl+Shift+F		
マクロモード設定/コンパイル(M)...			
▶▶ カレントマクロのライブラリ格納(L)			
カレントマクロのソースコード取出(U)			
カレントマクロの実行(R)		Ctrl+Shift+E	
▶▶ 指定マクロの実行(O)...	Ctrl+Shift+S		● 定義開始/終了(D) Shift+F11 P.139
▶▶ ブレークマクロ再開(B)	Ctrl+Shift+Q		▶▶ 1回実行(I) Shift+F12
▶▶ ブレークマクロ中止(S)			▶▶ 指定回数実行(N)...
シングルステップ実行の解除(G)			ライブラリへ登録(R)...
実行中マクロの中止(E)	Pause		▶▶ ライブラリから取出(O)...
マクロ用ユーザー変数の表示/変更(V)...			
キーボードマクロ(K)			マクロ言語に変換(M)

## 【ウィンドウ(W)】メニュー

ウィンドウ(W)			
ウィンドウ一覧(W)...	F2	▶	● 重ねて表示(O)
ウィンドウ整列(A)			■ 並べて表示(T)
UP ▶▶ カレントウィンドウ2分割(D)			■ ①と②で左右表示(L)
カレントウィンドウ最大サイズ(M)			■ ①と②で上下表示(U)
↑ ①と②で両画面スクロール	Ctrl+PageUp		
↓ ①と②で両画面スクロール	Ctrl+PageDown		
NEW ▶▶ リストウィンドウ表示/非表示(L)		P.46	
NEW ▶▶ リストウィンドウへ移る(T)	Shift+Tab	P.46	
● 1 新規.00(変更あり)			

## 【設定(O)】メニュー

設定(O)		
UP	? 環境設定(E)...	P.180
UP	キーのカスタマイズ(K)...	P.125
UP	メニューのカスタマイズ(M)...	P.129
UP	ツールバーのカスタマイズ(T)...	P.115
UP	ユーザー定義バーのカスタマイズ(B)...	P.135
UP	カスタマイズファイルの読み書き(F)...	P.113
UP	キーワードの追加・変更(W)...	P.162
UP	ウィンドウ幅で折り返す(A) <span style="float:right">Alt+F3</span>	
NEW	折り返し位置を最大に(O)	
	キー定義一覧の出力(L)	
	UNDOのパックのクリア(U)	
	カレントウィンドウ再描画(D)	P.114
	履歴情報の削除(H)...	
	常駐設定(MIWHOOK.EXE実行)(J)...	P.219

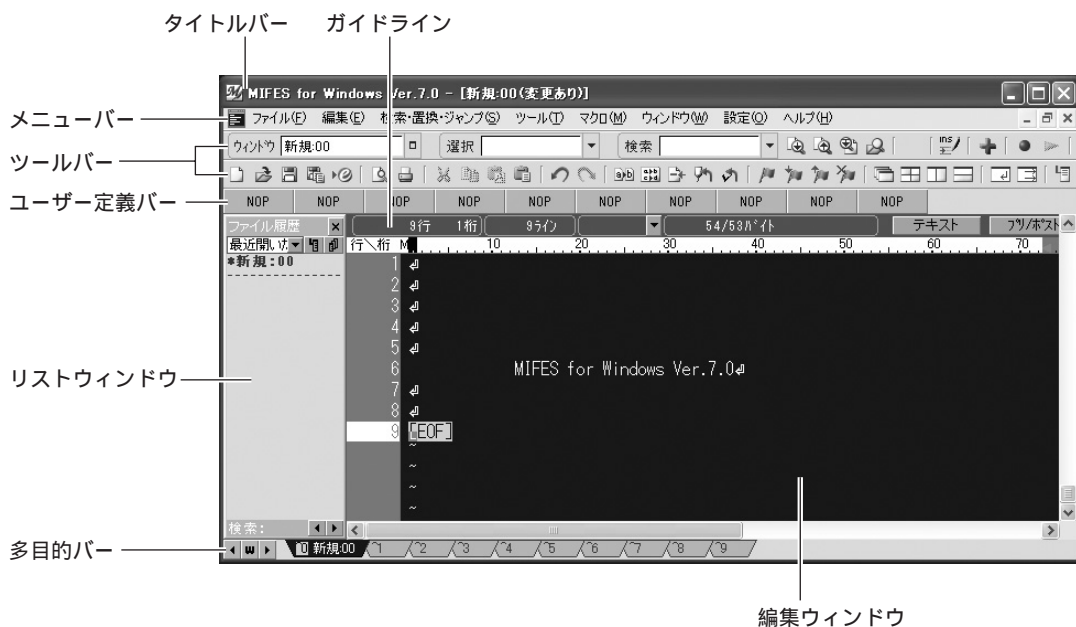
## 【ヘルプ(H)】メニュー

ヘルプ(H)		
UP	? ヘルプ(H) <span style="float:right">Shift+F1</span>	P.106
	カーソル位置の語をヘルプ(W) <span style="float:right">F1</span>	P.107
	拡張ヘルプ索引(O)	
	? 拡張ヘルプ索引(O) <span style="float:right">EXP</span>	
	カーソル位置の語を拡張ヘルプ(Q)	
	拡張ヘルプファイルの変更(T)...	P.107
UP	? 拡張ヘルプファイルの変更(T)...	
UP	? カード位置の語をイージーヘルプ(E)...	Ctrl+F1
NEW	? カード位置の語をインターネット検索(Q)	P.157
NEW	メガソフトホームページを表示(M)	
	MIFES for Windows(について)(A)...	

サポート情報ページ(S)  
製品ページ(M)  
ユーザー登録・変更(U)  
ライセンス追加(L)

## 画面各部の名称

### 編集画面



### タイトルバー

プログラム名 (MIFES for Windows Ver.7.0) と、カレントウィンドウ (カーソルのある編集集中のウィンドウ) のファイル名が表示されます。

右側のボタンは左から順に、MIFESのウィンドウの [最小化] [最大化 / 元に戻す] [閉じる] ボタンです。(Windowsの標準的な動作と同じです。)

### メニューバー

各項目をクリックすると、メニューが表示され、各機能を実行することができます。

カレントウィンドウ (編集中のウィンドウ) が「最大化」状態のときは、メニューバーの右側にボタンが表示されています。左から順に、カレントウィンドウの [最小化] [最大化 / 元に戻す] [閉じる] ボタンです。(Windowsの標準的な動作と同じです。)

【設定(O)】-【メニューのカスタマイズ(M)】... P.129

メニュー

画面

特長

流れ

インストール

基本的な使い方

便利な使い方

さまざまな使い方

付録

## ツールバー

機能をボタンで表示しています。

クリックすると、その機能を実行できます。

【設定(O)】-【ツールバーのカスタマイズ(T)】...P.115

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ツールバー]タブ...P.194

## ユーザー定義バー

ユーザー定義バー 1 と 2 があり、それぞれにマクロコマンドやよく使う機能などを自由に登録することができます。クリックするとその機能を実行できます。

【設定(O)】-【ユーザー定義バーのカスタマイズ(B)】...P.135

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ツールバー]タブ...P.194

## リストウィンドウ

リストウィンドウには、次の情報を表示することができます。

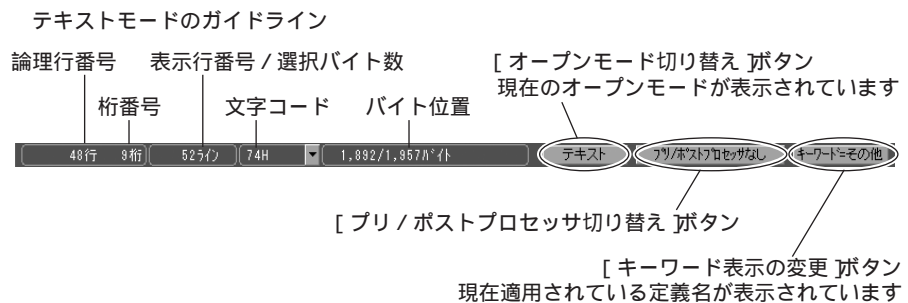
- ・ファイル履歴
- ・ディレクトリ情報
- ・【グローバル検索】結果（出力先をリストウィンドウに指定した場合のみ）
- ・【C 関数定義の検索】結果
- ・【見出し行の検索】結果
- ・【ファイル名検索】結果

リストウィンドウの操作...P.46

## ガイドライン

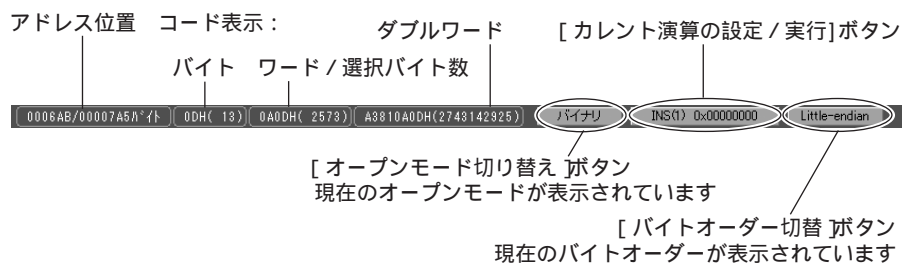
現在のカーソル位置などさまざまな情報が表示されています。

テキストモードとバイナリモードでは異なる情報が表示されています。





## バイナリモードのガイドライン



【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブ...P.180

バイナリファイルを編集する...P.67

## 多目的バー

現在開いているファイルまたはファンクションキーに割り当てた機能を表示しています。

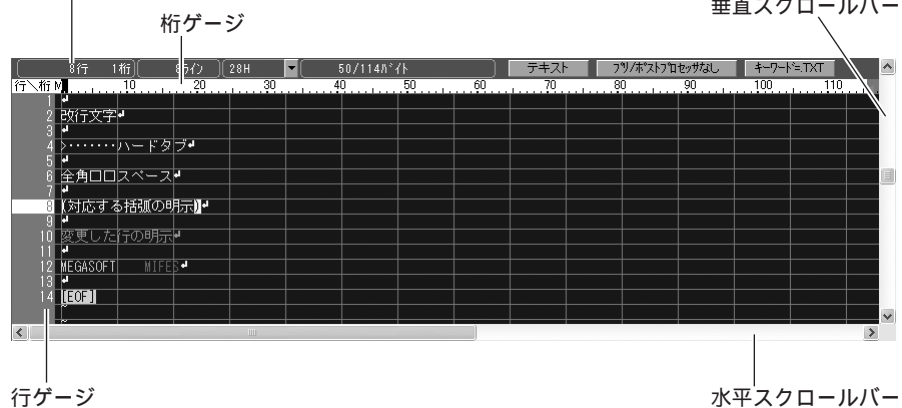
【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ツールバー]タブ...P.194

## 編集ウィンドウ

テキストモードとバイナリモードがあります。

## テキストモードの編集ウィンドウ

## ガイドライン(テキストモード)



改行文字、ハードタブ、全角文字などの記号を明示したり、カーソル位置の括弧に対応する括弧を明示するなど、設定を自由に変更することができます。

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブ...P.180

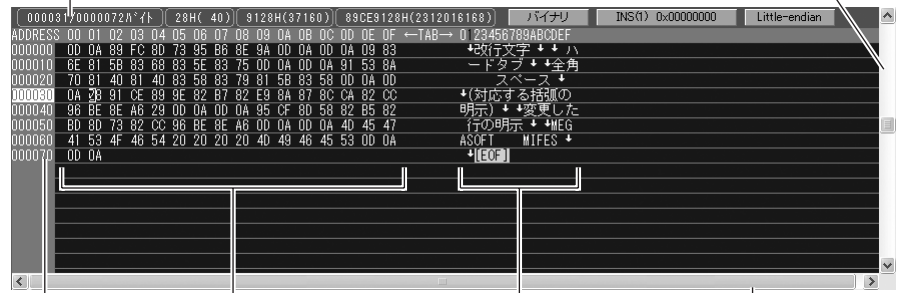
また、特定の文字列を色分け表示することもできます。

【設定(O)】-【キーワードの追加・変更(W)】...P.162

## バイナリモードの編集ウィンドウ

ガイドライン(バイナリモード)

垂直スクロールバー



バイナリ(16進)表示域

テキスト表示域

水平スクロールバー

各表示行の先頭のバイト位置が表示されています

バイナリ表示域とテキスト表示域のどちらでもデータ編集を行えます。  
バイナリファイルを編集する...P.67

# MIFES for Windows Ver.7.0 の特長

MIFES の特長な機能を紹介します。

Ver.7.0 で新しく追加された機能には **NEW**、拡張・改良された機能には **UP** マークがついています。

## ファイル関連機能

### 開く **UP**

メニューからダイアログでファイルを開くほかに、ファイル履歴から開く、編集データ中のファイル名から開くことができます。履歴にあるファイルは、最後にカーソルのあった位置にジャンプして開きます。

➡ ファイルを開く 第3章 P.39

### アイコンから開く

ファイルアイコンをダブルクリックする、右クリックメニューで開く、ファイルアイコンをウィンドウに重ねるなど、Windows のエクスプローラーなどからマウスを使って開くことができます。

### 編集可能なファイル **UP**

編集可能なファイルの数やサイズ等は次のとおりです。

- ・ 100個までのファイルを同時に開くことができます。
- ・ 最大2G バイトのファイルを編集できます。
- ・ 1行の長さは無制限（擬似改行文字は不要）で、最大20億行までの行番号を扱うことができます。
- ・ 半角文字で最大3000桁までの文字を折り返さずに表示できます。

### MDIモードとSDIモード

メインのフレームウィンドウの中に複数のウィンドウを自由に配置できるMDIモードと、複数のMIFESを同時に起動してファイルごとにウィンドウを開くSDIモードの2つのモードに対応しています。

➡ 環境設定 - 起動タブ 第5章 P.212

### テキストモードとバイナリモード

- ・ ファイルを開くときにファイル内容をチェックして、テキスト/バイナリを判別してオープンします。
- ・ ファイルを開いてからも、編集ウィンドウのボタンでテキスト/バイナリモードの切り替えが可能です。
- ・ バイナリモードでは、16進数の文字コードとテキスト文字の両方で表示・編集ができます。

➡ オープンモードの違い 第3章 P.42

メニュー

画面

特長

流れ

インストール

基本的な使い方

便利な使い方

さまざまな使い方

付録

#### リストウィンドウ **NEW**

ファイル履歴、ディレクトリ内容、グローバル検索、ファイル名検索、C 言語関数定義位置の検索、見出し行の検索の結果リストを表示することができます。

リストウィンドウの表示 / 非表示もボタンクリックで行えます。

➡ リストウィンドウの操作 第3章 P.46

#### HTML のリンク先のファイルをオープン **NEW**

・ HTML タグの中のリンク先や、C 言語の INCLUDE 指定など、テキスト上に書かれたファイル名をダブルクリックでオープンすることができます。

・ 絶対パス名と、特定のディレクトリからの相対パス名に対応しています。

## バイナリモード編集機能

#### 16進編集とテキスト編集

バイナリモード時もテキストでの編集ができます。

➡ バイナリファイルを編集する 第3章 P.67

#### リトルエンディアン / ビッグエンディアン **NEW**

リトルエンディアン / ビッグエンディアンの切り替えが、ボタンクリックでできます。

➡ バイトオーダーの表示と切り替え 第3章 P.71

#### 演算機能 **NEW**

バイト、ワード ( 2 バイト ) またはダブルワード ( 4 バイト ) 単位で、ADD、INS、DEL の 3 つの演算を実行することができます。

➡ カレント演算の設定 / 実行 第3章 P.70

#### バイナリ編集

バイナリモード時の切り貼りはもちろん、バイナリデータをコピーし、テキストファイルに ( テキストモードで ) 貼り付けることができます。

➡ バイナリカットバッファからの貼り付けのしかた 第3章 P.72

## 編集 ( 切り貼り ) 機能

#### 3 つの選択モード

通常の文字列の選択の他に、行単位の選択、箱型の選択ができます。

モードごとにコピー / 切り取りしたデータを蓄えるバッファが異なるため、使い分けて充実した編集が行えます。

➡ 文字列を編集する 第3章 P.58

#### 罫線と箱型編集機能 **NEW**

箱型選択し、その範囲内のみを編集することができます。

罫線で作成した表の中も、罫線がずれたり消えたりすることなく編集できます。

### 豊富な編集機能

1行単位の削除 / 挿入、語単位の削除 / 挿入、カーソル位置から行頭や行末までの文字列削除 / 挿入などの編集ができます。

➔ その他の編集機能 第3章 P.64

### カウントしながら数字を挿入（等差数字列）

初期値と増分を指定して、数字を入力することができます。

5 10 15 20...のように数字だけでなく、(1)(2)...、第1章 第2章 ...など、数字の前後に文字列も指定することができます。

### 文字列を登録 / 挿入 **UP**

よく使う文字列や定型文章等を英数字に登録し、カーソル位置に挿入することができます。

(旧「英字バッファ一覧」機能)

➔ よく入力する文字列を登録して呼び出す 第3章 P.66

### ファイル比較機能 **UP**

2つのファイルを比較し、異なる位置にカーソルを移動したり、比較した結果をリストに出力することができます。

➔ ファイルを比較する 第4章 P.152

## 検索機能

### 4つの検索方法

通常検索、ワイルドカード検索のほかに、半角 / 全角文字や大文字 / 小文字、ひらがな / カタカナなどを同一視するあいまい検索、特殊なメタ文字を使う正規表現検索も行えます。

### 正規表現のサポート機能 **UP**

正規表現のメタ文字入力をサポートする支援機能で、メタ文字を使ったことがなくても簡単に複雑な検索・置換が行えます。

### 文字列の検索 / 方向検索 / 方向検索 **UP**

カレントウィンドウ内で指定した文字列を検索します。

➔ 文字列を検索する 第3章 P.75

### グローバル検索 **UP**

複数のファイル内で指定した文字列を検索します。

➔ 複数のファイルから検索する 第3章 P.81

### 変更行を 方向に検索

変更した行を 方向に検索し、その位置にジャンプします。

### 括弧の検索 **UP**

カーソル位置の括弧に対応する括弧を検索し、その位置にジャンプします。

#### ファイル名検索 **NEW**

ファイルやタイムスタンプなどの条件からファイル名を検索し、リスト出力します。  
リストをダブルクリックすると、そのファイルを開きます。

#### C 言語関数定義位置の検索 **UP**

カレントウィンドウまたは複数のファイルにおいて、C、C++ の関数定義位置を検索し、リスト出力します。

リストをダブルクリックすると、その位置にジャンプします。

(旧「項目定義リストの作成と表示」機能)

➔C 言語関数定義位置の検索 第 5 章 P.169

#### 見出し行の検索 **UP**

カレントウィンドウまたは複数のファイルにおいて、指定した文字列から始まる行を検索し、リスト出力します。

リストをダブルクリックすると、その位置にジャンプします。

(旧「項目定義リストの作成と表示」機能)

➔見出し行の検索 第 5 章 P.171

## 置換 / 変換機能

#### 置換 **UP**

カレントウィンドウ内で、1 組の文字列置換を行います。

➔1 つの文字列を置き換える 第 3 章 P.88

#### 複数置換 **UP**

カレントウィンドウ内で、複数組 (最大 20 組) の文字列置換を行います。

➔ 複数の置換を一度に行う 第 3 章 P.91

#### グローバル置換 **UP**

複数ファイルに対して、1 組の文字列置換を行います。

➔ 複数のファイルで置換を行う 第 3 章 P.90

#### グローバル複数置換 **UP**

複数ファイルに対して、複数組 (最大 20 組) の文字列置換を行います。

➔ グローバル複数置換 第 3 章 P.93

#### 文書整形 **UP**

よく使用されると思われる文字列の変換機能を、基本機能として用意しました。

メニューやダイアログから選択して実行できます。

➔ 便利な編集ツール 第 3 章 P.94

置換ファイルによる一括置換 (文書整形 - 置換定義ファイルによる置換)

20 組以上の置換を一度に行うことができます。

所定の書式で置換文字列を記述したファイルを作成し、一括置換を行います。

### 大文字・小文字変換

カーソル位置の半角英字 (A-Z または a-z) を大文字または小文字に変換し、カーソルを次の文字の位置に移動します。

#### ファイルを開く / 閉じるときに行う変換 **UP**

プリ / ポストプロセッサにより、文字コードや改行文字の変換など行うことができます。ファイルを開いた後にもプリ / ポストプロセッサを切り替えることができます。

➡ 形式の違うファイルを開く / 保存する 第4章 P.144

## ジャンプ機能

### ブックマーク機能 **NEW**

カレントウィンドウに「ブックマーク」を設定し、ジャンプすることができます。ブックマークは1ファイルに100個まで設定できます。

#### 先頭へジャンプ

カレントファイルの先頭へジャンプします。

#### 指定位置へジャンプ

カレントファイル内で、指定した行番号位置またはバイト位置へジャンプします。

#### 元の位置へジャンプ

直前のカーソル位置へジャンプして戻ります。

#### 行マーク・ジャンプ/設定 **UP**

現在のカーソル位置を指定の行マークに設定し、指定の行マーク位置にジャンプします。行マークは開いているファイルすべてに最大10個まで設定できます。

#### タグジャンプ/バックタグジャンプ

カーソル行の内容で示されるタグ (ファイル名の行位置またはバイト位置) へジャンプします。

#### 最後へジャンプ

ファイルの最後尾位置 ([ EOF ]マークの位置) にジャンプします。

## 印刷機能

### 印刷 UP

カレントウィンドウの内容を印刷します。

[ フォント/整形 ][ レイアウト ][ 用紙/余白 ][ ヘッダ/フッタ ] の4つのタブでさまざまな設定ができます。

また、設定した内容を10件まで保存 / 呼び出しができます。

➡ 印刷する 第3章 P.99

### 印刷プレビュー UP

印刷イメージを画面上で確認することができます。

カーソルページをプレビューし、先頭ページや最終ページへもボタンクリックで移動し、プレビューを見ることができます。

## 設定

### 色替え表示 UP

- ・ファイルの拡張子に対して、色替えの定義（標準で15個搭載、最大20個）が行えます。色替え表示の定義は、あらかじめ4つのグループに登録したキーワードをグループごとに指定した色で表示することができます。
- ・コメントやURL、メールアドレス、文字列定数などもキーワードとは別の色で表示することもできます。
- ・Web系の埋め込みスクリプト言語（JavaScript、CSS、PHP、VBScript、JSP）を認識し、その部分は言語ごとの定義で色替え表示します。
- ・ガイドライン上のボタンで適用する定義を切り替えられます。

➡ キーワードの追加変更 第5章 P.162

### カスタマイズ機能 UP

メニューバー、ツールバー、キー操作、ユーザー定義バーを自由にカスタマイズすることができるので、よく使う機能を選択しやすい位置や、使い慣れたキー操作に割り当てることができます。

➡ 便利な使い方 第4章 P.109

### 設定の一括変更 UP

カスタマイズファイル（INIファイル）を読み書きすることで、使用目的ごとに操作環境の切り替えが簡単に行えます。

➡ カスタマイズファイルによる設定の切り替え 第4章 P.112

### 環境設定 UP

[ 表示 ][ 動作 ][ フォント ][ カラー ][ 拡張子 ][ 起動 ][ その他 ] の8つのタブで分類し、さまざまな設定が行えます。

➡ 環境設定 第5章 P.180



## その他

### 常駐設定

常駐機能により、タスクトレイのボタンや、キー操作でMIFESを起動することができます。

➡ 常駐設定 第5章 P.219

### コマンドラインからの起動

MIFESをコマンドプロンプトから実行することができます。

その際には、起動時の状態などさまざまなオプションを指定することができます。

➡ コマンドラインからの起動 第5章 P.217

### ファイラ **UP**

DOS版MIFES風のファイラもお使いいただけます。

➡ ファイラ 第3章 P.49

### メーラーへ送る **UP**

カレントウィンドウの内容をメーラーへ送ります。

10Mバイト未満のファイルはメールの本文として、それ以上は添付ファイルとしてメーラーへ送ります。

### 上書き保存しアプリへ送る **NEW**

編集データを上書き保存し、関連付けられたアプリケーションに送ります。

例えば、HTMLで編集集中にこの機能を実行すると、Internet Explorerでプレビューすることができます。

### 操作を記録し繰り返し実行する

キーボードマクロ機能で、複数機能による一連の操作を記録することができます。

ライブラリに登録すると繰り返し実行でき、また、キーやメニューなどにも登録することができます。

➡ キーボードマクロを使う 第4章 P.137

### マクロ言語でオリジナルコマンドを作成

MIFESのマクロ言語MIL/Wで、オリジナルコマンドを作成できます。

ライブラリに登録すると繰り返し実行でき、また、キーやメニューなどにも登録することができます。

➡ マクロマニュアル(別冊子)

MIFESは以上の機能のほかにも、たくさんの機能を搭載しています。

本ユーザーズマニュアルでは、一部の機能のみ説明をしていますが、ヘルプにはすべての機能の説明を掲載しております。【ヘルプ(H)】-【ヘルプ(H)】でご参照ください。



# MIFES での作業の流れ

以下の図は、MIFES での編集作業の流れです。  
通常、これらの機能を組み合わせて、繰り返して編集作業を行います。

## 1 ファイルを開く

- 新規作成 ----- P.39
- ファイルを開く ----- P.39
  - ・オープンモード（テキスト/バイナリ）
  - ・コード変換（プリプロセッサ）EUCファイル/  
Unicodeファイル/韓国語・中国語EUCなど



- リストウィンドウから開く ----- P.46



- ファイラで開く ----- P.49



## 2 編集

- 文字の挿入・削除・移動・コピー ----- P.58
- 文字列の検索 ----- P.75
- 文字列の置換・変換 ----- P.84
- ファイルを比較する ----- P.152
- バイナリファイルの編集 ----- P.67
- ジャンプ機能 ----- P.15



## カスタマイズ、設定、その他

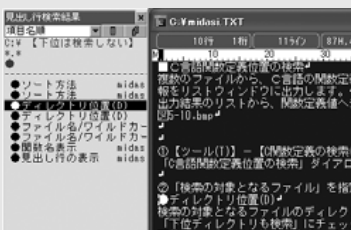
## 設定 ----- P.161

- ・画面表示の変更
- ・キーワードの色替え表示
- ・キーの定義の設定
- ・メニューの定義の設定
- ・ユーザー定義バーの設定
- ・環境設定
- ・カスタマイズファイルの読み書き



## 便利な機能 ----- P.161

- ・C言語関数定義位置の検索
- ・見出し行の検索
- ・キーボードマクロ
- ・イメージヘルプ
- ・他のプログラムを実行する
- ・DOSコマンドを実行する

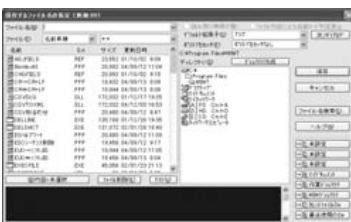


## マクロ言語 MIL/W ----- マクロマニュアル

## 3 保存・出力

## 名前を付けて保存 ----- P.55

- ・コード変換 (ポストプロセッサ)



## 印刷 ----- P.99

- ・全ページ印刷
- ・カーソルページ印刷
- ・印刷プレビュー



## メーラーへ送る ----- P.17

## 上書き保存しアプリへ送る ----- P.17

## バックアップファイル作成 ----- P.202

MEMO

## 第2章 インストール

この章では、MIFES for Windows Ver.7.0 をインストールする方法を説明します。

また、オンラインアップデートのしかたについても説明します。

### 目次

インストール.....	22
インストールに必要な環境.....	22
インストールする.....	22
設定ウィザード.....	26
.....	
アンインストールする.....	31
.....	
これまでの設定やマクロなどを引き継ぐ (保存 / 移行する).....	32
.....	
オンラインアップデート.....	33

# インストール

## インストールに必要な環境

MIFES for Windows Ver.7.0 をインストールするには以下の環境が必要です。  
動作環境を確認の上、インストールを始めてください。

CPU	Intel486DX 66MHz 以上
対応OS	Windows XP/Me/98/2000/NT4.0/Server 2003
ハードディスク	20MB 程度の空き容量が必要



最新の動作環境については、弊社ホームページよりご確認ください。

## インストールする

MIFES を CD-ROM からコンピュータにインストールします。  
ここでは、C ドライブにインストールしています。



Windows XP、2000、NT4.0、Server 2003 上でインストールする場合は、Administrator 権限を持つユーザーとして Windows にログオンしてください。

インストール後、MIFES の使用環境を設定する「設定ウィザード」が実行されます。  
設定ウィザードで設定した内容は、後から変更することができます。

## インストール



旧バージョンの MIFES for Windows をご使用の方へ

旧バージョンの MIFES for Windows は、Ver.7.0 のインストール時に自動的にアンインストールされません。

Ver.7.0 をインストールする前に、旧バージョンをアンインストールしてください。

なお、その際に旧バージョンの特定のファイルを保存しておくこと、Ver.7.0 に設定を引き継ぐことができます。

詳しくは次項「これまでの設定やマクロなどを引き継ぐ」P.32 を参照してください。

①

実行中のすべてのプログラムを終了します。

ウィルス対策ソフトなど常駐ソフトも終了してください。

- ② 「MIFES for Windows Ver.7.0」のセットアップディスクをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- ③ CD-ROMの「Setup.exe」を実行します。



Setup.exe



メモ

環境によっては、ファイル名が「Setup」と表示されている場合があります。

- ④ 「MIFES for Windows Ver.7.0 セットアップ」のインストールウィザードが起動します。  
[次へ(N)] ボタンをクリックします。



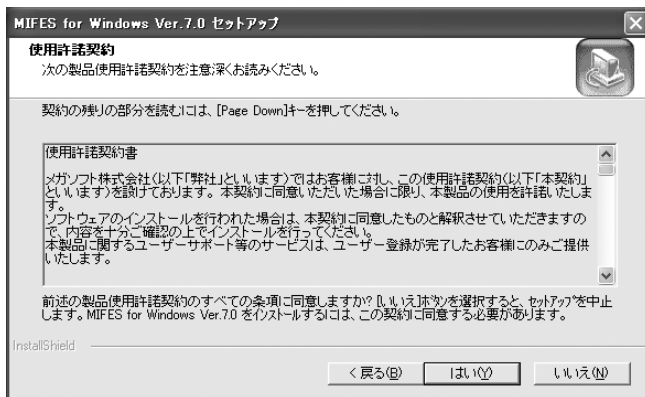
- ⑤ 使用許諾契約書が表示されます。  
「使用許諾契約書」の内容を確認し、[はい(Y)] ボタンをクリックしてください。



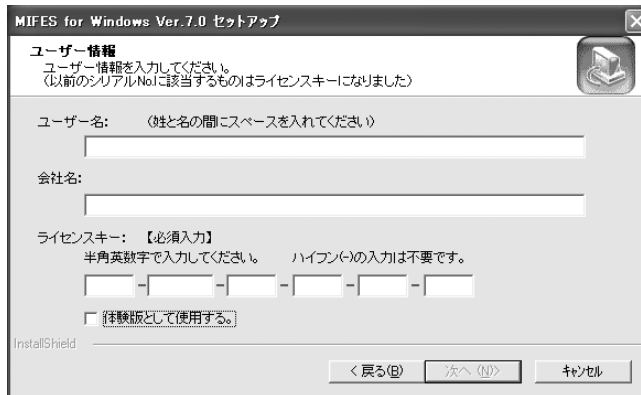
注意

[いいえ(N)] ボタンをクリックすると、セットアップは中止されます。

MIFES for Windows Ver.7.0 をインストールする場合、この契約に同意していただく必要があります。



- 6 ユーザー情報とライセンスキーを入力します。



MIFES for Windows Ver.7.0 セットアップ

**ユーザー情報**  
ユーザー情報を入力してください。  
(以前のシリアルNo.に該当するものはライセンスキーになりました)

ユーザー名: (姓と名の間にスペースを入れてください)

会社名:

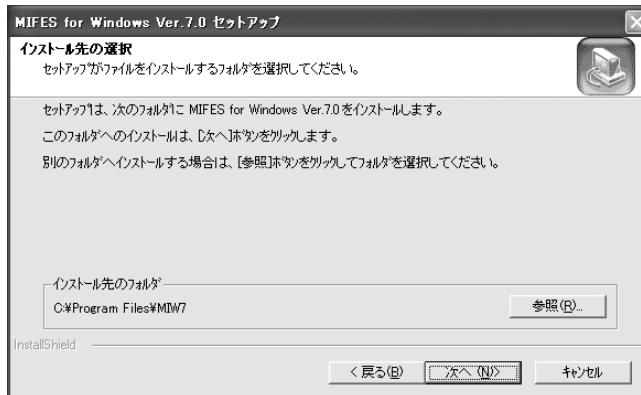
ライセンスキー: 【必須入力】  
半角英数字で入力してください。 ハイフン(-)の入力は不要です。

体験版として使用する。

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 7 インストール先を指定します。  
「インストール先のフォルダ」を確認して、[ 次へ(N) > ] ボタンをクリックします。  
他のディレクトリにインストールするときは、[ 参照(R) ] ボタンをクリックすると、変更することができます。



MIFES for Windows Ver.7.0 セットアップ

**インストール先の選択**  
セットアップがファイルをインストールするフォルダを選択してください。

セットアップは、次のフォルダに MIFES for Windows Ver.7.0 をインストールします。  
このフォルダへのインストールは、[ 次へ ] ボタンをクリックします。  
別のフォルダへインストールする場合は、[ 参照 ] ボタンをクリックしてフォルダを選択してください。

インストール先のフォルダ  
C:\Program Files\MIW7

参照(R)...

InstallShield

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 8 インストールが実行されます。



MIFES for Windows Ver.7.0 セットアップ

**セットアップ ステータス**

MIFES for Windows Ver.7.0 セットアップは、要求された操作を実行中です。

次をインストール中:  
C:\Program Files\MIW7\MIWHTML2.DLL

63%

InstallShield

キャンセル



9

「ユーザー登録」画面が表示されます。  
[登録する] ボタンをクリックして、弊社ホームページよりご登録ください。



**ユーザー登録は必ず行ってください。**  
ご登録いただくと、バージョンアップや優待販売のサービス、サポートサービスなどをご利用いただけます。

登録は、郵送やFAXで行うことも可能です。

10

以上でインストールは終了です。[完了] ボタンをクリックします。



続けて設定ウィザードが実行されます。

## 設定ウィザード

設定ウィザードでは、次の項目を設定します。

- ・キー操作や動作設定
- ・カラーの設定
- ・拡張子の関連付けの設定
- ・ショートカットアイコンや常駐プログラム、Internet Explorer ソース表示エディタの設定など

設定ウィザードで設定した内容は、後から変更ができます。

また、Windows の【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES for Windows Ver.7.0】-【設定ウィザード】から、設定ウィザードのみ再実行することもできます。

はじめてのインストール時以外は、旧設定の引継ぎなど多少初期設定値が異なります。  
ここでは、はじめてインストールする場合の画面を使って手順を説明します。

①

設定ウィザードの初期画面が表示されます。

[ 次へ(N) ] ボタンをクリックします。





バージョンアップや再インストール時で、インストール先のフォルダに「MIW.INI」があった場合は、「前回の設定の保存確認」画面が表示されます。

いずれかを選択し、[次へ(N)>] ボタンをクリックしてください。

[新たに設定を行う] を選択した場合には、現在の設定のバックアップを作成することができます。



2

「キー・動作設定の選択」画面で、設定したいキーと動作設定を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックします。



選択している設定の説明

Windows 標準設定	一般の Windows アプリケーションで標準のキー、動作の設定です。他の一般の Windows アプリケーションとの互換性を重視した設定です。
MIFES for Windows 標準設定	MIFES for Windows 標準のキー、動作の設定です。
DOS 版 MIFES 風設定	DOS 版 MIFES との互換性を重視したキー、動作の設定です。
EMACS 風設定	EMACS との互換性を重視したキー、動作設定です。

- 3 「カラーの選択」画面で、カラー設定を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックします。



選択している設定のイメージ

選択している設定の説明

- 4 「拡張子の関連付け」画面で関連付けたい拡張子にチェックをつけ、[次へ(N)] ボタンをクリックします。

はじめてインストールする時以外は、既に関連付けられている拡張子にチェックがついています。



#### 拡張子の関連付けについて

- ・ 拡張子を MIFES に関連付けると、Windows 上のファイルのアイコン (ファイル名) をダブルクリックすると MIFES が起動しそのファイルを開きます。
- ・ チェックボックスが用意されている拡張子以外にも任意の拡張子の追加と削除が行えます。
- ・ 拡張子の関連付けは、MIFES をアンインストールするとクリアされます。

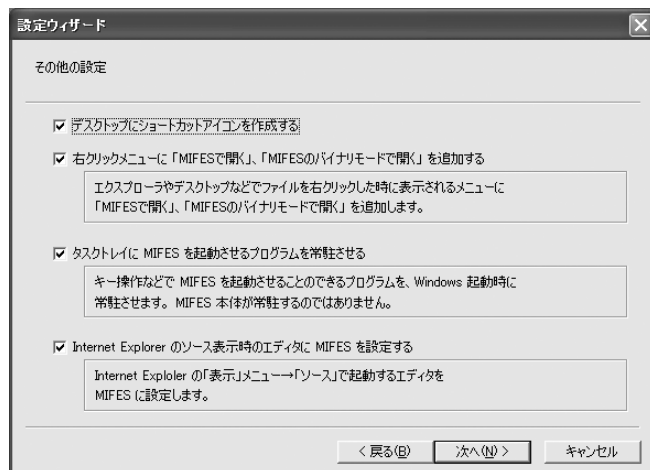
・関連付ける拡張子の追加  
 [ 拡張子の追加 ] ボタンで「拡張子の追加」ダイアログボックスを表示し、追加する拡張子を設定します。拡張子と拡張子の説明を入力してアイコンを選択すると、リストに新しい拡張子が追加されます。

・追加した拡張子を削除するには  
 拡張子をリストから選択し、[ 拡張子を削除 ] ボタンをクリックします。

5

「その他の設定」画面で、各項目を設定します。

はじめてインストールする時以外は、現在の設定状態にチェックがついています。

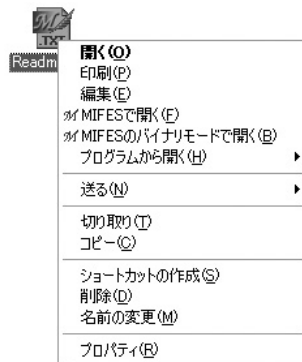


#### デスクトップにショートカットアイコンを作成する

Windows のデスクトップに、MIFES を起動するためのショートカットアイコンを作成します。

右クリックメニューに「MIFES で開く」、「MIFES のバイナリモードで開く」を追加する  
 エクスプローラやデスクトップ上などでファイルを右クリックして表示されるメニューに  
 「MIFES で開く」、「MIFES のバイナリモードで開く」を追加します。

ファイル選択時に「MIFES で開く」を選択すると、MIFES がそのファイルを開いて起動します。



タスクトレイにMIFESを起動させるプログラムを常駐させる

Windows 起動時にキー動作だけでMIFESを起動できるプログラムを常駐させます。



起動以外にも、タスクトレイのアイコンを右クリックするとメニューから、オープンモードを指定した起動やグローバル検索、DOSシェルエスケープなどが実行できます。

起動/アクティブ化(F)
新規にテキストで開く(O)
新規にバイナリで開く(N)
既存のファイルを開く(O)
最近編集したファイルを開く(R)
グローバル検索の実行(G)
DOSシェルエスケープ(Q)
常駐設定の変更... (M)
常駐の解除(D)
選択の中止(E)

Internet Explorerのソース表示時のエディタにMIFESを設定する

Internet Explorerの[表示]メニュー [ソース]で起動するエディタをMIFESに設定します。

6

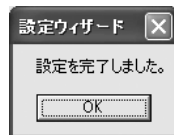
「設定確認」画面で、設定した内容を確認し、良ければ[完了]ボタンをクリックします。

設定内容を変更したいときは、[戻る(B)]ボタンで変更したい項目まで戻って変更してください。



7

設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。



## アンインストールする



注意

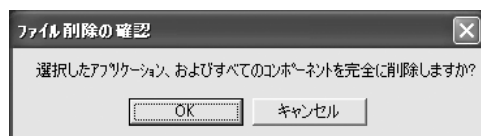
Microsoft Windows XP、2000、NT4.0、Server2003 でアンインストールを行うには Administrator 権限を持つユーザーとして OS (Windows) にログオンする必要があります。アンインストールは Administrator 権限を持つユーザーでログオンしてから行ってください。



メモ

アンインストールの前に、これまでの MIFES の設定ファイルやマクロなどを他のディレクトリなどに保存しておく、次回インストールした際にその設定やマクロなどを引き継ぐことができます。詳しくは次項を参照してください。

- 1 エクスプローラ、フォルダウィンドウなど、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 Windows の【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES for Windows Ver.7.0】-【アンインストール】をクリックし、アンインストールを実行します。
- 3 「ファイル削除の確認」メッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。

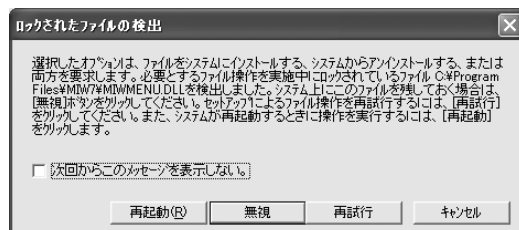


- 4 「メンテナンスの完了」のメッセージが表示されます。確認して [完了] ボタンをクリックします。



注意

「ロックされたファイルの検出」というタイトルのメッセージが表示された場合は、[再起動 (R)] を選択してください。



## これまでの設定やマクロなどを引き継ぐ(保存 / 移行する)

MIFES の設定やマクロなどはすべて特定のファイルに書き込まれています。これらのファイルを他のディレクトリなどに保存しておく、Windows の再セットアップ、MIFES のバージョンアップ、コンピュータの変更などの際に、これまでの設定やマクロを移行することができます。

これまでの使用方法に応じて以下のファイルを他のディレクトリなどに保存しておき、インストール後必要であれば読み込んでください。

保存するファイル名とその内容

\*.INI、\*.RBN、\*.LIB

以下のファイルはご自分で編集・作成された場合のみ保存してください。

\*.EGH、\*.DLL、\*.PPP、MIW.MAC、MIW.STR

ファイルのある場所

- ・ 1 台のコンピュータで使用されている場合  
MIFES のインストール先( デフォルトは C:¥Program files¥MIW7 )
- ・ サーバー上の MIFES をクライアントから実行されている場合  
サーバー ----- MIFES のインストール先( デフォルトは C:¥Program files¥MIW7 )  
クライアント ----- 初回起動時にローカルの作業用ディレクトリに指定したディレクトリ
- ・ 起動オプション /L を指定している場合  
/L の後に指定したディレクトリ
- ・ 「カスタマイズファイルの読み書き」ダイアログボックスに指定がある場合  
[ 現在のカスタマイズファイル ] に表示されているファイル  
「カスタマイズファイルの読み書き」ダイアログボックスは、【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】で表示します。

キー設定などの読み込み方法

MIFES を起動して【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】を実行します。

これまでご利用のカスタマイズファイル( 通常は「MIW.INI」) を選択して、必要な定義にチェックをして「読み込む」を実行します。



**新機能をご使用いただくために、「メニューバー定義」は読み込まないことをお奨めします。**

マクロの読み込み方法

MIFES を起動して【マクロ(M)】-【指定マクロの実行(X)】を実行し、「他のライブラリ」で、旧バージョンのマクロライブラリのファイル( 通常は「MIW.LIB」) を選択して、必要なものを登録してください。

ツールバー(旧リボン)のファイル(.RBN)

バージョン5以降のファイルは利用可能ですが、バージョン7のものをご利用になることをお奨めします。



# オンラインアップデート

オンラインアップデートにより、MIFES for Windows Ver.7.0を最新の状態にすることができます。

定期的にアップデートすることで、より安定した最新のMIFESをご使用いただけます。



Windows NT4.0では、オンラインアップデートはご利用できません。

ホームページからアップデートデータをダウンロードして手動でアップデートを行ってください。



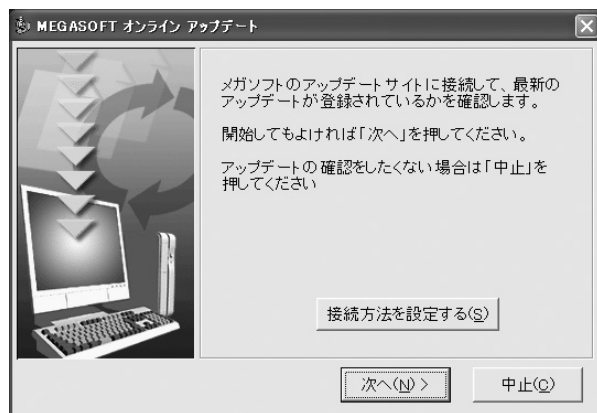
アップデートを行う前に、すべてのアプリケーションを終了させてください。

①

Windowsの【スタート】-【すべてのプログラム】-【MIFES for Windows Ver.7.0】-【オンラインアップデート】を実行します。

アップデートが必要な場合は、次の画面が表示されます。

[次へ(N)] ボタンをクリックします。



ご使用のコンピュータで、すでにインターネットを利用している場合には、[接続方法を設定する(S)] は必要ありません。

インターネットへの接続設定がされていないときにだけ、[接続方法を設定する(S)] を行ってください。

②

画面の内容を確認しながら [次へ(N)] ボタンで進めてください。



アップデートの内容によっては、再起動が必要な場合があります。

再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動を行ってください。

③

「MIFESのアップデートが完了しました。」というメッセージが表示されたら [閉じる(C)] ボタンをクリックします。

MEMO

## 第3章 基本的な使い方

### 目次

起動と終了 .....	36	バイナリファイルを編集する .....	67
MIFESを起動する .....	36	バイナリ表示に切り替える .....	67
MIFES for Windowsを終了する .....	37	表示画面について .....	67
.....		操作について .....	69
ファイルを開く .....	39	カレント演算の設定/実行 .....	70
開く機能 .....	39	バイトオーダーの表示と切り替え .....	71
ファイルを開くダイアログボックス .....	39	バイナリカットバッファからの貼り付けのしかた (数字に変換して貼り付け) .....	72
.....		.....	
リストウィンドウの操作 .....	46	文字列を検索する .....	75
リストウィンドウについて .....	46	検索の種類・方法 .....	75
リストウィンドウの設定を変更する .....	46	カレントウィンドウ内で検索する .....	80
リストの操作 .....	47	複数のファイルから検索する .....	81
.....		.....	
ファイル .....	49	文字列を置き換える/変換する .....	84
.....		置換の種類と方法 .....	84
ファイルを保存する .....	55	置換時の文字列(新文字列)を指定する .....	85
ファイルに名前を付ける .....	55	1つの文字列を置き換える .....	88
別のコード、形式に変換して保存する .....	56	複数のファイルで置換を行う(グローバル置換) .....	90
ファイルを保存せずに閉じる .....	57	複数の置換を一度に行う(複数置換) .....	91
.....		グローバル複数置換 .....	93
文字列を編集する .....	58	便利な編集ツール(文書整形) .....	94
コピー、カット&ペーストの概要 .....	58	.....	
カット&ペーストのしかた .....	59	印刷する .....	99
その他の編集機能 .....	64	カレントウィンドウの内容を印刷する .....	99
元に戻す(UNDO)とREDO .....	65	複数の印刷設定を使い分ける .....	104
よく入力する文字列を登録して呼び出す (登録文字列の挿入) .....	66	.....	
.....		ヘルプファイルを使う .....	106

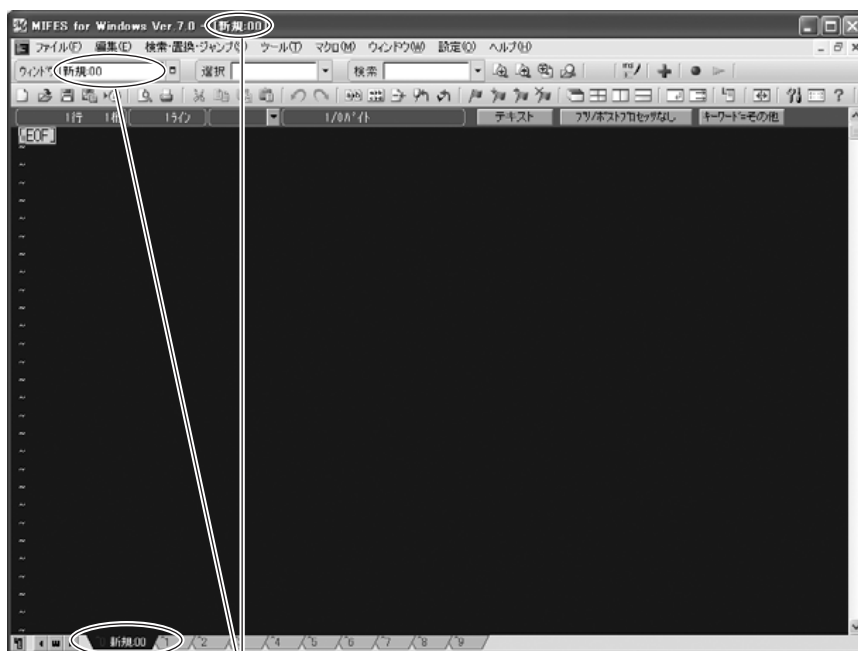
## 起動と終了

ここでは MIFES の起動と終了のしかたを説明します。

なお、本書では MIFES 標準の設定でインストールした MIFES を使って説明しています。

### MIFES を起動する

- ① タスクバーの [ スタート ] ボタンをクリックします。
- ② [ すべてのプログラム( P ) ] - [ MIFES for Windows Ver.7.0 ] - [ MIFES for Windows Ver.7.0 ] の順にクリックします。
- ③ MIFES が起動します。



アクティブなウィンドウで開いている  
ファイル名が表示されます。



デスクトップ上の MIFES Ver.7.0 のショートカットアイコン をダブルクリックして起動することもできます。

ショートカットアイコンがない場合は、設定ウィザードで作成できます。詳しくは、「インストールとアンインストール」P.22 ~ 31 を参照してください。

## 新規ウィンドウについて

開くファイル名を指定せずにMIFESを起動すると「新規：00」というウィンドウが自動的に開きます。これはMIFESの編集ウィンドウ内に名前の付いていないファイルが開いていることを表しています。このように名前の付いていないファイルが表示されているウィンドウを「新規ウィンドウ」と呼びます。「新規：00」の「00」の数字は新規ウィンドウの番号です。



メモ



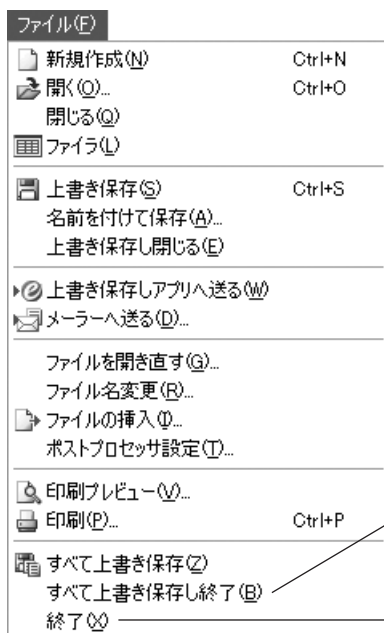
参照

【ファイル(F)】メニューから【新規作成(N)】を選択したときもこの新規ウィンドウが開きます。

デフォルトでは、起動時に新規ウィンドウを1つ開くように設定されています。新規ウィンドウを開かないように設定することもできます。詳しくは「環境設定」の「起動」タブ(P.212)を参照してください。

## MIFES for Windows を終了する

MIFESを終了するには、【ファイル(F)】メニューの【すべて上書き保存し終了(B)】か【終了(X)】を選びます。



変更のあるファイルをすべて上書き保存しMIFESを終了します。新規ファイルに変更がある場合は、保存場所と名前を付ける画面が表示されます。

MIFESを終了します。開いているファイルに変更がある場合、「MIFES for Windowsの終了確認」画面が表示されます。

### 「MIFES for Windows の終了確認」ダイアログボックス



「MIFES for Windows の終了確認」ダイアログボックスには変更のあるファイルが一覧で表示されます。表示されているファイルすべてを保存する以外に、ファイル名を確認しながら選択したファイルだけを保存することもできます。

- ・編集したファイルすべてを保存するには  
[すべて保存(Y)] をクリックします。
- ・一部のファイルだけを保存するには  
(1) [CTRL] キーを押しながら、保存するファイルをクリックして選択します。[CTRL] キーを押したまま順にクリックすると、複数のファイルを選択できます。  
ファイルの選択状態を取り消すには、そのファイルをもう一度 [CTRL] キーを押しながらクリックします。  
(2) 中央のボタンが [選択したファイルを保存] に変わりますので、このボタンをクリックします。
- ・すべてのファイルを保存せずに MIFES を終了するには  
[すべて保存せず(N)] をクリックします。
- ・ファイルを保存せずに、編集画面に戻るには  
[キャンセル] をクリックします。

## ファイルを開く

### 開く機能

MIFES for Windows でファイルを開くには、次の方法があります。

- ダイアログボックスを使って開く
- ファイラを使って開く
- エクスプローラなどからファイルをダブルクリックして開く
- ファイルアイコンを右クリックしてメニューから開く

### ファイルを開くダイアログボックス

【ファイル(F)】-【開く(O)】で表示されるダイアログボックスには、3種類のダイアログボックスがあります。この3種類を好みで切り替えて使用してください。



同様に、以下のダイアログボックスも3つのタイプを切り替えることができます。

- 「保存するファイル名の指定」ダイアログボックス
- 「変更するファイル名の指定」ダイアログボックス
- 「挿入するファイル名の指定」ダイアログボックス
- マクロ言語 (MIL/W) の `finput()` 関数から呼び出されるダイアログボックス

### ファイルを開く操作

どのダイアログボックスでも、一覧に表示されたファイル名を選択して、[開く] ボタンをクリックすると、そのファイルが開きます。

「ファイル名(N)」欄に直接ファイル名を入力することもできます。

## ダイアログボックスの操作方法

### オープンモード

テキストモード/バイナリモードなどのモードを指定します。

### プリプロセッサ

EUC、UTF-8などシフトJIS以外のコードのファイルなど、ファイル形式を変更して読み込むときに指定します。「自動設定」のときには拡張子またはファイル内容によりコード判定されシフトJISに変換されます。

### ファイル内容による自動コード判定禁止

文字コードの自動判定を禁止します。

### ダイアログボックス切り替えボタン

### プレビュー

選択したファイルをプレビューします。

また、プリプロセッサ設定時にはプリプロセッサの説明が表示されます。

### ファイル名検索

ファイル名の検索ダイアログボックスで、ファイル名を検索します。

### ユーザー定義ディレクトリボタン

クリックすると、ボタンに登録したディレクトリに移動することができます。(P.44 参照)

## MIFES 専用ダイアログ

ドラッグで横幅を変更できます。  
また、クリックで並べ替えができます。





## ユーザー定義ディレクトリ付きコマンドダイアログ



クリックするとそれぞれのダイアログに切り替わります。

## ブレースバー付きコマンドダイアログ

## ブレースバー



クリックするとそれぞれのダイアログに切り替わります。

特定の拡張子のファイルだけ表示するには  
[ファイル名(N)] 欄にワイルドカードを入力します。例えば拡張子が .TXT のファイルだけを  
表示する場合は、“\*.TXT” と入力します。  
一度入力したワイルドカードは [ファイル名(N)] 欄下のコンボボックスに追加されます。再  
度すべてのファイルを表示させるには “ \*.\* ” を選択します。

## オープンモードの違い

MIFES にはファイルを開くときのモードとして「テキスト」、「テキスト(^Zまで)」、「バイナリ」という3つのモードがあります。通常は「テキスト」モードでファイルを開きます。バイナリファイルを編集するときには「バイナリ」モードで開きます。  
「テキスト(^Zまで)」はDOS版MIFESや旧バージョンのMIFES for Windowsとの互換性のために設けられた特殊なモードです。

「自動設定」で開く場合

「環境設定」の [拡張子] タブに定義されたオープンモードでファイルを開きます。該当する拡張子定義がない場合には、ファイル内容の自動判定を行います。バイナリファイルと判定されればバイナリモードで開きます。



参照

特定の拡張子やディレクトリ位置に対してデフォルトのオープンモードを設定することができます。詳しくはP.39を参照してください。



メモ

拡張子定義のみ自動適用する場合は、[(ファイル内容による)自動コード判定禁止]チェックボックスをONにします。

「テキスト」で開く場合

テキストファイルを編集するための通常モードです。指定したファイルをデータの終わりまで読み込んで開きます。ファイル中にEOFコード(1AH)がある場合、1バイトの文字として扱って読み込みます。

「テキスト(^Zまで)」で開く場合

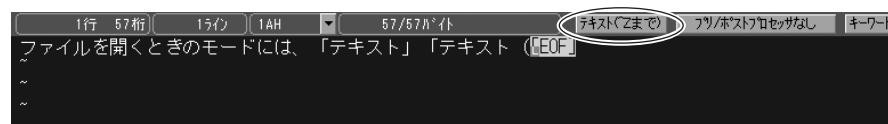
指定したファイルを通常のテキストファイルとして開きますが、ファイル中にEOFコード(1AH)があると、そこでファイルの終わりとしみなしてそれ以降の内容は読み込みません。



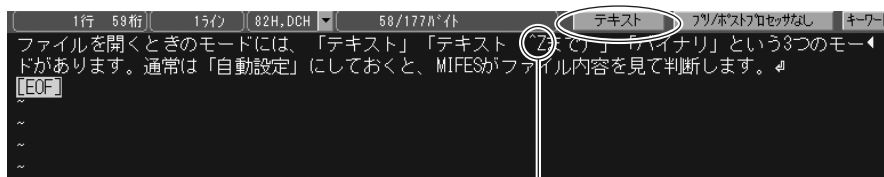
注意

「テキスト(^Zまで)」モードでファイルを開いた場合には、ファイル保存時に、ファイルの最後がEOFコード(1AH)でない場合には、ファイルの最後にEOFコード(1AH)を付加します。

途中でEOFコード(1AH)のあるファイルを開くと



同じファイルをテキストモードで開くと



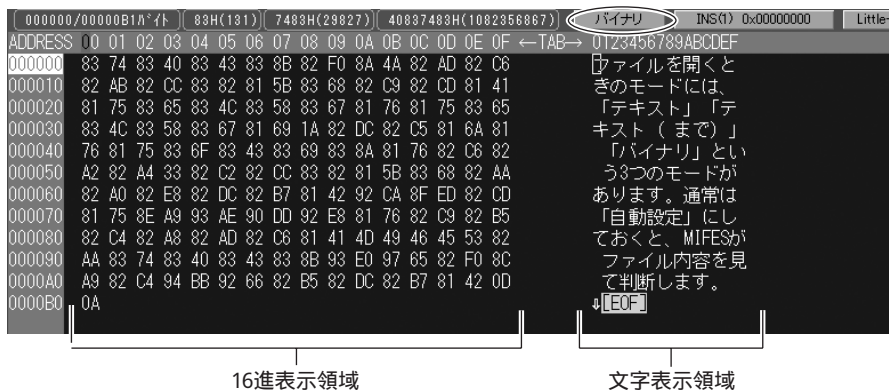
EOFコード

「バイナリ」で開く場合

指定したファイルをバイナリファイルとして開きます。この場合、漢字などの2バイト文字の認識は行いません。

表示形式が通常のウィンドウと異なり、左側に16進数の文字コード、右側に文字を表示します。画面上の1行で16バイト分のデータを16進数と文字の両方で表示します。

またデータの終わりがファイルの終わりであるとみなします。詳しくは「バイナリファイルを編集する (P.67)」を参照してください。



読み取り専用で開く

ファイルを「読み取り専用」として開くと、そのファイルへの変更を禁止できます。変更してはいけないファイルを参照用に開く場合などに指定します。他のアプリケーションで使用中のファイル、ファイル属性が読み取り専用のファイルを開いたときには、このオプションは自動的にONになります。

読み取り専用で開かれたファイルは、タイトルバーや「ウィンドウ一覧」のファイル名の横に(読専)と表示され、編集ウィンドウの背景色も専用の色に変わります。

画面上では編集可能にし、上書き保存ができないようにすることもできます。【設定(O)】-【環境設定(E)】-【動作】タブの【「読専」ウィンドウの変更操作を許可】をONにしてください。



## コードなどを変換するプリプロセッサを指定する

MIFES では、開くファイルのテキストに対してコード変換などの何らかの変更処理をする DLL(ダイナミックリンクライブラリ)のことをプリプロセッサと呼びます。

[プリプロセッサ(P)]コンボボックスから指定したいプリプロセッサを選択すると、オープン時に変換処理が行われます。

プリプロセッサの変換処理について詳しくは、第4章「形式の違うファイルを開く/保存する」を参照してください。

「自動設定」で開く場合

「環境設定」の [ 拡張子 ] タブに定義されたプリプロセッサでファイルを開きます。該当する拡張子定義がない場合には、ファイル内容の自動判定を行います。詳しくは「形式の違うファイルを開く/保存する (P.144)を参照してください。

ファイル内容の自動判定をOFFにするには

[プリプロセッサ(P)]コンボボックスで [プリ/ポストプロセッサなし] を選びます。

設定したプリ/ポストプロセッサはファイル名とともに記憶され、【ファイル(F)]メニューの履歴から開く際に自動的に設定されます。



ファイルを開くときに変換処理などを行うプリプロセッサに対し、ファイルを保存するときに変換処理などを行うプロセッサをポストプロセッサといいます。

プロセッサはプリプロセッサとポストプロセッサが対になっているものがあり、対になっているものはプリ/ポストプロセッサと呼びます。

## ユーザー定義ディレクトリボタンについて

「ユーザー定義ディレクトリ」ボタンを使うと、カレントディレクトリを即座に変更できます。MIFESでは任意のディレクトリをユーザー定義ディレクトリとしてボタンに登録することができます。ファイルを開くときだけでなく、ファイルを保存するときにも使用できます。

デフォルトの設定

4から8のボタンには次のディレクトリが設定されています。

すべてのボタンはユーザーが自由に変更することができます。

4 : マイドキュメント	Windows 既定の作業用ディレクトリです。
5 : 作業ディレクトリ	MIFES 起動直後のディレクトリです。 (デスクトップ上のMIFESショートカットのプロパティで「作業フォルダ」として定義したディレクトリです。)
6 : MIW ディレクトリ	MIFES をインストールしたディレクトリです。 起動時のコマンドラインでロードディレクトリを設定している場合( / オプション指定時 )は、設定したディレクトリになります。 起動時のコマンドラインの設定については、第5章を参照してください。

7 : カレントファイルDir	現在編集中のファイル（カレントウィンドウのファイル）のあるディレクトリです。
8 : 最近使用のDir	最近使用したディレクトリをリストで表示し、選択することができます。

#### ユーザー定義ディレクトリの登録方法

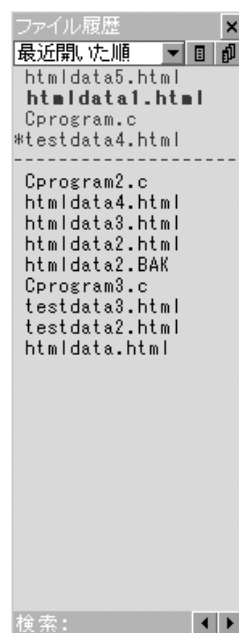
登録したいディレクトリに移動し、ボタン左側の [ ] を押すとポップアップメニューが表示されます。[ 表示中のディレクトリに設定 ] をクリックすると、そのディレクトリをユーザー定義ディレクトリとして登録できます。

## リストウィンドウの操作

### リストウィンドウについて

リストウィンドには、次のリストを最大20件まで記録することができ、リスト切り替えメニューで切り替えて表示することができます。

- ・ファイル履歴
- ・ディレクトリ情報
- ・【グローバル検索】結果  
(出力先をリストウィンドウに指定した場合のみ)
- ・【ファイル名検索】結果
- ・【C関数定義の検索】結果
- ・【見出し行の検索】結果



### リストウィンドウの設定を変更する

以下の操作を行った結果は、カスタマイズファイルに記録され、次にMIFESを開いたときに引き継がれます。

非表示 (最小化) にする

リストウィンドウのタイトルバー横にある [ × ] ボタンをクリックします。

表示する (元に戻す)

多目的バー左端の [ 田 ] ボタンをクリックします。

幅を変える

リストウィンドウ内をクリックしてフォーカスをリストウィンドウに移してから、マウスポインタを編集ウィンドウとの境界線に移動します。

マウスポインタの形状が  $\blacktriangleleft\blacktriangleright$  になったらドラッグします。

位置を変える (移動する)

リストウィンドウのタイトルバーをドラッグします。

MIFES ウィンドウの右端または左端に合わせるようにドラッグすると、ドッキング状態になります。その他の場所には自由に配置ができ、MIFES ウィンドウの外にも配置できます。

大きさを変える

フローティング状態のときは、大きさも自由に変更できます。

Windows上でウィンドウのサイズを変更する要領で、サイズ変更が行えます。

色を変更する

【設定(O)】-【環境設定(E)】の[カラー]タブで文字色、背景色などを変更できます。

## リストの操作

リストウィンドウメニューまたは、リストウィンドウ内で右クリックして表示されるメニューからいろいろな操作が行えます。

### 先頭の1文字で検索する

リスト項目の1文字目を入力して、項目名を検索することができます。

リストウィンドウ内でカーソルがある位置から下方向へ検索し、リストの最後まで検索したら、リストの先頭へ戻って検索を続けます。

- ① リストボックスのメニューから【先頭1文字で検索】を選択します。
- ② 検索したい項目名の1文字目を入力します。  
全角文字も検索できます。全角文字の場合は、入力した文字を確定すると検索を開始します。
- ③ 入力した文字からはじまる項目の位置にカーソルが移動します。

### 入力文字列で検索する

項目名を入力すると入力した文字列に合わせて該当する項目名を随時検索します。

(Windowsのエクスプローラーなどに搭載されているインクリメンタルサーチと同様の機能です。)

リストウィンドウの先頭から検索します。

- ① リストボックスのメニューから【入力文字に合せて検索(\*、?可能)】を選択します。
- ② 項目名を先頭から順に入力します。  
入力した文字列はリストボックス下の「検索:」の後に表示されます。  
全角文字も検索できます。全角文字の場合は、入力した文字を確定すると検索を開始します。  
また、ワイルドカード(\*、?)も使用できます。
- ③ 該当する項目名の位置に入力した文字に合わせて随時カーソルが移動します。

## 方向再検索 / 方向再検索

直前に行ったリストボックス内の検索を、再実行します。  
リストウィンドウメニューから【 方向再検索】または【 方向再検索】を選択します。

## 検索文字列クリア

直前の検索文字列をクリアして新しい検索を実行する前に行います。  
リストウィンドウメニューから【検索文字列クリア】を選択します。

## リストの並べ替え

リストウィンドウで、タイトルバーのすぐ下にあるコンボボックスで並び順を選択することができます。  
表示しているリストの内容（ファイル履歴、ディレクトリなど）によりコンボボックスで選択できる項目が異なります。

## リスト内の項目削除

リスト内に表示されている項目を1件ずつ削除することができます。  
リストウィンドウメニューから【項目の削除】を選択します。

## リストの削除

リストそのものを削除します。

- 1 削除したいリストをリストウィンドウに表示します。  
リスト切り替えメニューから選択して切り替えることができます。
- 2 リストウィンドウメニューから【リストの削除】を選択します。



ファイル履歴のリストは削除できません。  
ファイル履歴を削除したいときは、【履歴情報の削除】機能で削除してください。



## ファイラ

MIFESには、ファイルを開くことのできるDOS版風のファイラも用意されています。  
【ファイル(F)】-【ファイラ(L)】を選択すると、ファイラが起動します。

ファイラの特長は以下のとおりです。

- ・DOS版MIFESと同様なキーボード操作によりファイルを開くことができる。
- ・ある期間に作成したファイルを抽出し表示することができる。
- ・ファイル属性を表示することができる。
- ・複数ファイルの複写、削除などの簡単なファイルの操作ができる。
- ・[SHIFT]+ファンクションキーにディレクトリやファイル名などの文字列を割り当てて、即座に目的のディレクトリやファイルを表示することができる。
- ・ファイルの一覧を任意のファイルに書き出すことができる。

25行80桁のウィンドウ - 複数列表示画面



【表示(P)】-【1列表示】で詳細表示に切り替わります。[ HOME ] キーで切り替えることもできます。

また、【表示(P)】-【フォントサイズの切り替え】で表示サイズを全体に小さくすることもできます。

25行80桁のウィンドウ - 1列表示画面



#### ファイルを開く

ファイル選択カーソルを、開くファイル名に移動し、[ Enter ] キーを押します。またはファイル名をダブルクリックします。

・複数のファイルを一度に開くときは

[ SHIFT ] + [ Enter ] キー（または [ SHIFT ] + マウスの左ボタン）で開くファイル名に選択マークをつけて、[ Enter ] キーを押します。

・新しいファイルを開くときは

[ MIFES で開くファイル名の指定 ] 欄に新しいファイル名を入力し、[ Enter ] キーを押します。



1行入力枠への入力が最も優先され、次に一覧上の選択マークが優先され、最後にファイル選択カーソルの位置が処理されます。

複数ファイルを指定して開く場合、選択マークのついたファイルだけを開きます。ファイル選択カーソルが選択マークのついていないファイル名の上にあっても開きません。

#### ファイルの内容を表示する(ビューア)

ファイル選択カーソルをファイル名に移動し、[ SPACE ] キーを押します。再度 [ SPACE ] キーを押すと、ファイル内容を閉じてファイルの一覧表示に戻ります。

#### ドライブやディレクトリを移動する

[ MIFES で開くファイル名の指定 ] 欄にパス名を入力し、[ Enter ] キーを押します。サブディレクトリを指定すると、指定したディレクトリへ移動します。または、[ ファイル一覧 ] ボックスの ¥ が付加されているファイル名か、DIR と表示されているところにファイル選択カーソルを移動し、[ Enter ] キーを押します。

よく使うディレクトリをホームディレクトリとして設定したり、[ SHIFT ] + ファンクションキーに文字列を設定すると、ドライブおよびディレクトリの移動が簡単にできます。これらの設定については後述します。

#### ファイルを削除する

削除するファイルを [ SHIFT ] + [ Enter ] キーで選択マークをつけて、【編集(E)】-【削除(選択ファイル削除)】を選ぶか、または [ F7 ] キーを押します。

「ファイル削除の確認」メッセージボックスが表示されますので、メッセージを確認してボタンをクリックします。

#### ディレクトリを作成する

【編集(E)】-【ディレクトリ作成】を選ぶか、または [ F5 ] キーを押すと「ディレクトリの作成」ダイアログボックスが表示されます。ディレクトリ名を指定して [ ディレクトリ作成 ] ボタンをクリックすると、カレントディレクトリの下に作成できます。

## ファイル名を検索する

- 1 [ F4 ] キーを押すか、または [ F4 : ファイル名検索 ] ボタンをクリックします。「ファイル名の検索条件の指定」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 検索するファイル名を [ 検索ファイル名(N) ] に入力します。ワイルドカードを指定することもできます。
- 3 検索するディレクトリを [ 検索開始位置 ] コンボボックスから選びます。
- 4 ファイルのタイムスタンプを検索条件にするかどうかを指定します。検索条件に指定する場合はタイムスタンプの日付と時刻の範囲を [ 日付設定 ] ボックスで設定します。設定できる範囲は1980年1月1日0時0分から2019年12月31日23時59分までです。
- 5 特定の文字列を含むファイルを検索するときは、[ 検索文字列(S) ] に文字列を入力します。検索文字列中には次のメタ文字も指定できます。

メタ文字	検索できる文字
¥n	改行文字 (ODH、0AH)
¥t	タブ文字 (09H)
¥xXX	指定コードの1バイトXXには半角で16進2桁を指定します。ただし、ヌルコード (¥x00) の指定はできません。また、ワイルドカード (*や?) の指定はできません。

6

[ 検索実行 ] ボタンをクリックします。  
 検索結果はファイル一覧ボックスに表示されます。通常のファイルの操作と同じように検索したファイルを選択して開くことができます。  
 元の画面に戻すには【表示(P)】メニューから【最新の情報に更新】を選択します。または [ F11 ] キーを押します。

## ファイルをコピーする

違うドライブやディレクトリに複数のファイルをまとめてコピーできます。  
 専用のファイルに複写元情報を記録し、指定した複写先にコピーします。同じディレクトリ内に複写することはできません。

1

複写するファイルに [ SHIFT ] + [ Enter ] キーで選択マークを付けます。

2

【編集(E)】-【コピー( 選択ファイル複写 )】を選ぶか、または [ F8 ] キーを押します。  
 次のサブメニューが表示されますので、複写元 1 ~ 5 のどれに記録するか選びます。

複写元1^記録  
 複写元2^記録  
 複写元3^記録  
 複写元4^記録  
 複写元5^記録

3

複写元を選ぶと、指定したファイルが記録されて選択マークが消えます。

4

複写先のディレクトリに移動して、【編集(E)】-【貼り付け( 複写先確定 )】を選ぶか、または [ F9 ] キーを押します。  
 複写元 1 ~ 5 のどれから複写するか選びます。複写元を選ぶとファイルがコピーされます。

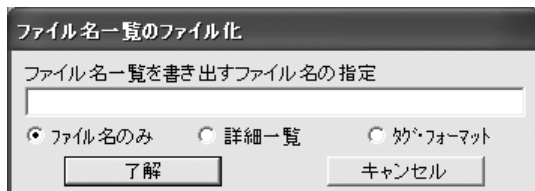


複写元 1 ~ 5 に記録していると、毎回同じファイルを複写するときに、その都度複写元を指定しなくても簡単に複写できるので便利です。

## ファイルの一覧をファイルに書き出す

ファイル一覧ボックスに表示されているファイルの一覧をファイルに書き出すことができます。

- 1 【編集(E)】-【一覧のファイル化】を選ぶか、または [INS] キーを押します。  
「ファイル名一覧のファイル化」ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [ファイル名一覧を書き出すファイル名の指定] テキストボックスにファイル名を入力して [了解] ボタンをクリックすると指定のファイルに書き出されます。  
[詳細一覧] オプションがON のときは、ファイル名とその属性、容量、作成の日付をファイルに書き出します。[タグ・フォーマット] オプションがON のときは、タグジャンプ書式のファイルに書き出されます。



ファイル名一覧を書き出した直後は、そのファイルはファイル名一覧に表示されません。  
【表示(P)】-【最新の情報に更新】またはF11 で表示を更新すると、表示されます。

カレントディレクトリ以外にファイル名一覧ファイルを作成すると、タグジャンプはできません。[タグ・フォーマット] を選ぶときは、必ずカレントディレクトリ内にファイル名一覧ファイルを作成してください。

## ユーザー定義ディレクトリを設定する

カレントディレクトリをユーザー定義ディレクトリに登録できます。  
ここで設定するユーザー定義ディレクトリはファイラ上でのみ有効です。「ファイルを開く」ダイアログボックスなどでは使えません。

- 1 ユーザー定義ディレクトリに設定するディレクトリに移動します。
- 2 【表示(P)】-【ユーザー定義ディレクトリ(U)】を選び、【現在位置を追加(A)】を選びます。

## [ SHIFT ]+ ファンクションキーで文字列を入力する

[ SHIFT ] + ファンクションキーにファイル名やディレクトリ名などの文字列を割り当てることができます。

①

【編集(E)】-【ファンクションキー文字列定義...】を選びます。

「ファンクションキー文字列の定義」ダイアログボックスが表示されます。



②

任意のキーにファイル名やディレクトリ名を入力して [ 了解 ] ボタンをクリックします。

該当するキーで指定した文字列が入力されるように割り当てられます。なお、[ 自動改行 ] を ON にすると、割り当てた文字列を入力した後に [ Enter ] キーが自動的に押された状態になります。OFF の場合は [ ファイル名指定 ] 欄に指定した文字列のみ入力されます。

例

割り当てる文字列	自動改行	結果
パス名	ON	[ ファイル一覧 ] ボックスの内容が指定したパス名のディレクトリの内容に変わります。
パス名 + ファイル名	ON	指定したファイルが開きます。
パス名 + ファイル名	OFF	[ ファイル名指定 ] 欄にパス名とファイル名が表示されます

## ファイルを保存する

編集した内容を保存するには以下の方法があります。

1. カレントウィンドウを保存し編集を続ける。

2. カレントウィンドウを新しいファイルに保存し編集を続ける。

3. カレントウィンドウを保存しウィンドウを閉じる。

4. 開いているすべてのウィンドウを保存し、編集を続ける。

5. 開いているすべてのウィンドウを保存し、MIFESを終了する。

## ファイルに名前を付ける

新しくウィンドウを開き、編集した内容をファイルに保存するときには次のダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスは【ファイル(F)】-【名前を付けて保存(A)】を選択し、カレントウィンドウの内容を新しい名前のファイルに保存するときにも表示されます。

新規ファイルには先頭の内容(最大64バイト) デフォルトの拡張子を設定できます。  
がデフォルトで表示されます。

別のコードに変換して保存できます。

ダイアログボックスの種類を切り替えます。

選択したポストプロセッサの説明が表示されます。



上記のダイアログボックスは「MIFES 専用」ダイアログです。ダイアログボックスの種類は、右上のダイアログ切替ボタンにより変更できます。

### ファイル名について

ファイル名は全角で127文字、半角で255文字まで入力できます。  
すでに存在するファイルと同じ名前を指定すると次のようなメッセージが表示されます。



### [ デフォルト拡張子 ] について

保存する際のデフォルトの拡張子を設定できます。[ デフォルト拡張子(X) ] に拡張子が指定されている場合、拡張子のないファイル名にはデフォルト拡張子が自動的に追加されます。よく作成するファイルの拡張子をデフォルト拡張子にしており、それ以外の拡張子で保存したいときだけ [ ファイル名(N) ] に拡張子を指定してください。

### 新規保存時のカレントウィンドウについて

【ファイル(F)】-【名前を付けて保存(A)】で編集しているカレントウィンドウの内容を別のファイル名で保存する場合、元のファイルをカレントウィンドウにするか、保存後のファイルをカレントウィンドウにするかを設定できます。

この設定は【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ その他 ]タブの「名前を付けて保存後も保存前のファイルを編集」で行います。

## 別のコード、形式に変換して保存する

保存するコードや形式を [ ポストプロセッサ(P) ] コンボボックスから選択できます。



EUCコードで保存されます。

### シフトJIS以外のコードのファイルを開いている場合

プリ/ポストプロセッサを指定してファイルを開いた場合、または「ファイル内容の自動判別」機能により自動的にプリ/ポストプロセッサが設定されている場合は、あらかじめ [ ポストプロセッサ(P) ] 欄にそのポストプロセッサが表示されています。

- ・元のコード(シフトJIS以外)で保存するには  
[ ポストプロセッサ(P) ] に元のコードが表示されていることを確認し、保存します。
- ・シフトJISに変換して保存するには  
[ ポストプロセッサ(P) ] を「ポストプロセッサなし」にして保存します。



## ファイルを保存せずに閉じる

カレントウィンドウの内容を保存しないでファイルを閉じるときは【ファイル(F)】-【閉じる(Q)】を選びます。

カレントウィンドウに変更がある場合には次のようなメッセージが表示されます。



開いているファイルが変更のあるファイルかどうか、読み取り専用かどうかは【ウィンドウ(W)】-【ウィンドウ一覧(W)】で確認できます。ウィンドウ一覧は、[ F2 ]キーでも表示できます。



## 文字列を編集する

### コピー、カット&ペーストの概要

MIFESのテキストモードには次の3種類の選択方法があり、コピーや切り取りをしたときに取り込まれるバッファが異なります。

バッファが異なるため、貼り付け機能機能も異なります。

目的に応じて使い分けてください。

範囲選択の種類	使用されるカットバッファ	備 考
文字列単位	クリップボード	他のアプリケーションでも使用できます。
行単位	行カットバッファファイル	ファイル名：MIWLCUT.TXT
箱型範囲	箱型カットバッファファイル	ファイル名：MIWBOX.TXT

#### 文字列単位

MIFESでは3つのカットバッファを使用して独立した3系統の  
カット&ペースト処理を同時並行で行うことができます。⌄  
これによりバッファが複数存在するため、少し複雑な感があ  
りますが、使い慣れるととても便利な機能です。⌄  
⌄

#### 行単位

MIFESでは3つのカットバッファを使用して独立した3系統の  
カット&ペースト処理を同時並行で行うことができます。⌄  
これによりバッファが複数存在するため、少し複雑な感があ  
りますが、使い慣れるととても便利な機能です。⌄  
⌄

#### 箱型範囲

MIFESでは3つのカットバッファを使用して独立した3系統の  
カット&ペースト処理を同時並行で行うことができます。⌄  
これによりバッファが複数存在するため、少し複雑な感があ  
りますが、使い慣れるととても便利な機能です。⌄  
⌄



- ・行カットバッファ、箱型カットバッファはMIFES専用のバッファですので、そのまま他のアプリケーションに貼り付けることはできません。
- ・複数ファイルを開いていても、カットバッファは1つずつしかありませんので、操作する度に更新されます。また、クリップボードの場合は他のアプリケーションで切り取りやコピーをした場合にも更新されます。



参照

カットバッファファイルは、環境変数TEMPで指定されたディレクトリに作成されます。詳しくは第6章「使用するファイルについて」を参照してください。



メモ

バイナリファイル(バイナリモードのウィンドウ)で文字列単位のコピーや切り取りをするとバイナリカットバッファ(MIWCUT.BIN)に保存されます。

このバイナリカットバッファからテキストファイル中に貼り付ける場合は「バイナリ貼り付け」という機能を使います。詳しくは「バイナリカットバッファからの貼り付けのしかた」を参照してください。(P.72)

## カット&ペーストのしかた

### 文字列単位で切り取り(コピー)する

文字列単位で範囲を指定して切り取り(コピー)します。切り取り(コピー)したデータはクリップボードに記憶されていますので、任意の位置に貼り付け(ペースト)できます。

① 切り取り(コピー)する文字列の先頭にカーソルを移動します。

② 【編集(E)】-【文字列選択の開始/中止(S)】を選びます。  
または、ツールバーの[選択]ボックスの[ ]ボタンをクリックし、[文字列選択の開始]を選びます。  
[選択]ボックスに[文字列選択中]と表示されます。

③ カーソル移動キーを使って、指定する文字列を選択します。  
指定した文字列は反転表示されます。

編集(E)		
元に戻す: UNDO(U)	Alt+B	Ctrl+Z
REDO: UNDOのUNDO(B)	Ctrl+Y	
文字編集の繰り返し(R)	F12	
切り取り(X)	Ctrl+X	
コピー(C)	Ctrl+C	
貼り付け(P)	Ctrl+V	
数字に変換して貼り付け(Q)...		
文字列選択の開始/中止(S)	Shift+F6	
行選択(L)		
箱型(O)		
すべて選択し最後へ(A)	Ctrl+A	
文字列の登録/挿入(E)...	F4	
改ページコード(C)の挿入(I)		
制御コードの挿入(H)...	Ctrl+I	
カーソル付近の語の一覧(W)...	Shift+F4	
各種の挿入/削除操作(O)		

環境設定の内容により、選択範囲が異なります。[動作]タブの[ ]方向範囲選択においてカーソル位置も範囲に含める]がONのときは、カーソル位置の文字も選択されます。

④ 削除(移動)する場合は【編集(E)】-【切り取り(X)】を選びます。  
あるいは、右クリックメニューの[切り取り]を選びます。

⑤ 複写する場合は【編集(E)】-【コピー(C)】を選びます。  
あるいは、右クリックメニューの[コピー]を選びます。



メモ

文字単位での選択には、文字列選択モードでの選択と、モードなしでの選択が行えます。

文字列選択モードでは、マウスやカーソルキーで文字列を選択する他に、スクロールやジャンプ、検索など、すべてのカーソル移動機能で文字列を選択することができます。

モードなしでは、マウスやカーソルキーで文字列を選択する他に、設定により語や段落(論理行)をダブルクリックで選択することができます。

## 文字列単位で切り取り(コピー)したデータを貼り付ける

切り取り(コピー)した文字列をカーソル位置に挿入するには【編集(E)】-【貼り付け(P)】を選びます。文字列単位で切り取り(コピー)されたデータはクリップボードに記憶されますので、他のアプリケーションでも使用できます。クリップボードに記憶できる最大量は約10Mバイトです。ただしヌルコード(00H)は記憶できません。

編集(E)	
元に戻す: UNDO(U)	Alt+Bs
REDO: UNDOのUNDO(R)	Ctrl+Y
文字編集の繰り返し(D)	F12
切り取り(X)	Ctrl+X
コピー(C)	Ctrl+C
貼り付け(P)	Ctrl+V
数字に変換して貼り付け(Q)...	
文字列選択の開始/中止(S) Shift+F6	
行選択(L)	▶
箱型(O)	▶
すべて選択し最後へ(A)	Ctrl+A
文字列の登録/挿入(E)... F4	
改ページコード(C)の挿入(I)	
制御コードの挿入(H)...	Ctrl+I
カーソル付近の語の一覧(W)...	Shift+F4
各種の挿入・削除操作(N)	▶

## 行単位で切り取り(コピー)する

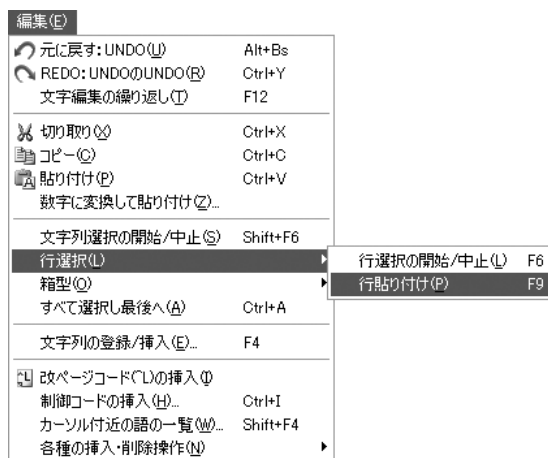
行単位で範囲を指定して切り取り(コピー)します。切り取り(コピー)したデータは行カットバッファファイル(MIWL CUT.TXT)に記憶されていますので任意の位置に貼り付けることができます。

編集(E)	
元に戻す: UNDO(U)	Alt+Bs
REDO: UNDOのUNDO(R)	Ctrl+Y
文字編集の繰り返し(D)	F12
切り取り(X)	Ctrl+X
コピー(C)	Ctrl+C
貼り付け(P)	Ctrl+V
数字に変換して貼り付け(Q)...	
文字列選択の開始/中止(S) Shift+F6	
行選択(L)	▶
箱型(O)	▶
すべて選択し最後へ(A)	Ctrl+A
文字列の登録/挿入(E)... F4	
改ページコード(C)の挿入(I)	
制御コードの挿入(H)...	Ctrl+I
カーソル付近の語の一覧(W)...	Shift+F4
各種の挿入・削除操作(N)	▶

- 切り取り(コピー)する最初の行にカーソルを移動します。
- 【編集(E)】-【行選択(L)】-【行選択の開始/中止(L)】を選びます。あるいは、[選択]ボックスの[ ]ボタンをクリックして、[行単位選択の開始]をクリックします。  
[選択]ボックスに「行単位選択中」と表示されます。
- カーソル移動キーを使って、指定する最後の次の行までカーソルを移動します。指定した行は反転表示されます。
- 削除(移動)する場合は【編集(E)】-【切り取り(X)】を選びます。あるいは、右クリックメニューの[選択範囲の切り取り]を選びます。  
複写する場合は【編集(E)】-【コピー(C)】を選びます。あるいは、右クリックメニューの[選択範囲のコピー]を選びます。

## 行単位で切り取り(コピー)したデータを貼り付ける

切り取り(コピー)した行をカーソル位置の行の上に挿入するには【編集(E)】-【行選択(L)】-【行貼り付け(P)】を選びます。



## 箱型範囲で切り取り(コピー)する

箱型範囲を指定して切り取り(コピー)します。切り取り(コピー)したデータは箱型カットバッファファイル(MIWBOX.TXT)に記憶されていますので任意の位置に貼り付け(ペースト)できます。(次項参照)



- 1 切り取り(コピー)する左上位置にカーソルを移動します。
- 2 【編集(E)】-【箱型(O)】-【箱型選択の開始/中止(B)】を選びます。  
あるいは、[ 選択 ]ボックスの [ ] ボタンをクリックして、[ 箱型選択の開始 ] を選びます。  
[ 選択 ]ボックスに「箱型選択中」と表示されます。
- 3 最初のカーソル位置から右下方向にカーソル移動すると、画面に枠が表示されます。選択したい範囲をこの枠で囲みます。

4

削除(移動)する場合は【編集(E)】-【切り取り(X)】を選びます。  
あるいは、右クリックメニューの[切り取り]を選びます。

複写する場合は【編集(E)】-【コピー(C)】を選びます。  
あるいは、右クリックメニューの[選択範囲のコピー]を選びます。



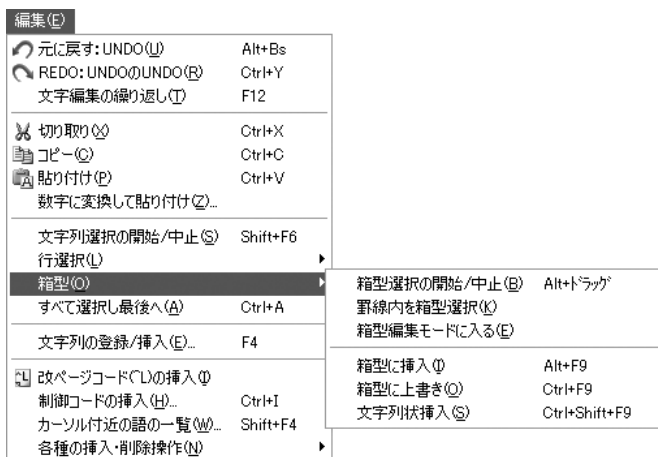
[Alt] 押しながらドラッグしても、箱型範囲を指定できます。左上から右下へ範囲指定してください。

## 箱型で切り取り(コピー)した範囲を貼り付ける

3通りの貼り付け方法があります。

- ・箱型に挿入
- ・箱型に上書き
- ・文字列状挿入

それぞれ貼り付けた後の文字の並びが変わってきますので貼り付けるときは用途に応じて使い分けてください。

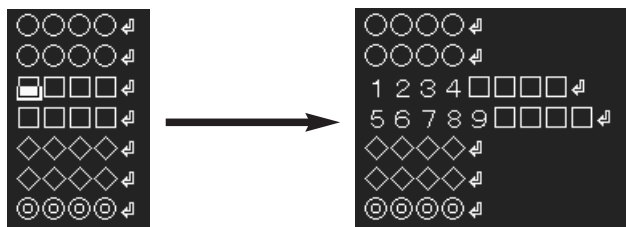


箱型カットバッファ(MIWBOX.TXT)に記憶されている文字列

```
1 2 3 4 ↓
5 6 7 8 9 ↓
```

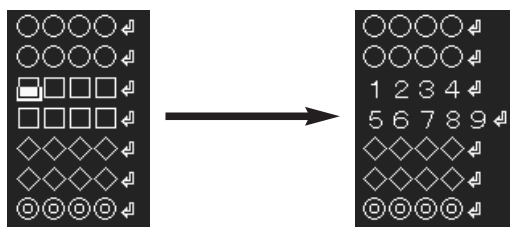
「箱型に挿入」する貼り付け

図のように箱型状に挿入されるため、はじめにあった文字列は右側に移動します。



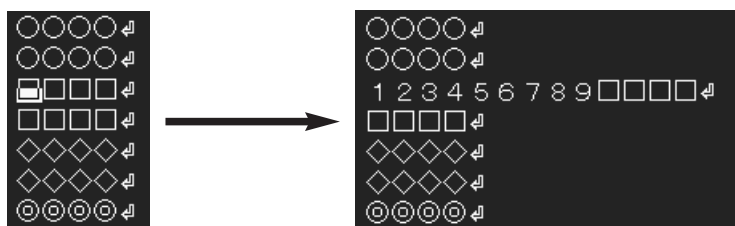
### 「箱型に上書き」する貼り付け

図のように箱型状に上書きされるため、はじめにあった文字列は箱型状に消去されてカットバッファの文字列に上書きされます。



### 「文字列状挿入」する貼り付け

図のようにカットバッファに箱型に記録されていたデータを連続した文字列として流しこむように挿入されます。



箱型カットバッファにタブコード以外の制御コードや改行文字をコピーすることはできません。ヌルコード(00H)などの制御コードを含むテキストは行単位の範囲選択で複写してください。

バイナリファイル(バイナリモードで開いた時)のデータの切り貼りについて文字単位(バイト単位)の切り貼りだけを実行できます。ただし、カットバッファとしてクリップボードではなく、バイナリモード専用のカットバッファファイル(バイナリカットバッファファイル「MIWCUT.BIN」)を使用します。詳しくは第3章「バイナリファイルを編集する」を参照してください。

## その他の編集機能

MIFESには、前節で説明した切り貼り機能のほかにも便利な編集機能があります。  
詳しい操作方法は、ヘルプを参照してください。

編集 (E)	
元に戻す: UNDO (U)	Alt+Bs
REDO: UNDOのUNDO (R)	Ctrl+Y
文字編集の繰り返し (I)	F12
切り取り (X)	Ctrl+X
コピー (C)	Ctrl+C
貼り付け (V)	Ctrl+V
数字に変換して貼り付け (Z)...	
文字列選択の開始/中止 (S)	Shift+F6
行選択 (L)	
箱型 (Q)	
すべて選択し最後へ (A)	Ctrl+A
文字列の登録/挿入 (E)...	F4
改ページコード (C)の挿入 (P)	
制御コードの挿入 (H)...	Ctrl+I
カーソル付近の語の一覧 (W)...	Shift+F4
各種の挿入・削除操作 (N)	

1行削除 (I)	
行末まで削除 (E)	Ctrl+K
行頭から削除 (S)	
削除文字列挿入 (D)	Ctrl+L
削除行を逆順に挿入 (B)	Ctrl+D
バックスペース (B)	Bs
バックタブ (T)	
1語削除 (W)	Ctrl+T
削除文字挿入 (J)	Ctrl+B
大文字・小文字変換 (E)	Ctrl+U
上に1行挿入 (L)	Ctrl+E
行の2重化 (Z)	Shift+F10



## 元に戻す(UNDO)とREDO

最後に行った編集を取り消し、編集前の状態に戻す操作を【元に戻す：UNDO(U)】と呼び、直前の【元に戻す】操作を取り消す操作を【REDO：UNDOのUNDO(R)】と呼びます。

元に戻す操作は、【編集(E)】-【元に戻す：UNDO(U)】を選びます。

REDOの操作は【編集(E)】-【REDO：UNDOのUNDO(R)】を選びます。



### 【元に戻す】操作をするにあたって

MIFESは、編集処理をUNDOバッファという領域に記録しています。しかし、次にあげる条件の場合は【元に戻す】が正確に実行できません。

- ・ 8 Kバイト以上の行や文字列を削除した場合は、削除した文字列のデータは通常のUNDOバッファではなく、クリップボードなどのカットバッファに記録されます。カットバッファには1回分の削除データしか記録できないため、8 Kバイト以上の削除については、最後の1回しか戻せないことになります。この仕様はUNDOバッファのサイズを大きくした場合も変わりません。
- ・ 8 Kバイト以上の文字列のカットを行うと、カットした文字列はクリップボードに記録されるため、ヌルコード(00H)は省略されます。
- ・ 32 Kバイト以上の箱型カットは先頭部分がUNDOバッファから溢れるので、途中までしか【元に戻す】処理ができません。

UNDOバッファのデフォルトのサイズは32 Kバイトです。起動時のコマンドラインで /Un スイッチを指定すると、UNDOバッファの領域を標準より大きくすることができます。

nにはバッファサイズをKバイト単位で16～64の値を設定します。

例

[スタート]-[ファイル名を指定して実行] をクリックし、[名前]に次のように入力します。  
c:\MEGASOFT\MIW7\MIW.EXE /U32 (UNDO バッファ 32K バイト指定)

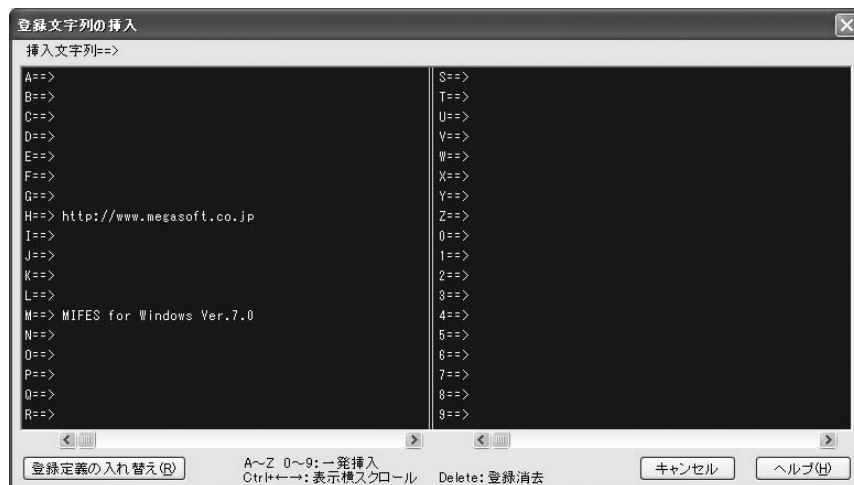


MIFESは【元に戻す】が正確に実行できないと判断すると、【元に戻す】の実行をキャンセルします。


## よく入力する文字列を登録して呼び出す（登録文字列の挿入）

特定の文字列を MIFES に記録しておいて、後でキー操作により繰り返し呼び出すことができます。[F4] キーでダイアログボックスを表示し、A ~ Z、0 ~ 9 のキーに関連付けた文字列をカーソル位置に挿入します。

よく入力する文字列や制御コード、長い文字列などを登録しておく便利です。



### 文字列を登録する

- 1 定義する文字列を範囲選択します。  

- 2 【編集(E)】-【文字列の登録 / 挿入(E)..】を選びます。  
または [F4] を押します。
- 3 呼び出し時に使用するキーを押し [Enter] キーを押します。  
登録するキーは [A] ~ [Z] キー、または [0] ~ [9] キーから選べます。

### 登録した文字列をカーソル位置に挿入する

- 1 【編集(E)】-【文字列の登録 / 挿入(E)..】を選びます。
- 2 文字列を定義したキー（[A] ~ [Z] キー、[0] ~ [9] キー）を押します。  
指定したキーに定義されている文字列がカーソル位置に挿入されます。この場合は確定のための [Enter] キーは必要ありません。

## バイナリファイルを編集する

### バイナリ表示に切り替える

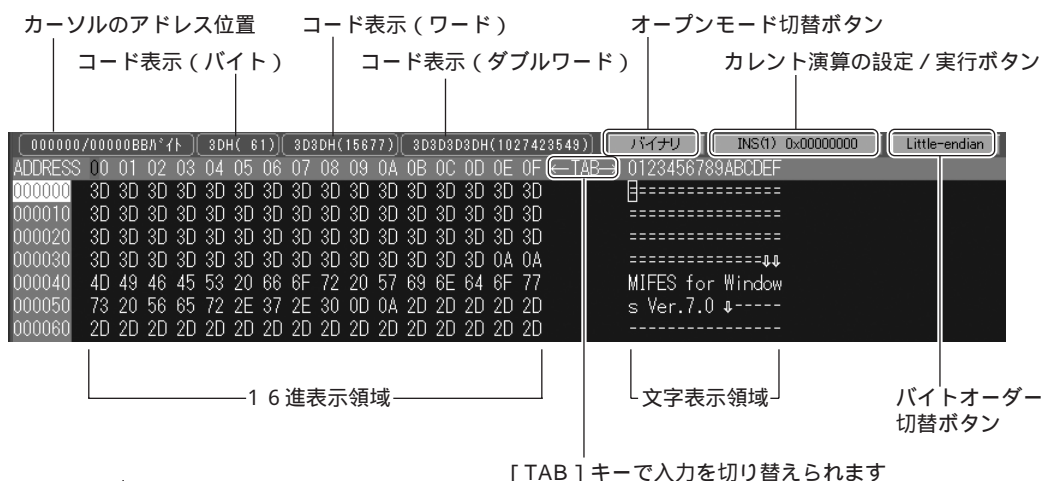
MIFESには、データを文字コードの16進数表示と文字表示の2種類で表示するバイナリモードがあります。バイナリモードでファイルを開くには、次の3とおりの方法があります。

1. 【ファイル(F)】-【開く(O)】で「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示し、[オープンモード]を[バイナリ]にして、実行する。
2. ファイルアイコンを右クリックし、「MIFESのバイナリモードで開く」を選択する。(P.39参照)
3. 【設定(O)】-【環境設定(E)】-[拡張子]で拡張子やディレクトリ位置にバイナリモードを設定しておき、「ファイルを開く」ダイアログボックスで[オープンモード]を[自動設定]にする。

また、開いているファイルをバイナリモードで表示するときは、ガイドラインの[オープンモード切替]ボタンで、切り替えることができます。

### 表示画面について

ファイルを開くときにオープンモードを[バイナリ]にすると、次のような画面でファイルを開きます。



左側に16進表示領域、右側に文字表示領域が表示され、画面上の1行で16バイト分のデータを16進数と文字の両方で表示します。

バイナリモードでは漢字などの2バイト文字の認識を行いません。そのため、漢字の1バイト目のコードと2バイト目のコードを別々に編集できます。さらに改行文字も、CRコード(0DH)とLFコード(0AH)を別々に編集できます。編集上は漢字の認識は行いませんが、文字表示領域ではバイナリファイル中の日本語文字列もほぼ正確に表示できます。

#### 16進数で編集する

16進表示領域にカーソルがあるときには、挿入や上書きしたいバイトデータを16進の上位4ビット下位4ビットの順に入力できます。[TAB]キーを押すことで、16進入力状態と文字入力状態を交互に切り替えられます。

#### 文字で編集する

文字表示領域にカーソルがあるときには、挿入や上書きしたい文字を入力できます。

#### アドレス位置

左端ゲージにはその行の左端位置のアドレス位置(0~)が表示されます。バイト位置(1~)から1を引いた値がアドレス位置です。

#### 編集中にテキストモードに切り替えるには

ガイドライン上の[バイナリ]ボタンを押すと、それまでの編集内容を保持したままテキストモードに変わります。ただし、変更行の明示と行マークは破棄されます。

それまでの編集内容も破棄してテキストモードでファイルを開き直す場合は、【ファイル(F)】-【ファイルを開き直す(G)】を選択し、ダイアログボックスでオープンモードの[テキスト]をONにして[変更を破棄して、ファイルを開き直す(Y)]をクリックします。



バイナリモードでは、一部の動作状態(オートインデント、フリーカーソル、ソフトタブなど)および一部の表示状態(左端ゲージ、桁位置ゲージ、変更行の明示、キーワードの明示、背景縦罫線など)は無効になります。

## 操作について

### 切り貼り操作

文字単位 (バイト単位) の切り取り、コピー、貼り付けは実行できますが、行単位の切り貼り操作、箱型の切り貼り操作は実行できません。切り貼り時にはクリップボードを使用せずに、バイナリモード専用のカットバッファファイル (バイナリカットバッファファイル MWCUT.BIN) を使用します。これは、テンポラリディレクトリ上のファイルです。このため、バイナリモードのウィンドウ間で切り貼り操作を行うことはできますが、バイナリモードのウィンドウとテキストモードやテキストモード (^Z まで) のウィンドウ、または他のアプリケーションとの間で直接切り貼り操作を実行することはできません。

バイナリカットバッファファイルの内容を、MIFES のテキストモードやテキスト (^Z まで) モードのウィンドウに複写したり移動したりする機能として「数字に変換して貼り付け」が用意されています。「数字に変換して貼り付け」機能については次項を参照してください。

そのほかに使用できる編集機能は下の表のとおりです。

編集機能	有効 / 無効
元に戻す / REDO	
直前の文字編集の再実行	×
ジャンプ機能	
1 行削除	
行末まで削除	×
行頭から削除	
削除文字列挿入	
1 文字削除	
バックスペース	
1 語削除	16 進表示領域の場合は 1 バイト単位
削除文字挿入	
制御コードの入力	
大文字・小文字変換	
上に 1 行挿入	×
行の 2 重化	

## カレント演算の設定 / 実行

カーソル位置のデータに対して、バイト、ワード（2バイト）またはダブルワード（4バイト）単位で、ADD、INS、DELの3つの演算を実行することができます。

この機能では、予め設定しておいた演算を実行します（このため、この演算をカレント演算と呼びます）。

演算には、通常の算術演算だけでなく、挿入動作などもあります。

### カレント演算の設定

- ① 演算を実行したい位置にカーソルを移動し、ガイドラインの3つのボタンの真ん中のボタンをクリックします。  
このボタンには現在のカレント演算の設定が表示されています。
- ② 「カレント演算の設定 / 実行」ダイアログボックスで、演算タイプを選択します。
- ③ 演算サイズを選択します。
- ④ データを10進または16進で入力します。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックすると、指定した演算内容が「カレント演算」となります。
- ⑥ 実行回数を指定して、[実行] ボタンをクリックすると、指定した演算内容は「カレント演算」となり、設定した演算を実行します。

### カレント演算の実行

実行回数を指定して実行したい場合

ガイドライン上の3つのボタンの真ん中のボタンをクリックして、「カレント演算の設定 / 実行」ダイアログボックスで、実行回数を指定して実行します。

1回ずつ確認しながら実行したい場合

「カレント演算1回実行」機能が用意されています。

ただし、この機能は、デフォルトではキー / メニュー / ボタンなどには定義されていませんので、いずれかのキー / メニュー / ボタンに定義する必要があります。

この機能を使用した方法では、1回ずつ演算結果を確認しながら実行できます。

## バイトオーダーの表示と切り替え

ガイドライン上の [ バイトオーダー切替 ] ボタンに、現在のバイトオーダーが表示されています。

このボタンをクリックすると、「Little-endian」と「Big-endian」が切り替わります。

バイトオーダーは、バイナリモードで開いている各ファイルごとに記憶していますが、バイナリモードでファイルを開いた直後は、常に「Little-endian」になります。

「Little-endian」と「Big-endian」では、以下の動作が異なります。

- ・ガイドラインのWORD(16ビット値)表示とDWORD(32ビット値)表示
- ・「バイナリ数値の検索」ダイアログボックスにおいて、数値指定単位が2バイトまたは4バイトの場合の指定方法と [ 1語入力 ] ボタンの動作
- ・カレント演算機能の演算動作

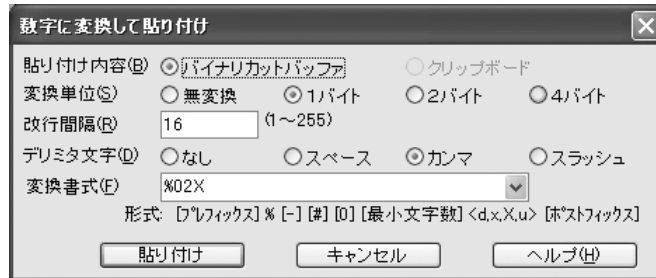
## バイナリカットバッファからの貼り付けのしかた(数字に変換して貼り付け)

バイナリモードのウィンドウから文字列をコピーまたは切り取りすると、バイナリカットバッファにデータが保存されます。保存されたデータを、指定した書式に従ってテキストに変換し、テキストモードやテキスト(^Zモード)のウィンドウに貼り付けることができます。

ここではバイナリカットバッファに保存された「ABCD」という文字列をテキストモードのウィンドウに貼り付ける場合を説明します。

編集(E)	検索・置換・ジャンプ(S)	ツール(T)	マ
元に戻す: UNDO(U)			Alt+Bs
REDO: UNDOのUNDO(R)			Ctrl+Y
文字編集の繰り返し(T)			F12
切り取り(O)			Ctrl+X
コピー(C)			Ctrl+C
貼り付け(P)			Ctrl+V
数字に変換して貼り付け(Z)...			
文字列選択の開始/中止(S)			Shift+F6
行選択(L)			
箱型(Q)			
すべて選択し最後へ(A)			Ctrl+A
文字列の登録/挿入(E)...			F4
改ページコード(L)の挿入(O)			
制御コードの挿入(O)...			Ctrl+I
カーソル付近の語の一覧(W)...			Shift+F4
各種の挿入・削除操作(O)			

- 【編集(E)】-【数字に変換して貼り付け(Z)】を選びます。  
「数字に変換して貼り付け」ダイアログボックスが表示されます。



- [変換単位(S)] オプションからデータを何バイト単位でテキストに変換するかを指定します。  
[無変換]を指定した場合、バイナリカットバッファの内容をそのままカーソル位置に貼り付けします。

テキストウィンドウへの貼り付け例

- [無変換]を指定した場合
- [1バイト]を指定した場合
- [2バイト]を指定した場合
- [4バイト]を指定した場合

```
ABCD
41,42,43,44,
4241,4443,
44434241,
```

- [改行間隔(R)] テキストボックスに何個の変換単位ごとに改行するかを入力します。

- テキストに変換したデータとデータの間に入挿する半角文字を [デリミタ文字(D)] オプションで指定します。

デリミタ文字	なし	スペース	カンマ	スラッシュ
結果	41424344	41 42 43 44	41,42,43,44,	41/42/43/44/



5

[ 変換書式 (F) ] テキストボックスに変換書式を入力します。  
変換書式の指定のしかたについては次の「変換書式について」を参照してください。

6

[ 貼り付け ] ボタンをクリックします。  
テキストモードのウィンドウのカーソル位置に貼り付けられます。

#### 変換書式について

データを 10 進数に変換するか 16 進数に変換するかなどを、Windows API の `wsprintf` 関数の書式で指定します。その一般形は次のようになります。

[ プレフィックス文字列 ]%[-]#【0】フィールド最小文字数[-d,x,X,u][ ポストフィックス文字列 ]

[ と ] で囲まれた中は省略可能です。 < と > で囲まれた中はカンマで区切られた中の 1 つを指定します。

項 目	説 明
プレフィックス文字列 ポストフィックス文字列	任意の文字列を指定できます。 ただし、改行文字は¥n で、タブ文字は¥t で指定します。
%	必ず指定してください。
-	指定したフィールド内で、左詰めにすることを指定します。指定しない場合は右詰めになります。
#	16 進数の出力を指定する場合 (x, X)、小文字 (x) なら 0x を、大文字 (X) なら 0X を、数値の前に置くことを指定します。 10 進数の出力を指定する場合 (d, u) # を指定しても無視されます。
0	フィールドの余った部分 (数値の左側) を、0 で埋めることを指定します。指定しない場合は、フィールドの余った部分は半角の空白で埋められます。
フィールド最小文字	出力する数値の最小の文字数を指定します。 出力値の文字数がこの値より小さい場合、余った部分は半角の空白または 0 で埋められます。出力値の文字数がこの値より大きい場合、この値は無視されます。
d, x, X, u	それぞれの文字列は、以下のものを指定します。 d 符号付き 10 進数での出力 (+ 符号はつきません) x 小文字による 16 進数での出力 X 大文字による 16 進数での出力 u 符号なし 10 進数での出力



バイナリカットバッファの内容をバイナリモードで開いたファイルのウィンドウ中に貼り付ける場合、「貼り付け」機能と「数字に変換して貼り付け」機能の両方を使用することができます。

## 検索、置換、ファイル比較について

検索時には1バイトコードで検索するため、通常の検索文字列以外の文字も検索されることがあります。また、括弧の検索はできません。

置換の対象範囲は、「カーソル位置以降」または「先頭からすべて」を指定することができます。また、「置換の確認」ダイアログボックスでは、検索位置がアドレス位置で表示されます。

### バイナリ数値検索

バイナリモードのウィンドウで【検索・置換・ジャンプ(S)】-【検索(S)】や【方向検索(F)】、【方向検索(D)】を選択すると、「バイナリ数値の検索」ダイアログボックスが表示されます。

検索数値は2進数、10進数、16進数の3通りから選んで指定できます。1バイト/2バイト/4バイト単位で検索できます。詳しくはヘルプを参照してください。



文字列で検索するには

[文字列で検索(S)] ボタンまたは [ALT]+[S] キーを押すと、通常の「文字列の検索」ダイアログボックスに切り替えることもできます。

## 印刷について

印刷は画面表示と同様のものを出力します。

このとき、行番号の付加、禁則処理、インテリジェント改ページ、英文ワードラップ処理、罫線接続処理、折り返し位置で改行、キーワードの明示は指定していても無効です。また、テキスト中のFFコード(0CH)による改ページ処理も行いません。ファイルのダンプリストを印刷したい場合などに使用してください。

### 指定例

45	FF	2D	16進数	1バイト単位
5f41	98aa		16進数	2バイト単位
35	578	-65	10進数	4バイト単位

# 文字列を検索する

## 検索の種類・方法

カレントウィンドウの中の文字列を検索する「文字列の検索」と、複数のファイルにわたって文字列を検索する「グローバル検索」があります。

### カレントウィンドウ内の文字列の検索

カレントウィンドウの中で指定方向に文字列を検索します。文字列が見つかったと、カーソルがその文字列の場所に移動して終了します。

続けて次の文字列を検索するとき、再度同じ文字列を検索するときには、【検索・置換・ジャンプ(S)】-【再検索(C)】を選び、検索する方向などを選びます。

### 複数ファイルからの検索(グローバル検索)

指定した文字列を複数のファイルから検索します。詳細ダイアログボックスでは、検索ディレクトリを5つまで指定でき、ワイルドカードも指定できます。グローバル検索は指定したファイル内のすべての該当する文字列を検索します。検索結果はタグジャンプ可能な書式で1行ごとに「グローバル検索結果」ウィンドウなどに表示されます。同一行内に2つ以上の検索文字列がある場合でも一部の例外を除き、結果は1行分のみ表示されます。

シフトJISコード以外のコードのファイルを検索することもできます。



メモ

文字列の検索以外にも、変更した行を検索する「変更行を 方向に検索する」機能や、対になる括弧を検索する「括弧の検索」機能などがあります。詳しくはヘルプを参照してください。



ポイント

検索について参考となる例がヘルプにあります。ヘルプのキーワードタブから、[検索実例集]を参照してください。

## 検索方法について

文字列を検索するときの検索方法には以下の4通りがあります。検索方法は「文字列の検索」ダイアログボックスの[検索方法(M)]から選びます。用途に応じて使い分けてください。

### 通常検索(英大・小文字区別/同一視)

一般的な検索方法です。検索する文字列を1つ指定します。なお、半角の英字を含む文字列を検索するときには、大文字と小文字の区別をするかどうかを選べます。

ワイルドカード検索(英大・小文字区別/同一視)

検索する文字列を、ワイルドカード(「\*」と「?」)を使って指定できます。\*は任意の文字列、?は任意の1文字の代わりとして使えます。

なお、通常検索と同様に、半角の英字を含む文字列を検索するとき、大文字と小文字の区別をするかどうかを選べます。

正規表現検索

特殊な文字(タブ文字、半角スペース、行頭、行末など)や、ある範囲のコードのみを検索したり、ある範囲外のコードのみを検索できます。

あいまい検索

英字の大文字と小文字、半角文字と全角文字、ひらがなとカタカナなどを区別せずに検索できます。

## 通常検索

検索する文字列を[検索文字列(F)]テキストボックスに指定します。半角の\*や?の文字列もそのまま指定して検索できます。

通常検索には、半角の英字(AからZ、およびaからz)の大文字と小文字を区別して検索する方法と、大文字と小文字を区別せずに検索する方法があります。いずれも検索文字列の指定方法は同じです。

また、以下のメタ文字(特殊文字や検索パターンを示す記号)も使用できます。

メタ文字	検索できる文字
¥n	改行文字(CR + LFまたはLF)
¥t	タブ文字(ハードタブ)
¥s	半角スペース
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字 任意の文字コード指定が可能です。 (¥x0aは¥nと同じ、¥x09は¥tと同じ意味です。)
¥c	¥の次の半角文字にマッチ。¥? *などのメタ文字を通常の文字として指定したい場合に使用します。 例: ¥¥(文字¥) ¥?(文字?)



[入力支援(R)..] ボタンをクリックするとメタ文字を入力するメニューが表示されます。

## ワイルドカード検索

ある部分は共通するが一部は違う文字列を検索する場合は、ワイルドカード検索を使います。例えば「ニュージーランド」「オークランド」などの類似した言葉をまとめて検索する場合は、後ろの「ランド」は共通しますが前の文字列は不定なので、不定の部分を実ワイルドカードの\*（半角のアスタリスク）か?（半角のクエスチョンマーク）で指定して検索します。

記号	意味
?	任意の1文字と一致します。この1文字は半角、全角、また、タブ文字でも有効です。ただし、改行文字とは一致しません。
*	任意の文字列と一致します。この文字列はヌル文字列（0文字の文字列）でも有効です。また、一致する文字列の中にスペースやタブ文字が含まれていても有効です。ただし、改行文字を含む文字列とは一致しません。

ワイルドカード検索は、検索文字列中にワイルドカードを指定できます。それ以外は文字列をそのまま [ 検索文字列(F) ] に指定します。

### 指定例

- あ? 「あ」で始まり任意の1文字を含む文字列  
(「あし」、「あか」、「あり」など)
- G???T 「G」で始まり任意の3文字を含み「T」で終わる文字列  
(「GREAT」、「GRANT」、「GRAFT」など)
- や\* 「や」で始まる文字列(「や」、「やま」、「やくわり」など)
- A\*S 「A」で始まり「S」で終わる文字列(「AS」、「ACCESS」、「AEROBICS」など)

ワイルドカード検索にも、半角の英字(AからZ、およびaからz)の大文字と小文字を区別して検索する方法と、大文字と小文字を区別せずに検索する方法があります。いずれも検索文字列の指定方法は同じです。

また、通常検索のときと同じメタ文字(特殊文字や検索パターンを示す記号)も使用できます。指定できるメタ文字については前項を参照してください。

ワイルドカード(\*)を使ったワイルドカード検索でマッチする文字列の最大長は約500バイトです。文字列の長さがこれ以上になる場合、500バイト目以降はマッチしないものとして処理されます。

[ 入力支援(R).. ] ボタンをクリックするとメタ文字を入力するメニューが表示されます。



## 正規表現検索

通常検索やワイルドカード検索同様、検索する文字列をそのまま [ 検索文字列(F) ] に指定します。ただし、特殊な検索パターンを示す記号を多く使用できます。

使用できるメタ文字(特殊文字や検索パターンを示す記号)は次のとおりです。

メタ文字	機能	指定例	意味
^	行の先頭	^	行の先頭を検索します。
\$	行の最後	\$	行の末尾を検索します。
.	任意の1文字	.ット	ハット カット マット
*	直前のパターンの0回以上の繰り返し(クロージャ)	.*スト	センチメンタリスト等のストの付く文字を検索します。
+	直前のパターンの1回以上の繰り返し(クロージャ)	[0-9]+	数字からなる1文字以上の文字列
		a+	aの1回以上の繰り返し
#	英文のワードの先頭	/	
/	英文のワードの最後		
¥n	改行文字(CR + LFまたはLF) [と]で囲んだり、直後にクロージャ(*, +)を指定することはできません。		
¥t	タブ文字(09H)		
¥s	半角スペース		
[ ]	[と]で囲まれたいずれかの文字。2つの文字をハイフン(-)でつないで文字コードの範囲を指定することも可能		
[^ ]	[^と]で囲まれた文字以外の文字	[eE]	半角文字のeかEを検索します。
		[小少]	小か少を検索します。
		[^a-z]	半角のアルファベットの小文字以外の文字を検索します。
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字任意の文字コードの指定が可能です。(¥x09)は¥tと同じです。	¥x09	タブ文字(ハードタブ)を検索します。
¥¥	文字¥ ¥、^、\$、.、#などの正規表現用のメタ文字を通常の文字として指定する場合に使用します。	¥\$	\$を検索します。
	メタ文字の左側のパターンか右側のパターンのいずれかにマッチした場合にマッチしたとみなします。	ai   av	aiおよびavのいずれにもマッチします。
{ }	{と}で囲まれたパターン(部分パターン)とマッチした文字列を、置換後の文字列の指定において¥Nというタグ表現で指定可能にします。(このメタ文字は置換操作時のみ有効)		



クロージャ( \*, + )を使った正規表現検索でマッチする文字列の最大長は約500バイトです。マッチする文字列の長さがこれ以上になる場合、500バイト目以降はマッチしないものとして処理されます。

[入力支援(R)..] ボタンをクリックと、メタ文字を入力するためのメニューが表示されます。メニューの「正規表現入力支援」を選択すると、ダイアログボックスで、さまざまな正規表現を入力することができます。

ダイアログボックスの操作方法は、ヘルプの「キーワード」タブから「正規表現入力支援ダイアログボックス」を参照してください。

## あいまい検索

さまざまな文字パターンの同一視(または無視)を行いながら検索します。

以下、具体的な同一視・無視の例を示します。

大文字と小文字の同一視

例 A = a、M = m (全角)、A = a (半角)

半角と全角の同一視

例 ア = ア、M = M、ガ = ガ、プ = プ

かなとカナの同一視

例 あ = ア、が = ガ、ぷ = プ

同種のデリミタ文字の同一視

例 (= { = [= 「

一部の記号文字およびスペースとタブの無視

例 - + / + - /などを無視する

一部の濁音の同一視

例 ズ = づ、ブ = ぶ

また、以下のメタ文字(特殊文字や検索パターンを示す記号)を使用できます。

メタ文字	検索できる文字
¥n	改行文字(CR + LFまたはLF)
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字 任意の文字コード指定が可能です。 (¥x0aは¥nと同じ、¥x09は¥tと同じ意味です。)
¥¥	文字¥

## カレントウィンドウ内で検索する

カーソル位置の次の文字から文字列を検索し、最初に見つけた文字列にジャンプします。見つけた文字列は反転表示されます。

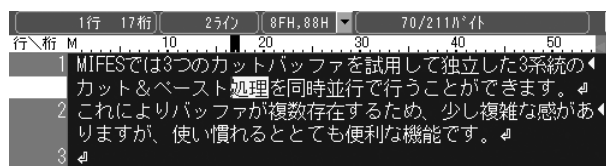
オプションにより、現在のカーソル位置から検索したり、カレントウィンドウ内のすべての検索文字列を反転表示することもできます。

検索・置換・ジャンプ(S)	
検索(S)	Ctrl+F
↓方向検索(F)	Ctrl+^
↑方向検索(D)	Ctrl+≡
グローバル検索(A)	
再検索(G)	
変更行を↓方向に検索(H)	
括弧の検索(K)	Ctrl+[
-----	
置換(R)	Ctrl+R
複数置換(L)	
グローバル置換(V)	
グローバル複数置換(W)	
再置換(E)	
ブックマーク(O)	
-----	
先頭へジャンプ(T)	Ctrl+Home
指定位置へジャンプ(G)	Ctrl+G
元の位置へジャンプ(S)	
行マークジャンプ/設定(J)	Ctrl+J
タグジャンプ/バックタグジャンプ(M)	F11
最後へジャンプ(B)	Ctrl+End

- 1 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【検索(S)】を選びます。または【 ↓方向検索(F)】、【 ↑方向検索(D)】を選びます。



- 2 検索する文字列を [ 検索文字列(F) ] に入力します。
- 3 文字列の検索方法を [ 検索方法(M) ] から選びます。
- 4 [ 検索実行 ] ボタンをクリックします。
- 5 指定の条件にマッチする文字列の位置にカーソルが移動します。引き続き次の文字列を検索するときは、【再検索】を実行します。



入力しにくい文字やコードを入力する場合は、[ 1語入力: CTRL+^ ] ボタンをクリックすると、カーソル位置の1語分の文字列が [ 検索文字列(F) ] に入力されます。

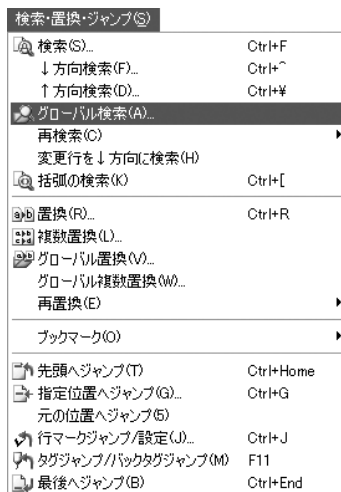
なお、編集ウィンドウで [ CTRL ] + [ ^ ] キーを1回押すと、「文字列の検索」ダイアログボックスが表示され、さらにもう1回 [ CTRL ] + [ ^ ] キーを押すと [ 検索文字列(F) ] にカーソル位置の1語分の文字列が入力されます。

[ 一斉表示(A) ] について

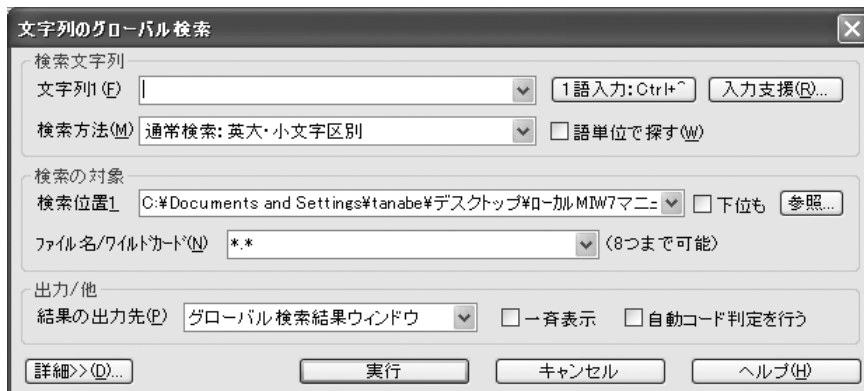
カレントウィンドウ内の検索文字列をすべて反転表示させるには [ 一斉表示(A) ] をONにします。反転表示を消したいときは、右クリックメニューから[ 一斉表示を解除 ] を選択してください。なお、一斉表示が指定されるとキーワードの明示機能は強制的にOFFになります。



## 複数のファイルから検索する



- ① 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【グローバル検索(A)】  
を選びます。



- ② 検索文字列を入力します。
- ③ 文字列の検索方法を [ 検索方法 ( M ) ] から選びます。
- ④ 検索位置を入力します。  
[ 参照 ] ボタンをクリックしてディレクトリを選ぶこともできます。  
[ 下位も ] を ON にすると、左の [ 検索開始位置 ] で指定したディレクトリの下位ディレクトリも検索します。
- ⑤ 検索するファイル名、ワイルドカードを [ 検索ファイル名 / ワイルドカード ( N ) ] に入力します。  
特に指定のない場合は \*.\* を入力します。

6

[実行] ボタンをクリックします。

指定した条件にあった文字列を指定ファイルから検索し、ドライブ名、ディレクトリ名、ファイル名、行位置と検索した文字列を含む行全体を一行ずつ「グローバル検索結果」ウィンドウに表示します。



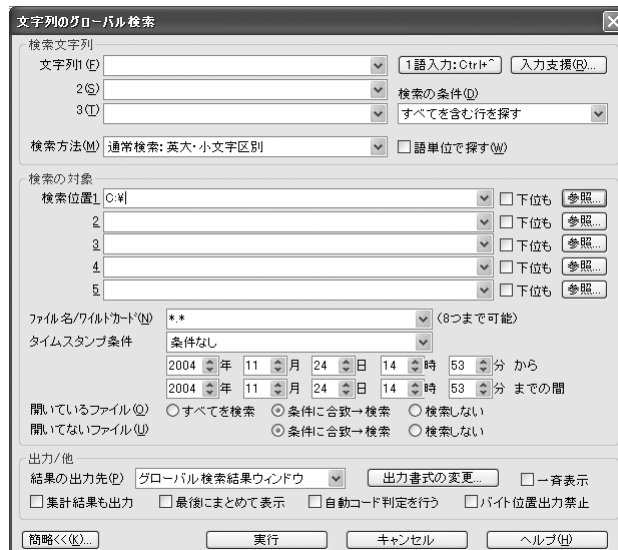
検索文字列のあるファイルにジャンプする

ジャンプしたい行にカーソルを移動し、【検索・置換・ジャンプ(S)】-【タグジャンプ/バックタグジャンプ(E)】を選ぶと、検索した文字列を含むファイルが開かれ、該当行にカーソルが移動します。

[F11] キーやダブルクリックでもタグジャンプできます。

## 詳細画面

[詳細>>(D)] ボタンをクリックすると、グローバル検索の詳細画面に切り替わります。詳細画面では複数の検索文字列やさらに詳細な条件などを指定することができます。



主な設定項目を説明します。

(その他の設定項目については、ヘルプをご参照ください。)

検索文字列の合計と検索したファイルの総行数を出力する

[ 集計結果も出力 ] を ON にすると、通常の検索結果の最後に、検索したファイルの総行数と指定の文字列を含む行数が出力されます。

```
==== C:\デスクトップ\p38open.doc ; ファイル総行数 = 787 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
==== C:\デスクトップ\p42data ; ファイル総行数 = 25 ; 目的の文字列を含む行数 = 3
==== C:\デスクトップ\p42data.txt ; ファイル総行数 = 25 ; 目的の文字列を含む行数 = 3
==== C:\デスクトップ\p52cutp.txt ; ファイル総行数 = 8 ; 目的の文字列を含む行数 = 1
==== C:\デスクトップ\p60seikai.BAK ; ファイル総行数 = 28 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
==== C:\デスクトップ\p60seikai.TXT ; ファイル総行数 = 29 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
==== C:\デスクトップ\p62memo.TXT ; ファイル総行数 = 7 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
==== C:\デスクトップ\p75seiki.TXT ; ファイル総行数 = 2 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
==== C:\デスクトップ\p77ssearch.TXT ; ファイル総行数 = 12 ; 目的の文字列を含む行数 = 0
```

開いているファイルだけを検索する

[ 開いているファイル(O) ] を [ 条件に合致 検索 ] にし、[ 開いていないファイル(U) ] を [ 検索しない ] にします。

[ 開いているファイル(O) ] を [ すべてを検索 ] にすると、[ ファイル名/ワイルドカード(N) ] で指定した条件に関係なく、開いているファイルすべてを検索します。

シフトJIS以外のファイルを検索する

[ 自動コード判定を行う ] を ON にすると、EUC、JIS、Unicode、UTF-8、Macintosh の改行コードのファイルと判定されたファイルについては、自動的にコード変換して検索されます。

ただし、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ 拡張子 ] タブで内部プリプロセッサを設定しているファイルについては、その設定の方が優先されます。プリプロセッサについて詳しくは、第4章「形式の違うファイルを開く/保存する」を参照してください。

# 文字列を置き換える / 変換する

## 置換の種類と方法

### 置換と複数置換

1つの文字列を置き換える通常の置換と、複数の置換をセットにして一度に置き換える複数置換があります。さらに、複数のファイルに対して置換したり、テキストファイルで指定した文字列をもとに置換することもできます。

#### 置換

ファイル中の指定の文字列を任意の文字列に、連続して置き換えます。

#### 複数置換

一度に20組までの文字列を置き換えます。また、一度置き換えられた文字列は、別の旧文字列と一致する場合でも重複して置き換えられることはありません。

#### グローバル置換

複数のファイルに対して置換を行います。最大5つのディレクトリのファイルに対して置換できます。

#### グローバル複数置換

複数のファイルに対して、複数置換を一度に行います。

#### 置換定義ファイルによる置換 (文書整形)

置換定義ファイルに旧文字列と新文字列を1行ごとに記述し、対象となるファイルと同時に開いて、定義した置換を実行します。

定義する置換セットの数に上限はありませんので、大量の置換を一度に行うときに使います。

【ツール(T)】-【文書整形(F)】-【文書整形ダイアログ(Z)】から実行します。

置換について参考となる例がヘルプにあります。ヘルプのキーワードタブから置換実例集を参照してください。

検索・置換・ジャンプ(S)	
検索(S)...	Ctrl+F
↓方向検索(F)...	Ctrl+^
↑方向検索(D)...	Ctrl+*
グローバル検索(A)...	
再検索(C)	
変更行を↓方向に検索(H)	
括弧の検索(K)	Ctrl+[
置換(R)...	Ctrl+R
複数置換(L)...	
グローバル置換(V)...	
グローバル複数置換(W)...	
再置換(E)	
ブックマーク(O)	
先頭へジャンプ(T)	Ctrl+Home
指定位置へジャンプ(G)...	Ctrl+G
元の位置へジャンプ(B)	
行マークジャンプ/設定(J)...	Ctrl+J
タグジャンプ/バックタグジャンプ(M)	F11
最後へジャンプ(B)	Ctrl+End



## 検索方法と旧文字列について

「文字列の検索」や「グローバル検索」などで検索方法を指定したのと同様に、置換時にも、通常検索、ワイルドカード検索、正規表現検索、および、あいまい検索の4種類の検索方法を指定できます。

旧文字列の指定方法は一部を除いて検索時の検索文字列とほとんど変わりありません。「検索方法について」を参照してください。(P.75)

### 置換時の文字列(新文字列)を指定する

旧文字列にはワイルドカードなどのメタ文字を指定できますが、置き換えるときにも、新文字列に特殊文字(改行文字やタブ文字など)や特殊な文字列パターンを指定できます。これらの指定には特殊な記号を使います。この記号を特殊展開記号(またはメタ文字)と呼びます。

旧文字列の指定方法は文字列の検索と同じです。それぞれの検索方法にあった文字列を指定してください。詳しくは「文字列を検索する」(P.75)を参照してください。



### 通常検索での文字列の指定

以下の特殊展開記号が指定できます。

記号	意味
¥0	見つけた文字列全体
¥#	見つけた文字列の位置の論理行番号を表す半角の10進文字列
¥\$	何番目の置換文字列かを表す半角の10進文字列(半角の\$)
¥\$	何番目の置換文字列かを表す全角の10進文字列(全角の\$)
¥@	等差数字列の1回出力(半角の@)
¥n	改行文字(CR + LF)
¥t	タブ文字(ハードタブ)
¥s	半角スペース
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字 任意の文字コード指定が可能です。
¥¥	半角文字¥

## ワイルドカード検索での文字列の指定

以下の特殊展開記号が指定できます。

記号	意味
¥N	N 番目のワイルドカード (* または ?) と一致した文字または文字列 (部分文字列) (N = 1, 2, 3, ..., 9)
¥0	見つけた文字列全体
¥#	見つけた文字列の位置の論理行番号を表す半角の 10 進文字列
¥\$	何番目の置換文字列かを表す半角の 10 進文字列 (半角の \$)
¥ \$	何番目の置換文字列かを表す全角の 10 進文字列 (全角の \$)
¥@	等差数字列の 1 回出力 (半角の @)
¥n	改行文字 (CR + LF)
¥t	タブ文字 (ハードタブ)
¥s	半角スペース
¥xXX	コード XX (16 進 2 桁) の文字 任意の文字コード指定が可能です。
¥¥	半角文字 ¥

検索一致時にはじめて確定する不定の文字列を ¥N という記号 (N : 1 ~ 9) によって新文字列中に指定できます。以下にその使用例を示します。

旧文字列指定	新文字列指定	置換目的	置換例
LOCATE( *, * )	LOCATE( ¥2, ¥1 )	関数 LOCATE( ) の第 1 引数と第 2 引数の入替	LOCATE( 10, 30 ) LOCATE( 30, 10 )
[ SE + * ]	¥1 [SE]	ディスプレイメントの表記を [ ] の前に出す	[ SE + ART + 4 ] ART + 4[ SE ]
AT:[ * ]	WORD AT: [¥1]	AT: のついたメモリオペランドの前に WORD をつける	AT:[ CS+6 ] WORD AT:[ CS+6 ]
*   *   *	¥3   ¥2   ¥1	縦線   で区切られた表項目の順番を逆にする	Title   Item   Num     Num   Item   Title
return( * )	RETURN ¥1;	return 関数の引数の記述法を変える	return( c ) return c ;

## 正規表現検索での文字列の指定

以下の特殊展開記号が指定できます。

記号	意味
¥N	N番目の{と}の対で囲まれた検索パターンと一致した文字列(部分文字列)(N=1,2,...,9)
¥0	見つけた文字列全体
¥#	見つけた文字列の位置の論理行番号を表す半角の10進文字列
¥\$	何番目の置換文字列かを表す半角の10進文字列(半角の\$)
¥\$	何番目の置換文字列かを表す全角の10進文字列(全角の\$)
¥@	等差数列の1回出力(半角の@)
¥n	改行文字(CR+LF)
¥t	タブ文字(ハードタブ)
¥s	半角スペース
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字 任意の文字コード指定が可能です。
¥¥	半角文字¥

正規表現検索でのメタ文字{ }の使いかた

{と}の対で囲まれた中のパターンのことを部分パターンと呼びます。部分パターンは、検索時にマッチした文字列を、置換後の文字列(新文字列)に¥Nという記号で指定できるようにするためのものです。

{と}の対はネストできません。また、論理和を示すメタ文字|をまたぐこともできません。検索パターンの中に{と}の対を指定することは、検索パターン自体としては何の意味もありません。これは置換を行う場合に、置換後の文字列(新文字列)の指定の中で、検索時に確定する不定の文字列を

¥N (N=1, 2, 3, ..., 9)

というタグ表現で指定できるようにするためのものです。

部分パターンに対応する記号¥Nの指定例を以下に示します。

例1.  $^{\wedge}[[a-z\_]*][\%s\%t]^*{(.*)}\{.*\}\$$

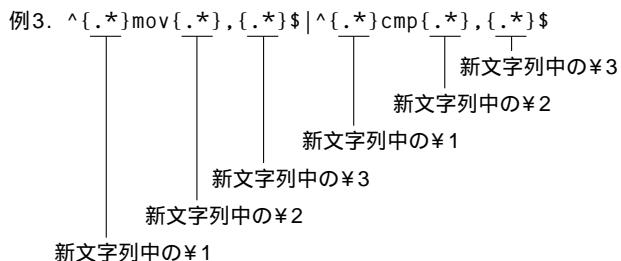
|  
新文字列中の¥1と対応

|  
新文字列中の¥2と対応

|  
新文字列中の¥3と対応

例2.  $\{ \text{スペース} \} | \{ \backslash \wedge - \backslash \} | \{ \text{すぺーす} \}$

|  
新文字列中の¥1と対応



## あいまい検索での文字列の指定

以下の特殊展開記号が指定できます。

記号	意味
¥0	見つけた文字列全体
¥#	見つけた文字列の位置の論理行番号を表す半角の10進文字列
¥\$	何番目の置換文字列かを表す半角の10進文字列(半角の\$)
¥ \$	何番目の置換文字列かを表す全角の10進文字列(全角の\$)
¥@	等差数字列の1回出力(半角の@)
¥n	改行文字(CR + LF)
¥t	タブ文字(ハードタブ)
¥s	半角スペース
¥xXX	コードXX(16進2桁)の文字 任意の文字コード指定が可能です。
¥¥	半角文字¥

## 1つの文字列を置き換える

- 1 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【置換(R)】を選びます。

- 2 [旧文字列(O)] に検索文字列を入力します。
- 3 [新文字列(N)] に置換文字列を入力します。  
検索文字列に応じた特殊展開記号も使用できます。



④ 旧文字列の検索方法を [ 検索方法 (M) ] から選びます。

⑤ [ 確認操作 ] オプションを選びます。

[ 確認あり ] を選択すると、置換実行中に「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。  
[ 確認なし ] を選択すると、確認しないで、一度にすべての文字列を置き換えます。

⑥ [ 置換範囲 ] を選びます。

⑦ [ 実行 ] ボタンをクリックします。



[ 旧文字列 (O) ] [ 新文字列 (N) ] コンボボックスの [ ] ボタンをクリックすると、今までに指定した文字列の一覧が表示されます。一覧の中から文字列を再度、指定することもできます。

[ 確認あり ] を選択した場合

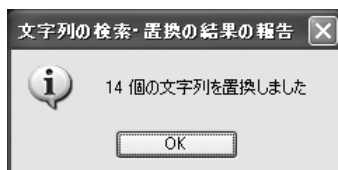
「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。現在位置や実行してきた置換数が表示されます。



- ・ 検索した文字列を新文字列に置き換える場合は、[ 置換 (R) ] ボタンをクリックします。
- ・ 検索した文字列を新文字列に置き換えずに、次の文字列を検索するには [ スキップ (S) ] ボタンをクリックします。
- ・ 直前の置換またはスキップを取り消すには [ 1つ戻す (B) ] ボタンをクリックします。
- ・ 検索した文字列の指定が正しい場合に、カーソル位置以降を「確認なし」で置き換える場合には、[ 以降すべて置換 (A) ] ボタンをクリックします。
- ・ 文字列の置換を終了する場合は、[ 中止 (E) ] ボタンをクリックします。

[ 置換確認なし ] を選択した場合

置換終了時に「文字列の検索・置換の結果の報告」メッセージボックスに置き換えた文字列の数が表示されます。



## 複数のファイルで置換を行う(グローバル置換)

- ① 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【グローバル置換(V)】を選びます。

- ② [旧文字列(F)]に検索文字列を入力します。
- ③ [新文字列(N)]に置換文字列を入力します。
- ④ 旧文字列の検索方法を[検索方法(M)]から選びます。
- ⑤ グローバル検索と同様に検索対象を指定します。
- ⑥ [確認操作]オプションを選びます。  
[確認あり]を選択すると、置換実行中に「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。  
[確認なし]を選択すると、確認しないで、一度にすべての文字列を置き換えます。
- ⑦ ログ書き出しのオプションを設定します。
- ⑧ [実行]ボタンをクリックします。

## 複数の置換を一度に行う(複数置換)

- ① 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【複数置換(L)】を選びます。



- ② [旧文字列(O)] に検索文字列を入力します。
- ③ [新文字列(N)] に置換文字列を入力します。  
検索文字列に応じた特殊展開記号も使用できます。
- ④ 旧文字列の検索方法を [検索方法(M)] から選びます。
- ⑤ [確認操作] オプションを選びます。  
[確認あり] を選択すると、置換実行中に「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。  
[確認なし] を選択すると、確認しないで、一度にすべての文字列を置き換えます。
- ⑥ [実行] ボタンをクリックします。

## 以前に行った置換を呼び出す

[履歴一覧(I)]から

複数置換で指定した内容(旧文字列/新文字列と検索方法)は、置換テーブルとして登録されます。最大20個まで登録され、[履歴一覧(I)]リストに表示されます。選択して[Enter]キーを押すかダブルクリックすると、[旧文字列(O)] [新文字列(N)] [検索方法(M)]にセットされます。

置換テーブルを削除するには、削除する置換テーブルを選んで[指定履歴の削除(D)]ボタンをクリックします。

ファイルから

置換テーブルは「複数置換履歴」として任意のカスタマイズファイルに書き出せます。また、カスタマイズファイルに保存された複数置換履歴はいつでも自由に読み出して履歴を入れ替えることができます。

複数置換履歴を入れ替えるには、[履歴の入れ替え(R)]ボタンをクリックします。

[確認あり]を選択した場合

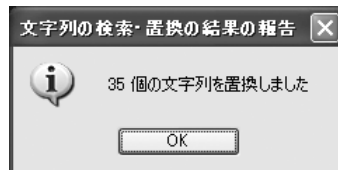
「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。現在位置や検索した文字列、置き換えようとしている文字列、および置き換えた文字列の数が表示されます。



- ・ 検索した文字列を新文字列に置き換える場合は、[置換(R)]ボタンをクリックします。
- ・ 検索した文字列を新文字列に置き換えずに次の文字列を検索するには、[スキップ(S)]ボタンをクリックします。
- ・ 直前の置換またはスキップを取り消すには[1つ戻す(B)]ボタンをクリックします。
- ・ 文字列の置換を終了する場合は、[中止(E)]ボタンをクリックします。
- ・ カーソル位置以降は確認なしで置き換える場合には、[以降すべて置換(A)]をクリックします。

[置換確認なし]を選択した場合

置換終了時に「文字列の検索・置換の結果の報告」メッセージボックスが表示され、置き換えた文字列の数が表示されます。



## グローバル複数置換

- ① 【検索・置換・ジャンプ(S)】-【グローバル複数置換(W)】を選びます。

グローバル複数置換の実行

検索/置換文字列

旧文字列(Q)	新文字列(N)
1 MIFES for Windows Ver.6.0	⇒ マイフェス バージョン6
2 MIFES7	⇒ マイフェス7
3	⇒
4	⇒
5	⇒

検索方法(M) 通常検索: 英大・小文字区別  語単位で探す(W) 入力支援(B)...

複数置換の履歴

履歴の一覧(Q) 指定履歴の削除(Q) 履歴の入れ替え(S)

[未定義]  
[未定義]  
[未定義]  
[未定義]

検索の対象

検索位置1 C:\Program Files\MIW7#  下位も 参照...

2  下位も 参照...

3  下位も 参照...

4  下位も 参照...

5  下位も 参照...

ファイル名/ワイルドカード \*.\* (8つまで可能)

開いているファイル  すべてを検索  条件に合致→検索  検索しない

開いてないファイル  条件に合致→検索  検索しない

確認操作  確認あり(Q)  確認なし(A)

ログ  置換ログをMIW7インストール上の「GREPLOG.LOG」に書き出す(L)

実行 キャンセル ヘルプ(H)

- ② 【複数置換】と同じ操作で [旧文字列(O)] と [新文字列(N)] を入力します。
- ③ 旧文字列の検索方法を [検索方法(M)] から選びます。
- ④ グローバル検索と同様に検索対象を指定します。
- ⑤ [確認操作] オプションを選びます。  
[確認あり] を選択すると、置換実行中に「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。  
[確認なし] を選択すると、確認しないで、一度にすべての文字列を置き換えます。
- ⑥ ログ書き出しのオプションを設定します。
- ⑦ [実行] ボタンをクリックします。

## 便利な編集ツール（文書整形）

大文字 小文字変換、タブ 半角スペースの変換、行頭に行番号追加など、文章の編集やデータの加工でよく使われる処理を【ツール(T)】-【文書整形(F)】メニューから実行できます。また、ダイアログボックスで選択範囲や確認のあり/なしなどを選択することができます。

\* のついた整形は、ダイアログボックスから実行できます。

半角小文字を大文字に変換	半角の小文字 (a ~ z) を半角の大文字 (A ~ Z) に変換します。
半角大文字を小文字に変換	半角の大文字 (A ~ Z) を半角の小文字 (a ~ z) に変換します。
タブコードを半角スペースへ変換	タブ (09H) をその桁位置でのスペース量に相当する半角スペース (20H) に変換します。
半角スペースをタブコードへ変換	半角スペース (20H) を相当するタブコード (09H) に変換します。変換後の画面表示は変化しません (変化しないような位置にある半角スペースだけを変換します)。
折り返し位置の直前に改行文字を挿入	折り返し位置に改行文字 (0DH,0AH) を挿入します。折り返し桁位置は自動的に1桁大きくなります。
改行文字を削除	折り返し位置の直前にある改行文字を削除します。折り返し桁位置は自動的に1桁小さくなります。
行頭のスペースを削除	論理行の先頭にある、半角スペース、全角スペース、タブを削除します。
行末のスペースを削除	論理行の最後にある、半角スペース、全角スペース、タブを削除します。
行頭と行末のスペースを削除	論理行の先頭および最後にある、半角スペース、全角スペース、タブを削除します。
半角かなを全角カタカナへ変換	半角のカタカナを相当する全角カタカナに変換します。
全角カタカナを半角かなへ変換	全角のカタカナを相当する半角カタカナに変換します。
半角文字を全角文字に変換	半角文字を相当する全角文字に変換します。
全角文字を半角文字に変換	全角文字を相当する半角文字に変換します。
行頭に行番号文字列を挿入する	論理行の先頭に、その行番号を半角の10進数で文字列として挿入します。
行頭に指定の文字列を挿入する	論理行の先頭に、指定した文字列を挿入します。タブコードは¥t と指定します。
行の左寄せ	行の文字列を左寄せします。

行のセンタリング	現在の折り返し桁位置を右端と見なしてセンタリングします。すでに折り返し表示されている行はセンタリングされません。また、改行文字だけの行や改行文字と制御コードだけの行もセンタリングされません。センタリング対象行の中で、行頭や行末以外の場所にあるタブコードは、1文字の半角スペースコードに強制的に変換されます。
行の右寄せ	現在の折り返し桁位置を右端と見なして右寄せします。すでに折り返し表示されている行は右寄せされません。また、改行文字だけの行や改行文字と制御コードだけの行も右寄せされません。右寄せの対象行の中で、行頭や行末以外の場所にあるタブコードは、1文字の半角スペースコードに強制的に変換されます。
HTMLのタグを削除する*	半角の<と>で囲まれた文字列を削除します。<と>の間に改行文字があっても構いません。ただし、<と>は500バイト以内になければなりません。それ以上離れている<と>は削除の対象にはなりません。また、タグの削除によって空行やスペースだけの行になってしまう場合には、行そのものも削除します。
置換定義ファイルによる置換*	置換定義ファイルに旧文字列と新文字列を指定し、現在編集集中のファイルに対して置換を繰り返し実行します。置換の組み合わせ数に上限はありませんので、大量の置換を定型的に行うときに便利です。
全角カタカナをひらがなへ変換	全角カタカナをひらがなに変換します。
ひらがなを全角カタカナへ変換	ひらがなを全角カタカナに変換します。
フィールド幅の調整* (ADLFIELD.REP)	CSVファイルの同一フィールドの横幅を揃えて見やすくします。フィールド内の文字列に半角のスペースを追加することにより横幅を揃えます。専用のダイアログボックスによりフィールド幅の揃え方を「右揃え」、「左揃え」、「圧縮」から選択します。
フィールドの入れ替え / 削除* (CHGFIELD.REP)	CSVファイルのフィールドの入れ替え、または削除を行います。専用のダイアログボックスにより、入れ替えるフィールド、または削除するフィールドを指定します。
折り返し位置に改行を挿入* (INSRETURN.REP)	現在の折り返し位置、または指定の桁位置に改行を挿入します。常にファイル全体に対して確認なしで整形処理を行いますので、注意してください。
指定文字列の置換* (REFORMSMP.REP)	指定の文字列を置換します。 DLLを作成する際のサンプルとして入っている機能です。

レコードのソート* (SORTRECORD.REP)	CSV ファイルの指定フィールドの内容を元に、レコードをソート（並べ替え）します。 専用のダイアログボックスにより以下の5種類からソート方法を選択します。 「アイウエオ順（文字列：単純比較）」、「アイウエオ順（文字列：あいまい）」、「数値順」、「文字列長順」、「レコード番号（行番号）順」
TABLE タグ CSV データ* (TABLETOCSV.REP)	TABLE ~ /TABLE タグ内のデータをCSV形式（カンマ区切り）に変換します。



CSV ファイルの上限は次の通りです。

- レコード数 : 3万レコード
- 1レコードの文字数 : 2000バイト
- フィールド数 : 256フィールド

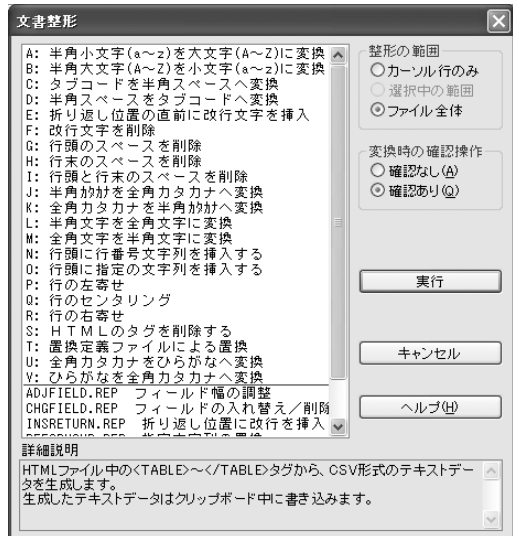
外部DLLを使用した変換

文書整形では、外部のDLLを使用した特殊な変換も可能です。ファイルの内容を解析して整形方法を決定するといった、複雑な変換処理にも対応できます。特殊な文字列の変換機能を後から MIFES に追加することができます。詳しくはヘルプ、CD-ROM中のサンプルソースをご覧ください（サンプルソースは ¥MIW¥SOURCE¥文書整形 ディレクトリに収録されています）。

## 文書整形機能を使う

- 整形、変換するファイルを開きます。ファイル全体を変換するのではなく、カーソル行のみ、選択範囲のみ変換する場合は対象範囲を選択します。  
「T：置換定義ファイルによる置換」の場合は、あらかじめ置換定義ファイルを作成する必要があります。詳しくは、次項を参照してください。

- 【ツール(T)】-【文書整形(F)】-【文書整形ダイアログ(Z)】を選択します。  
「文書整形」ダイアログボックスが表示されます。





③ 文書整形機能を選択します。

④ 整形の範囲と変換時の確認操作を選択し、[実行]ボタンをクリックします。

[確認あり]で実行した場合

「置換の確認」ダイアログボックスが表示されます。現在位置や実行した置換数が表示されます。



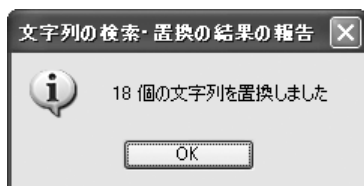
画面で確認しながら、反転表示された文字列の整形をスキップしたり、以降確認なしで整形することもできます。



文書整形の「置換確認」ダイアログボックスでは、[1つ戻す(B)]ボタンは使用できません。

[確認なし]で実行した場合

終了後に「文字列の検索・置換結果の報告」ダイアログボックスが表示され、置換した文字列の個数が表示されます。



一部の文書整形機能は、【ツール(T)】-【文書整形(F)】のサブメニューから直接実行できます。その場合、整形の範囲と確認動作は次のとおりです。

- ・整形の範囲：
  - 文字列選択または行選択されているとき：選択中の範囲
  - 上記以外のとき：ファイル全体
- ・変換時の確認操作：確認あり



### 置換定義ファイルによる置換

現在編集中のファイルに対して、複数の置換を自動的に連続して行います。複数の置換の指定は、次の一連の操作で行います。

① 置換定義ファイルを作成します。

置換定義ファイルにはファイル名の決まりはありません。任意のテキストファイルに、1行で1つの置換情報を示して次のように記述します。

^A 旧文字列 ^A 新文字列

^Aは制御コード01Hを表し、【編集(E)】-【各種の挿入・削除操作(N)】-【制御コードの入力(I)】で入力します。

旧文字列の前の制御コードは、検索方法により次のコードを入力します。

新文字列の前の制御コードは、必ず ^A を入力します。

^A ... 通常検索：英大・小文字区別

^B ... 通常検索：英大・小文字同一視

^C ... ワイルドカード検索：英大・小文字区別

^D ... ワイルドカード検索：英大・小文字同一視

^E ... 正規表現検索

^F ... あいまい検索

2

置換定義ファイルを直前のカレントウィンドウとして開き、置換対象ファイルをカレントウィンドウとして開きます。

両方のウィンドウで、カーソル位置は 1 行目にして置いてください。



カレントウィンドウとは現在編集対象のアクティブなウィンドウのことです。直前のカレントウィンドウとは、カレントウィンドウの 1 つ前に編集 / オープンしたファイルのことです。

【ウィンドウ(W)】-【ウィンドウ一覧(W)】で確認すると、[M] 欄に、直前のカレントウィンドウには と表示され、カレントウィンドウには と表示されます。

3

【編集(E)】-【文書整形(F)】を選択し、[T : 置換定義ファイルによる置換] を選択して [実行] ボタンをクリックします。

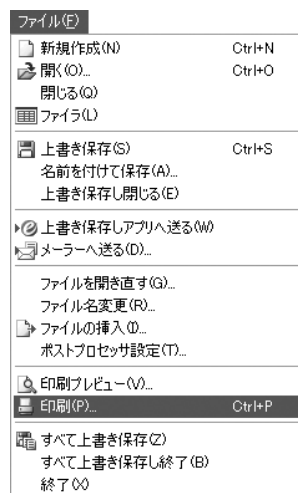
それ以外の状態で実行しようとしても、「置換ファイルのカーソル行から置換データが取り出せません。置換定義ファイルの書式、またはカーソル行を確認してください」というメッセージが表示され、何も実行されません。

# 印刷する

## カレントウィンドウの内容を印刷する

以下の4つのタブで、さまざまな設定をして印刷することができます。

- [フォント / 整形] タブ  
印刷時のフォントや各種整形（行番号の付加や禁則処理など）などを設定します。
- [レイアウト] タブ  
行の間隔や1枚に何ページ分印刷するかなどを設定します。
- [用紙 / 余白] タブ  
用紙サイズや印刷の向き、余白サイズを設定します。
- [ヘッダ / フッタ] タブ  
ヘッダとフッタの位置とヘッダ/フッタに印字文字列を設定します。



注意

MIFES では画面の表示と印刷イメージは無関係であり、印刷設定を気にせずに編集できます。その代わりに、印刷時にはさまざまな印刷用の整形方法を指定する必要があります。印刷する前には【ファイル(F)】-【印刷プレビュー(V)】で印刷イメージを確認してください。

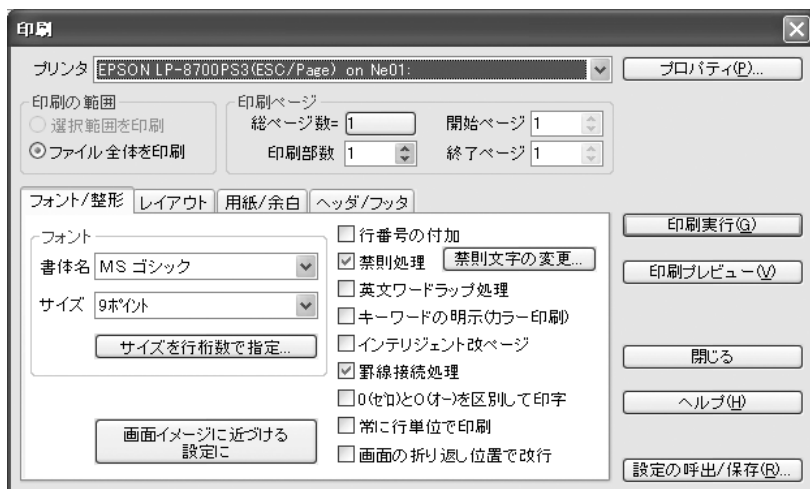
## 印刷時の制御コードについて

印刷時にはテキスト中の制御コードを以下のように処理します。

制御コード	印刷結果
FFコード (0CH)	改ページ処理を行います。(画面上では "AL" と表示されています。)
TABコード (09H)	相当する半角スペースに変換して印刷します。
その他の制御コード	印刷しません。

## カレントウィンドウを印刷する

- ① 【ファイル(F)】-【印刷(P)】を選びます。  
「印刷」ダイアログボックスが開きます。



- ② 使用するプリンタを [ プリンタ ] から選択します。



使用するプリンタを変更すると、そのプリンタで使用できるフォント群が変化しますので、[ 書体名 ]と[ サイズ ]が初期化されます。また、プリンタにより現在の用紙設定が変化しますので、1 ページの行桁数のデフォルト値も初期化されます。

- ③ 「フォント/整形」タブで印刷するフォント名を、[ 書体名 ] から選択します。

英字のみのフォントは使用できません。また、固定長フォント以外のフォントは原則として使用できません。ただし、固定長フォントでないフォントでも、指定したサイズでほぼ固定長のもをMIFESで作成できる場合は、作成したフォントでかわりに印刷します。そのため、固定長フォントでないフォントでもほとんどの場合は印刷フォントに指定できます。なお、画面表示に指定するフォントと印刷に指定するフォントとは直接の関係はありません。

- ④ 文字サイズを [ サイズ ] から指定します。

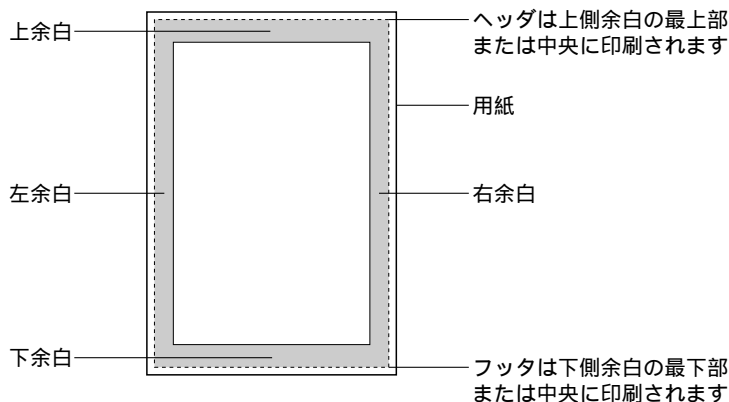
書体名で [ デバイス依存フォント(サイズ自動) ] を選択した場合は、フォントサイズの指定はできません。

1 ページに印刷する行桁数を指定するには  
[ サイズを行桁数で指定 ] ボタンをクリックし、ダイアログボックスで入力します。



書体名およびフォントサイズの後には [ 表示中 ] と表示されているものは、カレントウィンドウで使用されている表示フォントです。

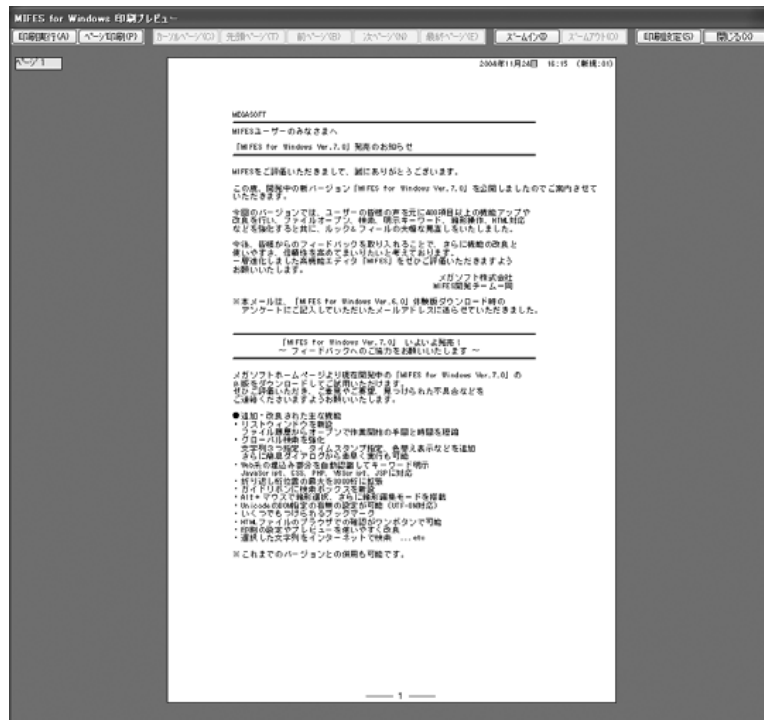
- ⑤ 「用紙 / 余白」タブで、用紙の上下左右の余白をmm単位で入力します。  
用紙のサイズに対して大きすぎる値を指定すると、自動的に調整される場合があります。



用紙の端から点線の枠までが、プリンタドライバで指定する余白です。MIFESで指定した余白はプリンタドライバが印刷できる領域の内側(上図ではグレーの領域)にとられます。

- ⑥ 必要に応じて、オプションを設定します。  
オプションについては次項「印刷オプション」を参照してください。

- ⑦ [印刷プレビュー(V)] ボタンをクリックし、印刷イメージを確認します。  
【印刷(P)】-【印刷プレビュー(V)】でも印刷イメージを確認できます。



- ⑧ 印刷する場合は、[印刷実行(A)] ボタンをクリックします。

## 印刷オプション

### 印刷の範囲

現在選択中の範囲だけを印刷します。箱型選択された範囲を印刷することはできません。文字列選択または行単位選択された状態で「印刷」ダイアログボックスを表示すると「選択範囲を印刷」オプションがONになっています。

### 総ページ数 = [ 計算 ( C ) ] ボタン

現在の設定 ( プリンタ、用紙、フォント、余白、整形方法 ) で印刷した場合に、総ページ数が何ページになるかを計算して表示します。

### 開始ページ

何ページ目から実際の印刷を開始するかを指定します。

ページ番号で何ページから印刷を開始するかではなく、最初のページを1ページ目として何ページ目から印刷を開始するかを指定します。「1ページ目ページ番号」に1以外の値を指定した場合には注意してください。

### 最終ページ

何ページ目までを実際に印刷するかを指定します。

### 印刷部数

印刷部数を指定します。

## [ フォント / 整形 ] タブ

### 行番号の付加

論理行の行頭に行番号を半角10進数で印字します。行番号と行の先頭の間には1つ以上の半角スペースが入ります。

### 禁則処理

。や ) など、行の先頭や末尾に好ましくない文字がこないように文字の位置を調整します。

### 英文ワードラップ処理

英文などのワードを行の途中で折り返さないようにします。

### キーワードの明示 ( カラー印刷 )

キーワードを色指定して表示している場合は、画面と同じ色 ( 似た色 ) でカラー印刷します。

### インテリジェント改ページ

ページ最後の3分の1の部分 ( 上限は20行 ) 内の、一番下の空行 ( 改行文字のみの行 ) で自動的に改ページされます。ただし、[ 行番号の付加 ] がONの場合はこのオプションは無効になります。

#### 罫線接続処理

全角の罫線文字を続けて印字するときに、罫線文字の間が空かないようにつないで印刷します。

0（ゼロ）とO（オー）を区別して印字

半角および全角の0（ゼロ）とO（大文字のオー）を明確に区別できるように、ゼロに斜め線をつけて印字します。

常に行単位で印刷

印刷フォントに関係なく、常に行単位で印刷します。

詳しくはヘルプを参照してください。

画面の折り返し位置で改行

画面上で折り返し表示している所で、改行して印刷します。

画面表示のイメージに近い状態で印刷したい場合などに指定してください。

## [レイアウト] タブ

行の間隔

行間を [通常] [1.5倍] [2倍] [3倍] の中から選べます。

段組印刷 / 段と段の間

1段～3段の段組で印刷できます。2段組や3段組の印刷を指定した場合には、[段と段の間] オプションで段と段の間に縦線を引くことができます。

フォントのサイズに対して用紙の横幅が非常に短い場合、指定した値よりも少ない段数で印刷される場合もあります。また、バイナリモードのウィンドウを印刷する場合にはこの指定は無効です。

最初のページ番号

1枚目に印刷するページのページ番号を指定します。通常は1です。この値に負の数を指定することもできます。なお、この指定は「開始ページ」の指定には影響を与えません。

例 10 1ページ目のページ番号が10、2ページ目のページ番号が11,,,  
-8 9ページ目のページ番号が0、10ページ目のページ番号が1,,,

用紙1枚のページ数

用紙1枚に1ページを印刷する通常の印刷以外に、1枚に印刷するページ数を選べます。1枚に印刷するページ数が多くなるほど、フォントサイズは小さくなります。ただし、デバイス依存フォントを指定した場合はフォントサイズは変わりません。



メモ

## [ヘッダ/フッタ]タブ

ヘッダとフッタ文字列

上下余白の最上部、最下部に指定した文字列を印刷します。「用紙/余白」タブの「ヘッダ/フッタ」を上下余白の中央に ] を ON にすると、余白中央（縦位置）に印字することもできます。[ヘッダ位置] [フッタ位置] は印字する位置を [なし] [左端] [中央] [右端] から選択します。

通常の文字以外に、ページ番号など以下の展開記号を指定できます。展開記号は該当するデータに置き換えて印刷されます。

展開記号はすべて半角で大文字と小文字を区別して入力してください。

記号	印刷されるデータ
%p	現在のページ番号
%n	総ページ数
%f	印刷ファイル名（絶対パス名）
%F	印刷ファイル名（単純ファイル名）
%y	現在の年（西暦）
%m	現在の月
%d	現在の日
%t	現在の時刻
%Y	ファイルの更新年（西暦）
%M	ファイルの更新月
%D	ファイルの更新日
%T	ファイルの更新時刻

## 複数の印刷設定を使い分ける

目的別に印刷設定を登録しておき、使い分けることができます。  
印刷設定はカスタマイズファイルに保存されます。



MIFES の設定やカスタマイズ状態、開いたファイル名や検索した文字列などの履歴情報が書き込まれたファイルを「カスタマイズファイル」と呼びます。デフォルトでは MIFES のインストール先ディレクトリ内の MIW.INI がカスタマイズファイルです。

## 印刷設定を保存する

- 1 【ファイル(F)】-【印刷(P)】を選択して「印刷」ダイアログボックスを表示します。
- 2 各種オプションを指定します。
- 3 【設定の呼出/保存(R)】ボタンをクリックします。  
「印刷設定の呼び出し/保存」ダイアログボックスが表示されます。





- ④ 「設定の選択(P)」で設定名を選択します。  
新しく設定を保存するときは【未保存】の表示がある設定名を選択してください。
- ⑤ 「設定名(T)」欄に後で見てもわかりやすい設定名を入力します。
- ⑥ [保存する(W)] ボタンをクリックします。  
設定内容が保存されます。

## 印刷設定を呼び出す

- ① 【ファイル(F)】-【印刷(P)】を選択して、「印刷」ダイアログボックスを表示します。
- ② [設定の呼出/保存(R)]ボタンをクリックします。  
「印刷設定の呼び出し/保存」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 呼び出して設定したい印刷設定を選択します。  
印刷設定を選択すると、設定内容が「設定の詳細」欄に表示されます。
- ④ [呼び出す]ボタンをクリックします。  
「印刷」ダイアログに設定されます。

## ヘルプファイルを使う

MIFESの操作中に、機能や操作の詳しい説明を参照することができます。また、他のヘルプファイルを登録して、その説明を参照することもできます。

その他にも、カーソル位置の言葉をユーザーが管理する簡単な辞書から参照することができます(イージーヘルプ機能)。イージーヘルプ機能については第4章「イージーヘルプを使う」(P.157)を参照してください。

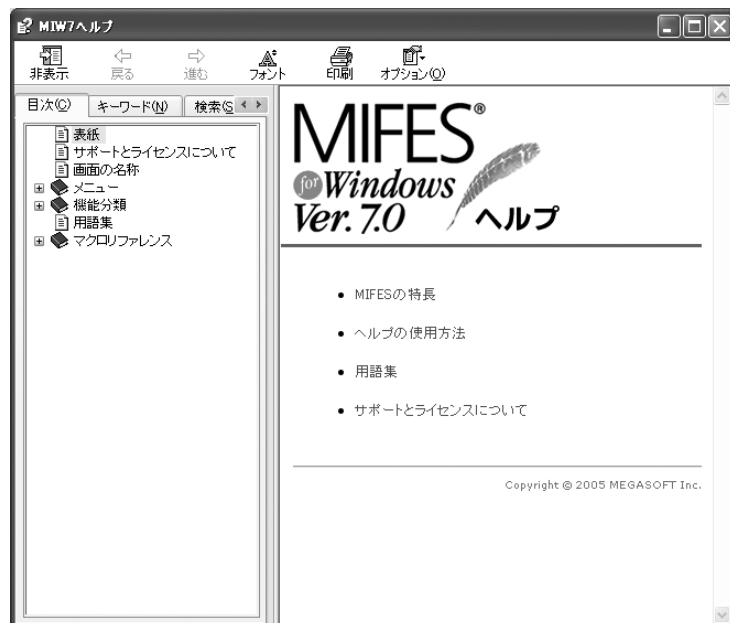
ヘルプ(H)	
? ヘルプ(H) カーソル位置の語をヘルプ(W)	Shift+F1 F1
3 抜3長ヘルプ索引(O) カーソル位置の語を抜3長ヘルプ(C) 抜3長ヘルプファイルの変更(T)...	
? EGGV 2 カーソル位置の語をイージーヘルプ(E) ? WE 3 カーソル位置の語をインターネット検索(O)	Ctrl+F1
メガソフトホームページを表示(M)	▶
MIFES for Windows(について(A)...	

## ヘルプファイルを参照する

①

【ヘルプ(H)】-【ヘルプ(H)】を選びます。

ヘルプの表紙が表示されます。



目次から探す [目次]タブ

テーマごとに分類された一覧から項目を探すことができます。「標準メニュー」には、メニュー構造と同じ構造で機能名を探すことができます。

キーワードから探す [キーワード] タブ  
 キーワードの一覧の [キーワード] をダブルクリックします。

検索する [検索] タブ  
 文字列を入力し検索を実行すると、ヘルプのすべてのページからその文字列を含むページをリストアップします。  
 リストの中から参照したいページを選択すると、そのページを参照できます。

お気に入りに登録する [お気に入り] タブ  
 繰り返し参照したいページなどを登録することができます。  
 登録したページはダブルクリックでダイレクトに参照できます。

## カーソルの位置の言葉をヘルプで参照する

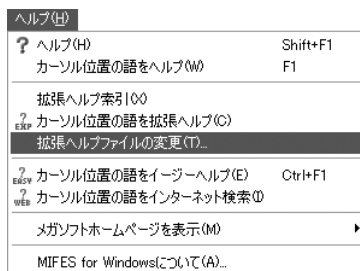
カーソルの位置にある言葉をヘルプで参照することができます。MIFESのヘルプファイル(MIW.CHM)、ユーザーが登録できる拡張ヘルプファイル、イージーヘルプ辞書の3種類のヘルプファイルを参照できます。

MIFES 付属のヘルプを参照する場合は、【カーソル位置の語をヘルプ(W)】を選びます。  
 拡張ヘルプファイルを参照する場合は、【カーソル位置の語を拡張ヘルプ(C)】を選びます。  
 イージーヘルプ辞書を参照する場合は、【カーソル位置の語をイージーヘルプ(E)】を選びます。

## 拡張ヘルプファイルを登録 / 変更する

MIFES では付属のヘルプファイル(MIW.chm)以外のヘルプファイルを1つだけ登録して使うことができます。

指定したヘルプファイルを拡張ヘルプファイルと呼びます。拡張ヘルプファイルを登録したり変更するには、【拡張ヘルプファイルの変更(T)】を選びます。



#### 拡張ヘルプファイルを登録する

- ① [ディレクトリ(D)] リストボックスを使って任意のディレクトリに移動します。
- ② [\*.HLP;\*.CHM] リストボックスから指定するヘルプファイルを選び、[候補に追加/変更] ボタンをクリックします。
- ③ [候補(G)] リストボックスから拡張ヘルプファイルに設定したいファイルを選び、[候補から選択] ボタンをクリックします。  
選んだファイル名が[現在の拡張ヘルプファイル]に表示されます。
- ④ [OK] ボタンをクリックします。ダイアログボックスが閉じ、新たな拡張ヘルプファイルが登録されます。

#### 候補からヘルプファイルを削除する

[候補(G)] から削除したいヘルプファイルを選び、[候補から削除(K)] ボタンをクリックします。

## 第4章 便利な使い方

MIFESには、さまざまな設定を自分が使いやすいように変更するカスタマイズ機能があります。

この章では基本操作に慣れた方を対象に、カスタマイズ機能を中心としたMIFESの便利な使い方を説明します。

### 目次

MIFESをより使いやすくする .....	110	キーボードマクロを使う .....	137
.....		キーボードマクロを定義する .....	139
カスタマイズファイルによる設定の切り替え ...	112	ライブラリに登録する .....	140
カスタマイズファイルについて .....	112	ライブラリからキーボードマクロを実行する ...	142
カスタマイズファイルの読み書き .....	113	.....	
.....		形式の違うファイルを開く / 保存する ...	144
履歴情報の削除 .....	114	プリ / ポストプロセッサとは .....	144
.....		プリ / ポストプロセッサの設定 .....	147
画面の表示を変更する .....	115	.....	
ツールバーを変更する .....	115	ファイルを比較する .....	152
1行の文字数を変更する .....	118	カーソル位置から比較し、	
タブの設定 .....	119	異なる位置にジャンプする .....	152
画面の色を変更する .....	121	スクロールしながら行単位で比較する ...	153
その他の変更 .....	123	ファイル内容をまとめて比較し、	
.....		結果を出力する（一括比較） .....	154
キーの割り当てを変更する .....	125	.....	
.....		イーザーヘルプを使う .....	157
メニューを変更する .....	129	イーザーヘルプ辞書について .....	157
メニューバーをカスタマイズする .....	129	イーザーヘルプ辞書を作成する .....	158
ポップアップメニューを変更する .....	132	イーザーヘルプ辞書を使う .....	159
.....			
ユーザー定義バーを設定する .....	135		

## MIFES をより使いやすくする

キー定義や画面の設定などを、使う人にあわせて使いやすいように変更することをカスタマイズと呼びます。MIFESでは、「環境設定」や各種カスタマイズ機能などにより、さまざまな設定を変更し、使いやすくカスタマイズすることができます。

カスタマイズ情報や履歴、環境設定などの各種の状態はカスタマイズファイル(通常はMIW.INI)というテキストファイルに保存されています。このファイルは自由に名前を変えたり起動中に読み書きできますので、複数のカスタマイズを作成して、必要に応じて設定を切り換えることができます。MIFESをインストールし直したり、起動し直したりする必要はありません。

たとえば、以下のようなカスタマイズをすることができます。

### 画面の表示色

画面各部の背景色や文字の色などを自由に変更することができます。

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[カラー]タブ

画面の色を変更する..... P.198

### ツールバーとユーザー定義バー

ツールバーの表示/非表示と、ツールバーのボタンを自由に変更することができます。

また、マクロコマンドやよく使う機能などをユーザー定義バーに設定することもできます。

【設定(O)】-【ツールバーのカスタマイズ(T)】

【設定(O)】-【ユーザー定義バーのカスタマイズ(B)】

ツールバーを変更する..... P.115

ユーザー定義バーを設定する..... P.135

### 編集ウィンドウの設定

スクロールバー、行番号、全角スペースやタブ文字など編集ウィンドウ内の表示を細かく設定することができます。

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブ

その他の変更..... P.200

### キー操作

使い慣れたキー操作に設定したり、作成したマクロコマンドの実行をキー操作に割り当てるなど、自由に設定変更することができます。

【設定(O)】-【キーのカスタマイズ(K)】

キーの割り当てを変更する..... P.125

### 一連の操作を記録する（キーボードマクロ）

繰り返し行う一連の操作をキーボードマクロに記録し、繰り返し実行することができます。

【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】

キーボードマクロを使う.....P.137

### MIFES から呼び出す他のプログラムを登録する

MIFES から呼び出して実行したい他のプログラムを登録することができます。

【ツール(T)】-【子プロセスの一覧(L)】

【ツール(T)】-【指定子プロセス実行(X)】

MIFES から他のプログラムを実行する.....P.173

### 編集集中に設定を切り替える

カスタマイズファイルを読み込むことで、編集集中の設定を変更することができます。

【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】

カスタマイズファイルによる設定の切り替え.....P.112

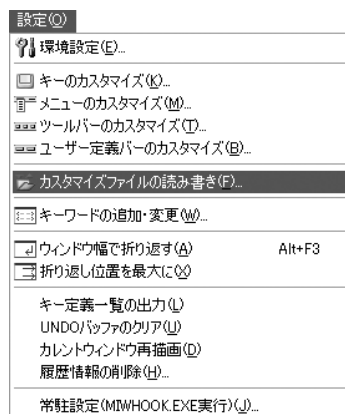
# カスタマイズファイルによる設定の切り替え

## カスタマイズファイルについて

カスタマイズファイル(INIファイル)には、

キー定義	メニューバー定義
ポップアップメニュー定義	ユーザー定義バー定義
カラー定義	拡張子定義
キーワード定義	文字列の登録定義
リストウィンドウ設定	印刷設定
ユーザー定義ディレクトリ設定	表示/フォント設定
その他の設定	検索・置換履歴
複数置換履歴	グローバル検索履歴
ワイルドカード履歴	ファイル履歴

などが、記録されています。

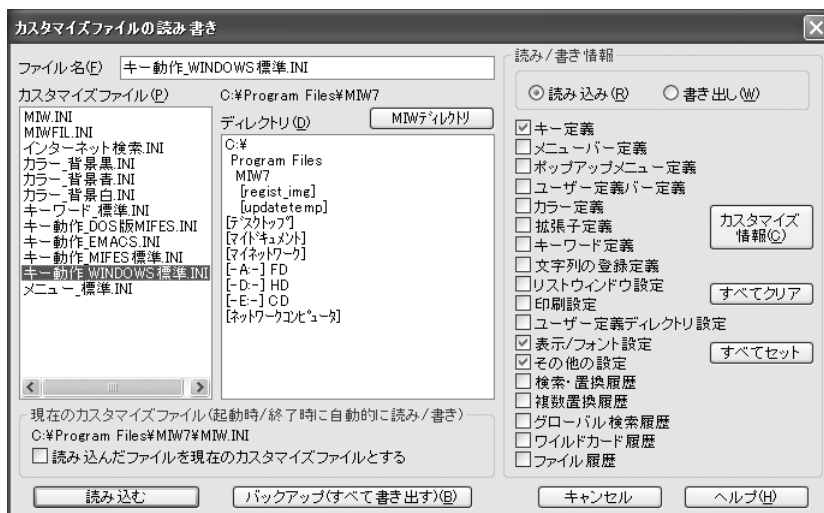


「カスタマイズファイルの読み書き」機能により、これらの情報をカスタマイズファイルから読み込んだり、カスタマイズファイルへ書き出して保存したりすることができます。



## カスタマイズファイルの読み書き

- 【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】を選択します。  
「カスタマイズファイルの読み書き」ダイアログボックスが開きます。
- 読み込みたいときは、[カスタマイズファイル(P)] から読み込みたいカスタマイズファイルを選択します。  
ここでは、「キー動作\_WINDOWSW標準.INI」を選択しています。  
書き出したいときは、ファイル名を入力します。



- [読み/書き情報] の [読み込み] または [書き出し] を選択し、読み込み/書き出したい情報にチェックをつけます。



読み込み時は、②で指定したカスタマイズファイルにある情報にチェックがつかます。

- [読み込み] または [書き出し] ボタンをクリックします。  
指定したカスタマイズファイル(INI ファイル)から [読み/書き情報] でチェックをつけた情報の読み込み、または書き出しが実行されます。

[ 起動時・終了時に読み書きするカスタマイズファイルとする ]

MIWES の設定、履歴情報はすべてインストールディレクトリ内の MIW.INI に保存されています。これ以外のファイル名や、他のディレクトリにカスタマイズファイルを変更したい場合は、カスタマイズファイルの読み書き時に [読み込んだ/書き出したファイル] を現在のカスタマイズファイルとする] を ON にします。

カスタマイズ情報のバックアップについて

[バックアップ(すべて書き出す)] ボタンをクリックすると、現在の設定内容をバックアップ用ファイルに書き出します。

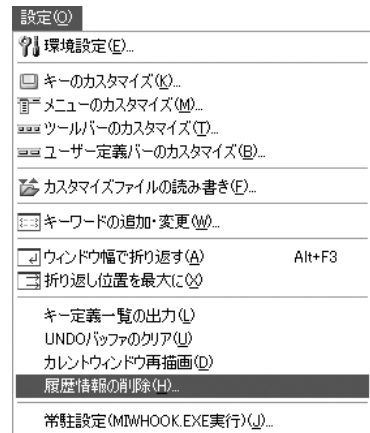
バックアップファイルは、「日時 - 現在のカスタマイズファイル名.INI」という名前で、ロードディレクトリに保存されます。



## 履歴情報の削除

次の履歴情報を削除することができます。

- ・ファイル履歴
- ・検索文字列の履歴
- ・置換文字列の履歴
- ・複数置換の履歴
- ・ワイルドカード履歴
- ・グローバル検索開始位置履歴



- 1 【設定 (O)】-【履歴情報の削除 (H)】を選択します。  
「履歴情報の削除」ダイアログボックスが開きます。

- 2 履歴種別を選択します。



- 3 「履歴内容 (H)」のリストの中から削除したい項目を選択します。

- 4 [削除 (D)] ボタンをクリックします。  
履歴情報から選択した項目が削除されます。

## 画面の表示を変更する

MIFES の設定を変更し、次回以降に起動したときにも反映させるには、「カスタマイズファイルの使用方法」の設定が必要です。設定については、第 5 章「さまざまな使い方」の「環境設定 (P.180)」を参照してください。

### ツールバーを変更する

機能を割りあてたボタンを並べたものをツールバーといいます。  
MIFES では、あらかじめ次の 4 つのツールバーが用意されています。  
使いやすいツールバーに変更してください。



ツールバーはボタンの表示 / 非表示やボタンの並びを自由に変更することができます。  
以下の中から好みに近いものを選択して、必要があれば配置や表示 / 非表示をカスタマイズしてください。

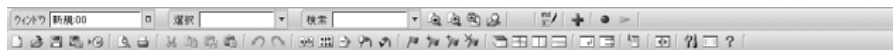
#### 本体内蔵ツールバー

MIFES 本体 (MIW.EXE) に内蔵されているツールバーです。  
本体内蔵ツールバーはカスタマイズできません。



#### MIW7 標準表示.RBN

標準的なツールバーです。  
インストール直後はこのツールバーが設定されています。



#### MIW7 ショート表示.RBN

MIW7 標準ツールバーより、表示ボタンの数が少ないツールバーです。



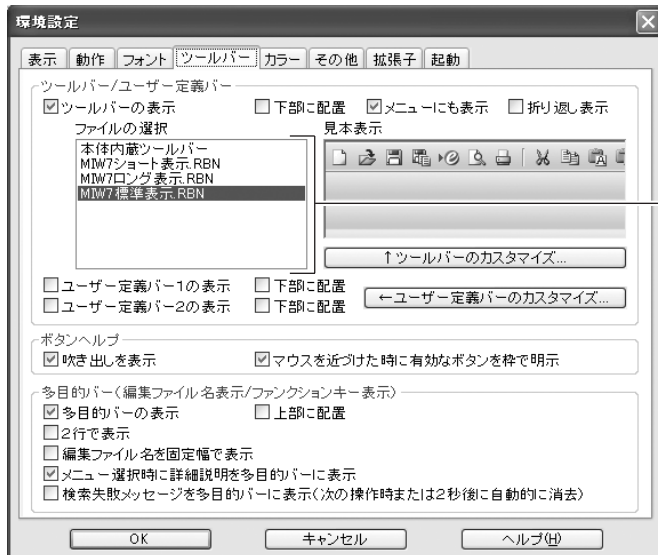
#### MIW7 ロング表示.RBN

MIW7 標準ツールバーより、表示ボタンが多いツールバーです。



## ツールバーを変更する

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ ツールバー ]タブをクリックします。



リストボックスからRBNファイルを選び、[OK]ボタンをクリックする

### ボタンの説明を表示する

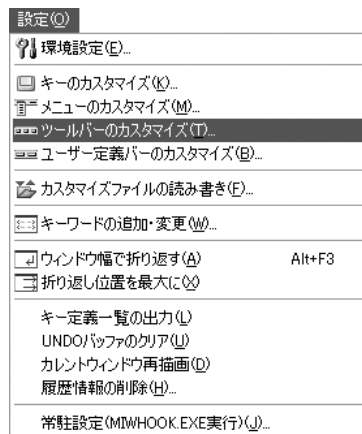
ボタンの近くにマウスカーソルを近づけたときに、ボタンの機能を表示することができます。ボタンヘルプの「吹き出しを表示」にチェックをつけてください。



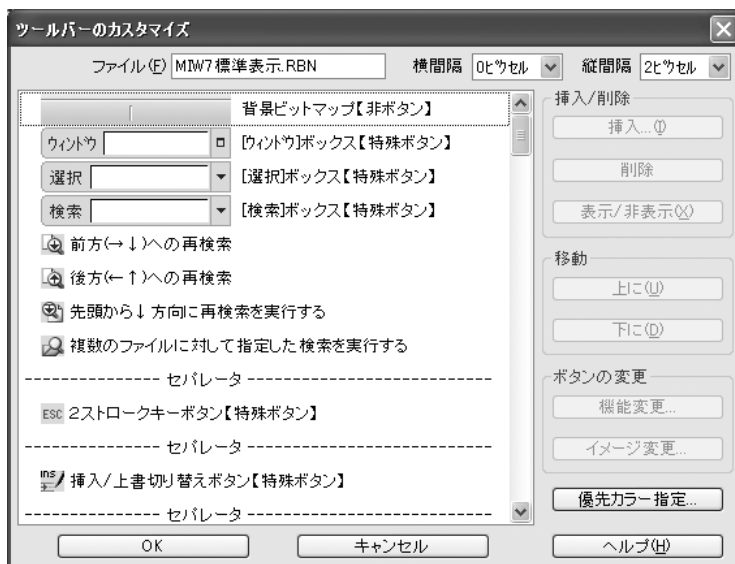
ボタンの吹き出し

## ボタンを表示する

現在のツールバーに、よく使うボタンを追加表示したり、不要なボタンを非表示にしたりすることができます。



- ① 【設定(O)】-【ツールバーのカスタマイズ(T)】を選択します。

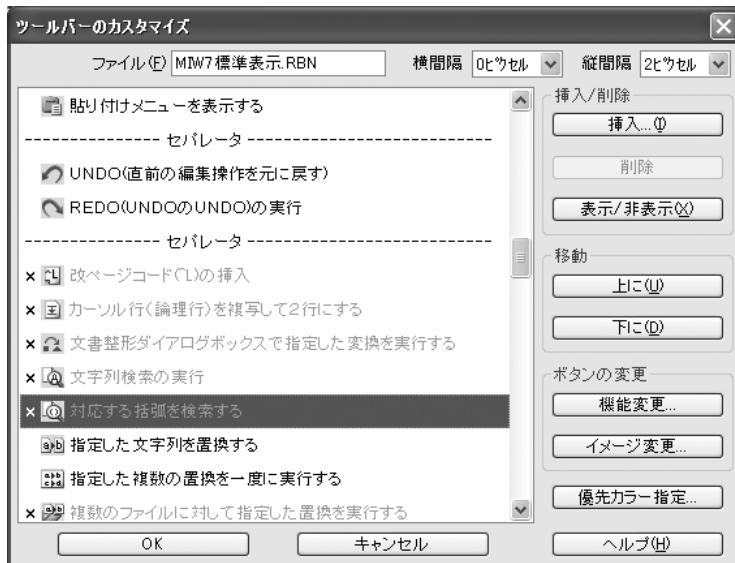


ここでは、例として下図の位置にボタンを追加します。

ここに【対応する括弧の検索】のボタンを追加する

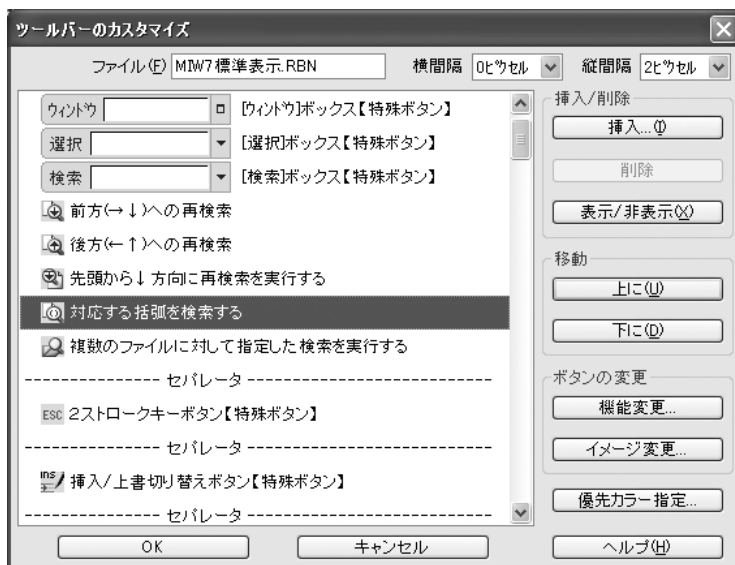


- ② ボタンの一覧をスクロールして、目的のボタンを探し選択します。



- ③ [上(U)]または[下(D)]ボタンをクリックし、目的の位置へ移動します。

- ④ [表示 / 非表示(X)]ボタンをクリックして、表示状態にします。  
ボタンの前に「x」マークのあるものは非表示です。



- ⑤ [OK]ボタンをクリックします。

## 1 行の文字数を変更する

画面上で折り返す桁位置(右マージン)の値を変更できます。デフォルト値は80です。最大3000まで設定できます。

- ① 【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブを選びます。
- ② [折り返し桁位置]で任意の値を設定します。



上記の設定はカレントウィンドウにのみ有効です。ここで設定した値を常に有効にするには [以降に開くウィンドウにも同じ設定を適用する] をONにします。また、0を指定すると、ウィンドウオープン時のウィンドウサイズとフォントサイズから、自動的に折り返し表示位置を決定します。

カレントウィンドウサイズに合わせて調整する  
「ウィンドウ幅に自動調整」にチェックをつけると、現在のウィンドウサイズとフォントサイズに合わせて折り返し位置を自動調整します。

## タブの設定

[TAB] キーの動作には、タブコード(09H)を用いるハードタブと、スペースコード(20H)を用いるソフトタブの2種類があります。

ハードタブでは画面上での表示桁数と文字のバイト数が一般には一致しません。

ハードタブとソフトタブのどちらを使用するかは、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[動作]タブをクリックし、[Tabキーはソフトタブ動作]で設定します。OFFの場合はハードタブが設定されます。

### ハードタブの桁間隔を設定する

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブをクリックし、[ハードタブ桁間隔]に桁数を入力します。ハードタブの動作において、1個のタブコード(09H)で何桁のインデントを行うかを指定します。2, 4, 8, 16のいずれかの値が指定できます。また、タブのストップ位置は等間隔です。

### ソフトタブの桁位置を設定する

まず、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[動作]タブで[Tabキーはソフトタブ動作]をONにします。次に[ソフトタブ位置の変更]ボタンをクリックし、桁位置を入力します。桁位置はカンマで区切って、1~3000までの値を最大50個まで指定できます。



「環境設定」ダイアログボックスの中には、以降に開くウィンドウのハードタブ桁間隔を指定する場所が[表示]タブと[拡張子]タブの2ヶ所あります。この2つの値のうち[環境設定]で最後に表示していた方の値が優先されます。

## 開くファイルの拡張子に応じてハードタブ桁間隔を設定する

開くファイルの拡張子によってハードタブの桁間隔を自動設定できます。

- 1 【設定(O)】-【環境設定(E)】-[拡張子]タブをクリックします。



- 2 [拡張子/ディレクトリ名] コンボボックスに拡張子またはディレクトリ名を指定し、[OK] ボタンをクリックします。

### 複数の拡張子を指定する場合

半角のセミコロン(;)で区切って複数の拡張子を指定します。

例: .TXT; .DOC

### ディレクトリ名だけを指定する場合

ディレクトリ名は、ドライブ名からの絶対パスで指定し、最後を半角の¥にしてください。

拡張子定義は、指定したディレクトリ以下のすべてのディレクトリに対して適用されます。

例: C:¥MyDocuments¥SAMPLE¥

### ディレクトリ名と拡張子を指定する場合

ディレクトリ名は絶対パスで指定し、最後を半角の¥にします。そのあとに続けて拡張子を指定します。

例: C:¥MyDocuments¥.TXT; .DOC



## 画面の色を変更する

画面の色をカラーセットの中から選んで、変更することができます。また、画面の各部ごとに任意の色を設定できます。

### カラーセットの中から選択する

「一括変更」のボタンをクリックして、4つのカラーセットを切り替えることができます。ダイアログ内の見本表示で確認することができます。



メモ

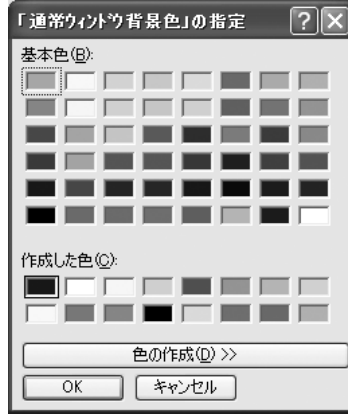
インストール時に「カスタマイズの選択」画面で選択できるカラーカスタマイズは、[背景青1] [背景白] [背景黒]にあたります。

### 画面の部所ごとに色を設定する

- 1 【設定(O)】-【環境設定(E)】-[カラー]タブをクリックします。



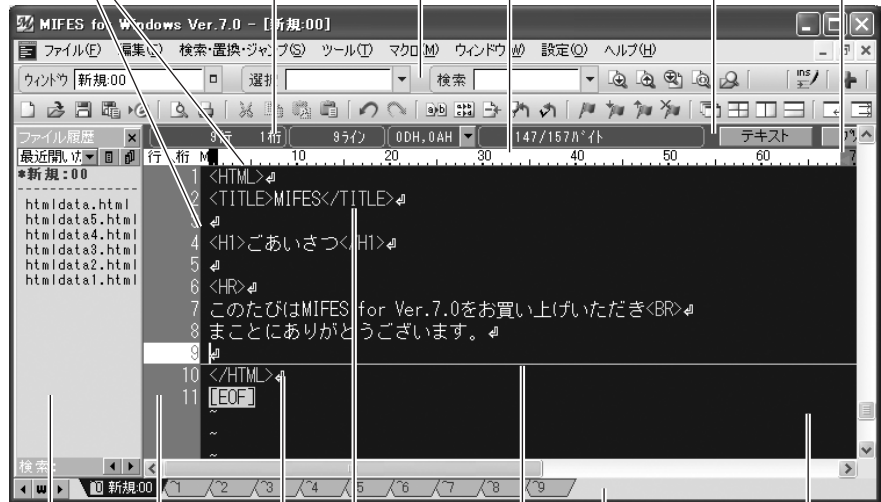
- 2 色を変更したい部分を、見本表示または右側のリストから選び、[色を変更]ボタンをクリックします。  
色を指定するダイアログボックスが表示されます。(ここでは『通常ウィンドウ背景色』の指定)ダイアログボックスが表示されています。)



- 3 [基本色(B)]か[作成した色(C)]パレットの中から任意の色をクリックし、[OK]ボタンを押します。
- プレビュー画面に変更した色が反映されます。
- パレットにない色を指定する場合は、[色の作成(D)>>]をクリックします。色の作成方法についてはWindowsのマニュアルまたはヘルプを参照してください。

色を変更できる部所の主なものは以下のとおりです。

行・桁ゲージ境界線色      フレームウィンドウ背景色      桁ゲージ上各種マーク色  
 ガイドライン文字色      桁ゲージ背景色      ガイドライン背景色



行ゲージ背景色      キーワード明示色      多目的バー表示色      背景色  
 リストウィンドウ背景色      改行文字色      カーソル行アンダーライン色



背景色に特殊な中間色を選んだ場合、カーソル行アンダーラインを表示すると、カーソル移動により画面が乱れることがあります。背景色にはできるだけ基本色を指定してください。

## その他の変更

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブで表示する箇所を設定できます。



画面各部の名称については第1章「画面各部の名称」、第5章「環境設定」の【表示】を参照してください。



【行ゲージ】の表示について

【行ゲージ】で表示する行番号は、論理行番号と表示行番号のどちらかを選択できます。

- ・表示行番号 表示上の1行を1行とした場合の行番号です。
- ・論理行番号 改行文字から改行文字までを1行とした場合の行番号です。

[ ガイドラインの表示 ] の表示内容について

[ ガイドラインの表示 ] を指定すると、通常のカーソル位置の論理行番号と桁位置、カーソル位置の表示行番号、カーソル位置の16進文字コード、カーソル位置のファイルの先頭からのバイト位置とファイルの総バイト数が表示されます。詳しくは、第1章「画面各部の説明」を参照してください。

なお、箱型選択を除く範囲選択中の場合には、表示行番号のかわりに選択されているバイト数が表示されます。また、バイナリモードのときには、ガイドラインの表示が異なります。詳しくは、第1章「画面各部の説明」を参照してください。

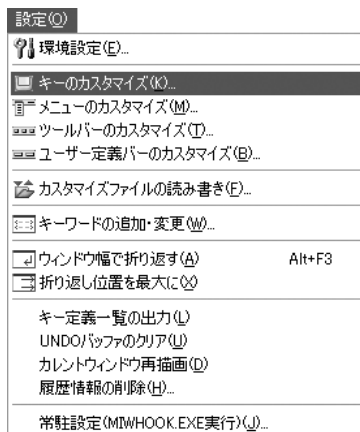
[ 変更のある行の明示 ] について

[ 変更のある行の明示 ] オプションを [ ON ] に指定すると、変更操作のあった行だけが通常のテキスト色とは別の色で表示されます。

## キーの割り当てを変更する

キー操作に、MIFESの機能を割り当てることができます。割り当てのできる主なものは以下のキーです。

- ・ファンクションキー、コントロールキーやその他の特殊キー(カーソル移動キーや[ESC]キーなど、下記「キー操作一覧の出力」機能により出力されるキー)
- ・2ストロークキー操作(例えば[CTRL]+[B]を押した後[ V ]キーを押す)



MIFES の設定を変更し、次回以降に起動したときにも反映させるには、設定が必要です。設定については第5章「環境設定」[起動]タブ(P.212)を参照してください。

現在のキー割り当てを確認するには、【設定(O)】-【キー定義一覧の出力(L)】を選択してください。現在開いているファイルのカーソル行の上に一覧が出力されます。



## Windows 一般のキー操作、DOS 版 MIFES と同じキー操作など、キーカスタマイズをまとめて変更する

MIFES には4種類のキーカスタマイズが用意されています。

【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】で「キー動作\_」で始まるカスタマイズファイルを読み込んでキーカスタマイズを変更できます。

## ファンクションキーなどの機能の割り当てを変更する

ここでは例として [Ctrl]+[Shift]+[F1] キーに【文字列の登録/挿入】機能を割り当てます。

①

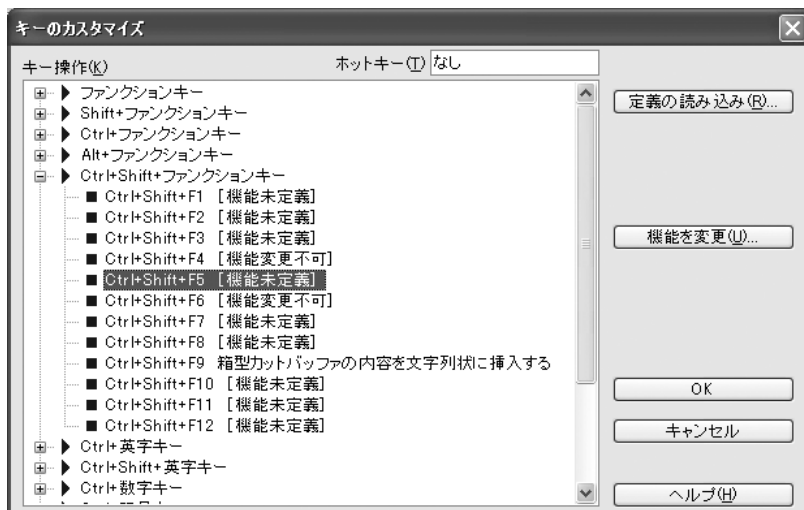
【設定(O)】-【キーのカスタマイズ(K)】を選びます。

②

定義を変更するキーを [キー操作(K)] から選びます。

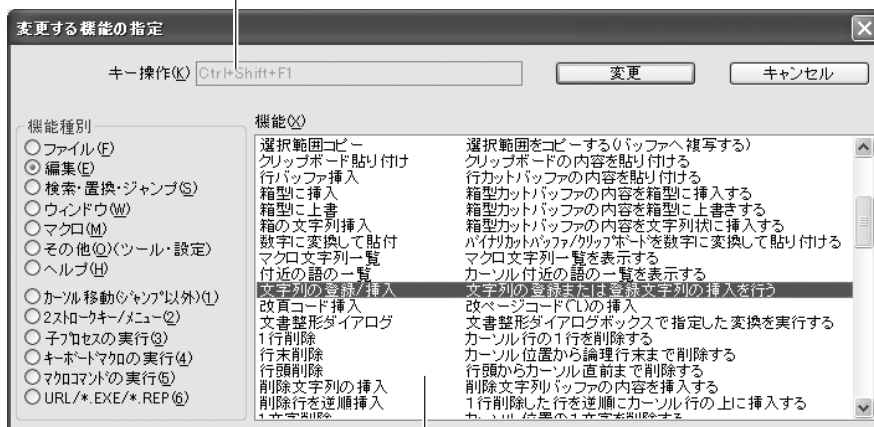
割り当てるキーを選択します。キーは種類別に階層になっており、ダブルクリックで下の階層を選べます。

ここでは Ctrl + Shift + ファンクションキーをダブルクリックし、CTRL + Shift + F1 を選びます。



- 3 [機能を変更(U)] ボタンをクリックします。  
「変更する機能の指定」ダイアログボックスが表示されます。機能種別と機能を選択します。  
ここでは [機能種別] を [編集] [機能(X)] を「文字列の登録/挿入」にします。

キー名を表示



キーに割り当てられる機能が表示されている

- 4 [変更] ボタンをクリックします。  
指定したキーに、指定した機能が割り当てられます。
- 5 [OK] ボタンをクリックして、設定を終了します。

## 2ストロークキー操作に機能を割り当てる

2ストロークキー操作の定義は、まず、1ストローク目のキーを定義した後に2ストローク目のキーを定義します。

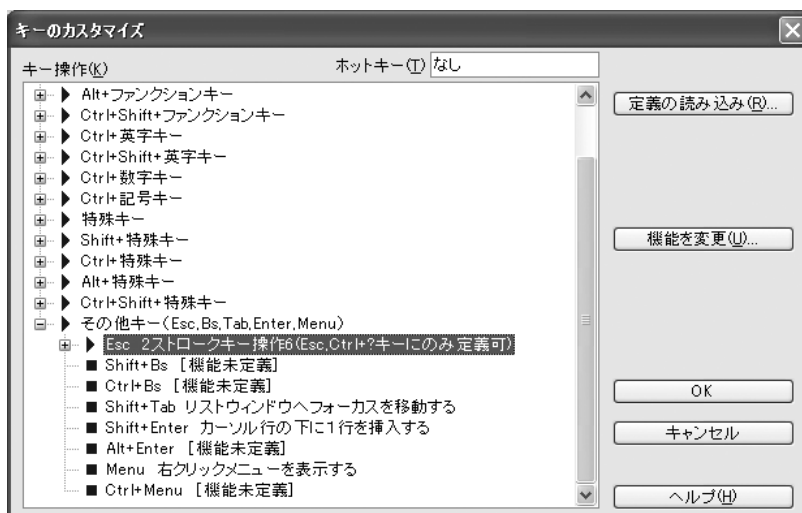
1ストローク目は必ず [ CTRL ]+[ A ]~[ CTRL ]+[ Z ] キー、[ CTRL ]+[ @ ]~[ CTRL ]+[ \_ ] キー、[ CTRL ]+[ 0 ]~[ CTRL ]+[ 9 ] キー、[ ESC ] キーに定義しなければなりません。(最大で6つのキーに定義できます。)

2ストローク目は必ず [ CTRL ]+[ A ] ~ [ CTRL ]+[ Z ] [ CTRL ]+[ 0 ] ~ [ CTRL ]+[ 9 ] [ CTRL ]+[ @ ] ~ [ CTRL ]+[ \_ ] キーまたは [ A ]~[ Z ] [ 0 ]~[ 9 ] キー、[ @ ]~[ \_ ] キーに定義しなければなりません。なお、2ストローク目の [ CTRL ]+[ A ]と [ A ] は同じ A キーが押されたものと見なします。(最大42個のキーを割り当てできます。)

ここでは [ ESC ] [ Q ] でカレントウィンドウを保存せずに終了するように定義します。

- 1 【設定(O)】-【キーのカスタマイズ(K)】を選び、1ストローク目のキーを [ キー/ボタン(K) ] から選びます。

ここでは [ ESC ] キーを選びます。

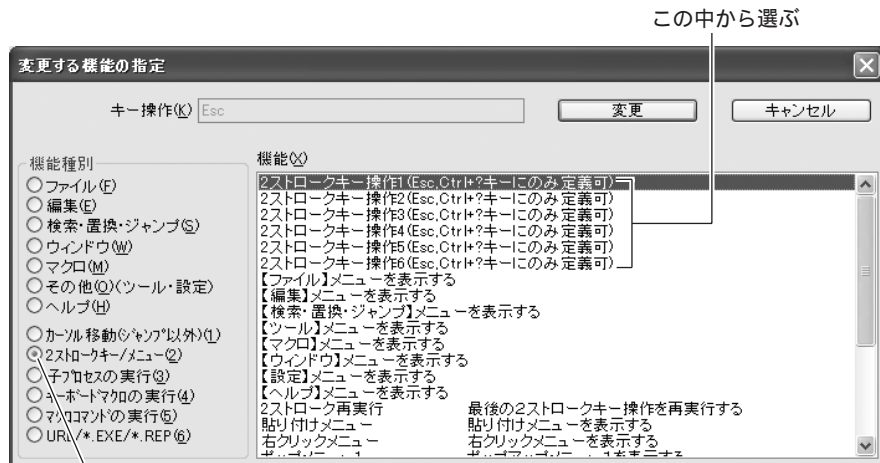


- 2 【機能を変更(U)】ボタンをクリックします。

「変更する機能の指定」ダイアログボックスが表示されます。

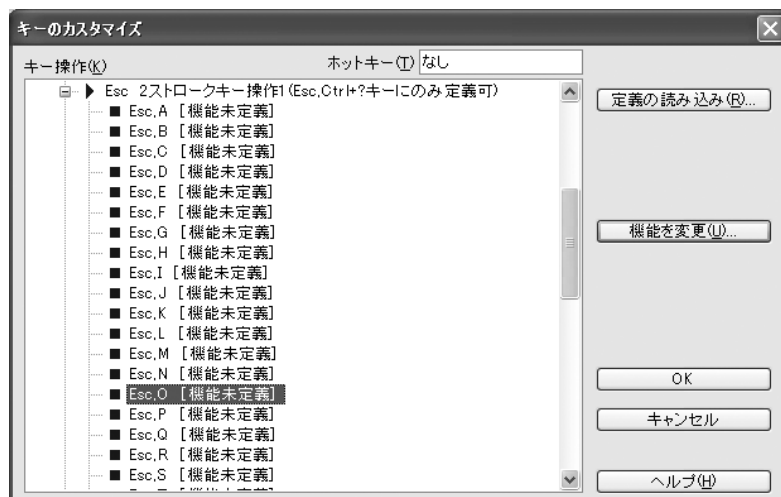
[機能種別] グループボックスから [2ストロークキー/メニュー(2)] を選び、[機能(X)] の [2ストロークキー操作1~6 (ESC, Ctrl+?キーにのみ定義可)] の中からどれか1つを選びます。

ここでは [2ストロークキー操作1] を選びます。



[ 2ストロークキー/メニュー(2) ] をクリックする

- 3 [ 変更 ] ボタンをクリックします。  
1ストローク目のキーの定義ができました。で定義したキーの下の階層に、2ストロークキーが追加されています。
- 4 [ キー操作 (K) ] から [ ESC, Q ] キーを選び、[ 機能を変更 (U) ] ボタンをクリックします。「変更する機能の指定」ダイアログボックスが表示されます。



- 5 割り当てる機能を [ 機能 (F) ] リストボックスから選びます。  
ここでは [ 機能種別 ] を [ ファイル (F) ] [ 機能 (X) ] を [ 閉じる ] にします。
- 6 [ 変更 ] ボタンをクリックします。  
1ストローク目のキーの定義をそのままにしておいて、2ストローク目のキーに機能を割り当てる場合は、必要なだけ4～6の操作を繰り返します。
- 7 [ OK ] ボタンをクリックして、設定を終了します。

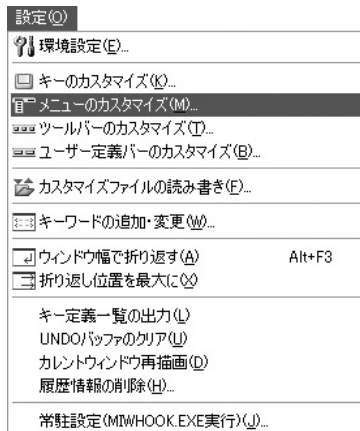


## メニューを変更する

メニューバーのメニューと、右クリックメニュー、ポップアップメニューを変更することができます。



MIFES の設定を変更し、次回以降に起動したときにも反映させるには、設定が必要です。設定については第 5 章「環境設定」の [ 起動 ] タブを参照してください。



## メニューバーをカスタマイズする

メニュー内の項目を自由に変更することができます。必要な機能だけをメニューに表示させたり、よく使用するマクロや機能を 1 つのメニューにまとめたり、わかりやすい名前に変更することができます。



メニューバーのメニュー項目の制限は次のとおりです。  
(セパレータ、サブメニュー項目含む)

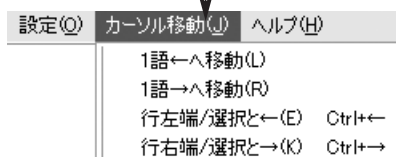
- ・項目数：最大 500 まで
- ・サブメニューの最大階層：3 レベル
- ・各レベルの項目数
  - レベル 1 (メニューバーの項目)：最大 99 個まで
  - レベル 2：最大 199 個まで
  - レベル 3：制限なし
- 項目名文字数：最大 40 バイト

サブメニューのないメニューバーも定義可能です。

その他詳しくはヘルプを参照してください。

ここでは例として、カーソル移動機能を集めた【カーソル移動(J)】メニューを、【設定(O)】メニューと【ヘルプ(H)】メニューの間に追加します。

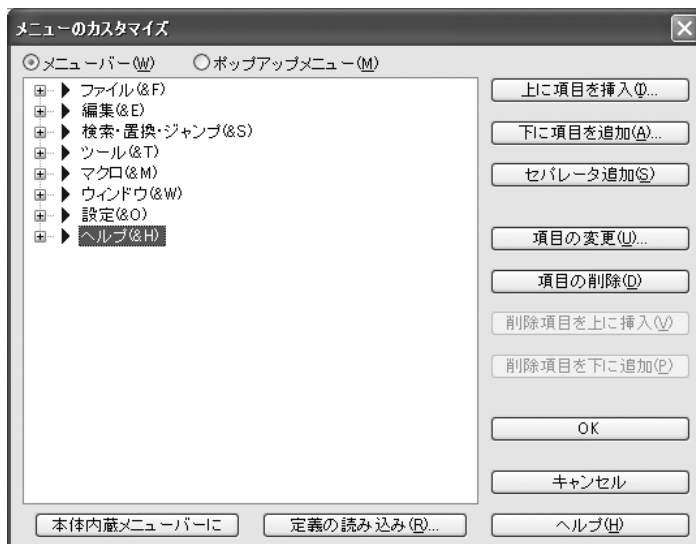
ここに【カーソル移動(J)】を追加



① 【設定(O)】-【メニューのカスタマイズ(M)】を選びます。

② 「メニューバー(W)」を選択します。

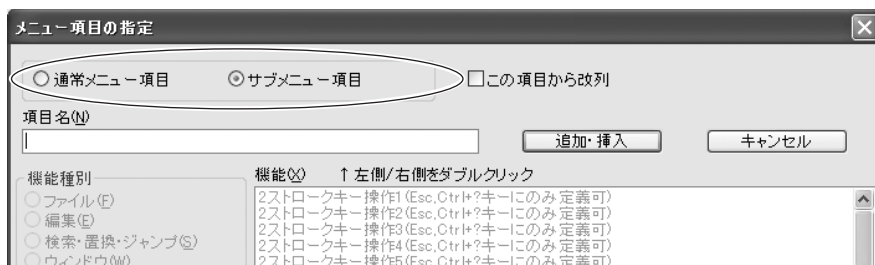
③ メニューを追加する1つ下の項目を選び、[上に項目を挿入(I)] ボタンをクリックします。  
ここでは [ヘルプ(&H)] を選択し、[上に項目を挿入(I)] ボタンをクリックします。  
「メニュー項目の指定」ダイアログボックスが表示されます。



④ 項目の種類を選びます。

- ・ [通常メニュー項目] .....機能を実行する項目
- ・ [サブメニュー項目] .....サブメニュー項目を表示するための項目  
メニューバー上の項目もトップレベルのサブメニュー項目になります。

【カーソル移動(J)】はメニューバーに追加したいので、ここでは [サブメニュー項目] を選びます。



⑤ [項目名(N)] に、メニューに表示する名前を入力します。アクセラレーターキーを指定する場合は、項目名に続けて (&'英字または数字') をすべて半角で入力します。  
ここでは「カーソル移動 &J)」と入力します。

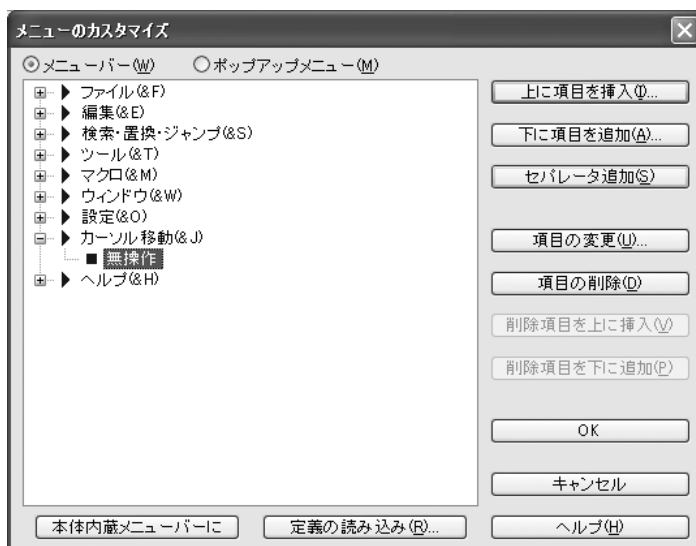
アクセラレーターキーとは、メニューやダイアログボックス上でそのキーを入力することにより、項目を選択できるショートカットキーのことです。



6

[追加・挿入] ボタンをクリックします。

5で指定した項目が追加され、サブメニュー項目が1つ作成されています。サブメニュー項目には「無操作」が割り当てられています。



7

項目を選択し、[項目の変更(U)] ボタンをクリックして機能を割り当てます。

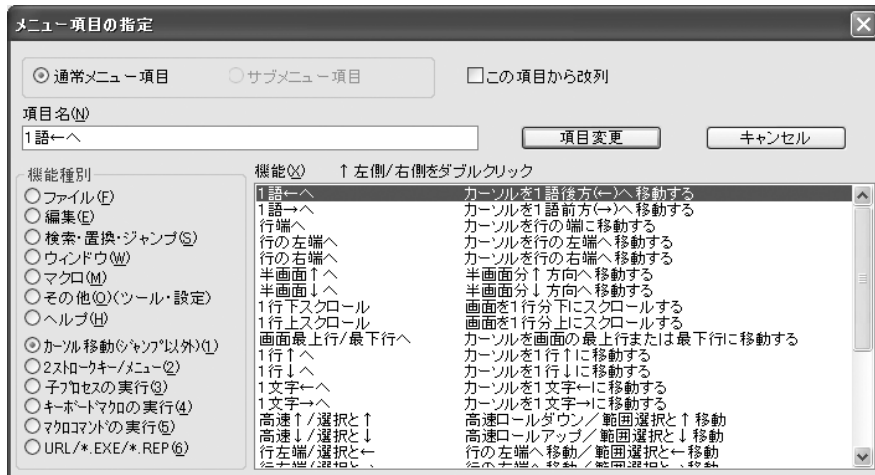
ここでは [カーソル移動(&J)] のサブメニューとして追加された [無操作] を選択し、[項目の変更(U)] ボタンをクリックします。

「メニュー項目の指定」ダイアログボックスが表示されます。

8

割り当てる機能を [機能(X)] からダブルクリックすると項目名が自動的に入力されます。

ここでは [機能種別] を [カーソル移動(ジャンプ以外)(I)]、[機能(X)] を [1語 へ] にします。[1語 へ] をダブルクリックすると [項目名(N)] に「1語 へ」と入力されます。

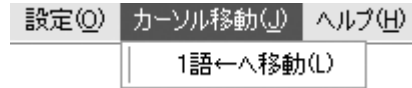


9

必要なら項目名を変更し、[項目変更] ボタンをクリックします。

ここでは [項目名(N)] を「1語へ移動(&L)」と変更します。(&L)と指定することにより、メニュー表示中に [L] キーを押すと、この機能が実行されるようになります。

メニュー項目が追加されました。



## ポップアップメニューを変更する

ポップアップメニューのメニュー項目を追加したり削除します。ここでは右クリックメニューを例に説明します。

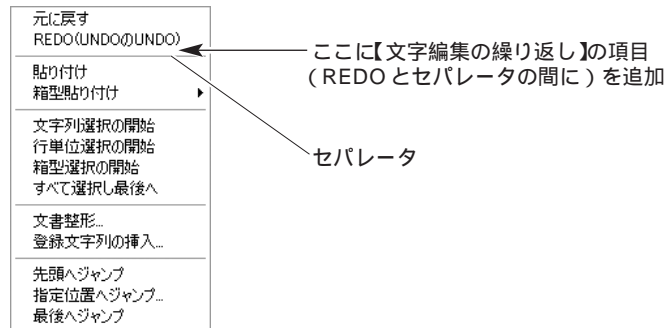


ポップアップメニューの制限は次のとおりです。(セパレータ含む)

- ・1メニューの項目数：最大36項目まで
  - ・サブメニュー：登録できません。
  - ・項目名文字数：最大40バイト
- その他詳しくはヘルプを参照してください。

## メニュー項目の追加をする

ここではマウスの右クリックメニューの上から3つ目に【文字編集の繰り返し】を追加し、[R] キーを割り当てます。



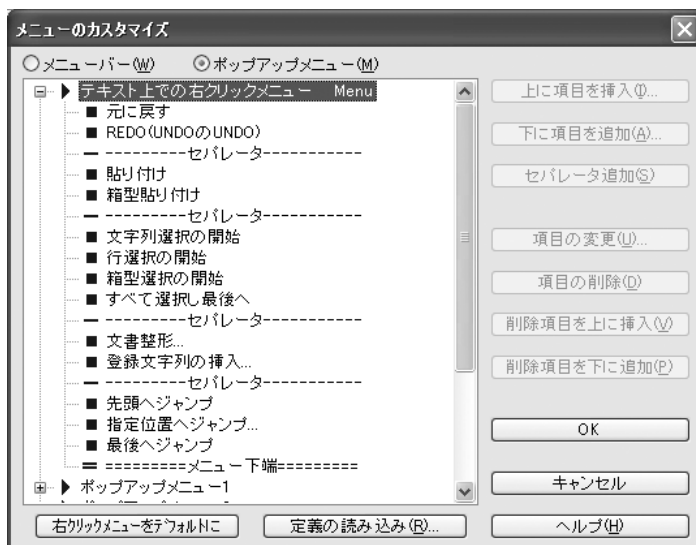
1

【設定(O)】-【メニューのカスタマイズ(M)】を選びます。

2

「ポップアップメニュー(M)」を選択します。

- 3 [テキスト上での右クリックメニュー] をダブルクリックします。



- 4 [REDO(UNDOのUNDO)] を選択し、[下に項目を追加(A)] ボタンをクリックします。

「メニュー項目の指定」ダイアログボックスが表示されます。

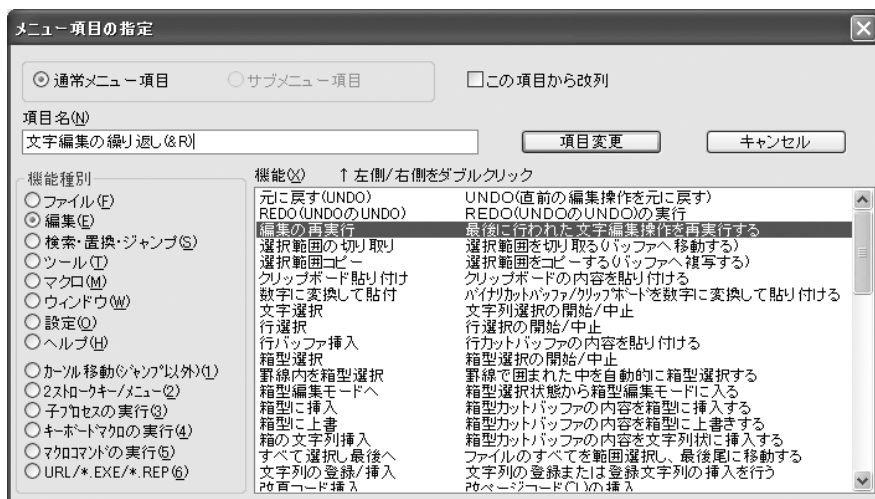
[機能種別] を「編集(E)」にし、[機能(X)] で「編集の再実行」をダブルクリックします。

- 5 必要に応じて [項目名(N)] の文字列を編集します。

ここでは「編集の再実行」を「文字編集の繰り返し」に変更します。

項目名に続けてアクセラレータキーを割り当てる場合は、&記号に続けて英数字を入力します。&記号も英数字も半角で入力してください。

ここでは、(&R) をつけてください。

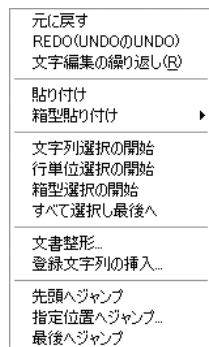


- 6 [項目変更] ボタンをクリックします。

7

[OK] ボタンをクリックして、終了します。

マウスの右ボタンをクリックするとメニューが表示されます。



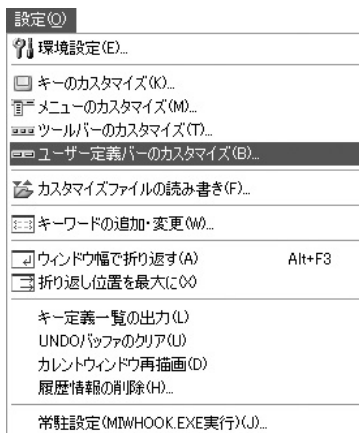
# ユーザー定義バーを設定する

ユーザー定義バーには、ユーザーが自由にコマンドを割り当てて使用することができます。ユーザー定義バーには、ユーザー定義バー 1 とユーザー定義バー 2 があり、それぞれに表示 / 非表示を切り替えることができ、最大 20 個ずつコマンドを登録することができます。

ここではユーザー定義バー 1 にカーソル移動機能を登録します。

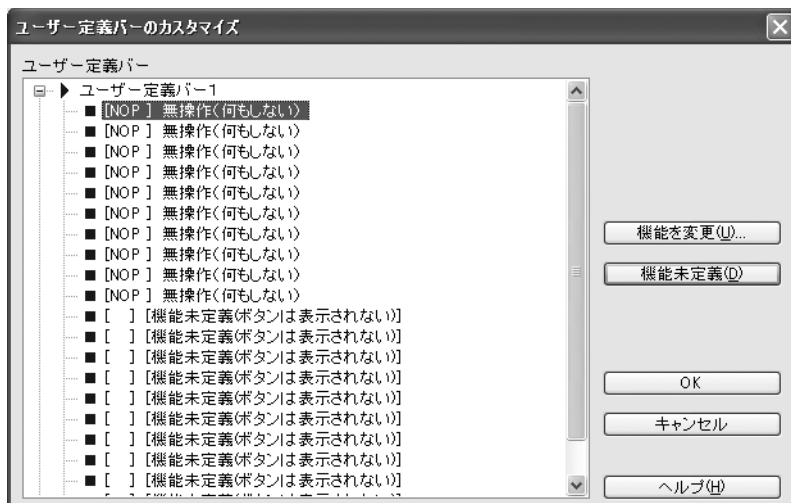


- 1 【設定(O)】 - 【ユーザー定義バーのカスタマイズ(B)】を選択します。



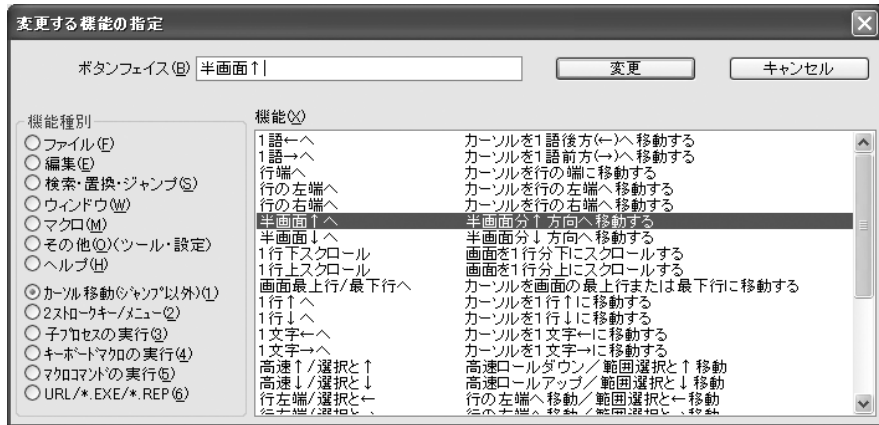
- 2 ダイアログボックスで、「ユーザー定義バー 1」をダブルクリックします。

- 3 定義を設定・変更したいボタンを選択し、[機能を変更(U)] ボタンをクリックします。ここでは、1つ目のボタンを選択します。



- 4 割り当てる機能を [ 機能 X ) ] からダブルクリックします。  
ここでは、[ 機能種別 ] を [ カーソル移動 ] [ 機能 X ) ] を [ 半画面 ↑ ] にします。

- 5 [ ボタンフェイス(B ) ] にボタンに表示される文字列を入力します。  
ボタンには半角8文字 ( 全角4文字 ) まで表示できます。  
ここでは [ 半画面 ↑ ] と入力します。



- 6 [ 変更 ] ボタンをクリックします。

- 7 [ OK ] ボタンをクリックします。

- 8 このままで定義はできましたが、ユーザー定義バーが表示されていません。  
【環境設定】-[ ツールバー ] タブの「ユーザー定義バー 1 の表示」にチェックをつけます。  
また、ウィンドウの下に表示したいときは、「下部に表示」にチェックをつけてください。





## キーボードマクロを使う

繰り返し行う一連の操作を記録しておき、必要に応じて呼び出して実行する機能をキーボードマクロと呼びます。

よく使う一連の操作は、名前を付けてライブラリに登録できます。

記録した操作(キーボードマクロ)は他のウィンドウでも実行できますが、MIFESを終了すると記録した内容は消えます。また、後から違った操作を記録すると前回は記録した内容は更新されます。よく使う一連の操作は記録した後に名前を付けてライブラリに登録しておく、必要に応じて取り出し実行できます。

ライブラリには最大196個のキーボードマクロを登録できます。さらにライブラリに登録しておく、キーやメニューなどにキーボードマクロを割り当てることができます。

記録した一連の操作を指定回数連続実行できます。

キーボードマクロを実行する機能として、1回実行と連続実行する機能があります。

記録した内容はマクロ言語に変換できます。

キーボードマクロに記録した内容を外部マクロ言語MIL/Wのソーステキストに変換してカーソル位置に挿入することができます。

変換したマクロソースはコンパイルして、マクロコマンドとして実行できます。詳しくはマクロマニュアルを参照してください。

### キーボードマクロを使うにあたって

キーボードマクロを使う上で、以下の点に注意してください。

キーやボタンの定義を変更しても正常に実行できます。

キーボードマクロは、実際に実行したコマンドを記録したものです。したがって、記録したあとでキーやボタンの定義を変更しても正常に実行できます。

ダイアログボックスやメッセージボックスは表示されません。

コマンドの実行に必要なデータ(ジャンプ先の行番号/バイト位置、検索文字列、置換文字列、変更する状態、オープン/リネームするファイル名、入力する文字列、印刷パラメータなど)をダイアログボックスで指定した場合、データそのものがキーボードマクロに記録されます。このため、キーボードマクロの実行時には、ダイアログボックスは表示されません。

同様にカレントウィンドウのクローズ、カレントウィンドウの編集のやり直しなどをキーボードマクロに定義した場合も、キーボードマクロの実行時にウィンドウに変更操作がある場合でも、確認のためのメッセージボックスは表示されません。

子プロセスやDOSシェルエスケープ画面でのコマンドの実行はキーボードマクロには定義できません。

子プロセスの情報やDOSのコマンドをキーボードマクロに定義した時点で、自動的にキーボードマクロの定義状態が解除されます。

キーボードマクロのバッファサイズは2000バイトです。

キーボードマクロの記録用のバッファは約2000バイトです。長い操作を記録する場合や、長いデータを伴う機能(複数置換、複数ファイルのオープン、グローバル検索、印刷など)を記録する場合は注意してください。バッファがいっぱいになると、自動的にキーボードマクロの定義状態が解除されます。

マウスによるカーソル位置の直接指定は、キーボードマクロには記録されません。

以下のカスタマイズ、キーボードマクロおよびマクロ言語関連のコマンドは、キーボードマクロに定義できません。定義しても、自動的に記録から除外されます。

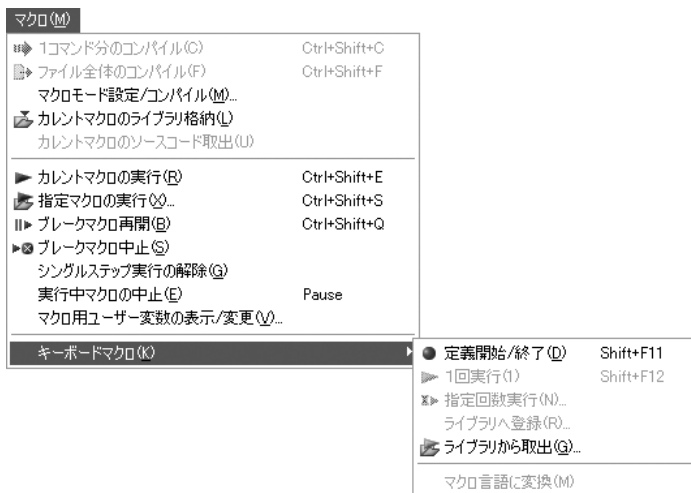
- ・初期ウィンドウ形状の変更
- ・バックグラウンドカラーの変更
- ・キー定義 / ボタン定義の変更
- ・右クリックメニューの変更
- ・ツールバーのカスタマイズ
- ・キーボードマクロの定義開始 / 終了
- ・キーボードマクロの1回実行
- ・キーボードマクロの指定回数実行
- ・キーボードマクロのライブラリへの登録
- ・キーボードマクロのライブラリからの取出
- ・1コマンド分のマクロコンパイル
- ・ファイル全体のマクロコンパイル
- ・カレントマクロコマンドの実行
- ・指定マクロコマンドの実行
- ・ブレイクマクロコマンドの再開
- ・ブレイクマクロコマンドの中止
- ・シングルステップ実行の解除
- ・イベント待ちマクロコマンドの終了
- ・マクロ用ユーザー変数の表示と変更
- ・文書整形の実行
- ・起動時の設定変更
- ・カスタマイズファイルの読み書き
- ・キーワードの追加・変更
- ・履歴情報の削除
- ・ユーザー定義ディレクトリの変更
- ・グローバル置換

旧バージョンで作成したキーボードマクロとの互換性

Ver.5.0までのMIFESで定義してライブラリに格納されていたキーボードマクロを実行する際には、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[動作]タブの[ 方向範囲選択においてカーソル位置も範囲に含める ]が一時的にOFFの状態になります。Ver.7.0 (Ver.6.0以降)で定義したキーボードマクロではこのような処理は行われません。

## キーボードマクロを定義する

ここでは、「各行の5文字目に、(半角カンマ)を挿入する」という操作をキーボードマクロに登録します。



### 操作を試してみる

キーボードマクロの定義を始めると、UNDO や REDO などの操作も記録してしまいます。キーボードマクロで実行したい操作を一度実際のデータで実行し、動作を確認してください。

もちろん何度でも定義し直せますので、安心してキーボードマクロの定義を行ってください。

ここで実行する機能は次のとおりです。

行頭にカーソル移動する

5文字右へ移動する

, (半角カンマ)を入力する

1行下へ移動する

### キーボードマクロを定義する

- ① 【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【定義開始/終了(D)】を選びます。
- ② キーボードマクロに記録したい操作を実行します。
- ③ 【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【定義開始/終了(D)】を選びます。

4

動作を確認します。

データの入った行に移動し、【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【1回実行(1)】を選びます。

定義したキーボードマクロは次のキーボードマクロの定義が行われるか、MIFESを終了するまで繰り返し何度でも実行できます。

実行する機能には、【1回実行(1)】と【指定回数実行(N)】があります。

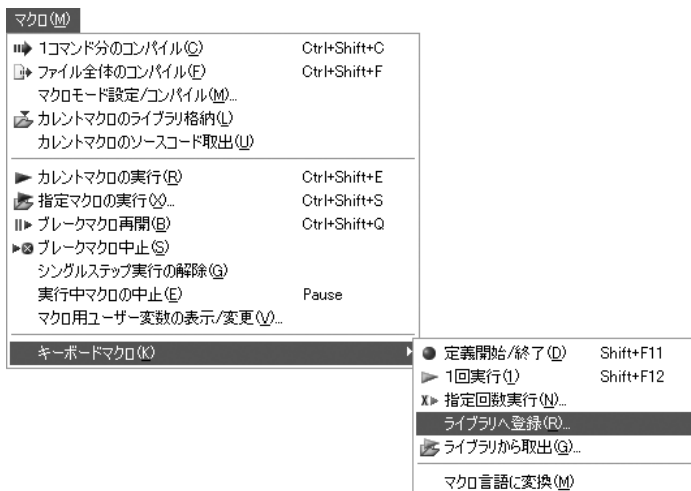


このキーボードマクロを実行する前に、ファイルの行数を調べておき、【指定回数実行(N)】で行数分実行すると、ファイル全体に付加できます。

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[その他]タブの[キーボードマクロ定義終了時にライブラリ]を設定しておく、キーボードマクロ定義終了と同時に、「キーボードマクロをライブラリへ登録」ダイアログボックスが表示されます。

## ライブラリに登録する

ライブラリとは、MIFESのデータベースファイルで、ファイル名はMIW.LIBです。MIW.LIBの中に、キーボードマクロを最大196個まで登録できます。このライブラリにはキーボードマクロ以外に、子プロセスコマンドやマクロコマンドなどにも登録されます。このライブラリに登録しておく、ユーザー定義バーや右クリックメニューなどにキーボードマクロを割り付けることもできます。



1

【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【ライブラリへ登録(R)】を選びます。

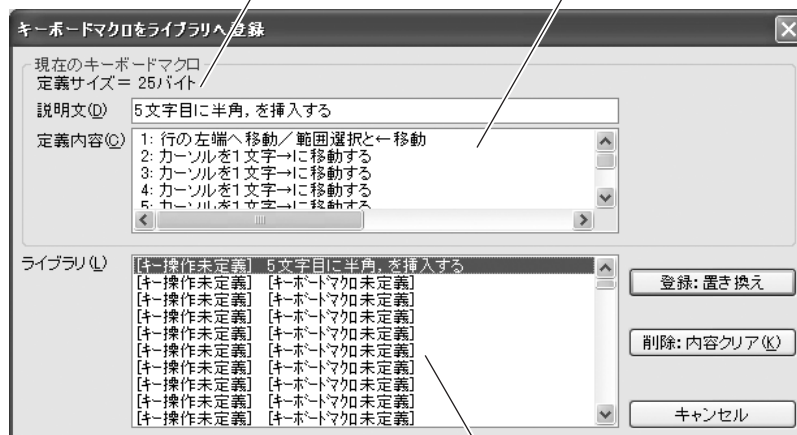
2

[説明文(D)]に、キーボードマクロで定義した1行目の内容が表示されます。

[説明文(D)]を変更することもできます。79バイトまで入力できますので、必要に応じて変更してください。ここでは、「5文字目に半角,を挿入する」に変更します。

記録した操作の長さ(容量)が表示される

記録した操作の操作手順が表示される



登録してあるライブラリの一覧が表示される

3

[ライブラリ(L)]から登録先を選択し、[登録:置き換え]ボタンをクリックします。

現在のキーボードマクロがライブラリへ登録され、指定した説明文が[ライブラリ(L)]に表示されます。



メモ

ライブラリに登録したキーボードマクロをキーやユーザー定義バーなどに割り当てることができます。

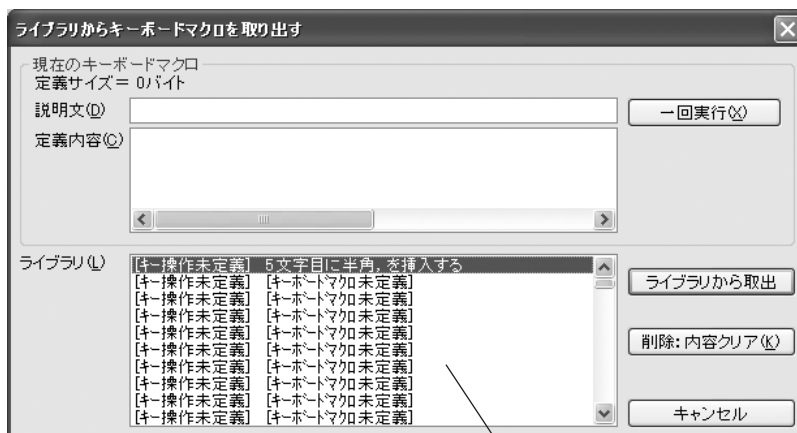
キーやメニュー、ボタンに定義されたマクロコマンドはコマンド名で定義されますが、子プロセスやキーボードマクロは、ライブラリ中での登録位置で定義されます。この登録位置が、機能番号となります。

## ライブラリからキーボードマクロを実行する

ライブラリ中のキーボードマクロをメニューから実行する場合の手順を説明します。



- 1 【マクロ (M)】-【キーボードマクロ (K)】-【ライブラリから取出 (G)】を選びます。  
「ライブラリからキーボードマクロを取り出す」ダイアログボックスが表示されます。



登録してあるライブラリの一覧が表示される

- 2 実行するキーボードマクロを [ライブラリ (L)] から選び、[ライブラリから取出] ボタンをクリックします。  
指定したキーボードマクロがライブラリから取り出され、キーボードマクロバッファに記録されます。
- 3 [1回実行 (X)] ボタンをクリックします。



メモ

いったんキーボードマクロを取り出すと、キーボードマクロバッファに記録されます。キーボードマクロバッファに記録されたキーボードマクロは、【マクロ (M)】-【キーボードマクロ (K)】-【1回実行 (1)】または【指定回数実行 (N)】で実行できます。

## ライブラリからキーボードマクロを削除する

ライブラリからキーボードマクロを削除するには、【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【ライブラリから取出(G)】を選びます。削除するキーボードマクロを、[ライブラリ(L)]リストボックスから選択して、[削除:内容クリア(K)]ボタンをクリックします。指定したキーボードマクロがライブラリから削除されます。

## 記録した内容をマクロ言語に変換しカーソル位置に挿入する

記録した内容をマクロ言語MIL/Wに変換するには、挿入したい位置にカーソルを移動し、【マクロ(M)】-【キーボードマクロ(K)】-【マクロ言語に変換(M)】を選びます。カーソル位置に、記録した内容がMIL/W言語のソースコードに変換され挿入されます。



マクロ言語MIL/Wについてはマクロマニュアルを参照してください。

## 形式の違うファイルを開く / 保存する

### プリ / ポストプロセッサとは

MIFES では、ファイルを開くときに文字コードや形式を変換して読み込むことができます。同様に、保存時にはそのテキストに特定の変換処理をしながら違う形式のファイルに保存することができます。

ファイルを開くときにデータを変換する機能を「プリプロセッサ」、保存するときにデータを変換する機能を「ポストプロセッサ」と呼びます。また、ファイルを開くときにデータを変換し、保存するときに元の形式に戻して保存する機能を「プリ / ポストプロセッサ」と呼びます。

#### 内部プロセッサと外部プロセッサ

プリプロセッサおよびポストプロセッサには、内部プリ / ポストプロセッサと外部プリ / ポストプロセッサがあります。

#### 内部プリ / ポストプロセッサ

シフトJISコード以外の文字コードのファイルを編集するときに、コード変換を行う機能です。MIFES 内部で処理が行われるため、内部プリ / ポストプロセッサと呼びます。

ファイルオープン時に自動的にファイル内容によるコード判定が行われてシフトJISコードのファイルではないと判定された場合には、シフトJISに変換して読み込むための内部プリ / ポストプロセッサが設定されます。

内部プリ / ポストプロセッサが対応している文字コードは以下のとおりです。

Unicode、Unicode Big endian、EUC、JIS、UTF-8、Macintosh、韓国語EUC、繁体字中国語EUC、簡体字中国語EUC

Macintosh は改行コードのみ

#### 外部プリ / ポストプロセッサ

ファイルのオープン時・保存時にファイルの文字コードや形式などを変換する機能です。外部プリ / ポストプロセッサを指定することにより、その外部プリ / ポストプロセッサで定義されたテキストの変換処理が行われます。コード変換だけでなく、CSVファイルのカンマの桁位置を揃えて読み込む、[ Enter ] キーでLFコードを入力する設定にするなど、いろいろな種類があります。

外部プリ / ポストプロセッサはMIFES 専用のAPIから成るDLL(ダイナミックリンク・ライブラリ)です。このDLLは、MIFES 本体のプログラムファイル(MIW.EXE)と同じディレクトリ上の拡張子が.PPPとなったファイルです。(起動時に/L オプションを指定した場合を除きます)

外部プリ / ポストプロセッサには以下のようなものがあります。



プリ/ポストプロセッサ名 ( )内は、旧ファイル名	読込時の処理	保存時の処理	注意など
MIMEBase64 (MIWB64)	なし	MIME Base64でエンコードされたテキストをデコードしながら別ファイルへセーブする。1度実行するとポストプロセッサは自動的に解除される。	-
CSV 桁合わせ (MIWCSV)	CSV ファイルのカンマの直前にスペースを挿入して、カンマの桁位置を合わせる。	カンマの直前のスペースを削除する。	-
LF コード削除 (MIWDELLF)	なし	単独のLFコード(0AH)だけを削除しながら保存する。LFコードのみでの改行をDOS版MIFESの疑似CR + LFの改行のように利用したい場合に使用する。	-
TAB スペース (MIWDETAB)	なし	タブコードを相当する半角スペースコードに変換する。	-
EG ヘルプソート (MIWEGH)	なし	イーザーヘルプ辞書ファイルの項目をソートする。	-
スペース TAB (MIWENTAB)	なし	半角および全角のスペースコードを相当するタブコードに変換する。 ただし半角ダブルクォーツまたは半角シングルクォーツで囲まれた中および、1桁のスペースは変換しない。	-
改行はLFのみ (MIWENTER)	Enterキーで挿入する改行コードをLFコードのみとする。	なし	-
ESCシーケンス削除 (MIWESC)	エスケープ・シーケンス、制御コード(^\は除く)、不当なシフトJISコードを取り除く。 オープンモードは「テキスト(^Zまで)」で、読み取り専用で開く。	なし	-
EUC シフトJIS (MIWEUC)	EUCコードをシフトJISコードに変換し、単独のLFコード(0AH)をCR + LFの改行コード(0DH, 0AH)に変換する。	シフトJISコードをEUCコードに変換し、CR + LFの改行コード(0DH, 0AH)をLFコード(0AH)に変換する。	-
EUC シフトJIS (MIWEUC1)	EUCコードをシフトJISコードに変換し、単独のLFコード(0AH)をCR + LFの改行コード(0DH, 0AH)に変換する。	なし	-
BinHex4.0 (MIWHQX)	なし	BinHex 4.0でエンコードされたテキスト(*.HGX)をデコードしながら別ファイルへセーブする。 1度実行するとポストプロセッサは自動的に解除される。	-

プリ/ポストプロセッサ名 ( )内は、旧ファイル名	読込時の処理	保存時の処理	注意など
JIS シフトJIS (MIWJIS)	JISコードをシフトJIS コードに変換する。	シフトJISコードをJIS コードに変換する。	漢字IN= ESC\$B または ESC\$@ 漢字OUT = ESC (JまたはESC(B半角カ ナ= SOとSIで囲む
JIS シフトJIS (MIWJIS1)	JISコードをシフトJIS コードに変換する。	なし	漢字IN= ESC\$B また は ESC\$@ 漢字OUT = ESC (J または ESC (B 半角カナ= SOとSIで囲む
JIS_CR シフトJIS (MIWMACJIS)	JISコードをシフトJIS コードに変換し、CRコ ード(0DH)をCR + LF の改行コード(0DH, 0AH)に変換する。	シフトJISコードをJIS コードに変換し、CR + LFの改行コード(0DH, 0AH)をCRコード (0DH)に変換する。	漢字IN= ESC\$B または ESC\$@ 漢字OUT = ESC (JまたはESC (B 半角カナ= SOとSIで囲 む
JIS_LF シフトJIS (MIWUNIXJIS)	JISコードをシフトJIS コードに変換し、LFコ ードをCR + LFコード に変換する。	シフトJISコードをJIS コードに変換し、CR + LFコードをLFコードに 変換する。	漢字IN= ESC\$B または ESC\$@ 漢字OUT = ESC (J またはESC (B 半角カナ= SOとSIで囲む
改行LF CR + LF (MIWLFX)	LFコード(0AH)をCR + LFの改行コード(0DH, 0AH)に変換する。	CR+LFの改行コード (0DH, 0AH)をLFコ ード(0AH)に変換する。	-
CR CR + LF (MIWMAC)	CRコード(0DH)を CR + LFの改行コード (0DH, 0AH)に変換する。	CR+LFの改行コード (0DH, 0AH)をCRコ ード(0DH)に変換する。	Macのファイルを読み 込み、保存後はまた Macで使用するとき
CR CR + LF (MIWMAC1)	CRコード(0DH)を CR + LFの改行コード (0DH, 0AH)に変換する。	なし	Macのファイルを読 み込み、保存後はMac で使しないとき
行番号付加(一時) (MIWNUM)	論理行頭に行番号文字列 を付加する。	論理行頭の行番号文字列 を削除する。	-
行番号付加 (MIWNUM1)	論理行頭に行番号文字列 を付加する。	なし	-
RTF 読込 (MIWRTF)	リッチテキストファイル (* .RTF)のテキスト部 分だけを読みこみ、読み 取り専用で開く。	なし	-
UTF-8 シフトJIS (MIWUTF8)	ユニバーサル文字 (UTF-8)をシフトJIS コードに変換する。	シフトJISコードをユニ バーサル文字(UTF-8) に変換する。 ファイル先頭にBOMは 書き込まない。	ユニバーサル文字は2バ イトUNICODE(UCS- 2)のみ対応。UCS-4は 非対応。
UUENCODE (MIWUUE)	なし	UUENCODEでエンコー ドされたテキストをデコ ードしながら別ファイル へセーブする。 1度実行するとポストプ ロセッサは自動的に解除 される	-
WRI 読込 (MIWWRITE)	ライトファイル(*.WRI) のテキスト部分だけを読 み込み、読み取り専用で 開く。	なし	-



注意

巨大なファイルを開く場合には、外部プリ/ポストプロセッサを設定できません（指定されても無視されます）。これに対し、内部プリプロセッサはファイルサイズに関係なく指定することができます。

なお、編集ファイルの読み込みが終了していない状態のとき【ウィンドウ(W)】-【ウィンドウ一覧(W)】で【読込】欄が「未読」と表示されているときには、内部/外部を問わず、ファイルオープン後にポストプロセッサを変更することはできません。



メモ

外部プリ/ポストプロセッサを設定できるかどうか（巨大ファイルかどうか）は環境設定で指定します。デフォルトは200Mバイトです。

#### プリプロセッサとポストプロセッサの違い

プリ/ポストプロセッサはファイルを開く時および保存する時にテキストの変換処理を行うプロセッサです。プリプロセッサはファイルを開く時に違う形式のファイルを変換して読み込みます。ポストプロセッサはファイルを保存する時に違う形式のファイルに変換して保存します。プリ/ポストプロセッサには次の3種類があります。

- ・ファイルを開く時と保存する時の両方で機能するプリ/ポストプロセッサ
- ・ファイルを開く時のみ機能するプリプロセッサ
- ・ファイルを保存する時のみ機能するポストプロセッサ

ファイルを開く時と保存時の両方で機能するプリ/ポストプロセッサ(CR⇔CR + LF.PPPなど)はファイルを開くときにプリプロセッサとして設定すると、保存するときにも自動的にポストプロセッサとして働きます。

ファイルを開く時のみ機能するプリプロセッサ(ESCシーケンス削除.PPPなど)は、ファイルを開くときにしか機能しません。ポストプロセッサとして設定してファイルを保存しようとしても、通常の保存のみ行われます。

保存時のみ機能するポストプロセッサ(EGヘルプソート.PPPなど)は、プリプロセッサとして設定してファイルを開こうとしても通常通りにファイルが開かれます。しかし、ファイルを保存するときにポストプロセッサの機能が自動的に働いて保存されます。

## プリ/ポストプロセッサの設定

### 文字コードの自動判定について

「ファイルを開く」ダイアログボックス、「名前を付けて保存」ダイアログボックス、などのファイルを指定するダイアログボックスには、【プリプロセッサ】コンボボックスまたは【ポストプロセッサ】コンボボックスがあります。

プリ/ポストプロセッサはデフォルトでは【自動設定】になっています。【自動設定】の場合、【環境設定】 - 【拡張子】タブでデフォルトのプリプロセッサが設定されているファイルについては、そのプリプロセッサが自動的に適用されます。デフォルトのプリプロセッサが設定されていない拡張子やディレクトリ位置のファイルについては、「ファイル内容による自動コード判定」が行われます。ただし、自動コード判定を禁止する設定の場合は、判定/変換処理は行われません。ファイル内容から内部プリ/ポストプロセッサが対応している文字コードと判定されると、コード変換を行うプリ/ポストプロセッサが自動的に設定されます。

読み込み時にそれぞれのコードをシフトJISに変換し、保存時に元のコードに戻して保存されますので、文字コードの違いを意識せずにファイルを編集することができます。

ファイルを開く際の優先順位

1. 「ファイルを開く」ダイアログボックスの [ プリプロセッサ ] で指定された文字コード
2. 【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ 拡張子 ]タブで定義されたプリプロセッサ
3. 「ファイルを開く」ダイアログボックス、または、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ 拡張子 ]タブで [ ファイル内容による自動コード判定禁止 ] がONなら変換しない
4. 「ファイルを開く」ダイアログボックスの [ プリプロセッサ(P) ] が [ プリプロセッサなし ] なら変換しない

ファイル内容による自動判定はおおよそのファイル内容から判定されるものですので、常に正しく判定されるとは限りません。拡張子やディレクトリ位置によってそのファイルの文字コードが決まっている場合には、デフォルトのプリプロセッサを【環境設定(E)】 - [ 拡張子 ]タブで指定しておくことと確実です。この場合は環境設定で指定したプリ/ポストプロセッサが適用されますので、ファイル内容による自動コード判定は行われません。

ファイルを開いたときに文字化けしていたり、正しくコード判定されていなかった場合には、プリ/ポストプロセッサを指定してファイルを開きなおしてください。プリ/ポストプロセッサの指定方法は次項を参照してください。



参照

特定の拡張子やディレクトリ位置のファイルに対してデフォルトのプリプロセッサを設定することができます。詳しくは第5章「環境設定」の「拡張子」を参照してください。



メモ

[ プリ/ポストプロセッサなし ] の場合は、指定されたファイルをそのままシフトJISとしてオープン/保存します。変換処理は行われません。

## ファイルを開くとき / 保存するときに設定する

ファイルを開くときにあらかじめ文字コードがわかっている場合には、ファイルを選択するダイアログボックスで直接プリ/ポストプロセッサを指定します。この場合はファイル内容による自動コード判定は行われません。

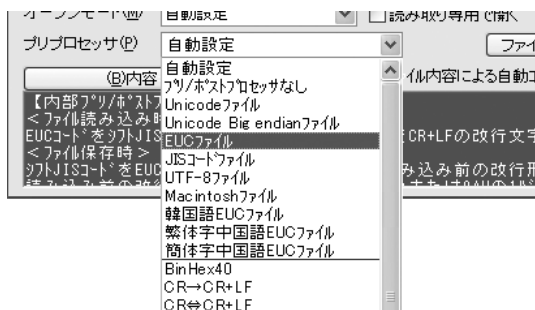
ファイルを保存するときにも、プリ/ポストプロセッサを設定できます。

ダイアログボックスの場合

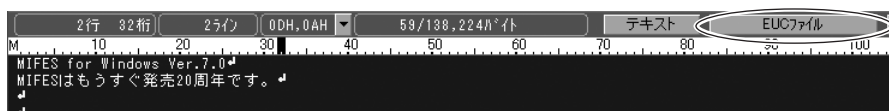
①

【ファイル(F)】-【開く(O)】で「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します。

- ② ダイアログボックス上の [ プリプロセッサ(P) ] からプリプロセッサを選択し、ファイルを開きます。



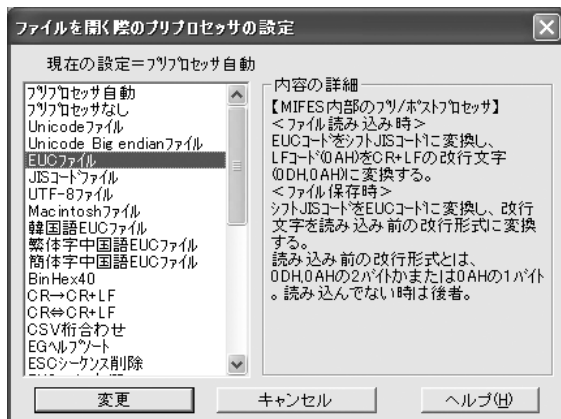
指定したファイルのコードが変換されて読み込まれます。ガイドラインを表示している場合には、設定されているプリプロセッサがボタンに表示されます。



保存する場合も、同様に【ファイル(F)】-【名前を付けて保存(A)】で表示される「保存するファイル名の指定」ダイアログボックスでポストプロセッサを選択し、ファイルを保存します。

ファイルの場合

- ① 【ファイル(F)】-【ファイル(L)】でファイルを表示し、[ F3 : プリプロセッサ自動 ] または [ PPP 自動 ] ボタンをクリックします。  
「オープン時のプリプロセッサの設定」のダイアログボックスが表示されます。



- ② 設定するプリ/ポストプロセッサを選択して [ 変更 ] ボタンをクリックします。  
③ ファイルを開きます。



プリプロセッサで変換されるテキストは保存しない限りディスクに書き込まれません。プリプロセッサを指定した場合は、変換の処理をするためにファイルを開くのが若干遅くなります。

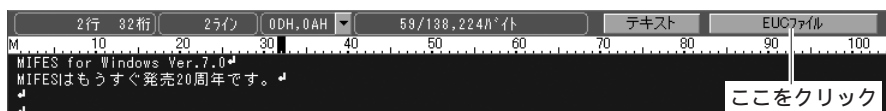
## ファイルを開いた後でプリ / ポストプロセッサを変更する

ファイルを開いた後で、プリ / ポストプロセッサを変更して指定のファイルをディスクから開き直します。編集後にこの機能を実行するとそれまでのすべての編集操作は無効になりますので注意してください。

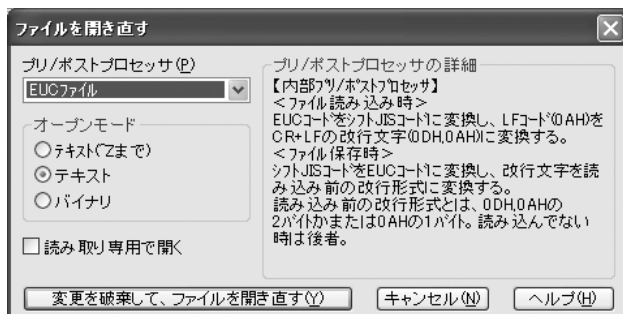
ガイドラインのボタンを使う

ガイドラインを表示する設定の場合、ボタンで簡単にプリ / ポストプロセッサを変更できます。

- 1 ガイドライン上の一番右のボタンをクリックします。



- 2 「ファイルを開き直す」ダイアログボックスが表示されます。コンボボックスから設定するプリ / ポストプロセッサを選択し、[ 変更を破棄して、ファイルを開き直す(Y) ]ボタンをクリックします。



ガイドラインには他にもオープンモードを変更するボタンがあり、カーソル位置の行数、桁数、バイト位置、コードといった重要な情報も表示されますので、表示することをおすすめします。ガイドラインの表示は【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブで設定します。

ファイルを開き直す

- 1 【ファイル(F)】-【ファイルを開き直す(G)】を選択します。
- 2 「ファイルを開き直す」ダイアログボックスが表示されます。コンボボックスから設定するプリ / ポストプロセッサを選択し、[ 変更を破棄してファイルを開き直す(Y) ]ボタンをクリックします。

## ファイルのコードを変換する

プリ/ポストプロセッサにはファイルの文字コードを変換する機能があります。ファイル読み込み時にコードを変換するプリ/ポストプロセッサを設定し、保存時に[プリ/ポストプロセッサ]を設定せずに保存すると、シフトJISコードでファイルが保存されます。

また、MIFESで編集したシフトJISコードのファイルを保存するときにコード変換のプリ/ポストプロセッサを設定すると、シフトJIS以外のコードのファイルを作成できます。

既存のファイルをシフトJIS以外のコードに変換する

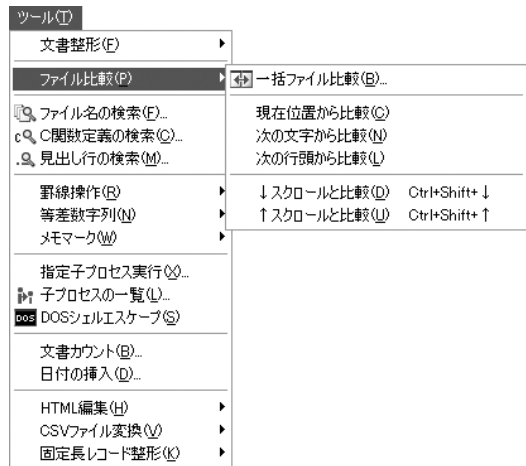
- ① 【ファイル(F)】-【開く(O)】で変換するファイルを開きます。
- ② 【ファイル(F)】-【名前を付けて保存(A)】を選択します。
- ③ 【ポストプロセッサ】を保存するコードのポストプロセッサに変更し、名前を付けて保存します。

同じ方法で、MIFESで新規に作成したファイルも別コードで保存することができます。

## ファイルを比較する

MIFESには、以下の3種類の方法でファイルを比較できます。

2つのファイルを比較して内容が違っていないかをチェックしたり、異なる部分を調べることができます。



- ・ 2つのファイルを比較し、異なる位置にジャンプする
- ・ 2つのファイルを1行ずつ同時にスクロールし、行内容が異なればストップする
- ・ 2つのファイルまたは複数のファイル全体を行単位で比較し、結果を別ウィンドウに出力する

### カーソル位置から比較し、異なる位置にジャンプする

カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウの2つのウィンドウで、現在のカーソル位置からファイルの末尾方向に向かってファイル内容を比較し、異なる位置にジャンプします。なお、カレントウィンドウ2分割時には同一ファイルでの比較はできません。

【ウィンドウ(W)】-【ウィンドウ一覧(W)】上でカレントウィンドウは、直前のカレントウィンドウはで表示されます。なお、折り返し桁位置やハードタブの桁幅などの表示フォーマットが異なるウィンドウどうしても比較できます。また、で示されるウィンドウが画面上に表示されていない場合も比較できます。

ここでは例として、2つのウィンドウを【ウィンドウ(W)】-【ウィンドウ整列(A)】-【と左右表示(L)】機能で、左右にスプリット表示しファイルを比較します。

- 1 カレントウィンドウ、直前のカレントウィンドウともに比較を開始する位置にカーソルを移動します。

下の例では、両方のウィンドウでカーソルを1行1桁目(1バイト目)にしています。

<カレントウィンドウ>

<直前のカレントウィンドウ>







桁ゲージを表示させていると、カレントウィンドウ、直前のカレントウィンドウでのカーソル位置がゲージ上で確認できます。

【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブの【桁ゲージの表示】をONにするとゲージが表示されます。

②

【ツール(T)】-【ファイル比較(P)】-【現在位置から比較(C)】を選びます。

異なるところにカーソルが移動します。

下の例では、比較前のカーソル位置から「MIFES for Windows Ver.」までは内容が同じで、次の文字が「6」と「7」で異なるために、両方のウィンドウでカーソル位置が1行23桁目に移動しています。



異なるところを見つけ、カーソルが移動する

## 続けてファイルを比較するには

続けてファイルを比較するには2通りの方法があります。文字単位で比較するときは【次の文字から比較(N)】を選び、行単位で比較するときは【次の行頭から比較(L)】を選びます。

- ・ 次の文字位置から比較する方法      【次の文字から比較(N)】を選択します。
- ・ 次の行の行頭から比較する方法      【次の行頭から比較(L)】を選択します。

## スクロールしながら行単位で比較する

カレントウィンドウと直前のカレントウィンドウの2つのウィンドウで、同時に1行スクロールし、スクロール後の表示行の内容を比較します。

比較した行が異なっていれば、ピープ音が鳴り約1秒または2秒その行でカーソルが停止します。直前のカレントウィンドウが画面上に表示されていない場合でも比較できます。

ここでは例として、2つのウィンドウを左右にスプリット表示させて、下方向にファイルを比較します。

①

カレントウィンドウ、直前のカレントウィンドウともに比較を開始する行にカーソルを移動します。比較する行内であればカーソルの桁位置を合わせる必要はありません。

②

【ツール(T)】-【ファイル比較(P)】-【スクロールと比較(D)】を選びます。

両ウィンドウでカーソル行が1行下にスクロールします。このとき、両ウィンドウの行の内容が異なっていれば、ピープ音が鳴りカーソルが1秒間から2秒間停止します。

## 続けてファイルを比較するには

「スクロールと比較」機能にはデフォルトでは [ CTRL ]+[ SHIFT ]+ [ ] キーまたは [ CTRL ]+[ SHIFT ]+[ ] キーが割り当てられています。

行内容が異なるところでカーソルが停止しても、そのまま [ CTRL ]+[ SHIFT ]+[ ] キーまたは [ CTRL ]+[ SHIFT ]+[ ] キーを押し続けていると、1, 2 秒後には次の行から比較とスクロールが続けられます。



メモ

行内容が異なる行でスクロールが停止する秒間はデフォルトでは 1 秒間です。これを 2 秒間に変更することもできます。【設定(O)】-【環境設定(E)】-[ その他 ] で設定します。詳しくは第 5 章「環境設定」の「その他」を参照してください。



ポイント

比較は行わずにカレントウィンドウと直前のカレントウィンドウで 1 行ずつ同時にスクロールだけを行うこともできます。これは DOS 版 MIFES にあった「両画面スクロール」機能です。

上方向にスクロールするには [ CTRL ]+[ PageUp ] キーを押します。

下方向にスクロールするには [ CTRL ]+[ PageDown ] キーを押します。

## ファイル内容をまとめて比較し、結果を出力する(一括比較)

2 つのファイル内容を行単位で比較して結果をウィンドウに出力します。出力結果には異なる理由とファイルの差異部分がタグジャンプ形式で出力されます。

2 つのファイルを比較する以外にも、2 つのディレクトリを指定して、その中の同名のファイルを比較することもできます。

### 出力結果の例

```
----- 以下の 2 つのファイルを一括して比較 -----
C:\Ver8.TXT
C:\Ver7.TXT
【チェック可能な最大挿入行数 = 50行】
【挿入部分終了チェックの行数 = 3行】
【大文字/小文字を区別して比較】
-----
==== 2 つのファイルの行の内容が異なる ====
C:\Ver8.TXT 1:MIFES for Windows Ver.8.0
C:\Ver7.TXT 1:MIFES for Windows Ver.7.0
==== 2 つのファイルの行の内容が異なる ====
C:\Ver8.TXT 2:MIFESはもうすぐ発売19周年です。
C:\Ver7.TXT 2:MIFESはもうすぐ発売20周年です。
```

他の比較機能「カーソル位置からの比較」、「スクロールしながら比較」と異なる点は、異なる場所が何ヶ所ある場合でも一度にファイル全体を比較し、異なる場所すべてをまとめて出力することです。他の比較機能では、異なる位置へジャンプして比較を終了したり、スクロールを停止します。

また、結果を理由付きでタグジャンプ形式により出力する点、比較するファイルを開く必要はない点、比較の方法を指定できる点、なども異なります。

- ① [ツール(T)]-[ファイル比較(P)]-[一括ファイル比較(B)]を選びます。  
「一括ファイル比較の実行」ダイアログボックスが表示されます。



- ② [比較ファイル1] [比較ファイル2] に、比較するファイル名またはディレクトリ名を指定します。



[比較ファイル1] [比較ファイル2] にはワイルドカードを指定することができます。  
ディレクトリ名やワイルドカードを指定した場合は、それぞれのディレクトリ内の同名のファイルで比較を行います。

ワイルドカードを指定する場合、以下の条件を満たすように指定してください。

1. [比較ファイル1] と [比較ファイル2] はディレクトリ位置が異なる
2. [比較ファイル1] と [比較ファイル2] は同じワイルドカードか、または、[比較ファイル1] はワイルドカードで、[比較ファイル2] はディレクトリ位置のみ。  
複数のワイルドカードを指定する場合には、半角のセミコロン ; で区切る。

- ③ [行の比較方法] を選びます。  
[大文字 / 小文字を同一視] が ON の場合は、半角の英大文字と英小文字を同じ文字と見なします。

- ④ [比較実行] ボタンをクリックします。  
「一括ファイル比較結果」ウィンドウに、比較結果を理由と差異のある部分がタグジャンプ形式で出力されます。

```
----- 以下の2つのファイルを一括して比較 -----
C:\Ver6.TXT
C:\Ver7.TXT
【チェック可能な最大挿入行数 = 50行】
【挿入部分終了チェックの行数 = 3行】
【大文字/小文字を区別して比較】

==== 2つのファイルの行の内容が異なる ====
C:\Ver6.TXT 1:MIFES for Windows Ver.6.0
C:\Ver7.TXT 1:MIFES for Windows Ver.7.0
==== 2つのファイルの行の内容が異なる ====
C:\Ver6.TXT 2:MIFESはもうすぐ発売19周年です。
C:\Ver7.TXT 2:MIFESはもうすぐ発売20周年です。
```

開きたい位置にカーソルを移動し、ダブルクリックすると、そのファイルの行にジャンプできます。

## 一括ファイル比較結果について

「一括ファイル比較結果」ウィンドウに出力される、異なる理由には以下のものがあります。

1. 比較ファイル1と比較ファイル2の同じ論理行において、行内容が異なる
2. 比較ファイル1の途中に、比較ファイル2にはない挿入行がある
3. 比較ファイル2の方が比較ファイル1より行が多い

## 挿入行のチェック方法について

「一括ファイル比較」では、単に同じ論理行番号の行を1行ずつ比較するほかに、一方のファイルにだけ挿入または削除された行があるかどうかチェックされます。挿入行のチェック方法には挿入行をチェックする行数の最大値と、チェックを終了する条件の、2つの設定項目があります。

### チェック可能な最大挿入行数

挿入のチェックを何行まで行うかを指定します。0～100行まで指定できます。0を指定すると挿入部分のチェックを行いません。

一般的に、同じ内容の行があちこちにあるファイルと比較する場合には、小さめの値を指定してください。

また、大きな挿入部分がないことが分かっている場合には、できるだけ小さな値を指定してください。

挿入部分が全くないことが分かっている場合には0を指定することもできます。



一方のファイルにのみ50行の挿入部分がある場合、[チェック可能な最大挿入行数(R)]が50であれば、挿入部分は1つとみなされます。

これに対し[チェック可能な最大挿入行数(R)]が25であれば、25行目でチェックが終わり、26行目から次のチェックが行われます。

その結果、挿入部分は2つとなります。

### 挿入部分終了チェックの行数

挿入行をチェックするときに、挿入部分から下へ何行が一致すれば挿入部分が終わったと見なすかを指定します。ここで指定した行数分が一致した箇所の直前までが挿入範囲になります。

1～30行まで指定できます。

この値を小さくし過ぎると、挿入部分を実際より小さく見誤ってしまうことがあります。逆に大きくし過ぎると、挿入部分を見過ごしてしまうことがあります。通常は3行程度にしておくといでしょう。

# イージーヘルプを使う

## イージーヘルプ辞書について

イージーヘルプ機能は、カーソル位置の1語またはカーソル直前の1語を簡単な辞書から参照する機能です。この辞書は単純なテキストファイルであるため、MIFESで簡単に作成、変更することができます。

イージーヘルプ機能のための辞書をイージーヘルプ辞書と呼びます。

イージーヘルプ辞書は、ロードディレクトリ上の拡張子が.EGHのテキストファイルです。デフォルトのイージーヘルプ辞書のファイル名はMILW.EGHですが、拡張子が.EGHであればユーザーが自由にファイル名を付けることができます。なお、MILW.EGHにはマクロ言語MIL/Wのシステム関数とシステム変数が記述されています。

辞書ファイルを作成するための書式および制限は以下のとおりです。

### 書式

- (1) 1論理行(改行から改行までの文字列)で1項目の内容を定義する。
- (2) 行頭に項目のキーワードを1つ記述する。その後、半角スペースに続けて、その項目の内容を記述する。

例 COPY 現在選択中の範囲をコピーする

キーワード 半角スペース 項目の内容

- (3) 項目の内容中で改行する場合は ¥n を指定する。文字 ¥ を記述するときは ¥¥ と2文字で指定する。タブにより桁位置を揃える場合は、¥t を指定する。

### 制限

- (1) 1ファイルは最大4096項目(論理行)まで
- (2) 項目のキーワードは最大46バイトまで
- (3) 1項目の内容(キーワードは除く)は最大4000バイトまで

辞書の検索は、カーソル位置の1語(または直前の1語)と一致するキーワードの項目をあいまい検索します。したがって辞書ファイルが大きくなってくると検索速度が低下します。そこで検索速度をあげるために、辞書ファイルを分割し、切り替えることができます。切り替えた辞書ファイルは次回起動時にも有効です。

なお、MIFESで設定中のイージーヘルプ辞書を編集して保存した場合、保存直後からその辞書の内容が有効になります。MIFESを起動し直す必要はありません。

イージーヘルプ機能には、「イージーヘルプ」ダイアログボックス上で前後の項目を参照する機能があります。そのため、この機能を使うにはイージーヘルプ辞書ファイル内の項目がソー

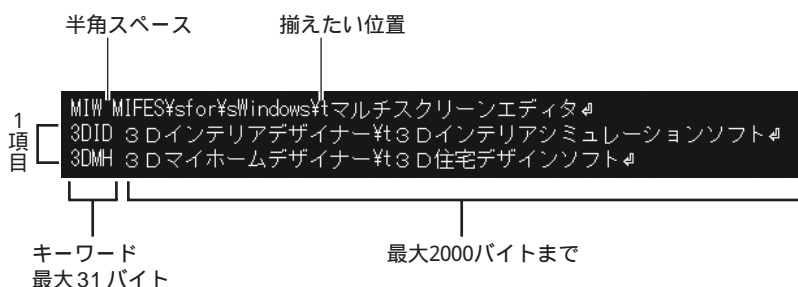
トされていると便利です。

「イーザーヘルプ」ダイアログボックスの[ソート]ボタンでソートすることもできますが、イーザーヘルプ辞書ファイルを直接編集している場合には、保存するときにポストプロセッサ(EGヘルプソート)を指定してソートすることもできます。ポストプロセッサについては第4章「コードや形式の違うファイルを変換する」を参照してください。

## イーザーヘルプ辞書を作成する

ここではイーザーヘルプ辞書に略称、製品名、ジャンルを入力しておき、略称にカーソルをあててイーザーヘルプ辞書を参照すると、該当する製品名とジャンルなどを呼び出せるようにします。

- 1 【ファイル(F)】-【新規作成(N)】を選び、略称、製品名、ジャンルの順番に製品情報を入力します。  
略称をキーワードとするので、略称と製品名の間に半角スペースを入力します。  
製品名とジャンルの間には¥(タブを示すメタ文字)を入力して、すべてのデータのジャンルの先頭位置が揃うようにします。



- 2 入力し終わったら、【ファイル(F)】-【名前を付けて保存(A)】を選び、[ポストプロセッサ(P)]から「EGヘルプソート」を選択します。
- 3 拡張子に「.EGH」を付けて、任意のファイルに保存します。  
必ずMIFES本体(MIW.EXE)のあるロードディレクトリ上に保存します。  
ここでは例としてファイル名に「製品.EGH」と付けます。



ロードディレクトリとは、通常はMIFESをインストールしたディレクトリです。「保存するファイル名の指定」ダイアログボックスの、ユーザー定義ディレクトリの[MIWディレクトリ]ボタンを押すと、ロードディレクトリに移動します。

## イージーヘルプ辞書を使う

略称にカーソルをあてて、製品のイージーヘルプ辞書から該当する製品名とジャンルなどを取り込みます。

- 1 略称の位置にカーソルを移動します。

このたびは M1W をお買い上げいただきありがとうございます。

- 2 【ヘルプ(H)】-【カーソル位置の語をイージーヘルプ(E)】を選びます。  
【辞書ファイル(D)】が「製品.EGH」になっていない場合は、「製品.EGH」に切り替えます。  
イージーヘルプのダイアログボックスが表示され、該当する略称の製品名などを参照できます。



編集ウィンドウに貼り付けるには

【テキスト中へ貼り付け(T)】ボタンをクリックすると、参照項目内で選択中の内容がカーソル位置に挿入され、ダイアログボックスが閉じます。選択中でない場合は、表示されている内容すべてが貼り付けられます。

このたびは MIFES for Windows マルチスクリーンエディタ M1W をお買い上げいただきありがとうございます。

イージーヘルプの内容をクリップボードにコピーするには

イージーヘルプの内容をクリップボードにコピーできます。参照項目の必要な内容だけをコピーするにはマウスでドラッグして範囲選択します。

1項目のすべての内容をクリップボードにコピーするには【すべて選択(A)】ボタンをクリックし、【クリップボードへコピー(C)】ボタンをクリックします。

【閉じる】ボタンをクリックするとイージーヘルプを閉じます。挿入したい位置にカーソルを移動して【貼り付け(P)】すると参照内容が複写されます。



MIFES には、標準で次の 3 つのイーザーヘルプ辞書ファイルが同梱されています。

- HTML.EGH

HTML のタグが記述されています。

- MILW.EGH

MIFES のマクロ言語 MIL/W のシステム関数とシステム変数が記述されています。

- WIN32.EGH

Windows API の関数が記述されています。



## 第5章 さまざまな使い方

この章では、多種多様な MIEFS の機能や、環境設定の項目を説明しています。

### 目次

キーワードの追加・変更 (文字列の色分け表示).....	162	環境設定 .....	180
キーワード定義の適用方法 .....	162	表示タブ .....	180
キーワードの色について .....	164	動作タブ .....	185
定義を追加、変更する .....	164	フォントタブ .....	192
定義内容について .....	166	ツールバータブ .....	194
.....		カラータブ .....	198
C 言語関数定義位置の検索 .....	169	その他タブ .....	200
.....		拡張子タブ .....	208
見出し行の検索 .....	171	起動タブ .....	212
.....		.....	
MIFES から他のプログラムを 実行する .....	173	コマンドラインからの起動 .....	217
子プロセスを登録する .....	173	.....	
子プロセスを実行する .....	176	常駐設定 .....	219
.....		MIFES を常駐させる .....	219
DOS のコマンドを使う .....	177	タスクトレイからの起動方法 .....	221
「DOS シェルエスケープ」ウィンドウを開く ...	177	常駐を解除する .....	221

## キーワードの追加・変更（文字列の色分け表示）

特定の文字列や、プログラムソースの関数名やタグ名などを通常の文字列とは異なる色で表示することができます。

色分け表示することで、見やすくなり、またスペルミス（誤字脱字など）をチェックすることができます。

色分けできるキーワードはファイルの拡張子に対して4つのグループに分けて定義できます。また、それとは別にコメント行や文字列定数、ホームページアドレスなどを色分け表示することができます。

### キーワード定義の適用方法

インストール直後のデフォルト状態では、MIFES 内部に定義情報がある5個の内部定義と、16個の外部定義があります。

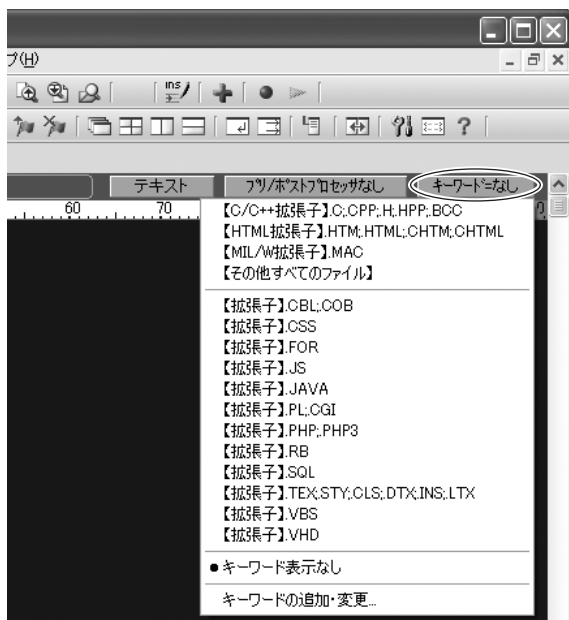
各定義は拡張子に対する定義で、その中で「適用」状態にあるものは、ファイルを開くときに自動的に適用され色分け表示されます。



インストール時やカスタマイズ情報（MIW.INI ファイル）を削除後に、外部定義が登録されていないときは、【設定(O)】-【カスタマイズファイルの読み書き(F)】で「キーワード\_標準.INI」の「キーワード定義」だけを読み込んでください。

カスタマイズファイルの読み込みについては、第4章カスタマイズファイルの読み込みを参照してください。

また、カレントウィンドウが拡張子が未設定のファイル（新規ファイルなど）でも、ガイドラインの [ キーワード' =\*\*\* ] ボタンをクリックし、リストの中から定義を選択して適用することができます。



メモ

【HTML 埋め込みスクリプト】は、【HTML 拡張子】定義で設定されている拡張子のファイル内にある埋め込みスクリプト内に適用されます。

【HTML 埋め込みスクリプト】の定義で、拡張子を指定することはできません。

## キーワード定義の適用方法

- ① 【設定(O)】-【キーワードの追加・変更(W)】を実行します。  
「キーワードの追加・変更」ダイアログボックスが表示されます。
- ② 適用または適用を解除したい定義を選択し、[ 定義の変更 ] ボタンをクリックします。  
「キーワード定義の変更」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ [ ファイルを開く際に自動で適用する ] のチェックを ON / OFF し、[ OK ] ボタンをクリックします。
- ④ 「キーワードの追加・変更」ダイアログボックスの [ 閉じる ] ボタンをクリックして終了すると、カレントウィンドウに適用されます。

## キーワードの色について

キーワードは各定義ごとに4つのグループに分けて登録し、このグループごとに色を設定することができます。

例えば、【HTML 拡張子】と【HTML 埋め込みスクリプト】を適用しているとき、【HTML 拡張子】のグループ1と【HTML 埋め込みスクリプト】のグループ1は同じ色で表示されます。

### 色の変更の操作

- ① 【設定(O)】-【キーワードの追加・変更(W)】を実行します。  
「キーワードの追加・変更」ダイアログボックスが表示されます。
- ② [キーワードの色] 欄から変更したい項目の色を選択し、[色を変更] ボタンをクリックします。
- ③ 「色の指定」ダイアログボックスで変更したい色を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
- ④ 「キーワードの追加・変更」ダイアログボックスの[閉じる] ボタンをクリックして終了すると、カレントウィンドウに適用されます。



【設定(O)】-【環境設定(E)】-[カラー]タブでもキーワードの色を変更することができます。

## 定義を追加、変更する

新規キーワード定義を追加し、定義に適用される拡張子やキーワードを追加します。

ここでは例として、拡張子「.TXT」に適用される新しい定義を作成し、キーワードに「MIFES」と「エディタ」を定義します。

また、ホームページのアドレスと、メールアドレスを明示する設定にします。

定義内容の詳細については、次の「定義内容について」を参照してください。

- ① 【設定(O)】-【キーワードの追加・変更(W)】を実行します。  
「キーワードの追加・変更」ダイアログボックスが表示されます。
- ② 【未定義】を選択し [定義の変更...] ボタンをクリックします。  
既存の定義に追加・変更したいときは、その定義を選択し、[定義の変更...] ボタンをクリックします。  
「キーワード定義の変更」ダイアログボックスが表示されます。



外部定義の20個がすべて定義された状態で新しい定義を作成したいときは、既存の定義の中で不要なものを [定義の削除(D)] で削除し、【未定義】にしてください。

ただし、内部定義は設定内容を変更（拡張子やキーワードを追加するなど）できませんが、定義そのものは削除できません。

3

[ 拡張子 ] を選択し、対象となる拡張子を入力します。

ここでは、「.TXT」と入力します。



- ・拡張子定義では、ファイル名の最後の部分が定義された文字列のどれかと一致したときに適用されます。例えば、定義分類に「C」と定義すると、拡張子が「.C」のみでなく「.DOC」や拡張子のない「ABC」というファイルにも適用されます。拡張子には必ず「.」に続けて定義してください。
- ・複数の拡張子を指定することもできます。複数指定するときは、半角セミコロン;で区切って入力します。区切り文字の半角セミコロン (;) やピリオド (.) も含み、全体で31バイトまで指定できます。

4

[ その他 ] の [ ホームページ / メールアドレスを明示する ] にチェックをつけます。

5

キーワードを登録します。

ここでは、「キーワード1」を選択し、「キーワード1の定義(K)」に「MIFES」と「エディタ」を半角スペースで区切って入力します。

6

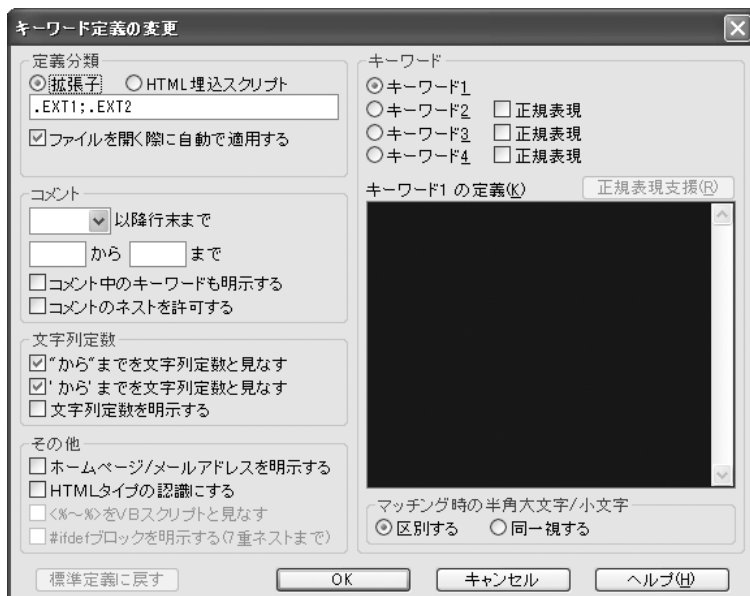
[ OK ] ボタンをクリックします。

7

「キーワードの追加・変更」ダイアログの [ 閉じる ] ボタンをクリックします。

## 定義内容について

「キーワード定義の変更」ダイアログボックスで設定できる定義項目は次のとおりです。



メモ

内部定義については、[標準定義に戻す] ボタンをクリックしてインストール直後の設定状態に戻すことができます。

## 定義分類

キーワード定義を適用するファイルの条件を設定します。

いずれかを選択し、拡張子またはスクリプトの宣言タグを入力します。

## 「ファイルを開く際に自動で適用する」

- ・チェックをつけると、[定義分類] で指定した条件にあったファイルを開くときに自動的にその定義が適用されます。

[HTML埋込スクリプト] の定義は、内部定義【HTML拡張子】で定義されている拡張子のファイルを開いたときに適用されます。

- ・チェックをはずすと、ファイルを開くときには定義は適用されません。

その場合は、ガイドラインの [キーワード=\*\*\*] ボタンをクリックして、リストから適用したい定義を選択して適用することができます。

- ・HTML埋込スクリプトは、内部定義【HTML拡張子】で定義されている拡張子のファイル内に、ここで指定したスクリプトの定義文（例：<JavaScript>）から対になるタグ（例：</JavaScript>）までの部分に適用されます。

## コメントの定義

定義分類「拡張子」にはコメント行についての定義ができます。設定内容によりコメント部分特定の色で明示することができます。

それぞれ必要項目を設定してください。

- ・「…」以降行末まで  
半角文字で最大4文字まで指定できます。全角文字は指定できません。なお、行末コメント開始記号として、下記のメタ文字をリストから選択できます。  
¥F (Fortran用) : 論理行頭にある半角のC、c、\*と、任意の位置の半角! を行末コメント開始記号と見なします。  
¥P (Perl用) : 半角# を行末コメント開始記号と見なします。ただし、半角# の直前が半角\$ だった場合は、コメント開始記号とは見なしません。
- ・コメント開始/終了記号(「...から...まで」)  
半角文字で最大4文字まで指定できます。全角文字は指定できません。
- ・コメント中のキーワードも明示する  
チェックをつけると、コメントの中のキーワードも明示します。
- ・コメントのネストを許可する  
最大3重ネストまで認識します。
- ・スクリプト中のコメントタグも明示する  
チェックをつけると適用の【HTML埋込スクリプト】の中のコメントタグもコメントタグ色で明示します。  
ただし<%-- と--%> は、常にコメント色で表示されます。  
【HTML拡張子】のキーワード定義の場合のみ設定できる項目です。

## 文字列定数

文字列定数についての設定を行います。

- ・ホームページ/メールアドレスを明示する  
チェックをつけると、テキスト中にあるホームページアドレスとメールアドレスを明示(色分け表示)します。  
「コメント中のキーワードも明示する」を指定すると、この「ホームページアドレス/メールアドレスも明示する」にチェックが付きます。
- ・HTMLタイプの認識にする  
チェックをつけると、タグ内にあるキーワードのみを対象とし、タグの外にあるキーワードは明示しません。  
HTMLのように、すべてタグ(< >)の中にキーワードがある場合には、この項目にチェックをつけます。

- ・ <% ~ %> を VB スクリプトと見なす  
<%と%> で囲まれた中をすべて VB スクリプトと見なします。  
この指定は「HTML タイプの認識をする」にチェックがついているときだけ指定できます。
- ・ #ifdef ブロックを明示する  
最大7重ネストまで認識します。

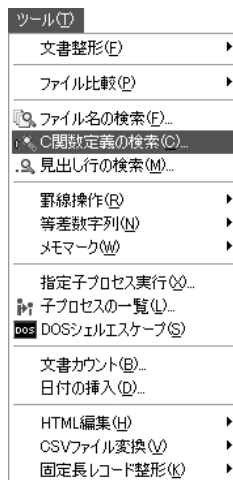
## キーワード1 ~ 4

- ・ キーワードを定義します。  
キーワードは、半角スペースで区切って複数定義することができ、4つのグループのキーワードの合計が、区切り文字の半角スペースを含めて最大で約4000バイト、約900語まで定義できます。
- ・ 半角文字のキーワードは通常、語として認識されます。  
前後が行頭、行末、半角のデリミタ文字、制御コード、全角文字であった場合のみ、語として認識し、キーワードとして明示します。  
例えば、「IF」という文字列をキーワード定義したとき、文字列「MIFES」の中の「IF」はキーワードとは見なしません。
- ・ 全角文字、半角特殊記号、正規表現で指定されたキーワードは、語として認識しません。  
そのため、キーワード文字列がどこにあってもキーワードとして明示します。  
ただし、[HTML タイプの認識をする]にチェックをつけた場合は、タグ内(< ~ >)にある全角文字のキーワードは語として認識します。
- ・ キーワード2 ~ 4は正規表現でキーワードを指定することもできます。  
正規表現で1つのグループ内にキーワードを複数定義する場合は、キーワード中の半角スペースは必ずメタ文字「¥s」で指定してください。  
正規表現について詳しくは第3章「文字列を検索する」またはヘルプを参照してください。  
また、[正規表現支援(R)]ボタンをクリックすると、「正規表現入力ダイアログボックス」で正規表現を入力することができます。
- ・ 半角英字の大文字 / 小文字の区別を指定できます。  
[マッチング時の半角大文字/小文字]で、キーワードの中の半角英字の大文字 / 小文字の区別について設定します。



## C 言語関数定義位置の検索

複数のファイルから、C 言語の関数定義位置を検索し、関数名と定義位置の情報をリストウィンドウに出力します。  
出力結果のリストから、関数定義位置へジャンプします。



- 1 【ツール(T)】-【C関数定義の検索(C)】を実行します。  
「C言語関数定義位置の検索」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「検索の対象となるファイル」を指定します。

ディレクトリ位置(D)

検索の対象となるファイルのディレクトリ位置を指定します。

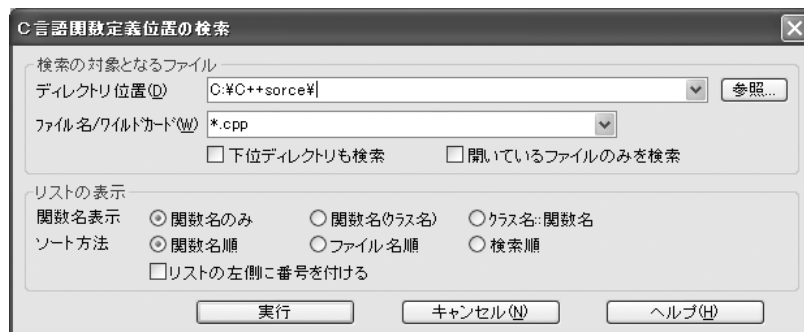
「下位ディレクトリも検索」にチェックをつけると、指定したディレクトリの下位ディレクトリも検索します。

ファイル名/ワイルドカード(W)

検索の対象としたいファイル名を指定します。ファイル名はワイルドカードで指定することもできます。

複数のファイル名を指定するときは、半角 ; (セミコロン) で区切って指定してください。

指定したファイルの中で、現在 MIFES で開いているファイルだけを検索したいときは、「開いているファイルのみを検索」にチェックをつけます。



- 3 リストの表示形式を指定します。

関数名表示

結果リストの表示形式を指定します。

ソート方法

結果リストの表示順を指定します。

「リストの左側に番号をつける」にチェックをつけると、結果リストの左側に 1 ~ の番号をつけます。



C++ 言語では、小さなメンバ関数をインライン関数とするためにクラス宣言の中に定義する場合がありますが、そのようなメンバ関数の定義位置（クラス宣言内の位置）は探し出すことはできません。クラス宣言の外で定義されたメンバ関数のみを探し出します。なお、非メンバ関数の場合は常に関数名のみの表示となります。

- extern "C" {} などのリンケージ指定の中（{ } と）の中に定義された関数も検索できます。（MIFES for Windows Ver.5.06 以降の仕様）
- 関数定義位置を探し出す際、コメントのネスティングは禁止されているものと見なします。

4

[実行] ボタンをクリックします。

リストウィンドウに検索結果が表示されます。

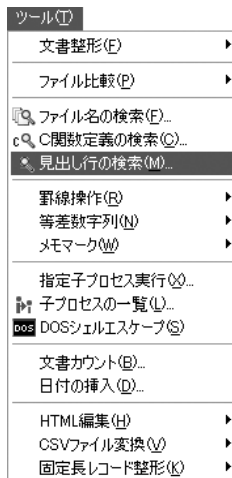


5

リストウィンドウで目的の関数定義位置をダブルクリックすると、そのファイルがカレントウィンドウに表示され、指定した関数定義位置にカーソルが移動します。

## 見出し行の検索

複数のファイルから、行頭に指定したマークや文字列がある行（見出し行）を検索し、リストウィンドウに出力します。出力結果のリストから、見出し行へジャンプします。



①

【ツール(T)】-【見出し行の検索(M)】を実行します。「見出し行の検索」ダイアログボックスが表示されます。

②

「検索の対象となるファイル」を指定します。

ディレクトリ位置(D)

検索の対象となるファイルのディレクトリ位置を指定します。

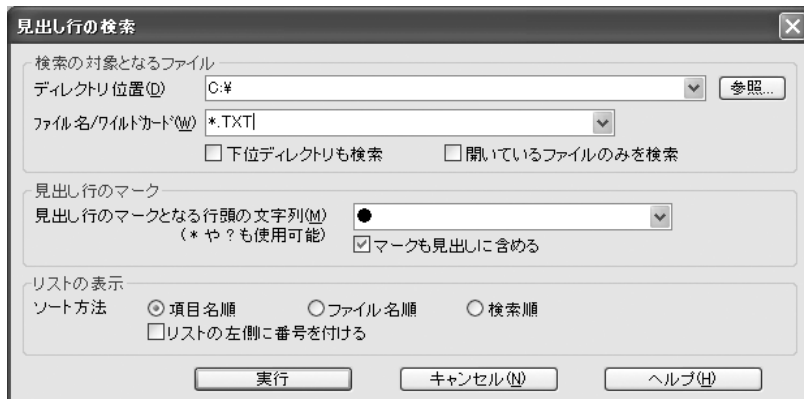
「下位ディレクトリも検索」にチェックをつけると、指定したディレクトリの下位ディレクトリも検索します。

ファイル名/ワイルドカード(W)

検索の対象としたいファイル名を指定します。ファイル名はワイルドカードで指定することもできます。

複数のファイル名を指定するときは、半角；（セミコロン）で区切って指定してください。

指定したファイルの中で、現在MIFESで開いているファイルだけを検索したいときは、「開いているファイルのみを検索」にチェックをつけます。



③

見出し行のマークを指定します。

マーク文字列を指定する場合、以下のワイルドカード（メタ文字）を使用することができます。

? : 任意の1文字を表します。半角も全角も1文字と見なします。

\* : 0文字以上の任意の文字列を表します。1つのマーク文字列の中に\*は1つだけ指定できます。

マーク文字列も結果のリストに含めたいときは、[ マーク文字列を項目名に含める ] にチェックをつけてください。



ワイルドカードで使用するメタ文字をマーク文字列として指定したいときは、マーク文字の前に"¥"を付けてください。

- 文字? : ¥?
- 文字\* : ¥\*
- 文字¥ : ¥¥

4

リストの表示形式を指定します。

見出し行の表示

結果リストの表示形式を指定します。

ソート方法

結果リストの表示順を指定します。

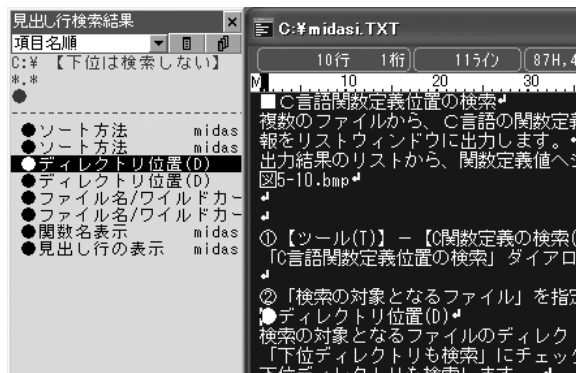
リストの左側に番号をつける

チェックをつけると、結果リストの左側に1～の番号がつかます。

5

[実行] ボタンをクリックします。

リストウィンドウに検索結果が表示されます。



6

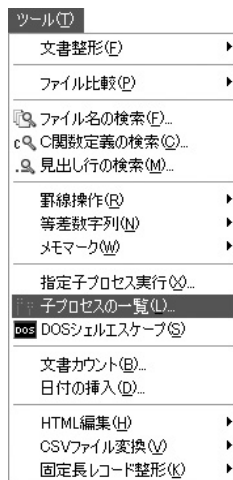
リストウィンドウで目的の見出し行をダブルクリックすると、そのファイルがカレントウィンドウに表示され、指定した見出し行の位置にカーソルが移動します。

## MIFES から他のプログラムを実行する

MIFESには子プロセスという機能があり、この機能を使うと、MIFESの中から別のプログラムを起動することができます。

子プロセスはライブラリファイル(MIW.LIB)に最大49個まで登録できます。このMIW.LIBには子プロセス以外にも、キーボードマクロや外部マクロコマンドなどが登録されます。

ライブラリに登録していると、ユーザー定義バーや右クリックメニューなどに子プロセスを割り付けることもできます。



### 子プロセスを登録する

ここでは、カレントのC言語のファイルをコンパイルする子プロセスを新規に登録する方法を説明します。

①

【ツール(T)】-【子プロセスの一覧(L)】を選びます。  
「子プロセス一覧」ダイアログボックスが表示されます。



2

[追加(A)] ボタンをクリックします。  
「子プロセスの登録」ダイアログボックスが表示されます。

子プロセスの登録

子プロセス説明文(T) カレントファイルをCコンパイル

実行コマンド(C) cl.exe /c %f.c 参照...

実行時ディレクトリ(D) 参照...

実行後開くファイル(O)

子プロセスの標準出力を「実行後開くファイル」にリダイレクト

実行前に全ウィンドウを保存  実行前にカレントウィンドウを保存

COMMAND.COMを介して子プロセス実行  DOSシェルエスケープ上で実行

登録 キャンセル ヘルプ(H)

3

[子プロセス説明文(T)] テキストボックスに、登録する子プロセスのタイトルを指定します。  
このタイトルがライブラリから実行する場合や、キー、ユーザー定義パーなどに割り付けると  
ときに表示されます。  
ここでは例として、「カレントファイルをCコンパイル」と入力しています。

4

[実行コマンド(C)] に、登録するプログラムのコマンドを指定します。  
ここでは例として、「cl.exe /c /j%f.c」と入力しています。

5

各項目を指定し終わったら、[登録] ボタンをクリックします。  
項目内容について詳しくは次頁を参照してください。

この子プロセスの場合は、[DOSシェルエスケープ上で実行] を指定していますので、子プロ  
セス実行後、MIFESのウィンドウ(DOSシェルエスケープ上)に、子プロセスの標準入出力が  
リダイレクトされます。

また、[実行コマンド(C)] の展開記号に %f.c を指定していますので、ファイル名の拡張子が  
.c以外の場合は子プロセスの実行ができません。



子プロセス登録番号(機能番号)は子プロセスが登録されると自動的に割り当てられます。

## 設定する項目

[子プロセス説明文(T)]、[実行コマンド(C)] テキストボックス以外は必要に応じて指定して  
ください。

その他の項目の概要は以下のとおりです。詳しくはヘルプを参照してください。

[実行前に全ウィンドウを保存] と [実行前にカレントウィンドウを保存]

子プロセスを実行する前に、現在MIFESで開いているすべてのウィンドウ、またはカレント  
ウィンドウの内容を保存後、子プロセスを実行します。

ただし、「新規：nn」ウィンドウや読み取り専用のウィンドウなど、自動的に保存できないウ  
ィンドウについては保存しません。

また、ファイルの保存時にエラーが発生した場合には子プロセスは実行しません。

### 【実行コマンド】

実行するDOSコマンドまたはWindowsのコマンドを指定します。

実行コマンドには以下の展開記号が指定できます。必要に応じて指定してください。

展開記号	意味
%f	カレントウィンドウのファイル名（絶対パス名）に展開します。カレントウィンドウが「新規：nn」ウィンドウの場合は展開できません。
%f.ext	extの部分には拡張子を記述します。カレントウィンドウのファイル名（絶対パス名）に展開します。カレントウィンドウが「新規：nn」ウィンドウの場合は展開できません。ただし、ファイル名が指定した拡張子以外の場合は、子プロセスは実行されずエラーメッセージが表示されます。拡張子は大文字と小文字の区別をしません。
%F	カレントウィンドウのファイル名(単純ファイル名)に展開します。カレントウィンドウが「新規：nn」ウィンドウの場合は展開できません。
%l	カレントウィンドウのテキストカーソル位置の行の内容に展開します。ただし、改行文字や制御文字は展開しません。
%w	カレントウィンドウのテキストカーソル位置からの1語分の文字列に展開します。
%i	ユーザーが入力した文字列が展開記号の位置に展開します。子プロセス実行時に、専用ダイアログボックスが表示されます。そのダイアログボックスに文字列を入力します。



**展開後の文字列は最大128バイトまで指定できます。最大サイズを超えると、自動的に子プロセスの実行を中止し、エラーメッセージを表示します。**

【COMMAND.COMを介して子プロセス実行】と【DOSシェルエスケープ上で実行】

この2つのオプションのどちらを指定しても、COMMAND.COMを介して子プロセスを実行します。

【COMMAND.COMを介して子プロセス実行】を指定した場合は、環境変数COMSPECを参照してCOMMAND.COMを探し、コマンド文字列の先頭に自動的にその絶対パス名とオプション記号"/C"を挿入します。

【DOSシェルエスケープ上で実行】を指定すると、子プロセスの標準の入出力は自動的にMIFESのウィンドウにリダイレクトされます。

そのため、【子プロセスの標準出力を「実行後開くファイル」にリダイレクト】を指定する必要はありません。

【実行時ディレクトリ】

子プロセス実行前に、カレントディレクトリを指定したディレクトリに変更できます。

子プロセスで参照や編集したいファイルのあるディレクトリを指定すると、子プロセスの中でそのファイルの指定や、【実行後開くファイル】の指定が単純ファイル名で指定できます。

〔実行後開くファイル〕

子プロセス実行後に、指定したファイルを自動的に開きます。

ファイル名に相対パス名または単純ファイル名で指定した場合には、〔実行時ディレクトリ〕に指定したディレクトリからの相対パス名と見なします。



メモ

子プロセスの標準出力とは関係ないファイルを「実行後開くファイル」に指定することもできます。



注意

指定されたファイルがすでにMIFESで開かれている場合には、そのウィンドウをカレントウィンドウにし、さらに「ファイルを開き直す」機能を実行します。このとき、変更操作があっても確認のメッセージは表示されませんので注意してください。

## 子プロセスを実行する

ライブラリから実行する場合は、【ツール(T)】-【子プロセスの一覧(L)】を選び、「子プロセス一覧」ダイアログボックスから選択して実行します。

直接、子プロセスを実行する場合は、【ツール(T)】-【指定子プロセス実行(X)】を選び、〔実行コマンド(C)〕などに指定して実行します。

ライブラリに登録した子プロセスはキーやユーザー定義バーなどに割り付けることができます。割り付け方法については、以下のページを参照してください。

「キーの割り当てを変更する」(P.125)

「ユーザー定義バーを設定する」(P.135)



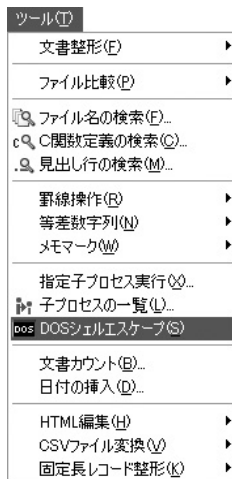
## DOS のコマンドを使う

「DOS シェルエスケープ」ウィンドウから直接DOSのコマンドを実行することができます。結果も「DOS シェルエスケープ」ウィンドウにテキストとして出力されます。

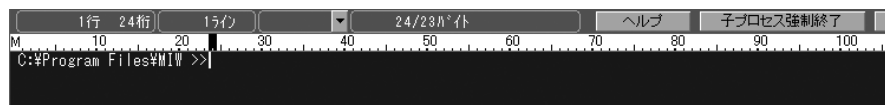
[Enter] キー以外のキー操作はすべて通常の編集ウィンドウと同様ですので、文字列を編集したり、ウィンドウの内容をファイルに保存することも可能です。

### 「DOS シェルエスケープ」ウィンドウを開く

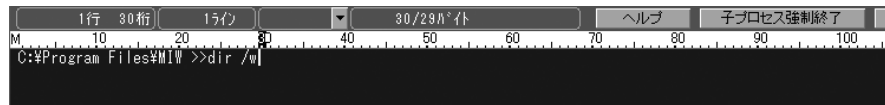
「DOS シェルエスケープ」ウィンドウがすでに開いている場合には、そのウィンドウに切り替えます(「DOS シェルエスケープ」ウィンドウは1つしか開けません)。



- 【ツール(T)】-【DOS シェルエスケープ(S)】を選びます。  
DOS シェルエスケープ のウィンドウが表示されます。



- コマンドを入力して [Enter] キーを押します。  
ここでは例として「DIR /W」コマンドを入力しています。



ファイル一覧の詳細が表示されます。





#### コマンド入力のしかた

コマンドは必ずしもプロンプトの直後に入力する必要はありません。カーソルが行末にあるときに [Enter] キーを押すとその行の内容をコマンドとして実行します。(カーソルが行末にない場合は、[Enter] キーを押すと改行します。)

コマンド(子プロセス)の実行は、通常はCOMMAND.COM(またはCMD.EXE)を介して実行されます。

COMMAND.COMの外部コマンドの場合は、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[その他]タブの「DOSシェルエスケープにおいて外部コマンドを直接実行する」がONの場合にはCOMMAND.COMを介さずに直接実行されます。

子プロセスが終了すると、プロンプトが表示されます。子プロセスの実行中にキーが押された場合には、実行中の子プロセスの標準入力にキー入力された内容が与えられます。

- ・DOSのコマンドには、COMMAND.COM(またはCMD.EXE)の内部コマンドと、それ以外の外部コマンドがあります。

以下のコマンドはCOMMAND.COMの内部コマンドで、これら以外のコマンドは外部コマンドです。

BREAK、CD、CHDIR、CLS、COPY、CTTY、DATE、DEL、DIR、ERASE、EXIT、LOADHIGH、MD、MKDIR、PATH、PROMPT、RD、REN、RENAME、RMDIR、SET、TIME、TYPE、VER、VERIFY、VOL

- ・次のCOMMAND.COMの内部コマンドは、MIFESが直接実行しています。(COMMAND.COMを介していません。)

CD、CHDIR、CLS、EXIT、PATH、SET

#### 編集操作

キー操作はすべて通常の編集ウィンドウと同様です(DOSのテンプレート機能はMIFESのメニューキーの割り当てがあるために働きません)。コマンドの入力間違いも簡単に訂正して再入力できます。ファイル名のリスト表示や内容表示などで画面がスクロールして前の部分が消えてしまっても、スクロールアップすると表示できます。

#### 保存と印刷

「名前を付けて保存」機能でDOSシェルエスケープウィンドウの内容を保存することができます。

また、DOSシェルエスケープウィンドウの内容を印刷することもできます。DIRコマンドを実行したあとに、不要な部分を削除してファイルの一覧を印刷することもできます。

#### [子プロセス強制終了] ボタンについて

COMMAD.COMを介さずにMIFESが直接実行したコマンドは、COMMAND.COMの内部コマンド、バッチファイルから実行したコマンド、DOSアプリケーションを除き[子プロセス強制終了]ボタンで強制終了させることができます。



DOS シェルエスケープで使用できるコマンドは、標準出力（通常は画面）に文字のみを出力するコマンドに限られます。

新しいウィンドウを起動したり、標準出力以外へ出力を行う機能を実行すると、DOS シェルがハングアップすることがありますので、十分注意してください。

DOS シェルがハングアップしたときは、DOS シェルエスケープで実行した別のウィンドウ（プログラム）を終了するなどして、システムを再起動してください。

実行できるコマンド 例) CD、COPY、DIR、MAKE、MKDIR、PATH、REN、SET など  
実行できないコマンド 例) COPY CON、MIFES.EXE など

## 環境設定

ここでは、【設定(O)】-【環境設定(E)】で設定できる項目について説明しています。

「環境設定」ダイアログボックスを表示した時点で設定できない項目は、表示されません（グレーで表示されます）。

例えば、パイナリモード時にガイドラインを非表示にすることはできません。そのため、【設定(O)】-【環境設定(E)】-[表示]タブの[ガイドライン表示]は設定できないようになっています。

設定した内容は[OK]ボタンをクリックすることで、記録され、一部の設定は適用されます。[キャンセル]ボタンをクリックすると、設定内容はすべてキャンセルされます（環境設定ダイアログボックスを開いた状態のままです）。



変更した環境設定の設定内容は、カスタマイズファイルに書き出すことで次回以降に引き継ぐことができるようになります。

環境設定を変更した場合は、[環境設定] - [起動]タブの[高度な設定]ボタンから「起動/終了時のカスタマイズファイルの使用方法」でカスタマイズファイルに書き出す設定にしてください。

## 表示タブ



[表示]タブ内の項目名については、第1章「画面各部の説明」や第4章「画面の表示を変更する」を参照してください。

## カレントウィンドウの表示 以降に開くウィンドウにも同じ設定を適用する

- ・チェックをつけると、以降に開くウィンドウも、以下の設定内容で表示されます。  
(すでに表示されている他のウィンドウには適用されません。)
- ・チェックをはずすと、カレントウィンドウ(現在カーソルのあるウィンドウ)のみに適用されます。

## 行ゲージ(テキストモード)/アドレスゲージ(バイナリモード)

行ゲージ(テキストモード時)

- ・チェックをつけると、行ゲージを表示します。  
さらに、論理行番号/表示行番号のどちらで表示するか、行ゲージの表示桁を設定します。  
アドレスゲージ(バイナリモード時)
- ・バイナリモードでは、アドレスゲージが表示され、各行の左端位置のアドレスが表示されます。  
また、アドレスゲージの表示桁を変更することができます。  
(アドレスゲージを非表示にはできません。)

## 桁ゲージ

桁位置を表すゲージです。チェックをつけると編集ウィンドウの上に表示されます。  
桁ゲージ上には、ソフトタブ位置をあらわす記号と折り返し桁位置を表す記号が表示されます。  
桁ゲージに表示される記号は次のとおりです。

- ▴ : ソフトタブ動作時のソフトタブ位置
- ▬ : ハードタブ動作時で、背景縦罫線が「ソフトタブ位置に表示」のときのソフトタブ位置
- ◀ : 折り返し桁位置

## ガイドライン(カーソル位置情報等の表示)

ガイドラインは、編集ウィンドウの上に表示される領域で、カーソル位置の行番号・桁番号、バイト位置、ファイルの総バイト数などが表示されます。  
チェックをつけると、ガイドラインを表示します。  
ガイドラインにはさまざまな情報が表示されていますので、なるべく表示してお使いください。

## 垂直スクロールバー

縦方向にスクロールするためのスクロールバーです。  
ファイル全体のどのあたりにカーソルがあるかも、スクロールバーで確認することができます。

## 水平スクロールバー

横方向にスクロールするためのスクロールバーです。

## カーソル行アンダーライン

カーソル位置の行に常に表示するアンダーラインです。

## カーソル桁パーティカルライン

カーソル位置に表示するパーティカルライン（縦線）です。

パーティカルラインは、カーソル位置の文字の左側（カーソルの位置）に「1本」、またはカーソル位置の文字の前後に「2本」表示することができます。

## 背景横罫線

各行の下に表示する横罫線です。

横罫線を表示する際には、[ フォント ] タブで最低行間を調整する（4ピクセル程度）と見やすくなります。

## 背景縦罫線

特定の桁位置に表示する縦罫線です。

表示する桁位置はリストから選択して設定することができます。

## 変更のある行

ファイルを開いてから変更操作のあった行を通常のテキスト表示とは異なる色で表示します。

[ 動作 ] タブの「保存時に変更行をクリア」がONのときは、ファイルを保存すると変更行の明示状態（色が変わった状態）がクリアされます。

なお、【編集(E)】-【元に戻す：UNDO(U)】機能で変更操作を元に戻した場合も、変更行として明示されたままになります。

## 改行文字

改行文字をあらわす記号です。

MIFESでは、次の2つの改行コードを扱うことができ、それぞれ異なる記号で表示します。

↵ : CRコードとLFコードが連続したもの。通常は [ Enter ]キーで挿入できます。

↓ : LFコードが単独のもの。【編集(E)】-【制御コードの挿入(H)】機能で「0A」で入力できます。また、プリプロセッサ「改行はLFのみ」を指定してファイルを開いたときは [ Enter ]キーで挿入できます。



検索文字列などのメタ文字「¥n」はどちらの改行文字にもマッチします。

## 折り返し位置

編集ウィンドウ内で、「折り返し桁位置」よりも文字数が多い行の折り返し位置に ◀ を表示します。

## 全角スペース

全角スペース文字を記号で明示します。

デフォルトの記号は「」ですが、[ 明示用文字の変更 ] ボタンで変更することができます。

明示する記号は「特殊文字」として扱われます。色を変更したいときは「特殊文字表示色」を変更してください。

## ハードタブ

ハードタブ(タブコード)を記号で明示します。

デフォルトの記号は「`>.....`」ですが、[ 明示用文字の変更 ] ボタンで変更することができます。

明示する記号は「特殊文字」として扱われます。色を変更したいときは「特殊文字表示色」を変更してください。

[ Tab ]キーを押したときにソフトタブ(半角スペースを設定桁数分挿入する)動作にしたいときは、[ 動作 ]タブの「Tabキーはソフトタブ動作」を設定してください。

ソフトタブ動作が設定されているときも、すでに挿入されているタブコードは記号で明示することができます。

## [ EOF ] マーク

ファイルの最後を表すマークです。

## 対応括弧の明示

カーソル位置の括弧に対応する括弧を明示します。  
ただし、明示できるのは対応する括弧が画面内にあるときだけです。  
また、対応する括弧が同一行内で、10桁以内にある場合は、明示しません。  
対応括弧の明示は、反転表示 / 枠で表示をリストから選択して変更することができます。

## 括弧の検索/明示でコメントおよび文字列定数中を無視する

・チェックをつけると、【検索・置換・ジャンプ(S)】-【括弧の検索(K)】機能と、「対応括弧の明示」の設定時に、次の場所にある括弧を無視します。

コメント内の括弧

文字列定数内の括弧

コメント、文字列定数ともカレントウィンドウに【キーワードの追加・変更】機能の定義が適用されている場合に限りです。

また、カーソル位置の括弧が上記の場所にある場合は、【括弧の検索(K)】機能は実行されません。

・チェックをはずすと、1文字の文字定数中の括弧（'(' や ')' など）のみを無視します。

## ハードタブ桁間隔

ハードタブ桁間隔をリストから設定します。

## 折り返し桁位置

折り返し位置を桁で指定するか、[ウィンドウ幅に自動調整]するかを指定します。  
桁で指定する場合は、桁位置を半角単位で入力します。指定できる桁数は、16～3000の値です。  
0を指定すると、ウィンドウサイズとフォントサイズから自動的に折り返し位置を算出し、その値を設定します。



「カレントウィンドウ2分割」した場合は、分割した2つのウィンドウで同一のテキストを共有する関係で、「ウィンドウ幅に自動調整」機能は働かなくなります（この設定は解除されません）。

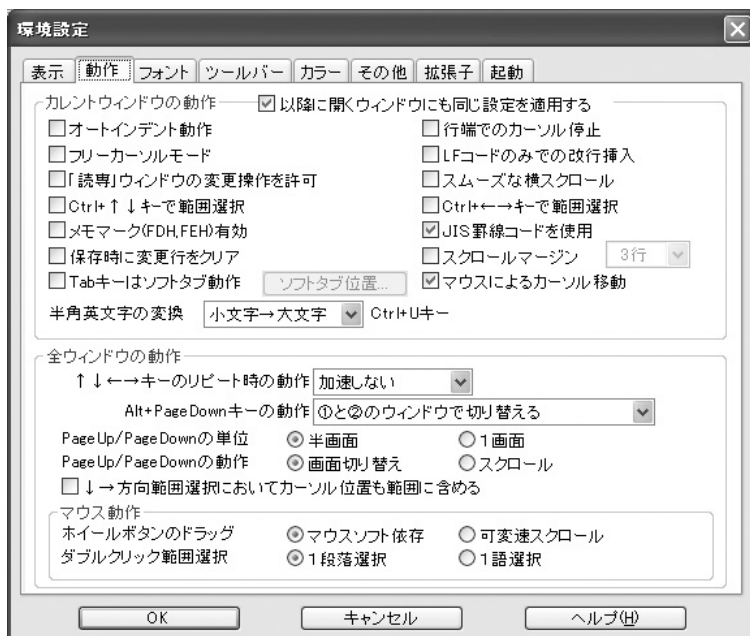
## 全ウィンドウの表示

### テキストカーソル形状

文字カーソルの形状を選択します。  
この設定は、現在開いているすべてのウィンドウと、以降に開くウィンドウに適用されます。



## 動作タブ



### カレントウィンドウの動作 以降に開くウィンドウにも同じ設定を適用する

- ・チェックをつけると、以降開くウィンドウも、以下の設定内容で表示されます。すでに表示されている他のウィンドウには適用されません。
- ・チェックをはずすと、カレントウィンドウ（現在カーソルのあるウィンドウ）のみに適用されます。

### オートインデント動作

- ・チェックをつけると、オートインデントを行います。オートインデントとは、改行文字を挿入した際に新しい行の先頭位置を、前の行のタブやスペース以外の先頭文字位置に合わせるように、タブやスペースで自動的に段下げを行う処理のことです。

## 行端でのカーソル停止

- ・チェックをつけると、カーソルは行端まで移動すると停止し、[ ] [ ] キーを押してもそれ以上は移動しなくなります。  
上下の行へ移動したいときは、[ ] [ ] キーで移動します。
- ・チェックをはずすと、行の左端でカーソルをさらに左に移動しようとした場合には、カーソルは前の行の最後のバイト位置に移動します。  
行の右端でカーソルをさらに右に移動しようとした場合には、カーソルは次の行の最初のバイト位置に移動します。

## フリーカーソルモード

- ・チェックをつけると、フリーカーソルモードになります。  
フリーカーソルモード時は、改行文字の右側の何も文字が入力されていないところにもカーソルが移動し、文字を入力することができます。入力前の改行位置から、カーソル移動後入力した文字までは半角スペースを挿入します。

## LF コードのみで改行挿入

- ・チェックをつけると、[ Enter ] キーなどで挿入した改行文字LFコードのみで挿入されます。
- ・チェックをはずすと、挿入した改行文字は、CR+LFコードで挿入されます。

## 「読専」ウィンドウの変更操作を許可

- ・チェックをつけると、読み取り専用ウィンドウに対して、変更操作が行えます。
- ・チェックをはずすと、次の読み取り専用ウィンドウにおいて、ファイルへの保存が禁止されるだけでなく、変更操作の実行も禁止されます。  
ただし、ファイルへの保存はできません。
  - 読み取り専用を指定して開いたウィンドウ
  - 読み取り専用属性のファイルのウィンドウ
  - バックアップファイルのウィンドウ
  - 他のアプリケーションで保護されているファイルのウィンドウ
  - プリプロセッサにより保存を禁止されたウィンドウ

## スムーズな横スクロール

- ・チェックをつけると、1桁単位で横スクロールを行います。  
1桁単位で横スクロールすると、表示は遅くなりますが動作がスムーズになります。
- ・チェックをはずすと、8桁単位で横スクロールを行います。

## Ctrl+ [ ] で範囲選択 / Shift + [ ] キーで範囲選択

キー設定により、環境設定内の項目表示が変わります。

- ・ [ Shift ] + [ ] [ ] キーまたは [ Ctrl ] + [ ] [ ] キーには、それぞれ次のように機能が割り当てられています。( ) 内は機能番号です。

MIFES 標準のキー設定

[ Shift ] + [ ] 高速ロールダウン。選択モード中は選択しながら 移動 (60)

[ Shift ] + [ ] 高速ロールアップ。選択モード中は選択しながら 移動 (63)

Windows 標準

[ Ctrl ] + [ ] 高速ロールダウン。選択モード中は選択しながら 移動 (60)

[ Ctrl ] + [ ] 高速ロールアップ。選択モード中は選択しながら 移動 (63)

- ・ チェックをつけると、それぞれ次のように機能が変更されます。( ) 内は機能番号です。

MIFES 標準のキー設定

[ Shift ] + [ ] 選択しながら 移動 (116)

[ Shift ] + [ ] 選択しながら 移動 (119)

Windows 標準のキー設定

[ Ctrl ] + [ ] 選択しながら 移動 (116)

[ Ctrl ] + [ ] 選択しながら 移動 (119)

### 【参考】

以下の点を参考に、設定を行ってください。

- ・ 旧バージョンとの互換性を考慮して、【高速ロールダウン】と【高速ロールアップ】は2つの動作を切り替えられるようになっています。
- ・ 【高速ロールダウン / アップ】と、【選択しながら / 移動】は、[ Shift ] + [ ] [ ] または [ Ctrl ] + [ ] [ ] キーにそれぞれ分けて設定すると便利です。
- ・ 選択しながら / 移動を別のキーに割り当ててある場合には、【高速ロールダウン / アップ】の動作を、ここで「~キーで範囲選択」に設定することは、同じ機能を2つのキーに設定することであり、ほとんど意味のないことと言えます。

通常は、【高速ロールダウン / アップ】は別のキーに割り当ててありますから、この設定はほとんど意味がなく、旧バージョンとの互換性のために設けられているだけと言えます。

## Ctrl + [ ] キーで範囲選択 / Shift + [ ] キーで範囲選択

キー設定により、環境設定内の項目表示が変わります。

- ・ [ Shift ] + [ ] [ ] キーまたは [ Ctrl ] + [ ] [ ] キーには、それぞれ次のように機能が割り当てられています。( ) 内は機能番号です。

MIFES 標準のキー設定

[ Shift ] + [ ] 行の左端へ移動。選択モード中は選択しながら 移動。(61)

[ Shift ] + [ ] 行の右端へ移動。選択モード中は選択しながら 移動。(62)

#### Windows 標準のキー設定

[ Ctrl ] + [ ] 行の左端へ移動。選択モード中は選択しながら 移動。( 61 )

[ Ctrl ] + [ ] 行の右端へ移動。選択モード中は選択しながら 移動。( 62 )

- ・チェックをつけると、それぞれ次のように機能が変更されます。( )内は機能番号です。

#### MIFES 標準

[ Shift ] + [ ] 選択しながら 移動。( 117 )

[ Shift ] + [ ] 選択しながら 移動。( 118 )

#### Windows 標準

[ Ctrl ] + [ ] 選択しながら 移動。( 117 )

[ Ctrl ] + [ ] 選択しながら 移動。( 118 )

#### 【参考】

以下の点を参考に、設定を行ってください。

- ・【行の左端 / 右端へ移動】と、【選択しながら / 移動】は、[ Shift ] + [ ] [ ] または [ Ctrl ] + [ ] [ ] キーにそれぞれ分けて設定すると便利です。
- ・選択しながら / 移動を別のキーに割り当ててある場合には、【行の左端 / 右端へ移動】の動作を、ここで「～キーで範囲選択」に設定することは、同じ機能を2つのキーに設定することであり、ほとんど意味のないことと言えます。

## メモマーク (FDH、FEH) 有効

- ・チェックをつけると、コードFDHをメモ開始マーク、コードFEHをメモ終了マークと見なし、それぞれ記号で表示します。  
メモ開始マークとメモ終了マーク、メモ開始マークからメモ終了マークまたは改行文字までの文字列は、ファイルへは保存しません。
- ・チェックをはずすと、コードFDHとFEHはそのままのコードとして扱われます。  
「バイナリモード」編集中のウィンドウについては、メモマークは常に無効になり変更することはできません。

## JIS 罫線コードを使用

罫線トレース機能や印刷時の罫線接続機能で使用する罫線素片コードのコード種別を指定します。

- ・チェックをつけると、JIS 罫線コードを使用します。  
Windows 上ではJIS 罫線コードを使用するため、通常はチェックをつけておきます。
- ・チェックをはずすと、NEC 罫線コードと見なされます。  
DOS 版MIFESの時代にNECのPC-9800で作成した罫線コードを含むファイルを編集する場合は、チェックをはずしてください。

## 保存時に変更行をクリア

チェックをつけると、ファイルに保存する際にテキスト中にある変更行マークをクリアします。さらに、保存後にUNDOバッファもクリアします。保存処理の途中でエラーが発生した場合は、変更行マークは途中までクリアされた状態になり、UNDOバッファはクリアされません。

## スクロールマージン

スクロールマージンとは、カーソルがウィンドウの上下端から何行離れている位置に来た時にスクロール動作を開始するか、という値のことをいいます。

- ・チェックをつけると、1～15までの値でスクロールマージン行数を入力します。スクロールマージン行数を大きな値に指定すると、カーソルを常にウィンドウの中央付近に置きながら編集操作を行うことができます。
- ・チェックをはずすと、カーソルがウィンドウの上下端に達した時にスクロール動作が開始されます。

## Tab キーはソフトタブ動作

- ・チェックをつけると、[Tab]キーでソフトタブが挿入されます。ソフトタブ位置の変更は「ソフトタブ位置の変更」ボタンで行います。
- ・チェックをはずすと、[Tab]キーでハードタブ(タブコード)が挿入されます。

## マウスによるカーソル移動

- ・チェックをつけると、クリックした位置に文字カーソルが移動します。
- ・チェックをはずすと、マウスによるカーソル移動ができなくなります。キー操作でのみカーソル移動できます。

## 半角英文字の変換

【編集(E)】-【各種の挿入・削除操作(N)】-【大文字・小文字変換(F)】機能において、どちらに変換するかを設定します。

- ・チェックをつけると、大文字を小文字に変換します。
- ・チェックをはずすと、小文字を大文字に変換します。

## 全ウィンドウの動作

### キーリピート時の動作

[ ] [ ] [ ] キーを押し続けたときのカーソルの移動速度を、コンボボックスから選択します。

### [ \* \* \* ] キーの動作

\* \* \* の部分には、現在設定されているキー操作が表示されます。

開いているウィンドウを切り替える機能で、最大いくつのウィンドウを順番に切り替えるかをコンボボックスで選択します。

「すべてのウィンドウで環状に切り替える」を指定すると、開いているすべてのウィンドウ順番に切り替えることができます。

## PageUP / PageDown の単位

[ PageUp ] / [ PageDown ] キーを押して、画面切り替え / スクロールする単位を選択します。

## PageUP / PageDown の動作

- ・画面切り替え

[ PageUp ] / [ PageDown ] キーでのスクロール動作を、半画面 / 1 画面単位で画面を切り替えてスクロールします。

- ・スクロール

[ PageUp ] / [ PageDown ] キーでのスクロール動作を、半画面 / 1 画面分の行数まで 1 行ずつスクロール (スクロール) します。スクロール状態にして [ PageUp ] / [ PageDown ] キーを押し続けると、お使いのマシンでの最高速のスクロール動作を見ることができます。

## 方向範囲選択においてカーソル位置も範囲に含める

- ・チェックをつけると、[ ] [ ] キーで範囲選択において、カーソル位置の文字を選択範囲に含みます。

一般的な Windows アプリケーションと同様の選択方法です。

- ・チェックをはずすと、カーソル位置の直前の文字までを選択範囲とし、カーソル位置自体は選択範囲に含みません。

MIFES の旧バージョン (Ver5) までと互換性のある選択方法です。

この設定は、文字列選択、行単位選択、箱型選択の操作に影響します。

## ホイールボタンのドラッグ

マウスのホイールボタンの動作を設定します。

- ・マウスソフト依存

インテリマウスなどが持つオートスクロール機能を使用したい場合にはこちらを指定します。マウスのホイールボタンをドラッグしてもMIFESの持つ可変速スクロール機能は動きません。

MIFESが持つ可変速スクロール機能と、インテリマウスなどのマウスソフトが持つオートスクロール機能は、相性がよくなく同時に機能させるとおかしな動作をすることがあります。

このため、インテリマウスなどのオートスクロール機能を使用したい場合には、「マウスソフトに依存」に設定する必要があります。

逆に、MIFESの可変速スクロール機能を使用したい場合には、インテリマウス側のオートスクロール機能を禁止する必要があります。

インテリマウスのオートスクロール機能を禁止するには、Windowsで「マウスのプロパティ」ダイアログボックスの「ホイール」タブにおいて、「トラブルシューティング」を実行してください。

- ・可変速スクロール

マウスのホイールボタンをドラッグすると（0.8秒以上押し続けると）、MIFESの持つ可変速スクロール機能が働きます。

ホイールボタンを押した位置に特殊なマークが表示され、その位置からマウスカーソルを離すほど高速に、近づけるほどゆっくりと、画面を上下にスクロールします。

ホイールボタンを押している間はこの動作が続き、ホイールボタンを離すとスクロール動作は終了します。

## ダブルクリック範囲選択

編集領域でダブルクリックすると、カーソル付近のテキストを自動的に範囲選択する範囲を指定します。

- ・1段落選択

カーソルのある1段落（1論理行）を範囲選択します。

- ・1語選択

カーソル位置の1語を範囲選択します。

この設定で3回連続してクリック（トリプルクリック）すると、1段落の選択ができます。

## フォントタブ

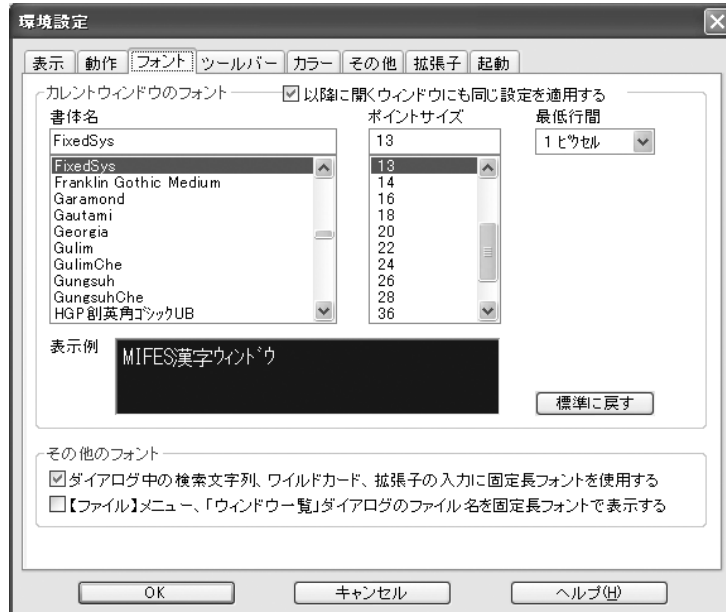
カレントウィンドウのフォントを設定します。

また、検索 / 置換ダイアログボックスでの入力文字のフォントを設定します。



MIFES は、テキスト画面表示と印刷結果が一致するアプリケーションではないので、ここで設定するフォントは印刷とは直接は関係ありません。

逆に印刷機能でフォントの設定を変更しても画面の表示フォントは変わりません。



### カレントウィンドウのフォント 以降に開くウィンドウにも同じ設定を適用する

- ・チェックをつけると、以降に開くウィンドウも設定されたフォントで表示します。
- ・チェックをはずすと、カレントウィンドウ（カーソルのあるウィンドウ）のみ設定されたフォントで表示します。



MIFES は編集ウィンドウごとにそれぞれ独立した表示フォントを持っています。

### 書体名

フォントの書体名を選択します。

お使いの環境で使用できるフォントがすべて表示されますが、次のフォントは使用できません。

- ・フォント名に P がついたプロポーショナルフォント（例：MSP ゴシック）
  - ・フォント名の前に @ がついた縦書き用フォント（例：@MS ゴシック）
- 韓国語と中国語のフォントは、変更できません。



## ポイントサイズ

フォントの高さをポイント単位で指定します。  
(1ポイントは1/72インチ)  
韓国語と中国語も変更できます。

## 最低行間

行間のサイズをピクセル単位で指定します。  
ただし、フォントの外部レディングのサイズが指定した最低行間よりも大きい場合には、行間のサイズはフォントの外部レディングのサイズになります。

## [標準に戻す]

クリックすると、書体名、ポイントサイズ、最低行間をMIFESインストール直後の設定(内部デフォルト)に戻します。

## その他のフォント

ダイアログボックスなどで、半角の括弧や半角記号をわかりやすくするための設定です。

## 検索文字列、ワイルドカード、拡張子の入力時に固定長フォントを使用する

チェックをつけると、上記の項目の入力欄には固定長フォントで表示します。



固定長フォントは、すべての文字を同じサイズで表示するフォントです。  
プロポーショナルフォントでは、半角の括弧や半角記号がわかりにくい場合があります。  
固定長フォント

検索文字列(E) AAA.:;

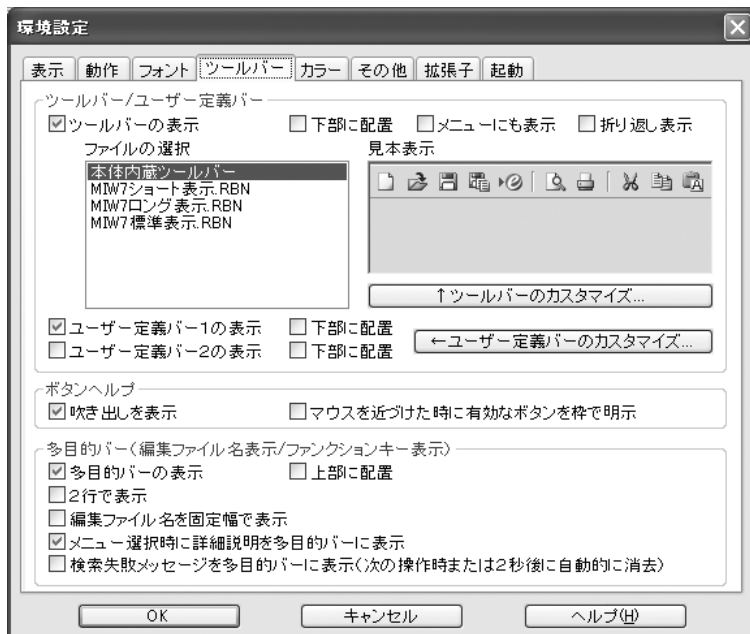
プロポーショナルフォント

検索文字列(E) AAA.:|

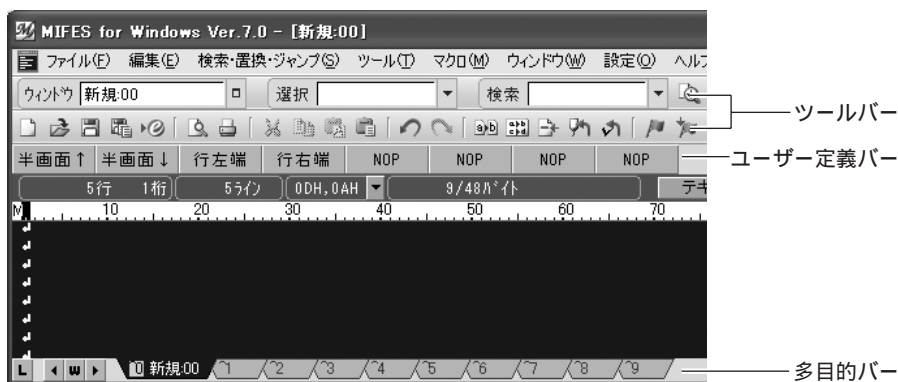
## 【ファイル】メニュー、「ウィンドウ一覧」ダイアログのファイル名を固定長フォントで表示する

チェックをつけると、上記ファイル名を固定長フォントで表示します。

## ツールバータブ



ツールバー、ユーザー定義バー、多目的バーの設定を行います。



### ツールバー/ユーザー定義バー ツールバーの表示

- ・チェックをつけると、「ファイルの選択」リストで選択されているツールバーを表示します。選択されているツールバーは見本表示で確認することができます。
- ・チェックをはずすと、ツールバーを非表示にします。

## 下部に配置

- ・チェックをつけると、ツールバーをMIFESウィンドウの一番下に表示します。
- ・チェックをはずすと、ツールバーをメニューバーの下に表示します。

## メニューにも表示

- ・チェックをつけると、メニューにツールバーのボタンを表示します。
- ・チェックをはずすと、メニューにはボタンを表示しません。

## 折り返し表示

- ・チェックをつけると、ウィンドウ幅内にすべてのボタンが表示されるようにツールバーを折り返して表示します。
- ・チェックをはずすと、ツールバーは折り返して表示しません。

## ファイルの選択

ファイルを選択すると、それぞれのツールバーに切り替えることができます。  
インストール直後のツールバーは「MIW7 標準表示.RBN」です。  
「MIW7 ショート表示.RBN」は「MIW7 標準表示.RBN」よりも表示しているボタンが少なく、  
「MIW7 ロング表示.RBN」は「MIW7 標準表示.RBN」よりも表示しているボタンが多いツールバーです。  
詳しくは、4章の「ツールバーを変更する」(P.115)を参照してください。

## [ ツールバーのカスタマイズ ] ボタン

クリックすると、「ツールバーのカスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。  
ツールバーのカスタマイズ操作については、4章の「ツールバーを変更する」(P.115)を参照してください。

## ユーザー定義バー 1 の表示 / ユーザー定義バー 2 の表示

- ・チェックをつけると、ユーザー定義バー 1 またはユーザー定義バー 2 を表示します。  
初期状態では非表示になっていますので、ユーザー定義バーのボタンに機能を割り当てて使用するときは、必ず確認してチェックをつけてください。
- ・チェックをはずすと、非表示になります。

## 下部に表示

- ・チェックをつけると、ユーザー定義バーをウィンドウの一番下に表示します。
- ・チェックをはずすと、ユーザー定義バーを上部（ツールバーの下）に表示します。

## [ユーザー定義バーのカスタマイズ]ボタン

クリックすると、「ユーザー定義バーのカスタマイズ」ダイアログボックスが表示されます。ユーザー定義バーのカスタマイズ操作については、4章の「ユーザー定義バーを設定する」(P.135)を参照してください。

## ボタンヘルプ

ツールバーのボタンに関する設定を行います。

## 吹き出しを表示

- ・チェックをつけると、ツールバーまたはユーザー定義バーのボタンにマウスカーソルを重ねたときにボタンの機能名が吹き出しに表示されます。
- ・チェックをはずすと、吹き出しは表示されません。

## マウスを近づけた時に有効なボタンを枠で明示

- ・チェックをつけると、ツールバーのボタンにマウスカーソルを重ねたときにボタンが浮き出る表示になります。
- ・チェックをはずすと、ツールバーのボタンにマウスカーソルを重ねても表示は変わりません。

## 多目的バー

多目的バーには、通常は「現在開いているファイル」または「ファンクションキーの機能」が表示されています。

多目的バーの設定を変更します。



「現在開いているファイル」と「ファンクションキーの機能」の表示は多目的バー左側の [W] または [F] ボタンで切り替えることができます。

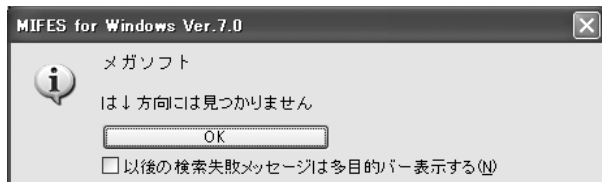
## 多目的バーの表示

- ・チェックをつけると、多目的バーを表示します。
- ・チェックをはずすと、多目的バーを非表示にします。



## 検索失敗メッセージを多目的バーに表示

- ・チェックをつけると、検索失敗時のメッセージを多目的バーに表示します。  
表示されたメッセージは、次の操作を行うとメッセージ表示前の状態に戻ります。  
(何も操作を行わない場合も、2秒後には自動的にメッセージ表示前の状態に戻ります。)
- ・チェックをはずすと、検索失敗時のメッセージはメッセージボックスに表示されます。



## カラータブ

画面各部の色を変更・設定します。

あらかじめ用意した4種類のカラー設定から選択して設定を変更することができます。  
また、画面各部の背景色や文字色など65箇所の色を個別に変更することもできます。



操作方法は4章の「画面の色を変更する」(P.121)を参照してください。



- ・カスタマイズファイルからカラー定義だけを読み込んで、各部の色をまとめて設定することもできます。
- ・ツールバーのボタン背景は「ツールバーのカスタマイズ」ダイアログボックスで変更してください。  
(ツールバーの背景は、ビットマップファイルです。)



注意

指定したウィンドウの背景色が中間色の場合、カーソル行アンダーラインを表示した時に、カーソルの移動とともに行間に線の跡が残ることがあります。

(画面の色数が少ない場合(16色や256色の場合)にのみ起きます。)



ポイント

・次の色は編集ウィンドウの背景色とは異なる色に指定してください。

同じ色に指定すると見えなくなります。

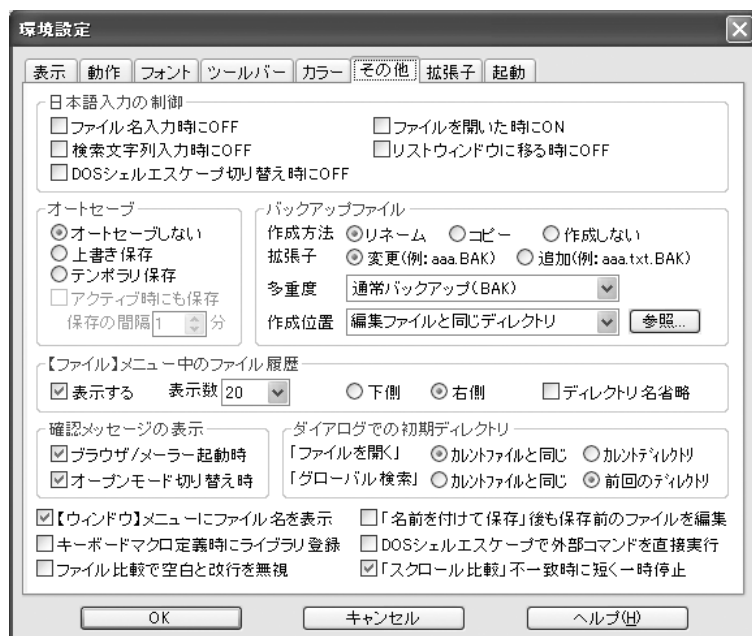
- ・背景罫線の色
- ・カーソル行アンダーライン、カーソル行パーチカルラインの色
- ・文字色や各キーワードの色

(逆にこのことを利用して、特定のキーワードだけを非表示(表示しているのだが実際には見えない)にすることもできます。)

・編集ウィンドウの背景色と [EOF] マークの背景色は異なるように指定してください。

また、多目的バーのファイル名背景と変更マークも同じ色で表示されるため、変更マークがわからなくなります。

## その他タブ



### 日本語入力の制御

以下の各入力項目にカーソルが移動したときに、日本語入力を自動的に ON / OFF にする設定を行います。

例えば、ファイル名は必ず半角英数で入力する場合は、日本語入力を OFF にしておくと、自分で設定を確認・変更する必要がなくなります。

設定の内容に関係なく、[半角/全角] 併一などにより日本語入力の切り替えは行えます。

### ファイル名入力時に OFF

「ファイルを開く」ダイアログボックスや「保存するファイル名の指定」ダイアログボックスなどで、ファイル名の入力欄にカーソルが移動したときの日本語入力モードを設定します。ファイル名に半角英数字のみ入力したいときなどはチェックをつけてください。

### ファイルを開いた時に ON

新しいファイルや既存のファイルを開いたときの日本語入力モードを設定します。日本語（全角文字）を入力することが多い場合は、チェックをつけてください。



## 検索文字列入力時にOFF

検索または置換関連機能で、検索文字列または旧文字列、新文字列の入力欄にカーソルが移動したときの日本語入力モードを設定します。

半角英数字を検索置換することが多い場合はチェックをつけてください。

## リストウィンドウに移る時にOFF

リストウィンドウにカーソルが移動したときの日本語入力モードを設定します。

## DOS シェルエスケープ切り替え時にOFF

「DOS シェルエスケープ」機能を実行し、DOS シェルエスケープウィンドウにカーソルが移動したときの日本語入力モードを設定します。

## オートセーブ

オートセーブ機能は、開いているすべてのファイルを一定時間ごとにチェックし、変更があるファイルを自動的に保存する機能です。

システムのクラッシュなどでファイルの編集内容をすべてなくすことがなくなり、再編集の作業を最小限に抑えることができます。

次のウィンドウは、保存の必要がない、保存ができない、保存するためにユーザーの操作が必要であるなどの理由で、保存処理は行いません。

- ・変更操作のないウィンドウ
- ・ファイル名が未確定のウィンドウ（「新規:nn」ウィンドウなど）
- ・バックアップファイルのウィンドウ
- ・読み取り専用属性ファイルのウィンドウ
- ・読み取り専用を指定して開いたウィンドウ
- ・ファイルへの書き込みが禁止されているために自動的に読み取り専用として開かれたウィンドウ
- ・プリプロセッサにより保存が禁止されているウィンドウ

オートセーブ設定の情報はカスタマイズファイルに記録されます。

## オートセーブしない

オートセーブは行いません。

## 上書き保存

【上書き保存】機能と同様に、編集中のファイルに上書き保存します。

## テンポラリ保存

テンポラリディレクトリ上に復旧用ファイル用の書式で保存を行います。(MIFESが異常終了した場合に、自動的にファイルを復旧するためのファイルと同じ書式のファイルです。)

新規作成ファイルも復旧用ファイルへの保存を行います。

開いているファイルに保存するのではないため、オートセーブの保存後も、変更フラグや変更行のクリアは行いません。

正常に編集が終了した時には、オートセーブで作成した復旧用ファイルは自動的に削除されます。

起動時に、復旧用ファイルを見つけると、前は異常終了したと判断し、復旧用ファイルを使用してファイルの復旧作業を行います。

## アクティブ時にも保存 / 保存の間隔

オートセーブを行う設定(上書き設定 / テンポラリ設定)のときに有効な設定項目です。

MIFES上で操作を行っている時にも、ユーザーの操作を止めてファイルへの保存処理を行いたいときは、「アクティブ時にも保存」にチェックをつけて、保存のチェックを行う間隔を設定してください。

## バックアップファイル

ファイル保存時に行うバックアップファイルの作成に関する各項目を設定します。

バックアップファイルを作成すると、ファイルの編集を終えて保存を実行した後に、前の状態に戻したくなった場合や、どこをどう変更したのか再確認したい場合などに利用することができます。

保存したファイルとバックアップファイルの内容は、ファイル比較機能で比較・確認ができます。

## 作成方法

バックアップファイルの作成方法です。

### ・ファイルリネーム

ディスク上のファイルをバックアップファイル用に名前に変更し、開いているファイルを開いた際のファイル名で新しく作成(名前を付けて保存)します。

例えば、AAA.TXT ファイルを編集後保存する場合、ディスク上のファイル AAA.TXT を AAA.BAK にリネームし、編集中のデータを新しいファイル AAA.TXT に保存します。

### ・ファイルコピー

元ファイルをコピーしてバックアップファイルを作成し、編集前の元のファイルに上書きします。

元のファイルが大きいとバックアップファイルの作成に時間がかかります。

例えば、AAA.TXT ファイルを編集後保存する場合、ディスク上のファイル AAA.TXT を AAA.BAK としてコピーし、編集中のデータは AAA.TXT に保存(上書き保存)します。

- ・作成しない  
バックアップファイルは作成しません。  
この設定の時は、以下のバックアップファイルに関する項目は設定できません。

## 拡張子

バックアップファイルのファイル名（拡張子.BAK）の付け方です。

- ・変更  
ファイル名の拡張子をバックアップファイルの拡張子（.BAKなど）に変更します。  
拡張子が異なりファイル名が同じファイルが同じディレクトリ内にある場合は、バックアップファイル名はすべて同じ名前になるため、厳密にすべてのファイルのバックアップファイルを残すことができません。  
例：   AAA.TXT     AAA.BAK  
          AAA.HTM    AAA.BAK
- ・追加  
ファイル名の最後にバックアップファイルの拡張子（.BAKなど）を追加します。  
例：   AAA.TXT     AAA.TXT.BAK  
          AAA.HTM    AAA.HTM.BAK

## 多重度

バックアップファイルは、10重までの多重バックアップの指定ができます。  
編集ファイルの保存時に、最も古いバックアップファイルに最も大きい番号が付くように拡張子を変更して、バックアップファイルを作成します。

	(新しい)	(古い)
通常	.BAK	
2重	.BAK	.BK1
3重	.BAK	.BK1 .BK2
:		
10重	.BAK	.BK1 ... .BK9

## 作成位置

バックアップファイル保存するディレクトリを指定します。

- ・編集ファイルと同じディレクトリ  
編集ファイルと同じディレクトリにバックアップファイルを作成します。  
対応するバックアップファイルを見つけやすくするため、また、異なるディレクトリ上の同名のファイルでバックアップファイルが同じになってしまうことを避けるため、通常は「編集ファイルと同じディレクトリ」に作成してください。
- ・ディレクトリを指定  
バックアップファイルを作成するディレクトリを指定します。



「作成位置」を「特定のディレクトリを指定」に設定する場合は以下の点に注意してください。

- ・バックアップファイルの作成方法が「ファイルリネーム」の場合  
編集ファイルとバックアップファイルを同じドライブに作成する場合、バックアップファイルは、設定どおり「ファイルリネーム」で作成します。  
異なるドライブの場合には、強制的に「ファイルコピー」で作成します。ドライブが同じかどうかは、フルパス名の先頭部分で判断するため、UNC パス名などでファイルを開いている場合には、常に異なるドライブと判断します。
- ・異なるディレクトリ上に同名のファイルが存在する場合  
異なるディレクトリ上の同名のファイル同士で、バックアップファイル名が同じになってしまうため、異なるディレクトリ上の同名のファイルを編集し保存した場合、バックアップファイルとして残るのは、後に保存を実行した方のファイルだけになります。  
同じ名前前のファイルがいろいろなディレクトリ上に存在する場合には、十分注意してください。

## 【ファイル(F)]メニュー中のファイル履歴

【ファイル(F)]メニューにファイル履歴を表示する際の設定を行います。

### 表示数

表示したいときは、ファイル履歴の件数を設定します。

### 下側 / 右側

ファイル履歴をメニューのどこに表示するかを選択します。

### ディレクトリ名省略

ディレクトリ名(パス名)を省略してファイル名のみを表示したいときは、チェックをつけてください。

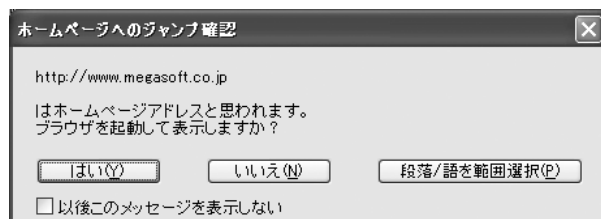
## 確認メッセージの表示

次の各タイミングでの確認メッセージを表示する / しないを設定します。

### ブラウザ / メーラー 起動時

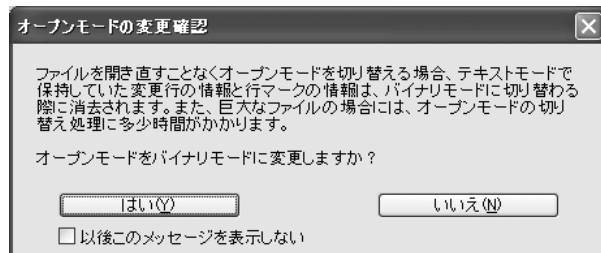
編集集中のファイル内にあるHPアドレスやメールアドレスをダブルクリックしたときのメッセージの表示 / 非表示を設定します。

例 ブラウザ起動時の確認メッセージ



### オープンモード切替時

オープンモード（テキストモード / バイナリモード）を切り替えるときのメッセージの表示 / 非表示を設定します。



## ダイアログでの初期ディレクトリ ファイルを開く

【開く】【ファイルの挿入】機能で、ダイアログボックスに初期値として表示するディレクトリを選択します。

- ・カレントファイルと同じ  
カレントウィンドウのファイルのあるディレクトリを初期値とします。
- ・カレントディレクトリ  
カレントディレクトリを初期値とします。

## グローバル検索

【グローバ検索】【グローバル置換】【グローバル複数置換】機能で、ダイアログボックスの「検索位置 1」に初期値として設定するディレクトリを選択します。

- ・カレントファイルと同じ  
カレントウィンドウのファイルのあるディレクトリを初期値とします。
- ・前回と同じ

上記 3 機能で最後に指定した「検索位置 1」に指定したディレクトリを初期値とします。

## その他

### 【ウィンドウ(W)]メニューにファイル名を表示する

- ・チェックをつけると、【ウィンドウ(W)]メニューに開いているすべてのファイル名を表示します。
- ・チェックをはずすと、【ウィンドウ(W)]メニューにファイル名は表示しません。

### 「名前を付けて保存」後も保存前のファイルを編集

既にファイル名を持っているファイル（既存のファイルなど）を編集中に、【名前を付けて保存】機能を実行したときに、編集中のウィンドウのファイル名についての設定です。

- ・チェックをつけると、カレントウィンドウのファイルは、【名前を付けて保存】で指定したファイルになります。

例えば、aaa.txt を編集中に、bbb.txt に【名前を付けて保存】すると、カレントウィンドウはbbb.txt になります。

- ・チェックをはずすと、カレントウィンドウのファイルは、【名前を付けて保存】でファイル名を指定するまでのファイルになります。

例えば、aaa.txt を編集中に、bbb.txt に【名前を付けて保存】しても、カレントウィンドウはaaa.txt のままです。

## キーボードマクロ定義時にライブラリ登録

- ・チェックをつけると、キーボードマクロ定義時に、定義したキーボードマクロをライブラリに自動登録します。
- ・チェックをはずすと、キーボードマクロをライブラリに自動登録しません。  
【マクロ(M)】 - 【キーボードマクロ(K)】 - 【ライブラリに登録(R)】機能で登録してください。

## DOS シェルエスケープで外部コマンドを直接実行



本設定は、ご使用のWindowsのバージョンや、DOSシェルエスケープ上で実行したいコマンドに応じて異なるため、ユーザーが状況に合わせて設定してください。

- ・チェックをつけると、外部コマンドを直接実行します。  
外部コマンドを直接子プロセスとして実行しないと、コマンドの標準出力をDOSシェルエスケープウィンドウに取り込めない場合のみ、こちらの設定にします。
- ・チェックをはずすと、外部コマンドを標準シェルを介して実行します。  
標準シェル(COMMAND.COMまたはCMD.EXE)を介して実行しないと、コマンドの標準出力をDOSシェルエスケープウィンドウに取り込めない場合には、こちらの設定にします。

## ファイル比較で空白と改行を無視

- 【ツール(T)】-【ファイル比較(P)】以下の機能で、ファイルを比較するときの設定です。
- ・チェックをつけると、空白と改行を無視して、ファイル比較を実行します。
  - ・チェックをはずすと、空白と改行も比較の対象とします。

## 「スクロール比較」不一致時に短く一時停止

- 【ツール(T)】-【ファイル比較(P)】-【スクロールと比較】または【スクロールと比較】機能で不一致箇所を発見したときに停止する時間を設定します。
- ・チェックをつけると、1秒間停止します。
  - ・チェックをはずすと、2秒間停止します。

## 拡張子タブ



ファイルを開く時に、そのファイル名の拡張子、またはそのファイルのディレクトリ位置により、以下のものを自動的に設定することができます。

- ・ハードタブ
- ・オープンモード（テキスト（^Zまで） テキスト、バイナリ）
- ・プリプロセッサ

## 設定の優先順位について

- ・「ファイルを開く」ダイアログボックスで、「オープンモード」「プリプロセッサ」を指定した場合には、その指定どおりファイルが開かれます。
- ・「ファイルを開く」ダイアログボックスで、「オープンモード」「プリプロセッサ」を「自動設定」とした場合には、【拡張子】タブで定義された設定に従ってファイルが開かれます。「ハードタブ」は、ここでの定義が適用されます（「ファイルを開く」ダイアログボックスの中で指定することができないため）。
- ・開こうとするファイル名の拡張子またはディレクトリ名がここで指定したものと一致した場合には、その拡張子/ディレクトリ名定義による設定が用いられ、どの拡張子/ディレクトリ名定義とも一致しない場合には、デフォルトの設定が用いられます。
- ・デフォルトの設定は、「拡張子」タブの一番下で指定します。「プリプロセッサ」は、デフォルトの定義では常に「プリプロセッサなし」です（変更できません）。  
デフォルトの設定は、開こうとするファイル名が設定されているどの拡張子/ディレクトリ名定義とも一致しなかった場合と、【新規作成】の時に適用されます。（デフォルトの定義はあまり変更しないことをお奨めします。）



## 拡張子/ディレクトリ名

設定を適用するファイルを、ファイル名の拡張子とファイルのディレクトリ位置で指定します。拡張子の指定には、一度に複数の拡張子を指定することもできます。

複数の拡張子を指定する場合

- ・半角 ; (セミコロン) で区切って複数の拡張子を指定します。
- ・指定したどれかの拡張子と一致した時に、その設定を適用します。

例 : .TXT;.DOC;.SRC



拡張子定義の正確な意味は、開こうとするファイル名の最後の部分が、拡張子定義のいずれかの文字列と同じ場合に、拡張子が一致したと見なします。

例えば、拡張子に "C" と指定すれば、それは、拡張子が ".C" のファイル名のほかに、拡張子が ".DOC" のファイルや拡張子のない "ABC" というファイルなどもファイル名が一致することになります。

拡張子として指定したい場合には、".C" というように前に半角 (ピリオド) を付けて指定してください。

ディレクトリ名だけを指定する場合

- ・ディレクトリ名は絶対パス名で指定してください。
- ・ディレクトリ名の最後は必ず半角 ¥ になるように指定してください。
- ・ディレクトリ名だけが指定された場合、そのディレクトリと、それより下位のすべてのディレクトリ上のすべてのファイルが、ディレクトリ位置条件が一致したと見なします。

例 : D:¥SOURCE¥SAMPLE¥

ディレクトリ名と拡張子を指定する場合

- ・ディレクトリ名は絶対パス名で指定し、ディレクトリ名の最後は必ず半角 ¥ になるように指定し、ディレクトリ名の最後の ¥ の後に、拡張子を指定してください。
- ・複数の拡張子を指定する場合には、半角 ; (セミコロン) で区切ってください。
- ・ディレクトリ名と拡張子が指定された場合、そのディレクトリおよびそれより下位のすべてのディレクトリ上のファイルで、かつ指定したどれかの拡張子と一致した時、ディレクトリ位置条件と拡張子条件が両方とも一致したと見なします。

例 D:¥SOURCE¥SAMPLE¥.TXT;.DOC;.SRC

## ハードタブ

[ Tab ] キーを押してタブコード ( 0x09 ) を挿入する動作のときのタブ桁数 ( ハードタブ桁間隔 ) を指定します。

「デフォルト」を設定すると、「デフォルトの定義」で定義した桁数になります。

## オープンモード

- ・デフォルト  
「デフォルトの定義」で定義したオープンモードが適用されます。
- ・テキスト ( ^Z まで )  
^Z までを読み込みます。ファイルの途中に ^Z があった場合もその位置までしか読み込みません。
- ・テキスト  
ファイル全体をテキストモードで読み込みます。ファイルの途中に ^Z があっても、最後まで読み込みます。
- ・バイナリ  
ファイル全体をバイナリモードで読み込みます。ファイルの途中に ^Z があっても、最後まで読み込みます。

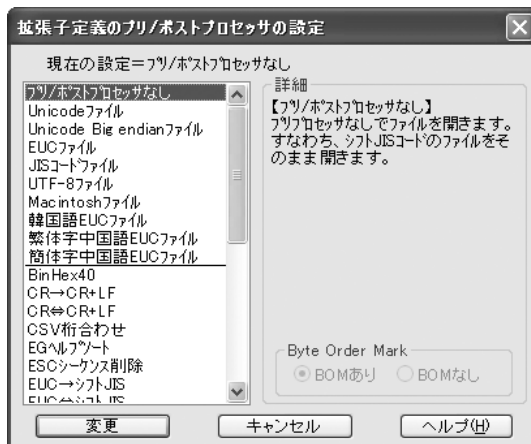
## プリ / ポストプロセッサ

ボタンをクリックすると、「拡張子定義のプリ / ポストプロセッサの設定」ダイアログボックスが表示されます。

ファイルを開くときに適用するプリプロセッサ ( プリ / ポストプロセッサ ) を指定します。

この拡張子設定の中で、内部プリ / ポストプロセッサを定義したものについては、通常のファイルを開く場合だけでなく、グローバル検索、グローバル置換、一括ファイル比較、ファイルの挿入などの各機能でファイルを開くの際にも自動的に適用されます。

内部プリ / ポストプロセッサは、コード変換を行うためのプリ / ポストプロセッサで、「拡張子定義のプリ / ポストプロセッサの設定」ダイアログボックスのリストの中で、線より上にあるプロセッサです。  
詳しくはヘルプを参照してください。



「ファイル内容による自動コード判定」処理よりも優先されます。

そのため、「ファイル内容による自動コード判定」処理に頼らずに、正確なコード変換を行うために、できるだけ拡張子の設定で内部プリ/ポストプロセッサを定義しておくことをお奨めします。



MIFES for Windows Ver.5.0 以前のカスタマイズファイル (\*.INI) から拡張子の定義を読み込んだ場合、以下に示す特定の外部プリ/ポストプロセッサの定義は、自動的に同等の機能を持つ内部プリ/ポストプロセッサの定義に変換されます。

MIWEUC.PPP

MIWJIS.PPP



ディレクトリ名に対して拡張子定義をしているファイルを、サーバー名を指定して (UNC パス名) で開いた場合は完全に一致しないとみなされ、拡張子定義は適用されません。

「ネットワークコンピュータ」からファイルを開いたときなどは注意してください。

例えば、sever というコンピューターの project ディレクトリを D ドライブと割り当てている場合に、「D:¥SRC¥」というディレクトリに対して拡張子設定を行った場合は、次のようになります。

D:¥SRC¥aaa.c      適用される

¥¥server¥project¥src¥aaa.c      適用されない

ディレクトリ名とUNC パス名の一致については、【環境設定】 - [起動] タブから [高度な設定] で設定することができます。

## デフォルト定義

以降にファイルを開く際に、定義されているどの「拡張子/ディレクトリ名」にも一致しなかったファイルに対して適用されます。

## 「ファイル内容による自動コード判定を禁止する」について

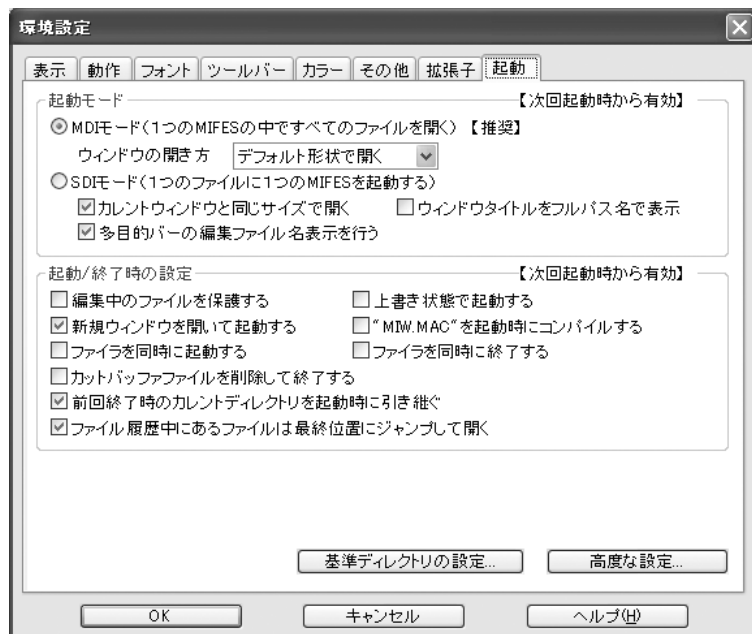
ファイルを読み込む際に、そのファイルの内容を調べて適切なコード変換を行う機能の設定をおこないます。

この設定は「ファイルを開く」ダイアログボックスなどでも変更することができます。

- ・チェックをつけると、ファイル内容で自動的にコード判定を行いません。
- ・チェックをはずすと、自動コード判定を行います。

## 起動タブ

起動タブで設定した内容は、次回起動時から有効になります。  
設定を反映させたいときは、MIFES を再起動してください。



## 起動モード

MIFES の起動モードを切り替えます。設定した内容は、次回起動時から有効になります。

## MDIモード

MIFES を1つ起動し、その中で複数のファイルを開きます。

また、編集ウィンドウの開き方をリストから選択することができます。

- ・カスケードで開く  
Windows のカスケードロジックに従って新たなウィンドウを開きます。
- ・MDI 最大化で開く  
MDI 最大化した状態で新たなウィンドウを開きます。これは最大化ボタン（ウィンドウの右上隅にある3つのボタンの中央のボタン）を押した時の状態です。
- ・最大サイズで開く  
MDI 最大化以外で可能な限りウィンドウサイズを大きくした状態で新たなウィンドウを開きます。これは、1つのウィンドウしか開いてない時にタイル表示にした場合と同じ状態です。
- ・デフォルト形状で開く  
カレントウィンドウがMDI 最大化した状態の場合、およびカレントウィンドウが存在しない場合には、新たなウィンドウをMDI 最大化した状態で開きます。それ以外の場合にはWindows のカスケードロジックに従って新たなウィンドウを開きます。

## SDIモード

ファイルごとにMIFESを起動します。

- ・カレントウィンドウと同じサイズで開く  
チェックをつけると、新しく開くウィンドウは、カレントウィンドウと同じ大きさを開きます。  
起動後最初に開くウィンドウは、前回最後に閉じたウィンドウと同じ大きさで、同じ位置に開きます。  
チェックをはずすと、画面の約3/4の大きさを開きます。
- ・ウィンドウタイトルをフルパス名で表示  
チェックをつけると、タイトルバーのファイル名をフルパス名で表示します。  
チェックをはずすと、タイトルバーには、ファイル名のみを表示します。SDIモードの時にはタスクバーにタイトルバーと同じ文字列が表示されますので、タスクバーを有効に利用できます。
- ・多目的バーの編集ファイル名表示を行う  
チェックをつけると、多目的バーに編集ファイル名を表示します。  
チェックをはずすと、多目的バーに編集ファイル名は表示しません。

### 起動/終了時の設定

#### 編集集中のファイルを保護する

次のような書き換えが行われないように、編集集中のファイルを保護します。

他のアプリケーションからの書き換え  
ネットワーク上の共有ファイルを、他の人による書き換え

- ・チェックをつけると、編集集中のファイルを保護します。  
既存のファイルを開いた後も、そのファイルハンドルをクローズしないため、編集集中のファイルを保護することができます。この設定時にMIFESで開いているすべてのファイルは、他のアプリケーションでは読み込みのみができます。  
また、新しいファイル名（ディスク上に存在しないファイル名）で、ファイルを開いた場合にも、ディスク上に同名の空のファイルを作成するため、他のアプリケーションで同名のファイルは作成できません。
- ・チェックをはずすと、編集集中のファイルを保護しません。  
既存のファイルを開くと、ファイルハンドルはすぐにクローズするため、MIFESと他のアプリケーションで同時に同じファイルを編集することができます。  
この設定では、各編集ウィンドウがアクティブになるときにそのファイルのタイムスタンプを調べ、他のアプリケーションで書き込みが行われている場合には、【ファイルを開きなおす】機能で再読み込みを行うかどうかの確認操作を行います。「はい」で応答すると、【ファイルを開きなおす】機能を実行します。

## 上書き状態で起動する

- ・チェックをつけると、文字の入力を上書き状態で起動します。
- ・チェックをはずすと、文字の入力を挿入状態で起動します。

## 新規ウィンドウを開いて起動する

- ・チェックをつけると、MDIモードで起動時に開くファイルを指定していない場合は、「新規:00」ウィンドウを開きます。  
このとき、「新規:00」ウィンドウでなにもせず別のファイルを開くと、自動的に「新規:00」ファイルと置き換えます。  
ただし、【新規作成】機能で開いた「新規:nn」ファイルは同じ条件下でも他のウィンドウには置き換えられません。
- ・チェックをはずすと、MDIモードで起動時にファイルを指定していない場合は、ファイルは何も開きません。



メモ

SDIモードでは、起動時にファイル指定がないときは、この設定に関係なく、「新規:00」ウィンドウを開きます。

## "MIW.MAC"を起動時にコンパイルする

- ・チェックをつけると、MIFES起動時に「MIW.MAC」をコンパイルします。
- ・チェックをはずすと、MIFES起動時に「MIW.MAC」はコンパイルしません。



参照

MIW.MACは自動マクロ定義ファイルです。詳しくは、マクロマニュアルを参照してください。

## ファイラを同時に起動する

- ・チェックをつけると、MIFES起動時にファイラも起動します。
- ・チェックをはずすと、MIFES起動時にファイラは起動しません。  
ファイラを起動したいときは、【ファイル(F)】 - 【ファイラ(L)】を実行してください。

## ファイラを同時に終了する

- ・チェックをつけると、MIFES終了時にファイラも一緒に終了します。  
SDIモードのときは最後のウィンドウを終了するときにファイラも一緒に終了します。
- ・チェックをはずすと、MIFESを終了してもファイラは終了しません。

## カットバッファファイルを削除して終了する

次のカットバッファをMIFES終了時に削除するか、そのまま保存しておくかを設定します。カットバッファファイルを残しておく、と、次回の起動時に前回のカットバッファの内容を貼り付けしたり、複数のMIFESで共有することができます。

行カットバッファファイル (MIWLCUT.TXT)  
箱型カットバッファファイル (MIWBOX.TXT)  
バイナリカットバッファファイル (MIWCUT.BIN)

- ・チェックをつけると、MIFES終了時にカットバッファファイルを削除します。
- ・チェックをはずすと、カットバッファファイルは削除しません。

## 前回終了時のカレントディレクトリを起動時に引き継ぐ

- ・チェックをつけると、起動時のカレントディレクトリは、前回終了時のカレントディレクトリになります。
- ・チェックをはずすと、起動時のカレントディレクトリは、MIFESの作業フォルダになります。MIFESの作業フォルダは、MIFESのプロパティのショートカットタブで設定を確認、変更できます。

## ファイル履歴中にあるファイルは最終位置にジャンプして開く

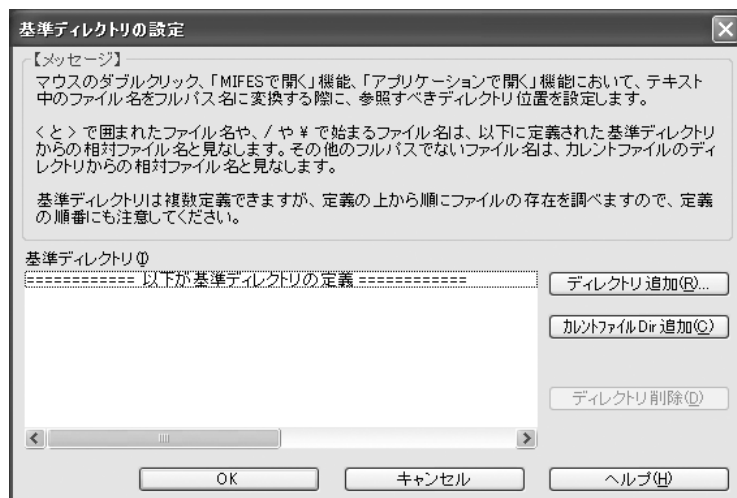
- ・チェックをつけると、ファイル履歴にあるファイルを開いたときは、カーソルは最後の編集位置にジャンプします。リストウィンドウや【ファイル(F)】メニューの内の履歴だけでなく、【開く(O)】機能などでファイルを開いたときも同様です。
- ・チェックをはずすと、ファイルを開いたときはカーソルは必ずファイルの先頭にあります。

## [ 基準ディレクトリの設定 ] ボタン

Windows 上のファイルアイコンを右クリックして表示されるメニューから、【MIFES で開く (F)】または【プログラムから開く(H)】-【MIFES for Windows】でファイルを開くときに、相対ファイル (パス) 名を絶対パス名に変換する際に参照する基準となるディレクトリを設定します。

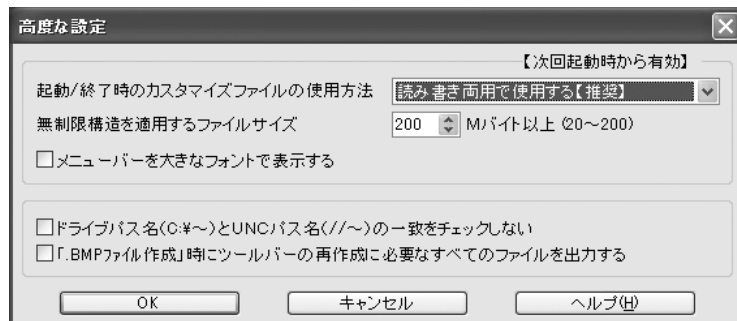


「基準ディレクトリの設定」ダイアログボックスの「メッセージ」欄もご参照ください。また、ダイアログボックスの [ ヘルプ ] ボタンからさらに詳しい情報も参照していただけます。



## [ 高度な設定 ] ボタン

このボタンをクリックすると、「高度な設定」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでの設定は、Windows などの動作環境や、MIFES の設定などを詳細に理解されている方を対象とした特別な設定項目です。現在お使いいただいている状態に特に問題のない場合は、この設定は変更しないでください。なお、「高度な設定」ダイアログボックスについて、詳しくはヘルプを参照してください。





## コマンドラインからの起動

MIFESの起動時のコマンドライン上には、起動直後に開くファイル名や、オープンモード、実行するマクロコマンド名など、さまざまなオプションを指定できます。

### コマンドラインから MIFES を起動する

コマンドラインから MIFES を起動するには、Windows の「ファイル名を指定して実行」機能を使う、デスクトップ上の MIFES のショートカットアイコンに指定する、MIFES の常駐設定で指定する、などの方法があります。

#### 「ファイル名を指定して実行」機能を使う

Windows の [ スタート ] ボタンをクリックし、【ファイル名を指定して実行 ( R )】を選んで MIW.EXE をフルパスで指定し、続けてオプションを入力します。

#### ショートカットアイコンに指定する

デスクトップ上の MIFES のショートカットアイコンを右クリックし、メニューから [ プロパティ ] を選択します。プロパティウィンドウが表示されますので、[ リンク先 ] の MIW.EXE に続けてオプションを指定します。

#### 常駐設定で指定する

MIFES を常駐させる場合は、常駐設定ダイアログボックスで起動オプションを指定できます。【設定 ( O )】-【常駐設定 ( MIWHOOK.EXE 実行 ( X ) J )】を選ぶと表示される「MIFES for Windows 常駐設定」ダイアログボックス上の [ 起動オプション ] で指定します。

### コマンドラインに指定できるオプション(起動オプション)

起動時のコマンドラインには、以下のオプションを指定できます。指定方法について詳しくはヘルプを参照してください。(【ヘルプ ( H )】の [ 目次 ] タブから [ 基本操作 ] - [ コマンドラインからの起動 ])

- 起動直後に開くファイル名とその論理行・桁位置
- 起動直後に実行するマクロコマンド名
- 起動直後にグローバル検索を実行
- 起動直後に DOS シェルエスケープを実行
- 起動直後に印刷を実行
- 起動直後にオープンモードを指定して「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示以降に指定するファイルを読み取り専用で開く
- 以降に指定するファイルを指定のオープンモードで開く
- 以降に指定するファイルを指定のプリプロセッサを使って開く
- ロードディレクトリの指定
- 起動時に読み込むカスタマイズファイル名



デスクトップ上のショートカットに、エクスプローラなどからファイルをドラッグ&ドロップすることにより MIFES を起動した場合には、起動オプションはすべて無効になります。



「環境設定」ダイアログボックスの [ 起動 ] タブで SDI モードにして起動している場合、既に MIFES が起動されている状態で新たな MIFES を起動しようとした際には、その起動時コマンドラインの情報は既に起動中の MIFES に転送されます。指定したオプションは起動中の MIFES により実行されます。

なお、/L オプションの情報については、既に起動中の MIFES には転送されず無視されます。

## 常駐設定

アプリケーションがバックグラウンドで起動していることを「常駐している」といいます。MIFESにもこの常駐機能があり、常駐時にはキー操作だけでMIFESを起動することができます。他のアプリケーションをデスクトップ全体に広げて使っている場合も、デスクトップやスタートメニューに戻る必要がありません。

MIFESの常駐機能には単にMIFESを起動する以外に、メニューから起動方法を選択することもできます。

なお、この常駐機能はMIFESを起動するためのプログラム( MIWHOOK.EXE および MIWHOOK.DLL )が常駐しています。MIFES本体が常駐しているわけではありません。



インストール時に [ タスクトレイにMIFESを起動させるプログラムを常駐させる ] オプションを選択した場合には、自動的に常駐設定が行われます。MIFESを起動するキーは [ ALT ] + [ End ] キーが初期値として割り当てられます。(第2章 「インストール」参照)

### MIFES を常駐させる

- 【設定(O)】-【常駐設定(MIWHOOK)実行(J)】を選択すると、「MIFES for Windows 常駐設定」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスはMIFESが表示しているのではなく、MIWHOOK.EXEが表示しています。



- 起動するキーや起動時のディレクトリなどを指定し、[ 常駐 ] ボタンをクリックします。

キー操作でMIFESを起動しない場合

[ MIFES 起動キー(K) ] に [ 設定しない ] を指定すると、【設定(O)】-【常駐設定(MIWHOOK.EXE)実行(J)】で常駐させたあとは、タスクトレイで操作します。タスクトレイ上のMIFESのアイコンをクリックすると起動し、右クリックするとメニューが表示されます。



MIFES を常駐させている間は、指定したキーを他のアプリケーションでは使用できません。

#### 起動時ディレクトリ

MIFES を起動したときのカレントディレクトリを指定します。

#### 起動時オプション

カスタマイズファイル (INI.ファイル) 名、開くファイル名など、起動時のオプションを指定する場合に入力します。

指定できるオプションとその書式については【ヘルプ(H)】の [目次] タブで、[機能分類]-[基本操作] ページの [コマンドラインからの起動] を参照してください。

3

MIFES が常駐され、タスクバー右側のタスクトレイにアイコンが表示されます。

常駐しているときに MIFES 起動キーを押すと、MIFES が起動します。すでに起動中の場合は、起動中の MIFES がアクティブになります。

## Windows 起動時に自動的に常駐させるには

スタートアップフォルダに MIWHOOK.EXE へのショートカットを作成すると、Windows 起動直後から MIFES の常駐機能が使えます。

1

[スタート] ボタンを右クリックし、エクスプローラを起動します。

2

MIFES のインストール先ディレクトリにある MIWHOOK.EXE を選択して右クリックし、[ショートカットの作成] を選びます。

「MIWHOOK.EXE へのショートカット」が作成されます。

3

「MIWHOOK.EXE へのショートカット」を右クリックして [切り取り] を選択します。

4

「スタートアップ」フォルダを開いて右クリックし、[貼り付け] を選んで「MIWHOOK.EXE へのショートカット」を貼り付けます。

「スタートアップ」フォルダは、[スタート] ボタンを右クリックしてエクスプローラを起動して、表示された「スタートメニュー」から [プログラム] フォルダを開くと表示されます。

#### 常駐設定の画面を表示せずに常駐させる

MIWHOOK.EXE の起動時オプションとして /N を指定すると、常駐設定のためのダイアログボックスを表示せずに直ちに常駐します。ただし、常駐設定が行われていない場合には、ダイアログボックスが表示されます。



起動中の MIFES は [ALT]+[F4] 併一で終了できます。これにより、起動も終了もキー操作で軽快に行うことができます。

## タスクトレイからの起動方法

タスクトレイ上のMIFESのアイコンをクリックするとMIFESが起動します。右クリックしたときには、以下のメニューが表示されます。

それぞれ項目の右側のアクセラレーターキーを押すかクリックすると、指定のウィンドウが起動します。

起動／アクティブ化(1)	
新規にテキストで開く(2)	テキストモードで新規ウィンドウを開きます
新規にバイナリで開く(3)	バイナリモードで新規ウィンドウを開きます
既存のファイルを開く(4)	「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示します
最近編集したファイルを開く(5)	最近開いたファイルの履歴をメニュー表示します
グローバル検索の実行(6)	「グローバル検索」ダイアログボックスを表示します
DOSシェル・エスケープ(7)	「DOSシェル・エスケープ」ウィンドウを表示します
常駐設定の変更... (8)	「MIFES for Windowsの常駐設定」ダイアログボックスを表示します
常駐の解除(9)	
選択の中止(0)	

## 常駐を解除する

MIFESの常駐を解除するには、【設定(O)】-【常駐設定(MIWHOOK.EXE実行)】で「MIFES for Windows 常駐設定」ダイアログボックスを表示し、[常駐解除] ボタンをクリックします。Windowsのスタートアップに登録している場合は、[スタート]-[プログラム]-[MIFES for Windows Ver.7.0]-[タスクトレイへの常駐を解除する] を選択します。

MEMO

## 第6章 付 録

この章では MIFES を管理するための情報、ユーザーサポートなどについて説明しています。

### ■ 目 次

● 使用するファイルについて.....	224
● ライセンスキーについて.....	228
ライセンスキーについて .....	228
追加ライセンスのライセンスキーについて ...	228
● ユーザーサポートについて.....	231
● 索引.....	234

## 使用するファイルについて

MIFES では以下のファイルを作成・使用しています。

各ファイルはファイル名や保存場所が決まっており、MIFES を実行中にファイル名や保存場所を変更することはできません。

なお、MIFES では、以下のファイルの保存場所に対して専用の環境変数は使っていません。

### MIFES 本体 MIW.EXE

MIFES の本体の実行ファイルです。

初期状態では、このファイルがあるディレクトリを「ロードディレクトリ」と呼びます。

### カスタマイズファイル \*.INI

MIFES の設定を記録するファイルです。

ファイルの保存位置は特に制限はありません。

### 起動終了時のカスタマイズファイル MIW.INI (\*.INI)

MIFES 終了時の設定を記録しておくテキストファイルで、ロードディレクトリ上にあります。

次回起動時にこのファイルの内容により、前回の終了時と同じ状態で編集を再開できます。

初期状態では「MIW.INI」というファイルですが、「カスタマイズファイルの読み書き」ダイアログボックスで他のファイルに変更することもできます。(詳しくはヘルプを参照してください。)

### ヘルプファイル MIW.CHM

MIFES の操作方法を記述したヘルプファイルです。

ヘルプファイルは、MIFES の本体MIW.EXE があるロードディレクトリ上にあります。

メニューの【ヘルプ(H)】-【ヘルプ(H)】から参照していただけます。

### イージーヘルプ辞書ファイル \*.EGH

メニューの【ヘルプ(H)】-【カーソル位置の語をイージーヘルプ(E)】で参照する辞書ファイルです。

辞書の参照方法や作成方法などは 4 章「イージーヘルプ辞書を使う」(P.157) を参照してください。



## 拡張ヘルプファイル \*.CHM、\*.HLP

MIFES のヘルプファイル (MIW.CHM) 以外にもうひとつWindows のヘルプファイルを参照することができます。

拡張ヘルプファイルはフルパスで指定するため、保存場所の制限はありません。

## ライブラリファイル MIW.LIB

キーボードマクロ、子プロセスコマンド、マクロコマンドを登録するライブラリファイルで、ロードディレクトリ上にあります。

インストール直後の初期状態では、初期状態のメニューから実行できるマクロコマンドが登録されています。

ライブラリに登録したコマンドは、キー操作やユーザー定義バー、メニューなどに割り当てて実行することができます。

ライブラリに登録できる最大コマンド数は次のとおりです。

キーボードマクロ：最大196個まで

子プロセスコマンド：最大49個まで

マクロコマンド：制限はありません。(キーなどに割り当てられる数は128個まで)

## マクロライブラリ用マクロソース MIWLIB.MAC

初期状態のライブラリファイル (MIW.LIB) に登録されているマクロコマンドのプログラムソースファイルで、ロードディレクトリ上にインストールされます。

マクロコマンドを作成するときなどの参考にしてください。

## 自動マクロ定義ファイル MIW.MAC

MIFES のマクロ言語である「MIL/W 言語」のプログラムソース用ファイルで、ロードディレクトリ上にインストールされます。

ロードディレクトリ上のこのファイルに記述されたマクロコマンドは、起動時に自動的にコンパイルされ、ライブラリに登録することなく実行することができます。

詳しくはマクロマニュアルを参照してください。

## 文書整形用外部ライブラリ \*.REP

【文書整形】機能用のダイナミックリンクライブラリ (DLL) のファイルで、ロードディレクトリ上にあります。

DLL のファイルをロードディレクトリ上にコピーし、拡張子を「.REP」に変更するだけで、後からMIFES に追加することができます。

## プリ／ポストプロセッサファイル \* .PPP

プリ／ポストプロセッサ用のダイナミックリンクライブラリ (DLL) のファイルで、ロードディレクトリ上にあります。

プリ／ポストプロセッサは【ファイルを開く】や【名前を付けて保存】機能などでユーザーが指定します。

## 行カットバッファファイル MIWLCUT.TXT

行選択モード時の切り貼り機能で使用するカットバッファファイルで、MIFES 起動中にシステムの環境変数TEMP で指定されたディレクトリに作成されます。

カットバッファファイルは、初期状態では MIFES 終了時に削除されますが、設定により MIFES 終了時に削除しないようにすることもできます。(【環境設定】－【起動】タブ)

カットバッファを削除しないで終了したときは、次回起動時に前回の行カットバッファの内容を貼り付けることができます。

## 箱型カットバッファファイル MIWBOX.TXT

箱型選択モード時の切り貼り機能で使用するカットバッファファイルで、MIFES 起動中にシステムの環境変数TEMP で指定されたディレクトリに作成されます。

カットバッファファイルは、初期状態では MIFES 終了時に削除されますが、設定により MIFES 終了時に削除しないようにすることもできます。(【環境設定】－【起動】タブ)

カットバッファを削除しないで終了したときは、次回起動時に前回の箱型カットバッファの内容を貼り付けることができます。

## バイナリカットバッファファイル MIWCUT.BIN

バイナリモード時の切り貼り機能や、【数字に変換して貼り付け】機能で使用するカットバッファファイルで、MIFES 起動中にシステムの環境変数TEMP で指定されたディレクトリに作成されます。

カットバッファファイルは、初期状態では MIFES 終了時に削除されますが、設定により MIFES 終了時に削除しないようにすることもできます。(【環境設定】－【起動】タブ)

カットバッファを削除しないで終了したときは、次回起動時に前回の箱型カットバッファの内容を貼り付けることができます。

## オートセーブファイル MIWxxASV. \$\$\$ (xx は編集ファイルのテキスト番号)

オートセーブを行う設定のときに作成される、特殊なフォーマットのファイルです。

システムの環境変数TEMP で指定されたディレクトリに作成され、MIFES 終了時に自動的に削除されます。

【環境設定】－【その他】タブで、オートセーブ機能の設定が行えます。

## バックアップファイル    \*.BAK、\*.BK1 ~ \*.BK9

バックアップファイルを作成する設定のときに作成されるバックアップファイルです。  
【環境設定】-【その他】タブで、バックアップファイルの作成方法や作成する場所（ディレクトリ）などを設定することができます。

## 巨大ファイル編集時の作業用ファイル

MIWxxFOR.###、MIWxxBAK.###（xx は編集ファイルのテキスト番号）

大きいサイズのファイル（巨大ファイル）を「無制限構造」で編集するときに作成されるファイルで、システムの環境変数TEMPで指定されたディレクトリに作成されます。

1つの編集ファイルに対して、MIWxxFOR.###、MIWxxBAK.###が作成され、それぞれ元のファイルの約1.1倍の大きさになります。

MIFESでは、大きいサイズのファイル（巨大ファイル）を編集するときには無制限構造が適用されます。

無制限構造を適用するファイルサイズは、【環境設定】-【起動】タブの【高度な設定】ボタンをクリックして、ダイアログボックスで変更できます。

無制限構造について詳しくはヘルプを参照してください。

## UNDO 専用ファイル    MIWUNDO.TXT

8Kバイトを超える範囲を【削除】、置き換え、【切り取り】した場合に使用するUNDO専用ファイルで、システムの環境変数TEMPで指定されたディレクトリに作成します。

# ライセンスキーについて

## ライセンスキーについて

MIFES を使用するには、ライセンスキーをMIFES 本体に登録する必要があります。インストール時に、ライセンスキーを入力する「ユーザー情報の入力」画面が表示されますので、ユーザー登録カードに記載されたライセンスキーを入力してください。(第2章「インストール」P.22 参照)

ライセンスキーは、MIFES の起動中に登録することもできます。

## 追加ライセンスのライセンスキーについて

### 追加ライセンスについて

企業や団体で、複数のコンピュータでMIFES をご使用いただく場合には、使用台数分のライセンスが必要です。

追加ライセンスのライセンスキーは、弊社ホームページよりご購入いただけます。

MEGASOFT オンラインショップ

<https://shopping.megasoft.co.jp/shop/index.html>

お問合せ先

メガソフト ダイレクトショッピング係

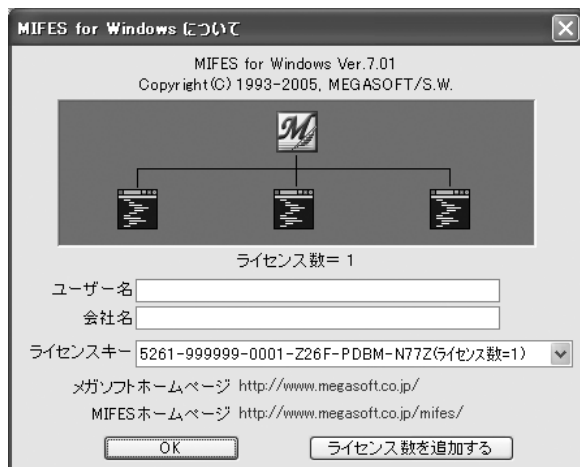
電話 06-6386-8007 / FAX 06-6386-2123

### 追加ライセンスでのインストール方法

コンピュータへのインストール時に、ご購入いただいたライセンスキーを入力してください。

## ライセンス数の確認

MIFES を起動して、【ヘルプ(H)】-【MIFES for Windows について(A)】を実行すると、ライセンスキーとライセンス数を確認できます。

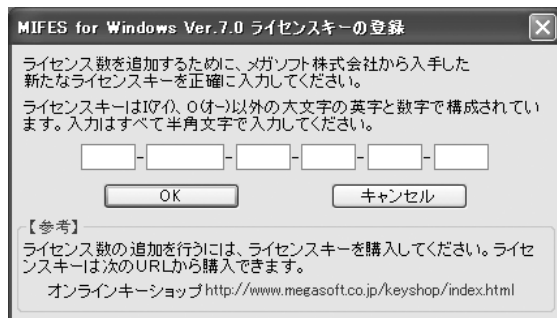


## ライセンスの管理方法（管理者）

管理者が導入ライセンス数やライセンスキーを把握するため、自分のコンピュータのMIFESに追加分を登録することができます。

次の手順で操作してください。

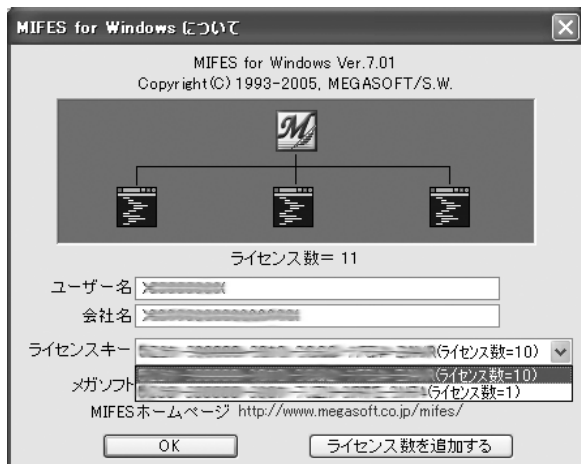
- ① MIFES を起動して、【ヘルプ(H)】-【MIFES for Windows について(A)】を実行します。
- ② 「MIFES for Windows について」ダイアログボックスの「ライセンス数を追加する」ボタンをクリックします。



- ③ 「ライセンスキーの登録」ダイアログボックスで、ライセンスキーを入力して【OK】ボタンをクリックします。
- ④ 同様にすべてのライセンスキーを登録します。

5

登録したすべてのライセンスキーから、合計のライセンス数が表示されます。  
また、「ライセンスキー」欄で、導入ライセンスキーをすべて確認することができます。



## ユーザーサポートについて

使用中にエラーなどのトラブルが発生した場合や、製品の機能についてのご質問、使い方がわからない場合などに、正規ユーザー様に限りサポートサービスをご提供しております。

お問い合わせの前に、下記を参考に操作手順や操作画面をもう一度ご確認ください。

### ●製品の機能や操作方法がわからないとき

- ・ ユーザーズマニュアル（本書）、マクロマニュアル
- ・ MIFES 本体のヘルプ  
【ヘルプ(H)】－【ヘルプ(H)】 からご参照ください。
- ・ MIFES のサポート情報  
<http://www.megasoft.co.jp/support/mifes/index.html>

### ●エラー、トラブルが発生したとき

- ・ MIFES を再起動する
- ・ アップデートを行う  
最新版では不具合が修正されている場合があります。  
オンラインアップデート機能で、MIFES を最新状態に自動更新していただくことをお勧めします。  
オンラインアップデートは、Windows の [スタート] － [すべてのプログラム] － [MIFES for Windows Ver.7.0] － [オンラインアップデート] で行うことができます。

Windows NT4.0 では、オンラインアップデートはご利用できません。

ホームページからアップデートデータをダウンロードして手動でアップデートを行ってください。



なお、以下のご質問・お問い合わせにつきましては、サポート対象外となります。ご了承ください。

- ・ 本製品で保証している動作環境以外でのお問い合わせ
- ・ 他社製品に関する部分のお問い合わせ
- ・ 製品の非公開部分の仕様に関するお問い合わせ
- ・ サポート時間外および出張を伴うサポートの依頼
- ・ お客様の直接お持ち込みによるサポート依頼
- ・ その他、マニュアルやヘルプ、ホームページでサポート対象外と記述されている機能  
例：マクロコマンドを作成する上での、不具合に起因しない動作不良の修正  
外部DLL の作成方法

## サポートセンターにお問い合わせの際は

以下の内容をおうかがいします。

1. お客様のお名前
2. お客様のお電話番号
3. 本製品名 (MIFES)
4. ライセンスキー
5. MIFES for Windows の詳細バージョン

(【ヘルプ(H)】-【MIFES for Windows について(A)】でご確認ください。)

トラブルやエラー発生時など、お問い合わせの内容によっては、以下の項目をおうかがいすることがあります。あらかじめご準備ください。

6. ご使用のパソコンのメーカー名、型番、OS のバージョン(サービスパックなども含む)
7. MIFES for Windows と同時にご利用のソフト名・バージョンや環境  
例： 日本語入力システム (FEP)、ディスプレイドライバ、プリンターなど
8. お問い合わせの内容

また、状況に応じて以下の点もお知らせください。

- ・エラーメッセージが表示された場合……メッセージの内容とどの操作時点で表示されたか
- ・何らかの操作で異常が発生した場合……どの画面でどのような操作をしたらどうなったか
- ・以前は正常であったのに異常が発生した場合……直前にインストールしたソフトや異常が発生したときの操作手順、再現データ

## お問い合わせ先

メガソフト株式会社 MIFES サポートセンター  
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル  
TEL : 06-6386-6810 FAX : 06-6386-9983

### ●FAXまたは郵送でお問い合わせの場合

FAX または郵送にてサポートをご依頼いただく場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーして必要事項をご記入の上、サポートセンターまでお送りください。

※FAX は24時間受け付けております。(ご質問に対する回答は、下記のお電話での受付時間内と同じとさせていただきます)

### ●お電話でのお問い合わせの場合

受付時間 9:30~11:45 / 13:00~17:00 (土・日・祝日、弊社休業日を除く)

お電話ではどうしても聞き間違いなどから、結果として適切なサポートをすることができない場合があります。ご質問はできるだけFAX またはメール・郵送でお願いいたします。

お電話でお問い合わせいただく場合にも、FAX やメールを併用していただくと状況をつかみややすくなります。巻末の調査依頼書をお送りいただければ幸いです。



### ●インターネットからのお問い合わせの場合

メガソフトホームページから最新版へのアップデートファイルや、よくお受けするサポート情報を入手いただけます。

最新版にアップデートし、サポート情報をご覧になっても問題が解決しなかった場合、メガソフトホームページからお問い合わせいただくことができます。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/support/mifes/>

恐れ入りますが、お問い合わせの際の通信費用はご負担ください。コレクトコールや料金着払いでのお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。  
弊社からの通信費用は弊社が負担いたします。

## ユーザー登録のお願い

MIFES for Windows Ver.7.0 のユーザーとして弊社にご登録いただいた方には、サポートサービスのご提供やバージョンアップのご案内をお届けしています。

インストール最後のWEB ユーザー登録の画面(P.25 参照)でユーザー登録をされていない場合は、製品同梱の「ユーザー登録カード」に必要な事項を記入し、弊社までFAXまたは郵送でご返送ください。

なお、メガソフトホームページでもユーザー登録を受け付けております。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/entry/>

ライセンスキーを紛失されますと、MIFES をインストールできなくなります。  
ユーザー登録カードの控えは大切に保存しておいてください。

## 登録内容の変更について

転居などにより登録内容(ご住所やお電話番号、法人登録の場合のご担当者など)に変更が生じた場合は、巻末の「ユーザー登録変更届」をコピーして必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送でお送りください。お電話によるユーザー登録および登録内容の変更は受け付けておりませんので、ご了承ください。

また、メガソフトホームページから登録内容を変更していただくこともできます。

URL = <http://www.megasoft.co.jp/entry/>

## 登録内容のお問い合わせについて

ユーザー登録がお済みの場合、お客様のライセンスキーをお調べするサービスを行っています。

### ●お問い合わせ先

- ・メガソフト ユーザー登録係 TEL : 06-6386-8007 FAX : 06-6386-2123
- ・メガソフト サポートセンター TEL : 06-6386-6810 FAX : 06-6386-9983
- ・メガソフトホームページ(<http://www.megasoft.co.jp/entry/>)

※インターネットでの登録内容調査サービスの場合、プライバシー保護のため返信を自動化しておりません。そのため返信に時間がかかります。ご了承ください。

# 索引

## 記号

#ifdef ブロック 168  
<%~%> 168

## 数字

0 (ゼロ) と O (オー) 103  
1 行の文字数の変更 118  
2 ストロークキー操作 127

## B

Big-endian 71

## C

C++ 言語 170  
CPU 22  
CSV ファイル 95  
C 言語の関数定義位置 169

## D

DLL 144  
DOS シェルエスケープ 177, 207  
DOS のコマンド 177  
DOS 版 MIFES 風設定 27  
DOS 版風のファイラ 49

## E

EMACS 風設定 27  
[EOF] マーク 183  
EOF コード 42  
EUC 144

## F

Fortran 167

## H

HTML 95  
HTML.EGH 160  
HTML 埋め込みスクリプト 163  
HTML 拡張子 163

## I

INI ファイル 112  
Internet Explorer 30

## J

JIS 144  
JIS 郵便コードを使用 188

## L

LF コードのみで改行挿入 186  
Little-endian 71

## M

Macintosh 144  
MDI モード 212  
MIFES for Windows 標準設定 27  
MIFES 専用ダイアログ 40  
MIFES で開く 29  
MIFES のバイナリモードで開く 29  
MILW.EGH 157, 160  
MIW.CHM 107

MIW.INI 110  
MIW.LIB 140  
MIW.MAC 214  
MIWBOX.TXT 58, 61  
MIWCUT.BIN 59, 63  
MIWHOOK.EXE 219  
MIWLCUT.TXT 58, 60

## P

PageUP / PageDown 190  
Perl 167  
PPP 144  
PPP 自動 149

## R

REDO 65

## S

SDI モード 213  
Setup.exe 23

## T

Tab 119  
TAB コード 99

## U

UNDO 65  
UTF-8 144

## V

VB スクリプト 168

## W

WIN32.EGH 160  
Windows 標準設定 27

## あ

アイコンから開く 11  
あいまい検索 79, 88  
アクセラレーターキー 130  
アップデート 33  
アドレスゲージ 181  
アンインストール 31  
アンダーライン 182

## い

イージーヘルプ 157  
一括ファイル比較 154  
色の設定 198  
色の変更 121  
色の変更の操作 164  
印刷 99  
印刷 (バイナリ) 74  
印刷オプション 102  
印刷機能 16  
印刷設定 102, 104  
インストール 22  
インストールウィザード 23  
インストール先 24  
インストールに必要な環境 22

<b>う</b>		キーワードの追加・変更	162
【ウィンドウ (W)】メニュー	206	基準ディレクトリ	216
【ウィンドウ】メニュー	5	起動	217
上書き状態で起動する	214	起動タブ	212
<b>え</b>		起動と終了	36
英文ワードラップ	102	起動モード	212
<b>お</b>		旧バージョン	22
オートインデント動作	185	行カットバッファファイル	58
オートセーブ	201	行ゲージ	123, 181
オープンモード	40, 42, 210	行選択	60
大文字・小文字変換	189	行単位で比較	153
折り返し位置	183, 184	行端でのカーソル停止	186
折り返し桁位置	118, 184	行の間隔	103
オンラインアップデート	33	行の左端／右端へ移動	188
<b>か</b>		行番号	102, 181
カーソル位置の語をイージーヘルプ	159	切り取り	59
カーソル行アンダーライン	182	切り取り (行)	60
カーソル形状	184	切り取り (箱型)	61
カーソル桁パーチカルライン	182	切り貼り操作 (バイナリ)	69
改行文字	183	禁則処理	102
ガイドライン	7, 8, 181	<b>く</b>	
ガイドラインの表示	124	クリップボード	58
外部コマンド	207	グローバル検索	75, 81
外部プリ／ポストプロセッサ	144	グローバル置換	90
改ページ	99, 102	グローバル複数置換	93
拡張子	42	<b>け</b>	
【拡張子】タブ	120, 208	罫線	103
拡張子の関連付け	28	罫線コード	188
拡張ヘルプファイル	107	桁ゲージ	181
確認メッセージの表示	205	検索	75
カスタマイズ	110	検索 (カレントウィンドウ)	80
カスタマイズファイル	112	検索 (バイナリ)	74
括弧	184	検索 (複数ファイル)	81
カット&ペースト	59	【検索・置換・ジャンプ】メニュー	3
カットバッファ	58, 60	検索機能	13
カットバッファファイル	215	検索失敗メッセージ	198
【カラー】タブ	121, 198	検索方法	75
カラーの選択	28	<b>こ</b>	
カレントウィンドウ	98	高速ロールダウン／アップ	187
カレントウィンドウの表示	181	コード変換	56, 151
カレントウィンドウのフォント	192	コピー	59
カレント演算の設定／実行	70	コピー (行)	60
カレントディレクトリ	44, 215	コピー (箱型)	61
環境設定	180	子プロセス	173
韓国語EUC	144	子プロセス登録番号	174
関数定義位置	169	子プロセスの一覧	173
簡体字中国語EUC	144	コマンドライン	217
関連付ける拡張子	29	コメント	167
<b>き</b>		コモンダイアログ	41
キー・動作設定の選択	27	<b>さ</b>	
キーのカスタマイズ	125	最後の編集位置	215
キーの動作	190	<b>し</b>	
キーボードマクロ	137	辞書ファイル	157
キーボードマクロ定義時にライブラリ登録	207	自動コード判定	211
キーボードマクロの実行	142	自動コード判定禁止	40
キーボードマクロの定義	139	ジャンプ機能	15
キーリピート時の動作	190	終了	37
キーワード定義	162	使用許諾契約書	23

詳細画面（グローバル検索）	82	つ	
常駐	30	通常検索	76, 85
常駐設定	219	【ツール】メニュー	4
ショートカットアイコン	29	ツールバー	7, 8, 194
新規ウィンドウ	214	ツールバータブ	194
新文字列	85	ツールバーの変更	115
<b>す</b>		<b>て</b>	
垂直スクロールバー	181	「テキスト」モード	42
水平スクロールバー	182	<b>と</b>	
数字に変換して貼り付け	72	動作環境	22
スクロール	186	動作タブ	185
スクロールバー	181, 182	登録文字列の挿入	66
スクロール比較	207	閉じる	57
スクロールマージン	189	<b>な</b>	
<b>せ</b>		内部プリ/ポストプロセッサ	144
正規表現	168	名前を付けて保存	55, 206
正規表現検索	87	<b>に</b>	
制御コード	99	日本語入力の制御	200
設定	16	<b>は</b>	
【設定】メニュー	6	ハードタブ	119, 183, 210
設定ウィザード	26	ハードタブ桁間隔	184
設定やマクロなどを引き継ぐ	32	ハードディスク	22
設定を引き継ぐ	22	背景縦罫線	182
セットアップ	23	背景横罫線	182
セバレータ	132	バイトオーダー	71
前回の設定の保存確認	27	「バイナリ」モード	42
全角スペース	183	バイナリカットバッファ	59, 72
選択しながら↑/↓移動	187	バイナリカットバッファファイル	63
選択しながら←/→移動	188	バイナリ数値検索	74
選択方法	58	バイナリ表示	67
<b>そ</b>		バイナリファイル	67
ソース表示時のエディタ	30	箱型カットバッファ	61
その他タブ	200	箱型カットバッファファイル	58
その他の設定	29	箱型選択の開始/中止	61
その他のフォント	193	箱型に上書き	63
ソフトタブ	119	箱型に挿入	62
ソフトタブ動作	189	バックアップファイル	202
<b>た</b>		貼り付け（行）	61
ダイアログでの初期ディレクトリ	206	貼り付け（箱型）	62
対応OS	22	貼り付け（文字単位）	60
対応括弧の明示	184	範囲選択	187, 190, 191
タイトルバー	7	半角英文字の変換	189
タグ	167	繁体字中国語EUC	144
タスクトレイ	30	<b>ひ</b>	
縦罫線	182	比較	152
他のプログラム	173	ビックエンディアン	71
タブ	189	「表示」タブ	123
タブコード	183	表示行番号	123
タブの設定	119	表示タブ	180
多目的バー	7, 9, 196	表示の変更	115
段組	103	開く	39
段下げ	185	<b>ふ</b>	
<b>ち</b>		ファイル	49, 149, 214
置換	88	【ファイル】メニュー	2
置換（バイナリ）	74	ファイルに名前を付ける	55
置換/変換機能	14	ファイルのある場所	32
置換定義ファイル	84, 97		

ファイルの一覧 (ファイラ)	53
ファイルのコピー (ファイラ)	52
ファイル比較	152, 207
ファイル比較 (バイナリ)	74
ファイル名検索	40
ファイル名の検索 (ファイラ)	51
ファイル履歴	204
ファイルを開き直す	150
ファイルを開く	39, 50
ファイルを保護する	213
フォントタブ	192
複数置換	91
フッタ	104
プリ/ポストプロセッサ	44, 56, 144, 210
フリーカーソルモード	186
プリプロセッサ	40, 44
プリプロセッサ自動	149
ブレースパー	41
プレビュー	40
文書整形	94
<b>へ</b>	
ページ番号	103
ヘッダ	104
ヘルプ	106
【ヘルプ】メニュー	6
変換	84, 94
変更行マーク	189
変更のある行	182
変更のある行の明示	124
編集 (切り貼り) 機能	12
【編集】メニュー	3
編集ウィンドウ	7, 9
編集可能なファイル	11
編集画面	7
<b>ほ</b>	
ホイールボタンのドラッグ	191
ホームページアドレス	167
ポストプロセッサ	56
保存する	38, 55
保存するファイル名とその内容	32
ボタンの表示 (ツールバー)	116
ボタンヘルプ	196
ポップアップメニュー	132
<b>ま</b>	
マウスによるカーソル移動	189
【マクロ】メニュー	5
<b>み</b>	
右クリックメニュー	29, 132
右マージン	118
見出し行の検索	171
<b>め</b>	
メールアドレス	167
メタ文字 (あいまい検索)	79
メタ文字 (正規表現検索)	78
メタ文字 (通常検索)	76
メニューバー	7
メニューバーのカスタマイズ	129
メモマーク (FDH, FEH) 有効	188

<b>も</b>	
文字カーソルの形状	184
文字コードの自動判定	147
文字コード変換	144
文字列状挿入	63
文字列選択の開始/中止	59
文字列選択モード	59
文字列定数	167
文字列の色分け表示	162
文字列の検索	75
文字列の登録/挿入	66
元に戻す	65
<b>ゆ</b>	
ユーザー情報	24
ユーザー定義ディレクトリ	44
ユーザー定義ディレクトリ (ファイラ)	53
ユーザー定義ディレクトリボタン	40
ユーザー定義バー	7, 8, 195
ユーザー定義バーを設定する	135
ユーザー登録	25
<b>よ</b>	
横罫線	182
「読専」ウィンドウの変更操作を許可	186
読み取り専用で開く	43
<b>ら</b>	
ライセンスキー	24
ライブラリへ登録 (キーボードマクロ)	140
<b>り</b>	
リストウィンドウ	7, 8, 46
リトルエンディアン	71
履歴情報の削除	114
<b>ろ</b>	
ロックされたファイルの検出	31
論理行番号	123
<b>わ</b>	
ワイルドカード検索	77, 86

# FAX. 06-6386-9983

〒564-0053  
大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル  
メガソフト株式会社  
MIFES ユーザー登録係 行

## ユーザー登録変更届

製品名		MIFES for Windows Ver. 7.0	
ライセンスキー		(ご記入のない場合は登録変更をいたしかねます)  ユーザー登録カードの控えをご確認ください。	
新	住所	〒	
	会社名・所属		
	氏名		
	E-mail		
	連絡先	TEL:	FAX:
旧	住所		
	会社名・所属		
	氏名		
	E-mail		
	連絡先	TEL:	FAX:
備考			
<p>・ 個人登録から法人登録への変更、法人登録から個人登録への変更はできません。 ・ 販売譲渡はできません。</p>			

\* 弊社ホームページからも「ユーザー登録変更」がおこなえます。

<http://www.megasoft.co.jp/entry/change/>

# FAX. 06-6386-9983

〒564-0053  
大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル  
メガソフト株式会社  
サポートセンター 行



## 調査依頼書

記入年月日	西暦 年 月 日
会社名・所属	
ご連絡先氏名	
ご連絡先電話番号/FAX 番号	TEL : / FAX :
E-mail	
ライセンスキー	ユーザー登録カードの控えをご確認ください。
詳細バージョン	Ver. メニューの【ヘルプ】-【MIFES for Windows について】でご確認ください。
ご使用のパソコンの機種名	
パソコンのCPU/メモリ容量	
Windows の種類	Windows XP ・ Me ・ 98 ・ 2000 ・ NT4.0 ・ Server 2003
プリンタ	( Ver. )
ご購入店名/ご購入年月日	店名 ( ) / 西暦 年 月 日
お問い合わせ内容 発生するようになったきっかけなど、できるだけ具体的に(状況を再現できるよう)ご記入ください。	

\* サポートをご利用いただくには、ユーザー登録が必要です。  
ユーザー登録は弊社ホームページからでもご登録いただけます。  
<http://www.megasoft.co.jp/entry/>

---

---

MIFES for Windows Ver.7.0 ユーザーズマニュアル

2005年2月18日 初版

制 作 メガソフト株式会社 技術本部

発行元 メガソフト株式会社

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル  
TEL.06-6386-6810 FAX.06-6386-9983

Copyright© 2005 MEGASOFT Inc.

---

---